

講義要項／シラバス

多摩大学大学院

2019 年度

April 5, 2019

科目新旧対照表

MBA						
分野	2019年度	2018年度	担当教員	開講	単位数	備考
実践知考具		スーパージェネラリスト論				2018年度で科目廃止
実践知考具	スーパージェネラリスト		田坂 広志	春	2	2019年度新設
実践知考具	ソーシャル・イノベーション論	ソーシャル・イノベーション論	田坂 広志	春	2	2019年度開講せず
実践知考具						
実践知考具	ソーシャル・アントレプレナー論	ソーシャル・アントレプレナー論	田坂 広志	秋	2	2019年度開講せず
実践知考具						
実践知考具		ネオ・リベラルアーツ論				2018年度で科目廃止
実践知考具	ネオ・リベラルアーツ		田坂 広志	秋	2	2019年度新設
実践知考具						
実践知考具		立志人物論	久恒 啓一	秋	2	2018年度で科目廃止
実践知考具	知識創造経営のプリンシプル	知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	
実践知考具	シナリオプランニングワークショップ	シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	
実践知考具	イノベーションと目的工学	イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	
実践知考具	デザイン思考ワークショップ	デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	
実践知考具	ビジネスモデルイノベーション	ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	
実践知考具	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	
実践知考具	ビジネスモデル創造特論	ビジネスモデル創造特論	河野 龍太	秋	2	
実践知考具	実践アントレプレナーシップ	実践アントレプレナーシップ	本荘 修二	春	2	2019年度開講せず
実践知考具	経営戦略概論	経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	
実践知考具	グローバル技術経営論	グローバル技術経営論	楠田 幸久	秋	2	2019年度開講せず
実践知考具	マーケティングマネジメント概論	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	
実践知考具	インサイトコミュニケーション	インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	
実践知考具	Webマーケティング戦略	Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	2019年度開講せず
実践知考具	プレミアム価値創造のブランド戦略		吉松 敏也	秋	2	
実践知考具	戦略PRマーケティング	戦略PRマーケティング	久保山 路子	秋	2	2019年度開講せず
実践知考具		モビリティ・マーケティング	加藤 肇	春	2	2018年度で科目廃止
実践知考具	サービスイノベーション		諏訪 良武	春	2	
実践知考具	日本の流通構造とSCMのメガトレンド	日本の流通構造とSCMのメガトレンド	西田 邦生	秋	2	
実践知考具	最新ロジスティクス戦略	最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	
実践知考具	経営視点からのコンタクトセンターの活用	コンタクトセンター	宮崎 義文	秋	2	2019年度講義名変更
実践知考具	観光インバウンドマネジメント		中山 こずゑ	春	2	2019年度新設
実践知考具	商品ブランドマネジメント		佐野 扶美枝	春	2	2019年度新設
実践知考具	BtoBマーケティング	BtoBマーケティング	徳永 朗	秋	2	
実践知考具	ヒューマンリソース概論I	ヒューマンリソース概論I	徳岡 晃一郎	春	2	
実践知考具	ヒューマンリソース概論II	ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	
実践知考具	インナーコミュニケーション	インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	
実践知考具	カルチャーベースマネジメント	カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	
実践知考具	ストレスマネジメントと精神回復力	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	
実践知考具	実践組織変革	実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	
実践知考具	組織行動とリーダーシップ		須東 朋広	秋	2	
実践知考具	ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論		迫川 史康	春	2	
実践知考具	キャリアマネジメントとモチベーション	キャリアマネジメントとモチベーション	片岡 裕司	春	2	2019年度開講せず
実践知考具	実践ポジティブ心理学	実践ポジティブ心理学	三田 真美	秋	2	
実践知考具	ファイナンス基礎I(経営財務)	ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	春	2	
実践知考具	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	秋	2	
実践知考具	企業会計・簿記入門	企業会計・簿記入門	井村 順子	秋	2	
実践知考具	企業分析と経営指標		大津 広一	春	2	
実践知考具	金融論	金融論	真壁 昭夫	春	2	2019年度開講せず
実践知考具	マネジリアルアカウンティング		真壁 昭夫	春	2	
実践知考具	M&A戦略と実践企業ファイナンス	M&A戦略と実践企業ファイナンス	中國 英隆	春	2	2019年度開講せず
実践知考具	夢をかなえる実践リスクマネジメント	夢をかなえる実践リスクマネジメント	樋渡 淳二	秋	2	2019年度開講せず
実践知考具	ファイナンスイノベーション基礎		小野里 光博	春	2	
実践知考具						
実践知考具	ファイナンスイノベーション実践	ファイナンスイノベーション応用	伊藤 祐輔	秋	2	2019年度開講せず
実践知考具						
実践知考具	法の経済分析入門	法の経済分析入門	宇佐美 洋	春	2	
実践知考具						
実践知考具	組織と戦略の経済学	組織と戦略の経済学	宇佐美 洋	秋	2	
実践知考具						
実践知考具	中小企業の価値創造と事業承継	中小企業の価値創造と事業承継	藤本 江里子	春	2	
実践知考具	データドリブンの戦略構築	データドリブンの戦略構築	栗山 実	秋	2	
実践知考具						
実践知考具	クリティカルシンキング	クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	
実践知考具	サービスサイエンス	サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	
実践知考具	データビジネス活用(課題解決モデリング)	データビジネス活用(課題解決モデリング)	志賀 敏宏	秋	2	
実践知考具	マーケティングデータサイエンス基礎		佐藤 洋行	春	2	2019年度新設
実践知考具	ビジネスデータ活用実践(事業提案)	ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤 洋行	秋	2	
実践知考具	集中ゼミ(統計検定)	集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	
実践知考具	DX変革:データサイエンスによる企業変革	データサイエンスマインド	前田 英志	春	2	2019年度講義名変更
実践知考具	DX変革:顧客起点のトランスフォーメーション実践知	デジタルトランスフォーメーションの実践知	森 祐之	春	2	2019年度講義名変更

分野	2019年度	2018年度	担当教員	開講	単位数	備考
実践知考具	DX変革:AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知	暗黙知として理解するAI	鈴木 至	秋	2	2019年度講義名変更
実践知考具	データ活用入門	データ活用入門	今泉 忠	春	2	
実践知考具	マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチ	今泉 忠	秋	2	
実践知考具	統計的データ分析	統計的データ分析入門	久保田 貴文	秋	2	2019年度「入門」・「アドバンス」を統合
最新ビジネス実践知	医療介護業界の未来	医療介護業界の未来	真野 俊樹	春	2	
最新ビジネス実践知						
最新ビジネス実践知	医療介護領域のマネジメント	医療介護領域のマネジメント	真野 俊樹	秋	2	
最新ビジネス実践知						
最新ビジネス実践知	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	真野 俊樹	秋	2	
最新ビジネス実践知						
最新ビジネス実践知	異業種間のコミュニケーション術	異業種間のコミュニケーション術	白井 雅弓	秋	2	
最新ビジネス実践知	高齢社会のまちづくり	高齢社会のまちづくり	川井 真	春	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	医療介護経営と会計	医療介護経営と会計	長 英一郎	春	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	地域包括ケアのビジネスモデル		石井 富美	春	2	2019年度新設
最新ビジネス実践知	医療介護の成長戦略		末松 諒一	春	2	
最新ビジネス実践知	アジアビジネス戦略とグローバル共創	アジアビジネス戦略とグローバル共創	佐藤 勝彦	秋	2	
最新ビジネス実践知						
最新ビジネス実践知	Business Communication for Global Leaders	Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	
最新ビジネス実践知	世界潮流と企業戦略	世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	
最新ビジネス実践知	日本企業の中国ビジネス	日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	
最新ビジネス実践知	Business in Globalized India - The Japan Perspective	Business in Globalized India - The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	
最新ビジネス実践知	非営利法人のファイナンス	非営利法人のファイナンス	堀内 勉	秋	2	
最新ビジネス実践知	ソーシャルビジネス演習		田中 勇一	春	2	
最新ビジネス実践知	トライセクターリーダー論	トライセクターリーダー論	金野 素一	春	2	
最新ビジネス実践知	実践を通して学ぶソーシャルビジネス	実践を通して学ぶソーシャルビジネス	宮城 治男	秋	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	実践事業創造	実践事業創造	亀井 省吾	春	2	
最新ビジネス実践知	ベンチャー企業論		濱田 隆道	春	2	
最新ビジネス実践知	ベンチャーCFO養成講座	ベンチャーCFO養成講座	新村 和夫	秋	2	
最新ビジネス実践知	ソーシャル・ファイナンス	社会的インパクト投資	小林 立明	秋	2	2019年度講義名変更
最新ビジネス実践知	最新テクノロジーとAIの世界	最新テクノロジーとAIの世界	金野 素一	春	2	
最新ビジネス実践知	ITビジネス原理と先端戦略	ITビジネス原理と先端戦略	金野 素一	秋	2	
最新ビジネス実践知	先端ITマーケティングイノベーション		橋本 大也	春	2	
最新ビジネス実践知	IT・AIビジネス創出演習	IT・AIビジネス創出演習	金野 素一	秋	2	
最新ビジネス実践知						
最新ビジネス実践知	プロジェクトマネジメントの基本と応用	プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分 毅	春	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	日本のモノづくり経営		神内 幸夫	秋	2	
最新ビジネス実践知	社会課題起点のルール形成戦略	社会課題起点のルール形成戦略	國分 俊史	春	2	
最新ビジネス実践知	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	羽生田 慶介	春	2	
最新ビジネス実践知	ルール形成産業構造論	ルール形成産業構造論	羽生田 慶介	秋	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	議院内閣制度における公的ルール形成プロセス		福田 峰之	秋	2	
最新ビジネス実践知	パブリックアフェアース概論		藤井 宏一郎	秋	2	2019年度開講せず
最新ビジネス実践知	安全保障経済政策論I	安全保障経済政策論I	井形彬(國分俊史)	春	2	
最新ビジネス実践知	安全保障経済政策論II	安全保障経済政策論II	井形彬(國分俊史)	秋	2	
最新ビジネス実践知	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	
最新ビジネス実践知	ルール形成のためのメディア戦略	ルール形成のためのメディア戦略	岡田 宏記	秋	2	
最新ビジネス実践知	議員事務所でのインターンシップ	議員事務所でのインターンシップ	國分俊史/福田峰之(ルール形成戦略研究所)	春秋	2	
最新ビジネス実践知	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	ルール形成戦略研究所でのインターンシップ	國分 俊史	春秋	2	
教養基盤	ビジネス実践知探究	ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	
教養基盤	問題解決学I	問題解決学I	下井 直毅	春	2	
教養基盤	問題解決学II	問題解決学II	下井 直毅	秋	2	
教養基盤	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	金 美徳	春秋	2	
教養基盤	フィールドスタディ	フィールドスタディ	金 美徳	春秋	2	
教養基盤	論文演習 宇佐美洋【FP資格必修】	論文演習 宇佐美洋【FP資格必修】	宇佐美 洋	春秋	2	
教養基盤	論文演習 河野龍太	論文演習 河野龍太	河野 龍太	春秋	2	
教養基盤	論文演習 紺野登	論文演習 紺野登	紺野 登	春秋	2	
教養基盤	論文演習 田坂広志	論文演習 田坂広志	田坂 広志	春秋	2	
教養基盤	論文演習 徳岡晃一郎	論文演習 徳岡晃一郎	徳岡 晃一郎	春秋	2	
教養基盤	論文演習 パートル【留学生対象】	論文演習 パートル【留学生対象】	巴特爾(パートル)	春秋	2	
教養基盤	論文演習 真野俊樹	論文演習 真野俊樹	真野 俊樹	春秋	2	
教養基盤	論文演習 國分俊史	論文演習 國分俊史	國分 俊史	春秋	2	
教養基盤	論文演習 今泉忠・久保田貴文	論文演習 今泉忠・久保田貴文	今泉忠・久保田貴文	春秋	2	
教養基盤						
教養基盤	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎A	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎	佐藤 勝彦	春	1	2019年度講義名変更
教養基盤	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎B			秋		2019年度新設
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	蔵 夢 礼佳	春	1	
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	蔵 夢 礼佳	秋	1	
教養基盤	【留学生対象】論文スタートアップI		劉 麗娜	春	1	2019年度新設
教養基盤	【留学生対象】論文スタートアップII		劉 麗娜	秋	1	2019年度新設

目次(フィールド別)

MBA開講科目一覧

実践知考具/志

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
スーパージェネラリスト	田坂 広志	春	2	1
ネオ・リベラルアーツ	田坂 広志	秋	2	3

実践知考具/イノベーション

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	5
イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	7
シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	9
デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	11
イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	13
ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	15
ビジネスモデル創造特論	河野 龍太	秋	2	17
経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	19

実践知考具/顧客創造

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	21
インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	23
日本の流通構造とサプライチェーン・マネジメントのメガトレンド	西田 邦生	秋	2	25
最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	27
経営視点からのコンタクトセンターの活用	宮崎 義文	秋	2	29
BtoBマーケティング	徳永 朗	秋	2	31
サービスイノベーション	諏訪 良武	春	2	33
プレミアム価値創造のブランド戦略	吉松 敏也	秋	2	35
観光インバウンドマネジメント	中山 こずゑ	春	2	37
商品ブランドマネジメント	佐野 扶美枝	春	2	39

実践知考具/リーダーシップと人事

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ヒューマンリソース概論I	徳岡 晃一郎	春	2	41
ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	43
インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	45
カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	47
ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	49
実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	51
実践ポジティブ心理学	三田 真美	秋	2	53
ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論	迫川 史康	春	2	55
組織行動とリーダーシップ	須東 朋広	秋	2	57

実践知考具/ファイナンス&ガバナンス

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	春	2	59
ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	秋	2	61
企業会計・簿記入門	井村 順子	秋	2	63
マネジリアルアカウンティング	真壁 昭夫	春	2	67
法の経済分析入門	宇佐美 洋	春	2	69
組織と戦略の経済学	宇佐美 洋	秋	2	71
中小企業の価値創造と事業承継	藤本 江里子	春	2	73
企業分析と経営指標(KPI)	大津 広一	春	2	75
ファイナンスイノベーション基礎	小野里 光博	春	2	77

実践知考具/データドリブン経営

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
データドリブンの戦略構築	栗山 実	秋	2	79
クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	81
サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	83
データビジネス活用(課題解決モデリング)	志賀 敏宏	秋	2	85
ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤 洋行	秋	2	87
集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	89
マーケティングリサーチ	今泉 忠	秋	2	91
データ活用入門	今泉 忠	春	2	93
統計的データ分析	久保田 貴文	秋	2	95
マーケティングデータサイエンス基礎	佐藤 洋行	春	2	97
DX変革:AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知	鈴木 至	秋	2	99
DX変革:データサイエンスによる企業変革	前田 英志	春	2	101
DX変革:顧客起点のトランスフォーメーション実践知	森 祐之	春	2	103

最新ビジネス実践知/ヘルスケア

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
医療介護業界の未来	真野 俊樹	春	2	105
医療介護領域のマネジメント	真野 俊樹	秋	2	107
医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	真野 俊樹	秋	2	109
異業種間のコミュニケーション術	白井 雅弓	秋	2	111
医療介護の成長戦略	末松 清一	春	2	113
地域包括ケアのビジネスモデル	石井 富美	春	2	115

最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
アジアビジネス戦略とグローバル共創	佐藤 勝彦	秋	2	117
Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	119
世界潮流と企業戦略	金 美德	春	2	121
日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	125
Business in Globalized India - The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	127

最新ビジネス実践知/ソーシャルインパクトビジネス

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
非営利法人のファイナンス	堀内 勉	秋	2	129
トライセクターリーダー論	金野 索一	春	2	131
ベンチャーCFO養成講座	新村 和大	秋	2	133
ソーシャル・ファイナンス	小林 立明	秋	2	135
ソーシャルビジネス演習	田中 勇一	春	2	137

最新ビジネス実践知/テクノロジー&ベンチャー

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
最新テクノロジーとAIの世界	金野 索一	春	2	139
ITビジネス原理と先端戦略	金野 索一	秋	2	141
IT・AIビジネス創出演習	金野 索一	秋	2	143
日本のモノづくり経営	柿内 幸夫	秋	2	145
先端ITマーケティング・イノベーション	橋本 大也	春	2	147
実践事業創造	亀井 省吾	春	2	149
ベンチャー企業論	濱田 隆道	春	2	151

最新ビジネス実践知/ルール形成戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
社会課題起点のルール形成戦略	國分 俊史	春	2	153
経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	羽生田 慶介	春	2	155
安全保障経済政策論I	井形 彬(國分 俊史)	春	2	157
安全保障経済政策論II	井形 彬(國分 俊史)	秋	2	159
議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論	福田 峰之	秋	2	161
ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	163
ルール形成のためのメディア戦略	岡田 宏記	秋	2	165

教養基盤

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	167
問題解決学I	下井 直毅	春	2	169
問題解決学II	下井 直毅	秋	2	171
社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	金 美徳	春秋	各2	173
フィールドスタディ	金 美徳	春秋	各2	177
【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎A	佐藤 勝彦	春	1	179
【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎B	佐藤 勝彦	秋	1	181
【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏ヲ 礼佳	春	1	183
【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	藏ヲ 礼佳	秋	1	185
【留学生対象】論文スタートアップI・II	劉 麗娜	春秋	2	187
論文演習 宇佐美洋【FP資格必修】	宇佐美 洋	春秋	各2	189
論文演習 河野龍太	河野 龍太	春秋	各2	191
論文演習 田坂広志	田坂 広志	春秋	各2	193
論文演習 徳岡晃一郎	徳岡 晃一郎	春秋	各2	195
論文演習 I・II パートル【留学生対象】	巴特尔(パートル)	春秋	各2	197
論文演習 真野俊樹	真野 俊樹	春秋	各2	199
論文演習 I 今泉忠・久保田貴文	今泉 忠・久保田 貴文	春	2	201
論文演習 II 久保田貴文・今泉忠	久保田 貴文・今泉 忠	秋	2	203
論文演習 紺野登	紺野 登	春秋	各2	205
論文演習 國分俊史	國分 俊史	春秋	各2	207

目次(担当教員あいうえお順)

MBA開講科目一覧

	科目名	担当教員(あいうえお順)	開講	単位数	ページ
1	安全保障経済政策論I	井形 彬(國分 俊史)	春	2	157
2	安全保障経済政策論II	井形 彬(國分 俊史)	秋	2	159
3	集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	89
4	マーケティングリサーチ	今泉 忠	秋	2	91
5	データ活用入門	今泉 忠	春	2	93
6	論文演習 I 今泉忠・久保田貴文	今泉 忠・久保田 貴文	春	2	201
7	地域包括ケアのビジネスモデル	石井 富美	春	2	115
8	企業会計・簿記入門	井村 順子	秋	2	63
9	ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	春	2	59
10	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	秋	2	61
11	法の経済分析入門	宇佐美 洋	春	2	69
12	組織と戦略の経済学	宇佐美 洋	秋	2	71
13	論文演習 宇佐美洋【FP資格必修】	宇佐美 洋	春秋	各2	189
14	企業分析と経営指標(KPI)	大津 広一	春	2	75
15	ルール形成のためのメディア戦略	岡田 宏記	秋	2	165
16	Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	119
17	ファイナンスイノベーション基礎	小野里 光博	春	2	77
18	日本のモノづくり経営	柿内 幸夫	秋	2	145
19	最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	27
20	クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	81
21	実践事業創造	亀井 省吾	春	2	149
22	世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	121
23	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	金 美徳	春秋	各2	173
24	フィールドスタディ	金 美徳	春秋	各2	177
25	統計的データ分析	久保田 貴文	秋	2	95
26	論文演習II 久保田貴文・今泉忠	久保田 貴文・今泉 忠	秋	2	203
27	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏ヲ 礼佳	春	1	183
28	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII	藏ヲ 礼佳	秋	1	185
29	データドリブンの戦略構築	栗山 実	秋	2	79
30	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	13
31	ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	15
32	ビジネスモデル創造特論	河野 龍太	秋	2	17
33	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	21
34	論文演習 河野龍太	河野 龍太	春秋	各2	191
35	社会課題起点のルール形成戦略	國分 俊史	春	2	153
36	論文演習 國分俊史	國分 俊史	春秋	各2	207
37	ソーシャル・ファイナンス	小林 立明	秋	2	135
38	知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	5
39	イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	7
40	シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	9
41	デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	11
42	論文演習 紺野登	紺野 登	春秋	各2	205
43	トライセクターリーダー論	金野 索一	春	2	131
44	最新テクノロジーとAIの世界	金野 索一	春	2	139
45	ITビジネス原理と先端戦略	金野 索一	秋	2	141
46	IT・AIビジネス創出演習	金野 索一	秋	2	143
47	ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論	迫川 史康	春	2	55
48	ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤 洋行	秋	2	87
49	マーケティングデータサイエンス基礎	佐藤 洋行	春	2	97
50	アジアビジネス戦略とグローバル共創	佐藤 勝彦	秋	2	117

	科目名	担当教員(あいうえお順)	開講	単位数	ページ
51	ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	167
52	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎A	佐藤 勝彦	春	1	179
53	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎B	佐藤 勝彦	秋	1	181
54	商品ブランドマネジメント	佐野 扶美枝	春	2	39
55	データビジネス活用(課題解決モデリング)	志賀 敏宏	秋	2	85
56	問題解決学I	下井 直毅	春	2	169
57	問題解決学II	下井 直毅	秋	2	171
58	日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	125
59	異業種間のコミュニケーション術	白井 雅弓	秋	2	111
60	ベンチャーCFO養成講座	新村 和大	秋	2	133
61	医療介護の成長戦略	末松 清一	春	2	113
62	DX変革:AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知	鈴木 至	秋	2	99
63	組織行動とリーダーシップ	須東 朋広	秋	2	57
64	サービスイノベーション	諏訪 良武	春	2	33
65	スーパージェネラリスト	田坂 広志	春	2	1
66	ネオ・リベラルアーツ	田坂 広志	秋	2	3
67	論文演習 田坂広志	田坂 広志	春秋	各2	193
68	ソーシャルビジネス演習	田中 勇一	春	2	137
69	ヒューマンリソース概論I	徳岡 晃一郎	春	2	41
70	ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	43
71	インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	45
72	カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	47
73	論文演習 徳岡晃一郎	徳岡 晃一郎	春秋	各2	195
74	BtoBマーケティング	徳永 朗	秋	2	31
75	サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	83
76	観光インバウンドマネジメント	中山 こずゑ	春	2	37
77	日本の流通構造とサプライチェーン・マネジメントのメガトレンド	西田 邦生	秋	2	25
78	先端ITマーケティング・イノベーション	橋本 大也	春	2	147
79	経済連携協定(FTA・EPA)と経営戦略	羽生田 慶介	春	2	155
80	論文演習 I・II パートル【留学生対象】	巴特尔(パートル)	春秋	各2	197
81	ベンチャー企業論	濱田 隆道	春	2	151
82	実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	51
83	インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	23
84	議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論	福田 峰之	秋	2	161
85	中小企業の価値創造と事業承継	藤本 江里子	春	2	73
86	非営利法人のファイナンス	堀内 勉	秋	2	129
87	経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	19
88	DX変革:データサイエンスによる企業変革	前田 英志	春	2	101
89	マネジリアルアカウンティング	真壁 昭夫	春	2	67
90	医療介護業界の未来	真野 俊樹	春	2	105
91	医療介護領域のマネジメント	真野 俊樹	秋	2	107
92	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ	真野 俊樹	秋	2	109
93	論文演習 真野俊樹	真野 俊樹	春秋	各2	199
94	Business in Globalized India - The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	127
95	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	49
96	実践ポジティブ心理学	三田 真美	秋	2	53
97	経営視点からのコンタクトセンターの活用	宮崎 義文	秋	2	29
98	DX変革:顧客起点のトランスフォーメーション実践知	森 祐之	春	2	103
99	プレミアム価値創造のブランド戦略	吉松 敏也	秋	2	35
100	【留学生対象】論文スタートアップI・II	劉 麗娜	春秋	2	187
101	ルール形成戦略研究所特別講義	ルール形成戦略研究所	春	2	163

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	スーパージェネラリスト		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、垂直統合した知性を身につけるか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Super Generalist		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
経営者や起業家、マネジャーやリーダーとして、目の前の現実を変革することのできる「変革の知性」を身につける			
到達目標/Course Goals			
思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つの知性」を垂直統合して身につける			
授業形態 /Form of Class	講義と質疑、MLでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	「思想」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「思想」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第2講			
概要	「ビジョン」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「ビジョン」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第3講			
概要	「志」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「志」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第4講			
概要	「戦略」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「戦略」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第5講			
概要	「戦術」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「戦術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第6講			
概要	「技術」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「技術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		
第7講			
概要	「人間力」のレベルの知性について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「人間力」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る		

第8講	
概要	「多重人格」のマネジメント
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「多様な才能」を開花させるための「多重人格のマネジメント」について語る
教科書 /Textbook	『知性を磨く 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『人は、誰もが「多重人格」－誰も語らなかった「才能開花の技法」』（田坂広志著：光文社新書）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「7つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（30%）受講姿勢（25%）質疑内容（25%）所感内容（20%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価： A（89～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容普通
評価： B（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： C（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： F（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智慧」を掴む講義であり、真剣勝負で3時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ネオリベラルアーツ		
サブタイトル/Sub Title	いかにして、21 世紀の変革リーダーとしての教養を身につけるか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Neo Liberal Arts		
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／志	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
「言語的な知識」ではなく「身体的な智慧」としての教養を学ぶことにより、21 世紀の「変革の知性」を身につける			
到達目標/Course Goals			
書物や文献で学ぶ「知識」としての教養ではなく、経験と体験から掴む「智慧」としての教養を身につける			
授業形態 /Form of Class	講義と質疑、MLでの体験交流	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	「変革の知性」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	2 1 世紀に求められる「変革の知性」とは何か、いかにして、それを掴むかを語る		
第 2 講			
概要	「知性」と「知能」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「知性」と「知能」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る		
第 3 講			
概要	「知性」と「知識」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「知性」と「知識」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る		
第 4 講			
概要	「知性」と「専門性」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「知性」と「専門性」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る		
第 5 講			
概要	「知の生態系」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	なぜ、「知の貯蔵庫」ではなく、「知の生態系」が重要かについて語る		
第 6 講			
概要	「7つの知性」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	なぜ、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力の垂直統合が必要かを語る		
第 7 講			
概要	知の「3つの病」について		
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する		
詳細	「知と知の分離」「知と行の分離」「知と情の分離」という「3つの病」について語る		

第8講	
概要	「人間観」と「人間力」について
事前、事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、「人間観」と「人間力」が、21世紀に最も重要なリベラルアーツになるのかを語る
教科書 /Textbook	『知性を磨く 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『まず、世界観を変えよ』（田坂広志著：英治出版）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「7つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（30%）受講姿勢（25%）質疑内容（25%）所感内容（20%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容良い
評価： A（89～80 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容良い＋所感内容普通
評価： B（79～70 点）	出席率良い＋受講姿勢良い＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： C（69～60 点）	出席率良い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
評価： F（59 点～）	出席率悪い＋受講姿勢普通＋質疑内容普通＋所感内容普通
留意点 /Additional Information	単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智慧」を掴む講義であり、真剣勝負で3時間の講義に参加する姿勢が求められる

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	知識創造経営のプリンシプル		
サブタイトル/Sub Title	知識経済社会の企業・経営・戦略・組織		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Principles of Knowledge Creating Management		
教員/Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
企業価値の主要な源泉は物的な有形資源（モノ）から人々の無形の知識に移行している。それに沿って、大きく経営学も変化している。本講では知識創造経営という「理念型」から出発して、戦略論、組織論、リーダーシップ論等、毎回テーマを追いつながら、経営全体を「知」で切って考える。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマシーポリシー１に沿って、知識社会・経済の経営を理解するための基本的な考え方としての＜知識創造理論＞をもとに、とくにイノベーションを念頭に置いた戦略・組織などについての経営モデルを提示する。それらをてがかりに、個々人の経験を材料としながら、これからの経営のあり方を自分なりに理解し、創造し、総合していく。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双 方向	学外学習 /Off-Campus Learning	（一部・未定）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読（シラ バスに応じて毎回２時間程度）		
講義概要/Course Description 全８講 第１講～第７講は各１８０分 第８講は９０分でも可			
第１講			
概要	知識創造経営のすすめ		
事前、事後学習ポイント	「知識経済社会」の観点から経営、事業、組織、個人のあり方を理解する		
詳細	知識経営とその背景:知識社会、知識経済、分析から創造への経営の転換 知識ベース理論に向けて：知識とは何か		
第２講			
概要	知識創造理論		
事前、事後学習ポイント	知識創造経営を理論的観点から理解する		
詳細	暗黙知と形式知、「SECI（知識創造）モデル」、知識創造とイノベーション		
第３講			
概要	知識経営企業事例研究（１）		
事前、事後学習ポイント	企業事例を通じて知識創造経営を理解する グループディスカッション、双方向（アクティブラーニング）		
詳細	知識創造企業事例及び対話		
第４講			
概要	「戦略論」と知識経営		
事前、事後学習ポイント	戦略論の系譜の中で知識創造経営を把握する		
詳細	知識経営の「ルート・メタファー」について論じる		
第５講			
概要	「知識資産」の戦略		
事前、事後学習ポイント	知識の生み出す経済的価値について理解する		
詳細	知識資産とは、知識で富を生み出すとは		
第６講			
概要	「場」の経営		
事前、事後学習ポイント	知識創造における場の意味合いを理解する		
詳細	「場」とは何か---暗黙知、文脈、言語 「場」の組織と経営		
第７講			

概要	知識経営実践事例研究（２）
事前、事後学習ポイント	企業事例を通じて知識創造経営を理解する
詳細	各自の事例企業研究を共有、知識リーダーシップ（賢慮）の事例 グループディスカッション、双方向（アクティブラーニング）
第 8 講	
概要	総括の対話
事前、事後学習ポイント	これまでの総括、振り返りを行う
詳細	全講を通じて理解したことを基に発展的議論を行う グループディスカッション、双方向（アクティブラーニング）
教科書 /Textbook	野中郁次郎、紺野登（2012）『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社（指定図書）
指定図書 /Course Readings	野中郁次郎、紺野登（1999）『知識経営のすすめ』ちくま新書
参考文献・参考 URL /Reference List	随時提示
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 30％／講義議論参画度 30％／最終レポート 40％ 3 点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が大変優れている
評価： A（89～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが優れている
評価： B（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価： C（69～60 点）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートが普通
評価： F（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 「ナレッジマネジメント」（知識管理）という用語も使用しますが、所謂 IT をベースにしたナレッジマネジメントシステムが主テーマではありません。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	イノベーションと目的工学		
サブタイトル/Sub Title	賢慮とイノベーション経営		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Innovation and “Purpose Engineering”		
教員/Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
21世紀の経営は、社会イノベーションなどが重視され、社会性や人間志向を強めている。そこでは、主観的なものである「目的」をいかに経営に取り込むかが課題となっている。ではどのような経営がありえるのだろうか？「善い目的」とは何か、「目的と手段の選択・判断」はいかにあるべきかを「目的工学」という視点から考える。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマシーポリシー2に沿って、知の体系化の方法習得を目指す。本講では「目的工学」とは善い目的に基づく経営(Management On Purpose)、および社会、企業、個々人の目的を調整して成果を生み出すための経営(Management Of Purposes)からなる、イノベーションのための実践知(practical wisdom)である。本講では、目的に関する基本的議論と実践のためのモデルを学ぼうとする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読（シラバスに応じて毎回2時間程度）		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	21世紀は目的の時代		
事前、事後学習ポイント	「目的」というキーワードから経営、イノベーション、社会／経済の現状を考察する		
詳細	目的が重視されてきた由来、契機、なぜ目的が現代の経営において重要になってきたのか		
第2講			
概要	アリストテレスの目的論		
事前、事後学習ポイント	目的論(teleology)の原点であるアリストテレスの哲学から目的の本質を理解する		
詳細	アリストテレスの四原因説、目的論的世界観、実践的三段論法		
第3講			
概要	企業のイノベーションと目的		
事前、事後学習ポイント	目的と経営、目的工学の実践		
詳細	目的と目標の違い、企業の目的とその効用		
第4講			
概要	個の思いと目的		
事前、事後学習ポイント	個々人の目的について考える		
詳細	グループディスカッション、双方向 個々人の目的と企業、社会の目的をどのように調整するのか：「私は学生に、もし人生の目的とは何かを考える時間を持てば、きっとそれを学校にいる間に発見した最も重要なこととして思い出さだろうと言っています。もし彼らがそれを見い出さなければ、舵もない船でただ人生の荒波に翻弄されてしまうことになるでしょう。」（クレイトン・クリステンセン）		
第5講			
概要	目的工学（1）目的に基づく手段の判断		
事前、事後学習ポイント	よい目的はいかに生み出せるのか、目的の創出／判断と手段選択のメカニズム		
詳細	目的工学に基づく目的と手段の関係性を考える（演習 グループディスカッション、双方向）		
第6講			
概要	目的工学（2）アクティブラーニング（ワークショップ）		
事前、事後学習ポイント	いかに目的を媒介にプロジェクトマネジメントを実践するか		

詳細	目的工学に基づく大目的／中目的／小目的の関係性を考える（演習 グループディスカッション、双方向）
第7講	
概要	目的工学とソーシャルイノベーション
事前、事後学習ポイント	社会的なイノベーションにおける目的工学的な視点と実践
詳細	社会的イノベーションの事例を通じて Theory Of Change と目的工学を対比的に理解する
第8講	
概要	総括の対話、グループディスカッション、双方向
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポートの過程での学び、観点を共有する対話
教科書 /Textbook	紺野登(2013)『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか（目的工学）』（ダイヤモンド社）
指定図書 /Course Readings	紺野登、野中郁次郎（2018）『構想力の方法論』日経 BP
参考文献・参考 URL /Reference List	随時提示
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 30%/講義議論参画度 30%/最終レポート 40% 3 点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が大変優れている
評価： A（89～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが優れている
評価： B（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価： C（69～60 点）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートが普通
評価： F（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論、演習には積極的に参画すること 集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	シナリオプランニングワークショップ		
サブタイトル/Sub Title	創造的対話の手法と可能主義の戦略形成としてのシナリオプランニング		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Methodology of Scenario Planning: Strategy on Possibilism		
教員/Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知教具／イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ディプロマシーポリシー5に沿って構想力の練磨を目指す。「知識創造」とは本質的に未来に向けた創造、イノベーションである。イノベーションとは未来へのビジョンのもとに不確実で複雑な環境の中で「可能主義」的に生きることである。それは未来について「構える」のではなく、未来に向けて判断、変容させることである。本講では未来研究に関する研究と、ワークショップによるシナリオプランニングの実践的演習をともに行うことで「可能主義（非決定論的）の戦略」について考える。			
到達目標/Course Goals			
知識創造の観点から従来からあるシナリオプランニングを、不確実・複雑な環境における思考法、未来視点での対話の方法として再発見し、その背景を考え、体験する場（集中プログラム）を通じて習得する。			
授業形態 /Form of Class	集中ワークショップ（3日間）：講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（アクティブラーニング）	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読 事前テーマの考察、講義日間の宿題（各数時間、グループワーク）		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	イノベーション経済、未来への視座。可能主義の戦略の系譜		
詳細	シナリオプランニングの背景、由来、経緯など、導入的な講		
第2講			
概要	シナリオプランニング技法について		
事前、事後学習ポイント	シナリオプランニングの基本ステップについて予習しておくこと		
詳細	シナリオプランニングの基本ステップとその方法論的意味合いを理解する		
第3講			
概要	シナリオプランニング事例		
事前、事後学習ポイント	具体的事例からシナリオプランニングの活用イメージを理解する		
詳細	複数企業事例のシナリオマトリックス、その背景、活用を説明し、対話する		
第4講			
概要	シナリオプランニング演習（1）		
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う		
詳細	テーマ設定の方法、スキャンニング、シナリオマトリックス策定		
第5講			
概要	シナリオプランニング演習（2）		
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う		
詳細	シナリオロジック、ストーリー作成		
第6講			
概要	シナリオプランニング演習（3）		
事前、事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う		

詳細	初期的兆候、シナリオの意味合い、戦略オプション
第7講	
概要	未来の哲学：経営における未来の意味合い
事前、事後学習ポイント	現状のシナリオプランニングについての限界と今後の発展、活用のあり方
詳細	「備え／構え」の受動的シナリオから能動的、対話型のシナリオプランニングへ
第8講	
概要	総括、討議
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポートの過程での学び、観点を共有する対話
教科書 /Textbook	紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社（指定図書） 紺野登、野中郁次郎（2018）『構想力の方法論』日経 BP
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	オグルビー,J., 紺野登、野中郁次郎(2005) 《知識創造としてのシナリオ PART1 シナリオ・プランニングのベーシックス&PART 2 シナリオ・マインドのすすめ》Think ! 2005 SPR. SUM No.13&14 【配布する】
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 30%/講義議論参画度 30%/最終レポート 40% 3 点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が大変優れている
評価： A（89～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが優れている
評価： B（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価： C（69～60 点）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートが普通
評価： F（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論、演習には積極的に参画すること 講義日の間に作業（個人、グループ）がある 集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期	
科目名/Course Title	デザイン思考ワークショップ			
サブタイトル/Sub Title	質的研究方法論と実践ワークショップ			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Design Thinking Workshop—Qualitative Research Methodologies in Action			
教員/Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	実践知考具／イノベーション	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
業種・職種を問わず、これからのリーダーにとって不可欠な「デザイン思考」の理論と実践を学ぶ。				
到達目標/Course Goals				
ディプロマシーポリシー1の実践。近年世界中の経営大学院などでもデザイン思考のプログラムが増えている。イノベーション経営への潮流ともに、組織横断的な構想力・実践力が要請されているためである。それは机上の学習では得られない。本講ではエスノグラフィーやGTAなど質的研究方法論、コンセプトの構築、プロトタイピングといったデザイン思考の基本を集中ワークショップで総合的に身につけることを狙いとする。				
授業形態 /Form of Class	集中ワークショップ（3日間）：講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（アクティブラーニング）		学外学習 /Off-Campus Learning	フィールドワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読 事前テーマの考察、講義日間の宿題（各数時間、グループワーク）		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	デザイン思考への誘い			
事前、事後学習ポイント	デザイン思考に関する概略を書籍などを通じて学んでおくこと			
詳細	知識創造の観点からデザイン思考を理解する			
第2講				
概要	フィールドワーク演習(1)			
事前、事後学習ポイント	フィールドワークを通じてデザイン思考の実践的理解を行う			
詳細	エスノグラフィー、GTA(Grounded Theory Approach)等文献研究などの紹介			
第3講				
概要	質的研究方法論			
事前、事後学習ポイント	質的研究方法論についての文献学習（持続して輪読を行う）			
詳細	コンセプトデザインの方法論および質的研究方法論(Qualitative Research Methodologies)概論、などについて学ぶ			
第4講				
概要	フィールドワーク演習(2)			
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う			
詳細	観察（Observation）あるいは共同化の方法			
第5講				
概要	フィールドワーク演習(3)			
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う：前回の復習、作業の継続			
詳細	概念化(Ideation) あるいは表出化の方法			
第6講				
概要	フィールドワーク演習(4)			
事前、事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う：前回の復習、作業の継続			

詳細	プロトタイピング(prototyping)／ストーリーテリング(storytelling)あるいは連結化／内面化の方法
第7講	
概要	企業のイノベーションとデザイン思考
事前、事後学習ポイント	ケースを読んでおくこと
詳細	具体的企業事例からデザイン思考がイノベーションにいかに関与され得るかを考える
第8講	
概要	総括の対話
事前、事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める
詳細	各自のレポートの過程での学び、観点を共有する対話、輪読の発表、デザイン思考の次なる発展とは
教科書 /Textbook	紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社（指定図書）
指定図書 /Course Readings	フリック,U. (2002)『質的研究入門—「人間の科学」のための方法論』春秋社（指定図書） グレイザー,B.G.,A.L.シュトラウス (1996)『データ対話型理論の発見』新曜社（指定図書）
参考文献・参考 URL /Reference List	http://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/_ct/17011227
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 30%/講義議論参加度 30%/最終レポート 40% 3 点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートの内容が大変優れている
評価： A（89～80 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが優れている
評価： B（79～70 点）	出席数が十分、グループワークへの積極的参加、事後レポートが良い
評価： C（69～60 点）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートが普通
評価： F（59 点～）	出席不良、グループワークへの参加が消極的、事後レポートがない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参加すること 講義の合間に文献輪読作業あり。ワークショップ形式ゆえ継続出席を重視。集中グループワーク（計 3 日）であるため欠席は避けられたし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法		
サブタイトル/Sub Title	市場創造と事業変革のロジックと実践方法を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Customer Creation Strategies in Theory and Practice for Innovators.		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
アップルのスティーブ・ジョブズやアマゾンのジェフ・ベゾスといった傑出したイノベーターは単なるアイデアや感性、直観の人ではない。ハーバード大のクリステンセン氏のイノベーション理論などを研究して自らの事業構想に生かす、セオリーと実践の両方に精通したイノベーション・マスター（達人）として知られている。世界を変える巨大な功績を残している人がその天賦の才能やセンス以外に何を志向しているかは留意しておきたい。即効性のあるノウハウなど表層的なものを追い求める風潮が否めない中でセオリーやロジックを軽視する人は危ういと言えよう。イノベーションを志す者にとって、市場変革と顧客創造のための代表的な戦略、セオリー、ツールを理解し習得することは助けとなる。この講義では現代の重要なイノベーション戦略、セオリー、それらを実践するためのツールを取り上げ、ケースと演習を交えて実践的に習得を図る。			
到達目標/Course Goals			
DP2「知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツール、実践的スキルを習得する。イノベーションを起こす起業家のマインドセットを養う。			
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	顧客の真のニーズを理解する：ジョブメソッド基本		
事前、事後学習ポイント	ジョブ理論について調べておく。		
詳細	顧客創造戦略において顧客の真のニーズを理解することは極めて重要である。このための有効な理論がハーバード大学のクリステンセン教授が提唱する Jobs to be done という理論である。JTBD について理解を深め演習を通じて実践に応用できるスキルを養う。		
第2講			
概要	顧客の真のニーズを理解する：ジョブメソッド応用		
事前、事後学習ポイント	ジョブ理論のケースについて調べておく。理論に適合した実際のケースを調べる。		
詳細	顧客創造戦略において顧客の真のニーズを理解することは極めて重要である。このための有効な理論がハーバード大学のクリステンセン教授が提唱する Jobs to be done という理論である。JTBD について理解を深め演習を通じて実践に応用できるスキルを養う。		
第3講			
概要	破壊的イノベーションを理解する		
事前、事後学習ポイント	破壊的イノベーション理論について調べる。理論に適合した実際のケースを調べる。		
詳細	破壊的イノベーション理論はインテルのアンディ・グロブ会長が戦略転換に応用するなど有用性が高いイノベーションセオリーである。破壊的イノベーション理論の基本と本質を理解する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。		
第4講			
概要	ブルーオーシャン戦略を理解する		
事前、事後学習ポイント	ブルーオーシャン戦略の理論とケースについて調べる。		
詳細	イノベーション戦略論としてブルーオーシャン戦略の基本と応用を理解する。クラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。		
第5講			
概要	ビジネスモデルキャンバスを理解する		
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルキャンバスの内容と実践的な使い方について調べて理解する。		
詳細	ビジネスモデルをデザインするための画期的なツールとして世界中に普及しているビジネ		

	スモデルキャンパスについて基本と実践での応用方法を学ぶ。演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第6講	
概要	バリュープロポジションキャンパスを理解する
事前、事後学習ポイント	バリュープロポジションキャンパスの内容と実践的な使い方について調べて理解する。
詳細	ビジネスモデルキャンパスと合わせて使うプラグインツール、バリュープロポジションキャンパスについて基本と実践での応用方法を学ぶ。演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第7講	
概要	アトリビュート分析を理解する
事前、事後学習ポイント	アトリビュート分析について調べて理解する。
詳細	競争に対してユニークな顧客価値をデザインする上でアトリビュート分析は有効なヒントを与える。これら分析手法について演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
第8講	
概要	まとめとディスカッション
事前、事後学習ポイント	イノベーターのための顧客創造戦略の全体像と要諦を理解する。
詳細	イノベーターのための顧客創造戦略について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「イノベーションのジレンマ」、「イノベーションの解」、「ブルーオーシャン戦略」など
参考文献・参考URL /Reference List	講義の進展状況に応じて適宜クラス内で実施
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（20%）、グループワーク、クラスディスカッション（40%）、修了課題レポート（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールを十分に理解し実務に応用できるスキルを習得している。講義で学んだ理論、スキルを実務で実践している。
評価： A（89～80 点）	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールを概ね理解し実務に応用できるスキルを習得している。
評価： B（79～70 点）	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの基本を理解している。
評価： C（69～60 点）	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの理解が一部不十分。
評価： F（59 点～）	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの理解が不十分。
留意点 /Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネスモデルイノベーション		
サブタイトル/Sub Title	持続的競争優位が終焉を向かえた時代の新たな戦略アプローチと実践手法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Model Innovation		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
アップル、アマゾン、ユニクロを例としてあげるまでもなく、現代の勝ち組企業に共通しているのが、【ビジネスモデルの差別化】に成功していることです。ビジネスモデルとは、事業の持続的成長を可能にする戦略メカニズムのこと。現代の経営においては商品・サービス単体レベルでの差別化が難しさを増しており、ビジネスモデルによる差別化が重要になっています。本講義では、ビジネスモデルに対する本質的理解を深めながら、世界の一流企業が採用し経営の現場で実践するビジネスモデル構築手法を学び、受講者自らが関わる事業のビジネスモデルをイノベーションするための戦略的視座と問題解決力を錬成することを講義の目的とします。			
到達目標/Course Goals			
DP2「知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、ビジネスモデルで差別化するためのセオリーとケースを理解し実践知を身につける。ビジネスモデルキャンパスを活用して新規事業や既存事業の新たなビジネスモデルをデザインするスキルを習得する。ビジネスモデルの仮説検証を実行する理論とスキルを習得する。			
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		課題図書、指定論文の予習。指定時にレポートの提出。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	ビジネスモデルとは何か		
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境を調べ理解しておくこと		
詳細	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境について、特に「一時的競争優位」が前提となる現代の経営環境について考察する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。		
第2講			
概要	ビジネスモデル・キャンパスの各要素と内容について調べて理解しておくこと		
事前、事後学習ポイント	イノベーションの共通言語の重要性について理解する。ビジネスモデルキャンパスの構成要素と基本的な使い方を理解する。		
詳細	現代の経営においてビジネスモデル・イノベーションの重要性が増す中でイノベーションの共通言語がなぜ重要なのかについて考察する。イノベーションの共通言語として普及するビジネスモデルキャンパスの使い方を理解し自社のビジネスモデルをビジネスモデルキャンパスで実際に可視化する個人演習及びグループワークを行い、随時クラスディスカッションを交える。		
第3講			
概要	ビジネスモデルで差別化するための戦略的な着眼点		
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルで差別化するための方法について調べておくこと		
詳細	ビジネスモデル・イノベーションを構想するための戦略的な着眼点、アプローチ法を学ぶ。自社のビジネスモデルの強みや弱み、課題などを評価する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。		
第4講			
概要	顧客視点での価値創造（1）		
事前、事後学習ポイント	ジョブ理論について調べておく。バリュー・プロポジション・キャンパスを実務で使う。		
詳細	顧客視点での価値創造の方法論を学ぶ。顧客が本当に欲しているニーズを理解する方法としてジョブアプローチについて考察する。バリュー・プロポジション・キャンパスの内容と各構成要素を理解し自社の事業に当てはめて基本的な使い方を習得する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。		

第5講	
概要	顧客視点での価値創造（2）
事前、事後学習ポイント	顧客視点でビジネスモデル・イノベーションを起こしたケースを調べる。
詳細	顧客視点での価値創造の具体的なケース分析を通じてプル型のイノベーションのポイントを考察する。顧客の側に立って問題を発見し解決アイデアの選択肢を広げ試行錯誤から方向性を見出す実践的スキルとしてデザイン思考について理解する。随時グループワーク、クラスディスカッションを交えて参加型講義を行う。
第6講	
概要	リーンスタートアップと仮説検証（1）
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップのセオリーと実践方法について調べる
詳細	リーンスタートアップ、顧客開発モデル、MVP などについて理解する。ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第7講	
概要	リーンスタートアップと仮説検証（2）
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップに基づいた仮説検証の考え方と実践方法を調べておく
詳細	リーンスタートアップ、顧客開発モデル、MVP などについて理解する。ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。
第8講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル・イノベーションに関するこれまでの講義の全体を振り返る
詳細	講義の全体を振り返り、ビジネスモデル・イノベーションの取り組みを自社内でいかに実践するかについて考察する。各自の組織の事例や個人の経験による自主的意見の発言とクラス内での知見交換を奨励しクラスディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「ビジネスモデル・ジェネレーション」 アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニユール著、翔泳社
参考文献・参考 URL /Reference List	「バリュー・プロポジションデザイン」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニユール他著、翔泳社、「イノベーションへの解」クレイトン・クリステンセン他、翔泳社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席（20%）、グループワーク、クラスディカッション（40%）、修了課題レポート（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーとケースを十分に理解し所属組織やチームの共通言語として実践で応用している。ビジネスモデルキャンパスを活用して新規事業や既存事業のユニークなビジネスモデルをデザインできる。ビジネスモデルの仮説検証の方法論、スキルを身につけ自ら仮説検証を効果的に実行できる。
評価： A（89～80 点）	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーと実践ケースを理解している。ビジネスモデルキャンパスを活用して新規事業や既存事業のビジネスモデルを発案できる。ビジネスモデルの仮説検証の方法論を理解し実践している。
評価： B（79～70 点）	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーを理解している。ビジネスモデルキャンパスを理解し実務で活用している。
評価： C（69～60 点）	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーを基本レベルで理解している。ビジネスモデルキャンパスを理解しているが実務での応用が不十分。
評価： F（59 点～）	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーやケースについての理解が基本的なレベルに留まっている。
留意点 /Additional Information	当講義の理解と応用を促進する上で関係の深い「マーケティング・マネジメント概論」を当講義の履修前もしくは履修中あるいは履修後に受講することを推奨する。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスモデル創造特論		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスモデル創造特論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Model Generation in Practice		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
リーンスタートアップや顧客開発などの手法に代表される仮説検証型の事業創造の実践技法を習得する。講義期間を通じて、新しいビジネスアイデアを発想し仮説検証を通じて具体化し、それらのプロセスを受講生各自がプレゼンテーションする。対象者は、新事業開発のアイデアを持った経営者および経営者相当、起業家志望者、イントレプレナー（組織内起業家、新規事業開発担当）など。特に優秀な受講者は、世界的な起業プランコンテスト、ジャパン・ビジネスモデル・コンペティションのセミファイナルへ推薦する。			
到達目標/Course Goals			
DP4「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」と「知の再武装」を達成するために、自らが関与する新事業、既存事業のビジネスモデルの構想を描き仮説検証を通じて実際のビジネスとして立ち上げる実践的スキルとリーダーシップを身につける。			
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内でのフィードバックに基づいた調査、課題図書、 指定論文の予習。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	自らの事業構想についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。		
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデル創造の基本を理解する。ビジネスモデル・キャンパスなどの基本ツールを理解する。		
詳細	リーンスタートアップの手法を応用し自ら実現したい事業構想、ビジネスアイデア、ビジネスコンセプト、ビジネスモデルについてプレゼンテーションし講師及び受講生のフィードバックを元にディスカッションする。		
第2講			
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。		
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップの内容と仮説検証の実践方法について調べて理解する		
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。		
第3講			
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。		
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップの内容と仮説検証の実践方法について調べて理解する		
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。		
第4講			
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。		
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップおよび仮説検証の様々な実例（成功例）を調べる		
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。		
第5講			
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。		

事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップおよび仮説検証の様々な実例（失敗例）を調べる
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。
第6講	
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。
事前、事後学習ポイント	リーンスタートアップおよび仮説検証の組織での活用方法を調べる
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。
第7講	
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。
事前、事後学習ポイント	仮説検証からピボットして成功した実践例を調べる
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。
第8講	
概要	事業構想の仮説検証と変更についてプレゼンテーションしクラスでディスカッションする。
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルをスケールアップする方法論を調べる
詳細	前回講義でプレゼンした事業構想やビジネスモデルについて仮説検証を行った結果を織り込んでどのようにビジネス構想を進化させたかの進捗をプレゼンテーションする。プレゼンについて講師及び受講生のフィードバックをうけディスカッションする。ディスカッションでのアドバイスや問題指摘に応じてビジネスプランの変更を検討する。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「バリュー・プロポジション・デザイン」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニユー ル他著、翔泳社（教科書）
参考文献・参考 URL /Reference List	「リーンスタートアップ」エリック・リース著（教科書）、日経 BP、「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニユー著、翔泳社、「競争優位の終焉」リタ・マグレイス著、日本経済新聞出版社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	プレゼンテーション（50%）、クラスディスカッションへの貢献（50%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	周囲を巻き込みイノベーションを実現する力を習得し、新事業、既存事業のビジネスモデルの構想を描き仮説検証を通じて実際のビジネスとして立ち上げる実践的スキルとリーダーシップを高度に身につけている。自らのビジネス構想の事業化をスピーディーかつ効果的に実行した。
評価： A（89～80 点）	周囲を巻き込みイノベーションを実現する力を習得し、新しいビジネスモデルの構想を描き仮説検証を通じて実際のビジネスとして立ち上げる実践的スキルとリーダーシップを身につけている。
評価： B（79～70 点）	周囲を巻き込みイノベーションを実現する力を習得し、新しいビジネスモデルの構想を描き仮説検証を通じて実際のビジネスとして立ち上げる実践的スキルとリーダーシップの基本を身につけている。
評価： C（69～60 点）	新しいビジネスモデルの構想を描き仮説検証を通じて実際のビジネスとして立ち上げる基本を身につけているが不十分。
評価： F（59 点～）	新しいビジネスモデルの構想を描き実際のビジネスとして具体化する基本的な力を身につけたが不十分。仮説検証の理解とスキルの実践が不足。
留意点 /Additional Information	クラスでのプレゼンテーションやディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	経営戦略概論		
サブタイトル/Sub Title	経営戦略策定と意思決定		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Basic Business strategy building		
教員/Instructor	前川 慶一	E-mail	maekawa-k@tama.ac.jp keiichi.maekawa@jp.mahle.com
科目群/Course Classification	イノベーション	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
厳しい競争環境の中で、一企業が自社の持つコンピテンスやリソースの制約の中ですべての領域でリーダーになって高い利益を享受することは難しく、それゆえ企業は戦略を持ってリソースを重点配分していくことが求められる。本講座では戦略策定にあたって考えるべきこと、戦略策定手法、経営における意思決定の意味を理解しながら、いかに経営戦略や商品戦略を策定し、実行していくか、自ら考えながら学んでいただく。			
到達目標/Course Goals			
経営戦略策定の手法とそれぞれの手法に適した使い方を理解・習得し、置かれている状況を分析、環境変化を察知して課題を設定し、現状を変革しようとする意志力を持って戦略を策定できる資質を身につける			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義内容理解のための復習とケーススタディの予習		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	概論		
事前、事後学習ポイント	事後：戦略策定ツールの習得		
詳細	経営戦略の構造と戦略策定ツール（講義）、 企業分析のケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、 プレゼンテーション、双方向論議）		
第2講			
概要	戦略策定法と実習（1）		
事前、事後学習ポイント	事後：プロダクトポートフォリオマネジメント・競争戦略の考え方・活用領域・ 手法の理解、及び次回に論議するケースの学習		
詳細	PLC理論とPPM=プロダクトポートフォリオマネジメント（講義）、 PPM ケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、プレゼ ンテーション、双方向論議）、 M.ポーターの競争戦略（講義）、		
第3講			
概要	戦略策定法と実習（2）		
事前、事後学習ポイント	事前：ケーススタディ（競争戦略）の学習、 事後：学習した各戦略の考え方・活用領域・ポイントの理解		
詳細	ブルーオーシャン戦略（講義）、ランチェスター戦略（講義）、P.コトラーの業界地 位別戦略（講義）、 競争戦略の視点からのケーススタディ（グループディスカッション グループワ ーク、プレゼンテーション、双方向論議）		
第4講			
概要	経営の意思決定		
事前、事後学習ポイント	事後：経営の意思決定プロセスのポイントの理解		
詳細	戦略検討・決定のプロセスと手法、不確実性の中での意思決定（講義）、 キャッシュフロー基礎のケーススタディ（双方向論議）		
第5講			
概要	全社戦略（多角化、合従連衡）、ケーススタディ 経営戦略分析		
事前、事後学習ポイント	事前：配布したケースの分析、意見のまとめ 事後：事業拡大を考える際の適切な方策の理解		
詳細	不連続な事業拡大を狙う方策としての多角化・M&A・アライアンス戦略（講義）、		

	事前学習した企業戦略と経営課題の分析（グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第6講	
概要	機能別戦略、地域戦略の策定
事前、事後学習ポイント	事前：第4講で提示するキャッシュフロー検討に基づく複数の生産工順案の評価に基づく生産戦略検討 事後：機能別戦略策定にあたってのポイントの理解
詳細	機能別戦略(技術戦略、開発戦略、生産戦略、購買戦略)、地域戦略策定のポイント 生産戦略のケーススタディ（グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向論議）
第7講	
概要	商品戦略の策定
事前、事後学習ポイント	事後：STP マーケティングの習得、および商品戦略策定に当たって考えるべきポイントの理解
詳細	マーケティングの基礎知識、商品戦略策定プロセス（主にプロダクトポートフォリオ）及び手法 セグメンテーションのケーススタディ（グループディスカッション、双方向論議）
第8講	
概要	まとめ （約90分）
事前、事後学習ポイント	事後：自社・個人の課題への活用の可能性の検討
詳細	第1講～第7講のポイントのまとめ
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし
参考文献・参考URL /Reference List	各回の講義資料に記載
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席（30%）、授業中の議論参加（30%）、最終レポート（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ （100～90点）	出席率が高く、授業・グループディスカッションに積極的に参画して発言し、かつ最終レポートにて説得力のある自らの戦略提案を行っている
評価：A（89～80点）	出席率が高く、授業・グループディスカッションに積極的に参画して発言し、かつ最終レポートに自ら考えた戦略的視点が見られる
評価：B（79～70点）	2/3以上出席に加えて、授業・グループディスカッションに参画して発言、または最終レポートに自ら考えた戦略的視点が見られる
評価：C（69～60点）	2/3以上出席しているが、最終レポートに自らの戦略的な視点が見られない
評価：F（59点～）	出席不良かつ、最終レポート未提出
留意点 /Additional Information	最終レポートについては後ほどフィードバックを送ります。 財務、マーケティングの基礎知識を有していると理解しやすい部分があります

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	マーケティングマネジメント概論		
サブタイトル/Sub Title	マーケティングマネジメント概論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Marketing Management		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
マネジメントの父である故ドラッカー博士はあらゆる組織に必須の最も重要な2つの機能としてマーケティングとイノベーションをあげた。激しい競争と市場の成熟化が進む今日において、顧客を創造し事業を成長に導く経営戦略のカギとしてマーケティング戦略の重要性はさらに増している。本講義では、21世紀の経営環境に適応するための新しいコンセプトも織り込みながら、現代におけるマーケティング・マネジメントの基本と本質を理解し、実際の問題解決に応用できる実践的な知識とスキルの修得を目指す。			
到達目標/Course Goals			
DP2「知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、デジタルテクノロジーとソーシャルメディア時代のマーケティング・マネジメントの理論と3C、STP、4Pなどの基本フレームワークとそれらを実践で活用する実践知とスキルを習得する。			
授業形態/Form of Class	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	顧客視点の経営戦略の論理		
事前、事後学習ポイント	マーケティングの経営における目的と役割について調べる		
詳細	経営におけるマーケティングの本質について理解を深める。21世紀において市場が成熟化する中で差別化が容易ではなくなっている。供給者サイドの論理ではなく顧客側の視点で価値を考えて商品サービスをデザインすることが一層重要になっている。今日の企業経営におけるマーケティングの本質的役割や意義をセオリー、事例を元にクラスディスカッションをしながら双方向かつ主体的に認識を深める。		
第2講			
概要	事業環境を認識する		
事前、事後学習ポイント	3C、SWOT、5Fなど代表的フレームワークと分析方法について調べる		
詳細	マーケティング戦略を構築する上では、マクロ経済、市場、政治や社会動向、競合動向、テクノロジーなど事業環境における様々な事実に基づいた客観的認識を持つことが欠かせない。事業環境分析の方法、基本的フレームワークを理解し分析から戦略的洞察の導き方までを事例分析とクラスディスカッションを交えながら双方向かつ主体的に認識を深める。		
第3講			
概要	顧客を深く理解する		
事前、事後学習ポイント	顧客と市場を深く理解し経営に活かして成功している企業の実例を調べておく		
詳細	顧客視点での価値創造のポイントは、顧客を深く理解することにある。マーケティング戦略の起点が顧客への深い理解にあることを認識した上で、どうすれば顧客への深い理解や洞察を得ることができるのかをセオリー及び具体的な経営の事例を元に考察する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。		
第4講			
概要	マーケティングの基幹戦略をデザインする（1）		
事前、事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて調べる		
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理解を深める。STP戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行い、その本質と戦略構築の実践方法について双方向かつ主体的に理解をする。		
第5講			
概要	マーケティングの基幹戦略をデザインする（2）		

事前、事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの実務での応用例について調べる
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理解を深める。STP 戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行いその本質と戦略構築の実践方法について理解をする。
第 6 講	
概要	統合的マーケティング戦略のデザインと実施
事前、事後学習ポイント	STP 戦略を 4P に落とし込み統合的にマーケティングを実行する方法を調べる
詳細	STP やコンセプトに代表されるマーケティング戦略の基幹的な方針を相互に一貫性のある形で組み上げ 4P（商品、価格、流通、プロモーション）の各具体的施作に落とし込んで実行する。このような戦略デザインから戦術への具体化と実行、成果の診断とフィードバックまでのマーケティング戦略の全体サイクルについて理解する。顧客価値を創造する上でサービスの役割重要になっている。サービスのマーケティングの基本についても学ぶ。
第 7 講	
概要	顧客価値を維持発展させる
事前、事後学習ポイント	ブランド戦略の論理と実践方法について調べる
詳細	マーケティング・マネジメントの発展的目的としてブランド戦略について理解をする。ブランドエクイティ論に代表されるように今日の企業経営においてブランド・マネジメントは極めて重要な役割を担っている。企業経営におけるブランド・マネジメントの本質について考察し、ブランド戦略を構築するための基本セオリー、フレームワーク、実践的方法について、事例とクラスディスカッションを交えて理解を深める。これらテーマについて各種事例を随時に交えながらクラスディスカッションを行う。
第 8 講	
概要	顧客視点の経営戦略の課題と実践：まとめとディスカッション
事前、事後学習ポイント	これまでの講義を振り返りマーケティング・マネジメントの全体像を理解する
詳細	顧客起点の経営戦略を具体化する上で要となるマーケティング戦略は、市場が成熟化し競争がグローバルレベルでますます激化する現代の企業経営において重要性が増している。本講義で取り上げたマーケティング・マネジメントの基本的なコンセプトと本質について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。
教科書 /Textbook	「コトラーのマーケティング 3.0」フィリップ・コトラー著、朝日出版
指定図書 /Course Readings	「コトラーのマーケティング 3.0」フィリップ・コトラー著、朝日出版
参考文献・参考 URL /Reference List	「コトラーの戦略的マーケティング」フィリップ・コトラー著、ダイヤモンド社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（20%）、グループワーク、クラスディカッションへの貢献(40%)、修了課題レポート(40%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	マーケティング・マネジメントのセオリーを十分に理解し自らの実務で応用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。それらを実際に自分自身のビジネスの現実の問題解決に活用した。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを適切に活用し卓越した分析と提言を行った。
評価： A（89～80 点）	マーケティング・マネジメントのセオリーを理解し自らの実務で活用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを活用し的確な分析と提言を行った。
評価： B（79～70 点）	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。それらを実務で応用できる基本的スキルを習得している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの基本的セオリーを理解し分析と提言を行っている。
評価： C（69～60 点）	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの基本的セオリーを理解し分析を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。
評価： F（59 点～）	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの分析を行っているが内容及び理解が不十分な点が少ない。
留意点 /Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	インサイトコミュニケーション		
サブタイトル/Sub Title	図解コミュニケーション力を身につけ洞察力を磨く		
英文科目名/Course Title(Eng.)	インサイトコミュニケーション(Insight Communication)		
教員/Instructor	久恒啓一	E-mail	hisatsune@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
文章と箇条書きを中心とするコミュニケーションの欠如と混乱を克服する「図解コミュニケーション」の考え方と技術を学ぶ。時代認識と世界認識を題材に、ビジネスの現場で生起する様々の問題を解決する論理的思考力と洞察力を、実践を通じて身に付け、知の再武装のための武器を身につける。			
到達目標/Course Goals			
時代認識と世界認識に対する深い理解と技術を身につけることによって知的課題解決力を獲得する。具体的には、新聞の社説や「日本の論点」(文藝春秋)の論文などを1枚の図解として表現できるまでになる。DP2「知的課題解決力」、DP4「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」に関連。			
授業形態 /Form of Class	講義・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		予習：前回作成した図解の修正作業。 復習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正作業。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	図解コミュニケーション概要 図解コミュニケーションの理論を学ぶ		
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正。		
詳細	文章と箇条書きの問題点。図解思考の有効性。具体例の提示。 マルと矢印の使い方。		
第2講			
概要	私の仕事 受講者自身の仕事を題材に、図解の技術を学ぶ。		
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正。		
詳細	各人が取り組んでいる仕事を図解で表現する実習。 個人作業。グループディスカッション。全体発表。発表者に図解について講評を行う。		
第3講			
概要	政治 主要4紙・新聞の政治記事を図解しグループディスカッション、プレゼン。		
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正。		
詳細	割り当てられた政治記事を図解で表現する。 個人作業。グループでのプレゼンと議論。全体発表。発表者に図解について講評を行う。		
第4講			
概要	経済 主要4紙の経済記事を図解し、グループディスカッション、プレゼンテーション。		
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正。		
詳細	割り当てられた経済記事を図解で理解し表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。発表者に図解について講評を行う。		
第5講			
概要	図解文章法 図解を用いた修士論文の書き方講座。		
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などのFacebookへの書き込み。制作した図解の修正。		
詳細	図解で論文全体の構想と関係を把握する。 完成した図解を見ながら文章化する作業を体験する。		
第6講			

概要	文化 日本文化に関する資料を題材に図解に取り組み、プレゼンテーション。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などの Facebook への書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた日本文化に関する記事を題材に図解で表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。発表者に図解について講評を行う。
第 7 講	
概要	選挙公約 参院選に際し、政党の綱領・公約を図解し、プレゼンと議論。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などの Facebook への書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた参院選公約を題材に図解で表現する。 個人ワーク、グループプレゼン、ディスカッション。全体発表。発表者に図解について講評を行う。
第 8 講	
概要	「日本の論点」(文藝春秋)を題材に図解、プレゼン、議論。
事前、事後学習ポイント	事後学習：まとめ・気づき・感想などの Facebook への書き込み。制作した図解の修正。
詳細	割り当てられた小論文を理解しながら図解で表現する。 個人ワーク。グループワーク。全体発表。発表者に図解について講評を行う。
教科書 /Textbook	毎回資料を配付
指定図書 /Course Readings	「図で考える人は仕事ができる」(日本経済新聞出版社)
参考文献・参考 URL /Reference List	久恒啓一の著作 久恒啓一図解 Web : http://www.hisatune.net
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席率 30%/講義議論参画度 40%/最終レポート 30% 3 点の総合評価 インサイトコミュニケーション 2019 の Facebook において、評価のコメントを返す。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ (100~90 点)	授業内での議論への参画度が高く、図解作品とプレゼンも極めてレベルが高い。
評価： A (89~80 点)	授業内での議論への参画度が高く、図解作品とプレゼンもレベルが高い。
評価： B (79~70 点)	授業内での議論に積極的に参加している。
評価： C (69~60 点)	授業内での議論への参加ができている。
評価： F (59 点~)	出席不良。授業への取り組みが芳しくない。
留意点 /Additional Information	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 毎回実習を行うなかで力をつけていくので、毎回の出席が望ましい。 FaceBook に提出されたレポートについて、個人宛に返信しフィードバックを行う

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	日本の流通構造とサプライチェーン・マネジメントのメガトレンド		
サブタイトル/Sub Title	流通構造と組織小売業の形成過程を理解し、今後のメガトレンドを考える		
英文科目名/Course Title(Eng.)	The distribution structure and mega-trend of Supplychain management		
struchere 教員/Instructor	西田邦生	E-mail	k.nishida@kpost.kokubu.co.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ライフラインとも言える「流通」は様々な要件で成り立っています。歴史や制度の中で形成されるベーシックな構造に、その時々政治・経済や消費の動向、さらには物流やIT等の技術革新が複合して、流通構造が形成され変化します。それらの要件や変化の本質を理解するために、組織小売業や流通の基礎知識を学び、それらが形成された歴史や背景から今後の流通革新のあり方を考えます。そして広い視野でサプライチェーンや社会を捉える力の育成を目指します。			
到達目標/Course Goals			
① 組織小売業を中心とした流通の基礎知識の習得 ② 社会と消費者意識の変化、ならびに歴史的な流通構造の形成過程とその関連性を理解 ①、②をベースに③社会構造の変化とIT革新を見通し、今後のメガトレンドを広い視野で認識し対処するビジネス環境の洞察力と知的課題解決力の向上を目指します。			
授業形態/Form of Class	インタラクティブな講義が主体です。何回か受講生やゲストの発表とディスカッションの時間を設けます。	学外学習/Off-Campus Learning	物流センターの見学を予定
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		事前に配布する講義資料による予習と復習	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	1. オリエンテーション 2. ロジスティクスとサプライチェーン・マネジメントの概念		
事前、事後学習ポイント	配布資料の理解 特にマーガレットホルの理論と日本の流通構造の特異性の理解		
詳細	① 受講生・教員の紹介とオリエンテーション ②ロジスティクスおよびサプライチェーンマネジメントの概念と台頭プロセス ③日本の流通構造の特徴の考察とディスカッション		
第2講			
概要	組織小売業の運営の基礎知識 1		
事前、事後学習ポイント	本部主導による効率化とマーケティング手法の理解		
詳細	本部主導のチェーン・オペレーションに基づくインスタ・マーチャンダイジング（ISM）とその前提となるEOS発注・ロジスティクスならびにPOS管理の基本を解説		
第3講			
概要	組織小売業の運営の基礎知識 2 欧米の小売業の状況		
事前、事後学習ポイント	本部主導のマネジメントの限界と組織運営におけるイノベーションあり方の考察		
詳細	① 本部主導のマネジメントの問題点と対応策 ② 見えない消費者ニーズをとらえる組織の構築（ディスカッション） ③ 欧米と日本の流通の相違点について		
第4講			
概要	物流センターの視察		
事前、事後学習ポイント	事前に配布する視察対象企業の物流センター概要の一読		
詳細	物流センターのタイプの検証と、センター運営ならびにマテハン機器の実状を視察		
第5講			
概要	戦後の流通の変遷とサプライチェーンマネジメント		
事前、事後学習ポイント	流通のイノベーションとIT革新ならびに消費者意識の変化との関連性		
詳細	戦後の流通の変革を第1期から第3期の変革期に分けてその実態と背景を解説		
第6講			
概要	業態別小売業と現在の流通の課題		
事前、事後学習ポイント	業態別小売業の実態と消費者意識の変化を通し、現在の社会と組織が抱える課題を理解		
詳細	人口減少とイーコマース（EC）化が進む現在の流通における小売業の課題を製造・卸・小		

	売・ECを交えて巨視的に分析して問題点を提示、ディスカッションで小売業の課題とともに日本の生活者の実像と将来について考える。
第7講	
概要	イーコマース (EC)の出現によるWeb流通とラストワンマイルの実態と課題
事前、事後学習ポイント	ネットビジネスの本質と「消費者に選択される企業価値」創造の必要性の理解
詳細	① Web流通の現状と課題をEC事業者と宅配事業者の側面から把握 ②ビッグデーター取扱い企業のゲストを招きデーター活用の具体例と可能性の解説、受講生との意見交換
第8講	
概要	日本の流通の歴史と2020年以降のメガトレンド
事前、事後学習ポイント	第7講の内容をよく理解して授業に臨む
詳細	① 江戸以降の流通の歴史と日本型流通構造について ② IoT、5Gが流通に及ぼす劇的な変化と対応の要点
教科書 /Textbook	なし。講義の3日前に受講生宛てにメールで資料を配布。
指定図書 /Course Readings	「ロジスティクス・イノベーション」 高橋輝夫+ネオ・ロジスティクス共同研究会 白桃書房 第8章卸の経営と日本型サプライチェーン・マネジメントへの道(西田邦生担当) 「第四の消費」三浦展 朝日出版
参考文献・参考URL /Reference List	「卸売業のロジスティクス戦略」監修 田島義博 同友館 講談社日本の歴史19「文明としての江戸システム」 鬼頭宏 講談社 「宅配がなくなる日」 松岡真宏ほか著 日本経済新聞出版社 「フレイゼ博士のサプライチェーン戦略」 E・H・フレイゼ著 ダイアモンド社
評価方法/Method of Evaluation	
配分(合計100%)	出席(30%) 授業での討議・発表(40%) レポート内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90点)	到達目標①~③をしっかりと修得し、別ルートからも論議でき、レポートが優れている。
評価: A(89~80点)	到達目標①~③を理解し、授業の討論に参加し、レポートが満足できる水準にある。
評価: B(79~70点)	到達目標の①、②を理解し、討議、レポートの内容が一定の水準にある。
評価: C(69~60点)	到達目標の②を理解、①についてもほぼ理解し、レポートの内容が可。
評価: F(59点~)	出席不良で、到達目標の理解、授業の議論参加及びレポートの内容が不十分。
留意点 /Additional Information	レポートは、11月に課題し、12月末を締切りとしますが、私の小論文と参考文献(参考文献のうち何れか1冊)を参考に作成して頂きます。(ご希望であれば必要図書は貸与します。)翌年1月の最終講義の前までに、レポートの評点と講評をメールでフィードバックしますが、補足等の必要がある場合は最終講義の前後で直接フィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	最新ロジスティクス戦略		
サブタイトル/Sub Title	アマゾン、ザラ、ニトリなどの物流戦略を研究する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Super Logistics Strategies		
教員/Instructor	角井亮一	E-mail	rio@e-logit.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
戦略物流（ロジスティクス）をベースに、成長ビジネスモデルを構築させている事例を学び、理解、研究し、『イノベーターシップ』を養成する。			
到達目標/Course Goals			
DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」を、多くの最新事例から学び、高めてもらうと同時に、日々の生活の中で物流を意識してもらい、物流視点での『問題解決』（DP2:「知的課題解決力」）ができるようになってもらうのが最終目的。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、事前課題、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	ネット通販での購入体験や生活の中で発見した物流工程の情報整理、指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	戦略物流の基本を学ぶ①（物流思考）		
事前、事後学習ポイント	指定書籍の熟読		
詳細	物流思考と戦略物流思考の2つの考え方の中の1つ、「物流思考」を理解する。また、日常の中でどんな物流が存在しているのかに気づけるようにする。発表重視のディスカッションを実施。 宿題①：ネット通販で書籍を買う体験（2社以上）の比較・発表する（1回のみ） 宿題②：日常生活で気づいた物流工程を情報整理し、それを発表する（毎回）		
第2講			
概要	ファーストフードなどから学ぶ物流効率化		
事前、事後学習ポイント	日常で、どこでどんな物流があるのかを観察。指定書籍の熟読		
詳細	ファーストフードのお店での、物流を発見・解説。店内オペレーション、食材調達などを物流視点で考える。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第3講			
概要	戦略物流の基本を学ぶ②（戦略物流思考） 物流が、どう商品の売上アップに繋がるか？ どう企業力アップにつながるか？		
事前、事後学習ポイント	前回のファーストフードでの物流のヒントから、日常で店舗観測。指定書籍の熟読		
詳細	「戦略物流思考」を理解する。アマゾンやアリババが、なぜ物流を重視するのか、企業がどう物流で成長するのかを事例から理解する。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第4講			
概要	消費者行動の変化、流通の変化、ロジスティクスの変化 「流通が物流を変える」		
事前、事後学習ポイント	物流で成長している会社を、文献（インターネット、雑誌、書籍など）で研究。 指定書籍の熟読		
詳細	個人商店→総合スーパー・百貨店→専門店（カテゴリーキラー）→ネット通販→オムニチャネルという、流通の進化における、物流の進化を学ぶ。なぜ進化することになったかの背景を学ぶ。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第5講			
概要	国内ネット通販企業の物流競争 Amazon 対楽天、Yahoo!&アスクル		
事前、事後学習ポイント	買い物で訪問した店舗の物流を詳しく観察。写真でも報告と提出。指定書籍の熟読		
詳細	国内のネット通販の競争を物流視点で整理し、「なぜ物流に強い会社が、ネット通販でも強いのか」を理論的に理解する。発言重視のディスカッションを実施。		

	宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 6 講	
概要	ラストワンマイルが勝負の宅配ビジネスとロジスティクス セブン&アイグループのオムニ7、カクヤス、宅弁ビジネス、ネットスーパー、UberEATS
事前、事後学習ポイント	ネット通販での購入体験を、比較。物流の違いを理解する。指定書籍の熟読
詳細	なんとなく理解している宅配ビジネスを、整理建てて理解する。また競争ポイントの理解を深める。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 7 講	
概要	米国オムニチャネル事例と最新物流ビジネス事例の紹介 米国流通事例、ネット&リアルとの競争、アマゾンの対抗戦略、UBER、Instacart、Curbside、Google Express
事前、事後学習ポイント	宅配を体験。授業中に宅配を注文して、実体験する。指定書籍の熟読
詳細	オムニチャネルはサプライチェーンだという本質を理解する。新しく生まれている物流ビジネスを知ってもらう。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
第 8 講	
概要	成長企業のサプライチェーンを学ぶ 事例研究「ザラ、ニトリ、アイリスオーヤマ」
事前、事後学習ポイント	世界展開する3社を事前にインターネット、雑誌、書籍などで研究。指定書籍の熟読
詳細	ザラ、ニトリ、アイリスオーヤマなどの物流戦略を学び、成長する企業の物流戦略の共通項を討論する。発言重視のディスカッションを実施。 宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表
教科書 /Textbook	特になし。テキストは、GoogleDrive より後日ダウンロード
指定図書 /Course Readings	「すごい物流戦略」(PHP 新書)
参考文献・参考 URL /Reference List	「アマゾンと物流大戦争」(NHK 出版)、「オムニチャネル戦略」(日本経済新聞社)、 「図解 基本からよくわかる物流のしくみ」(日本実業出版社)、「物流がわかる」(日本経済新聞社) <中国語> 「物流致勝」角井亮一/商業周刊台湾正版 「精益制造 014:物流管理」(日)角井亮一著作 「新零售全渠道战略」(日)角井亮一著 <英語> Amazon: A Comparative Analysis of U.S. and Japan Logistics / Complete Edition Strategic Logistics in Japan: Complete Edition: A Comparative Report on U.S. Businesses Omni-Channel Strategies in U.S. and Japan
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席率 30%/講義議論参加度 30%/発言と発表の内容 40%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A+ (100~90 点)	7 回以上以上の出席。毎回発言。毎回の宿題に創意工夫。発表内容が深く調査され、受講生に伝わるプレゼン(話と資料)ができています。
評価: A (89~80 点)	5 回以上の出席。毎回発言。毎回の宿題に創意工夫。発表内容が深く調査されている。
評価: B (79~70 点)	6 回以上の出席(2 回までの欠席)。毎回発言。毎回宿題の事前提出
評価: C (69~60 点)	3 回以上の欠席(5 回以下の出席)、または、発言が毎回でない。
評価: F (59 点~)	4 回以上の欠席(4 回以下の出席)、または、発言が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	経営視点からのコンタクトセンターの活用		
サブタイトル/Sub Title	顧客接点としてのコンタクトセンターを起点とする企業変革		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Innovation through Contact Center Transformation		
教員/Instructor	宮崎 義文	E-mail	miyay@ep-next.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
コンタクトセンターの顧客接点は、企業にとってお客様とのビジネスの最前線である。デジタルシフトが進む中、コンタクトセンターは、お客様に直接コンタクトできる希少な顧客接点であり、顧客戦略上の重要拠点として企業変革の起点ともなりうる。コンタクトセンターの経営活用について理解することは、これから経営を担う人材にとって必須知識である。本講義では、時代の文脈の中でコンタクトセンターを捉えた上で、その基礎を学び、事例研究を通じてコンタクトセンターの企業経営への活用方法を実践的に習得する。他方、コンタクトセンターは、我が国が直面している労働人口の減少や急速に進む人工知能(AI)等の高度テクノロジーの影響をいち早く受けており、本講義では人工知能と人のそれぞれが得意とする領域を理解した上で、人工知能の活用についても学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
企業の経営やマネジメントに関わる人材に必要な顧客接点に関する実践知を獲得し、演習により顧客接点としてのコンタクトセンターを企業経営に活かす知的解決能力を獲得することを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向コミュニケーション	学外学習 /Off-Campus Learning	先進企業の見学
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義に先だって調査した内容や検討した内容のレポート作成、講義で学んだ手法を使った分析結果や講義後に考察した内容のレポート作成し提出	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	サービスとしてのコンタクトセンター基礎		
事前、事後学習ポイント	コンタクトセンターの経営活用の先進事例の文献を読み解き、コンタクトセンターをどのように経営活用しているかを発見学習し、レポートする。		
詳細	ビジネス環境が大きく変化する中、時代の文脈でコンタクトセンターを捉え、経営視点からコンタクトセンターの基礎を学ぶ。コンタクトセンターは、企業が提供する代表的なサービスであることから、サービス・サイエンスに基づいて、コンタクトセンターにおける顧客満足、サービス品質、顧客ロイヤルティ、さらにサービス価値について学ぶ。		
第2講			
概要	コンタクトセンターのサービス分析と経営貢献の見える化		
事前、事後学習ポイント	今後の演習の対象とする企業を設定し、そのコンタクトセンターについて経営の視点から投資目的と役割・実現手段を分析し、レポートする。		
詳細	コンタクトセンターのサービス分析の手法を学習する。サービス分析に必要なサービスプロセスの分解、お客様満足度に大きく関与するお客様の事前期待の分類、事前期待によるお客様のセグメンテーション、サービスのコスト構造について学習する。また、経営の投資目的とコンタクトセンターの役割、KPI ツリーによる経営貢献の見える化について学ぶ。		
第3講			
概要	先進企業の事例研究(外部講師講演)とモデル化によるデザイン手法		
事前、事後学習ポイント	コンタクトセンターの分析手法を利用して、演習対象のコンタクトセンターのサービスプロセスの分解、お客様の事前期待によるセグメンテーション、コンタクトセンターのサービスの価値についてレポートする。		
詳細	コンタクトセンターを中心とした企業改革の実例から改革に不可欠な要素について発見学習する。実務者の講話を聞いて、双方向のディスカッションを通じて考える形をとる。 (2018年度は東京海上日動コミュニケーションズ 上席執行役員 田口様よりご講演) コンタクトセンターの現状価値を分析し、現行の活用モデルに対して新たな価値を創り出す活用モデルをデザインする手法を学ぶ。		
第4講			
概要	コンタクトセンターの経営への活用モデル（1）		
事前、事後学習ポイント	演習対象のコンタクトセンターの現状の価値を分析し、現行の活用モデルを作成する。		
詳細	コンタクトセンターの活用方法、コンタクトセンターの評価方法を実践知として習得する。経験価値提供型Ⅰ（お客様の負担を徹底的に低減しロイヤルティを獲得するモデル）、経験価値提供型Ⅱ（お客様の心に響くサービス提供により高付加価値化と差別化を図るモデル）、マーケティング型（顧客の声：VOCの活用し、お客様のニーズ把握や製品・サービスの改善		

	に役立てるモデル)の3つの活用モデルについて事例を交えて学習、実践知として習得する。
第5講	
概要	コンタクトセンターの経営への活用モデル(2)&先進企業見学
事前、事後学習ポイント	演習対象のコンタクトセンターの現行活用モデルに対して、学習したコンタクトセンター活用方法の適用可能性について検討し、レポートする。
詳細	セールス領域での活用モデルとして、セールス支援型(チャネル特性に合せたチャネル最適化を図る活用モデル)、ダイレクトセールス型(顧客の事前期待によるセグメンテーションに合わせたプロセス最適化を図る活用モデル)の2つの活用モデルとプロセスマネジメント型(コンタクトセンターによる情報の集中化と複数プロセスの集中コントロールとによりプロセス全体最適化を図る活用モデル)について、事例を交えて、企業経営への活用方法、評価方法について実践知として習得する。 【先進コンタクトセンターの見学(参加希望者対象)】 2018年度(実績) ・WOWOW コミュニケーションズ様 ・ファンケル様 ・富士通コミュニケーションズ様
第6講	
概要	人材育成への活用と人工知能の活用
事前、事後学習ポイント	演習対象のコンタクトセンターの現行活用モデルに対して、「人材育成への活用」と「人工知能の活用」の適用可能性について検討し、レポートする。
詳細	コンタクトセンターを顧客対応の経験の場と捉え、お客様志向の人材育成を加速させるモデルについて、事例を交えて学ぶ。現在、人工知能と呼ばれているものを分類し、人が得意とする領域と人工知能が得意とする領域を理解し、事例を交えてコンタクトセンターへの人工知能の活用効果と留意点を学ぶ。これまで学習してきたコンタクトセンターモデルへの人工知能の活用を議論し、人工知能を用いたイノベーションの可能性について展望する。
第7講	
概要	演習Ⅰ：経営課題とコンタクトセンターの活用
事前、事後学習ポイント	演習対象の企業(自社)の経営課題は何かを中期計画や各種分析から把握する。経営課題に対して、現行のコンタクトセンター活用モデルの価値をどう高めるべきかを考え、そのために解決すべき課題を抽出する。(自社にコンタクトセンターがない場合には、先進事例の研究を実施)
詳細	演習対象の企業(自社)の経営課題及び、現行のコンタクトセンター活用モデルの価値を高めるための課題解決に向け、コンタクトセンターのあるべき活用モデルを策定、あるべき活用モデルへの変革に向けた施策、変革計画を策定する。これらを第8講でプレゼンテーションする。
第8講	
概要	演習Ⅱ：コンタクトセンターを活かした改革
事前、事後学習ポイント	第7講で策定した改革計画をプレゼンテーションし、フィードバックを受ける。
詳細	自社の経営課題に対してコンタクトセンターを活かした改革施策を策定し、実現に結び付けていく改革計画をプレゼンテーションする。プレゼンテーションのフィードバックやグループディスカッションを通じて改革計画をブラッシュアップし、最終レポートとして提出する。
教科書/Textbook	適宜資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	情報処理学会 デジタルプラクティス論文誌 コンタクトセンター特集号 2011年7月号「進化を続けるコンタクトセンター」、2014年1月号「経営に貢献するコンタクトセンター」、2018年4月号「価値を創造するコンタクトセンター」
参考文献・参考URL /Reference List	「顧客はサービスを買っている」諏訪良武著、ダイヤモンド社、「サービスの価値を高めて豊かになる」諏訪良武著、リックテレコム社
評価方法/Method of Evaluation	
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容とレポート(35%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ (100~90点)	コンタクトセンターを経営に活用して優れた成果を出し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が特に優れており、到達目標に十分達している。
評価：A(89~80点)	コンタクトセンターを経営に活用して成果を出し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が優れており、到達目標に達している。
評価：B(79~70点)	授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が良く、到達目標に達している。
評価：C(69~60点)	授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が普通で、到達目標にほぼ達している。
評価：F(59点~)	出席不良で、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が不十分で、目標に達せず。
留意点/Additional Information	特になし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	BtoB マーケティング		
サブタイトル/Sub Title	価値を起点に、マーケティングの力で新しい時代の BtoB 事業を育む		
英 文 科 目 名 /Course Title(Eng.)	BtoB marketing		
教員/Instructor	徳永 朗	E-mail	tokunaga-a@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
事業の本質・特性を踏まえた、BtoB 固有のマーケティングやブランディングの考え方、およびその実践の勘所を学ぶ。そしてそれを踏まえ、社会との関係性の考慮やデジタル技術の活用などビジネス環境の変化への即応について、理解を深める。事例と理論を織り交ぜたこれらの学びを通して、受講者が自らの職務・関心に即して考えを巡らせ、課題設定と解決施策の立案に取り組む能力を習得することを目指す。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシー「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」を達成するために、マーケティング実務に関わる情報収集能力と分析能力に加えて、「DP1：知識と理解（最新ビジネス環境の洞察力）」を武装することで、受講者が自ら問を立てて本質的な解決策を導くナレッジやスキルとしての「実践知」を習得することを目指す。そのためにまず、顧客起点と価値発想の基本姿勢を銘記することを求める。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各回の講義内容に関し、自分事として気づきや学びを整理するミニレポートを課す。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	オリエンテーション、BtoB ビジネスにおけるマーケティング		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成		
詳細	①受講者の学び・業務・関心の確認、②講義の全体設計、③BtoB ビジネスの特性と課題、④BtoB マーケティングの課題と対応を考えるフレームワーク		
第 2 講			
概要	顧客理解にもとづくマーケティング		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成		
詳細	①マーケティングの起点となる顧客理解のアプローチ、②BtoB における市場セグメンテーションとターゲット戦略、 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着		
第 3 講			
概要	顧客との関係性強化		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成		
詳細	①顧客との関係性強化のアプローチ、②カスタマーデライトに関わる議論、 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着		
第 4 講			
概要	BtoB ビジネスにおけるブランディング		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成		
詳細	①ブランドの考え方と意義、②BtoB 固有のブランディングの概論、 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着		
第 5 講			
概要	BtoB ビジネスのマーケティング・コミュニケーション		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成		
詳細	①BtoB 固有のブランディングの詳細アプローチ、②コミュニケーションの役割とメッセ		

	ージ開発 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着
第 6 講	
概要	BtoB ビジネスと社会
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成
詳細	①ブランディングやコミュニケーションの基盤となる社会との関係性、②CSV 経営とは、 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着
第 7 講	
概要	デジタル事業変革が促すこれからの BtoB マーケティング
事前、事後学習ポイント	次回への宿題：今回の講義内容を自分事として考察するミニレポート作成
詳細	①企業のデジタル事業変革やサービス化の捉え方、②マーケティングへの示唆 ○ミニレポートの共有・発表・フィードバックを通した、前回講義内容の定着
第 8 講	
概要	まとめ、最終レポートに向けた討議
事前、事後学習ポイント	事後学習：最終レポートの作成
詳細	①全体のまとめ、②各自の学びの共有を兼ねた最終レポート中間報告
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	余田拓郎（2011）『B t o B マーケティング』東洋経済新報社 余田拓郎、首藤明敏（2013）『実践 B t o B マーケティング』東洋経済新報社 余田拓郎、首藤明敏（2006）『B t o B ブランディング』日本経済新聞社
参考文献・参考 URL /Reference List	高嶋克義（1998）『生産財の取引戦略』千倉書房 今村英明（2005）『法人営業「力」を鍛える』東洋経済新報社 南知恵子、西岡健一（2014）『サービス・イノベーション』有斐閣 余田拓郎（2016）『BtoB 事業のための成分ブランディング』中央経済社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(20%)、授業での討議・発表(30%)、最終レポート内容(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解に加えて、学んだフレームワークやアプローチを活かした自身の課題設定や解決策策定について、十分な議論ができる。
評価： A（89～80 点）	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解に加えて、学んだフレームワークやアプローチを活かした自身の課題設定や解決策策定について、一定水準の議論ができる。
評価： B（79～70 点）	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解は一定水準に達するが、自身の課題意識に即した考察が不十分。
評価： C（69～60 点）	出席やクラス討議への参画は一定水準に達するが、授業内容の理解が不十分。
評価： F（59 点～）	出席やクラス討議への参画が一定水準に足らず、授業内容の理解も不十分。
留意点 /Additional Information	マーケティングに関わる基本的な知識は有することが望ましい。 学びを BtoB の実務で活かすタスクもしくは意欲をもつことを期待する。 なお、昨今「BtoB マーケティング」との簡略的な呼称が一般化しているデータマーケティングの手法や、デジタル化に対応する仕組みの構築を主に扱うものではない。より広い視点で、マーケティング戦略、マネジリアルマーケティングの視点を研ぎ澄ますための講義である。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	サービスイノベーション		
サブタイトル/Sub Title	サービスサイエンスでサービスビジネスをイノベーションする		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Service innovation		
教員/Instructor	諏訪 良武	E-mail	suwa@waku-con.com
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
日本のGDP（国民総生産）の75%は、サービス業である。残りの大半を占める製造業もサービス化に取り組んでいる。ところが、サービスは属人的な経験や勘に頼ることが多く、現状を系統立てて分析し、対策してこなかった。また、これまで多くの企業は「顧客満足の向上」に努力してきたが、これだけではサステナブルな事業にならないことに気が付いてきた。そこで、近年、サービスに科学的アプローチを適用し、科学的、工学的な評価や分析を行う「サービスサイエンス」が注目されている。本講義では、サービスサイエンスの基礎を学んだ上で実践事例を分析し、自社のサービスイノベーションプランを作成していく。			
到達目標/Course Goals			
DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」を発揮して自社の顧客を分析し、DP2:「知的課題解決力」で顧客の事前期待を明確化し、サービスの価値を高めるイノベーションプランを具体化する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向コミュニケーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の復習と宿題の履行と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	サービスサイエンスの基礎-1		
事前、事後学習ポイント	サービス分類の科学的意味、サービス品質の定義、「サービス」の用語の定義、サービスプロセスモデル		
詳細	サービスを分類する。サービスを分解する（サービスプロセス、サービス品質、事前期待）。サービスをモデル化する（サービスの用語の定義、サービスプロセスモデル）。講義内容の不明点や疑問点を質問し、グループでディスカッションする。		
第2講			
概要	サービスサイエンスの基礎-2		
事前、事後学習ポイント	論理的満足と感情的満足の差異、事前期待のマネジメント、6つのサービスの価値		
詳細	顧客満足の本質を理解する。事前期待のマネジメントの事例を学ぶ。サービスの価値の本質を学び、価値の高め方を理解する。ビジネスモデルを学び、サービスイノベーションの事例を分析する。講義内容の不明点や疑問点を質問し、グループでディスカッションする。		
第3講			
概要	自社サービスのサービス品質を定義する		
事前、事後学習ポイント	正確性、迅速性、柔軟性、共感性、安心感、好印象、印象サービス品質		
詳細	自社のサービスの正確性、迅速性、柔軟性、共感性、安心感、好印象を表すキーワードを抽出し、整理する。作成したサービス品質のキーワードをプレゼンテーションする。宿題：サービス品質のキーワードを自社に持ち帰り、同僚に説明し議論してサービス品質の定義の完成度を高める。第4講時にプレゼンテーションする。		
第4講			
概要	自社の顧客の事前期待を定義する		
事前、事後学習ポイント	共通的な事前期待、個別的な事前期待、状況で変化する事前期待、潜在的な事前期待		
詳細	自社の顧客の共通的な事前期待、個別的な事前期待、状況で変化する事前期待、潜在的な事前期待を表すキーワードを抽出し、整理する。作成した事前期待をプレゼンテーションする。宿題：事前期待の定義を自社に持ち帰り、同僚に説明し議論して定義の完成度を高める。第5講時にプレゼンテーションする。		
第5講			
概要	自社の顧客を事前期待でセグメンテーションする		
事前、事後学習ポイント	事前期待の分類軸、顧客セグメンテーション		

詳細	大半の企業は、自社の顧客を正しく定義できていないため、顧客中心のサービスが提供できていない。正しい顧客像を把握するために顧客を分類する。このために事前期待の分類軸を定義する。厳選した3本の分類軸を使って、顧客をセグメンテーションする。宿題：顧客セグメンテーションを自社に持ち帰り、同僚に説明し議論して顧客セグメンテーションの完成度を高める。第6講時にプレゼンテーションする。
第6講	
概要	自社のサービスプロセスを定義する
事前、事後学習ポイント	サービス提供者プロセス、顧客プロセス、「待ち」の対応、リピーターの養成
詳細	サービスプロセスモデルのワークシートを使って、自社のサービスプロセスを定義する。サービス提供者プロセスだけでなく、顧客プロセスも定義する。それぞれのプロセスで重視すべきサービス品質や事前期待を定義する。宿題：サービスプロセスモデルを自社に持ち帰り、同僚に説明し議論して完成度を高める。第7講時にプレゼンテーションする。
第7講	
概要	サービスの価値を高める
事前、事後学習ポイント	サービスの価値を高める6つの方法
詳細	サービスの成果による価値、サービスプロセスを磨くことによる価値、共通的な事前期待に応えることによる価値、個別的な事前期待に応えることによる価値、顧客のリテラシーを高めることによる価値、サービス提供者自身がリテラシーを高めることによる価値の6つを理解し、自社のサービスの価値を高める具体的な方策を創造する。宿題：サービスの価値の高め方を自社に持ち帰り、同僚に説明し議論して完成度を高める。第8講時にプレゼンテーションする。
第8講	
概要	ビジネスモデルとイノベーションを学ぶ
事前、事後学習ポイント	ビジネスモデルの種類、ビジネスモデルキャンバス、イノベーションドライバー
詳細	サービスビジネスで収益を高めるためには、ビジネスモデルの創造が必須であり、サービスに従事するリーダーやマネージャーは、ビジネスモデル構築スキルを獲得しなければ、サービスビジネスで成果を上げることができないと自覚すべきである。仮に、サービスの価値を高め、優れたビジネスモデルを創り上げたとしても、そこで守りに入ると、すぐに競争相手に追いつかれ、抜き去られてしまう。このため、苦しくてもイノベーションし続ける必要がある。サービスビジネスを成功させる方法を学ぶ。
教科書 /Textbook	適宜資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「顧客はサービスを買っている」諏訪良武著、ダイヤモンド社、「サービスの価値を高めて豊かになる」諏訪良武著、リックテレコム社
参考文献・参考URL /Reference List	「サービスサイエンスによる顧客共創型ITビジネス」山本政樹、諏訪良武著、翔泳社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席(40%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ （100～90点）	サービスサイエンスを活用して実際の仕事で成果を出し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が優れている。
評価：A（89～80点）	サービスサイエンスを活用して仕事の価値ある改善案を作成し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が優れている。
評価：B（79～70点）	サービスサイエンスを活用して仕事の具体的な改善案を作成し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が良い。
評価：C（69～60点）	サービスサイエンスを活用して仕事の改善案を作成し、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が普通である。
評価：F（59点～）	出席不良で、授業内での議論参加やプレゼンテーション内容が不十分である。
留意点 /Additional Information	特になし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	プレミアム価値創造のブランド戦略		
サブタイトル/Sub Title	長期利益最大化のためのマーケティングアプローチ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Premium brand building strategy		
教員/Instructor	吉松 敏也	E-mail	yoshimatsu@mbforum.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
商品やサービスが成熟化し、また消費者がSNSなどにより自らがメディアとなっている現代では、従来のマーケティング手法が機能しなくなっている。米国を中心に発展してきた伝統的マーケティングと、欧州プレミアムブランドのマーケティングの考え方とアプローチを対比し、これからの時代に求められるマーケティングを考察する。また、デザインと、企業のビジョン（志）の持つ役割を整理し、消費者が憧れるプレミアムな価値づくりを学ぶことにより、受講者が自ら携わるブランドの価値向上のためのマーケティング戦略への活用を考える。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでのDP1：「最新ビジネス環境の洞察力」とDP2：「知的課題解決力」を達成するために、伝統的マーケティングとプレミアムブランドのマーケティングを理解し、自らが携わるブランド価値向上のための戦略に落とし込めることを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各講で学んだことを自らの業務に照らして整理すること		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	ブランド概論		
事前、事後学習ポイント	欧米マーケティングのフレームワーク、ブランドとプレミアム価値		
詳細	講師のアウトディ社でのマーケティング活動の体験を紹介し、マーケティングの諸活動とその役割を整理する。また、「プレミアム価値」とは何かを考え、各自にとっての「ブランド」の意識を、双方向の議論で確認する。		
第2講			
概要	米国流マーケティング1		
事前、事後学習ポイント	「4P」、「STP」		
詳細	「4P」、「STP」に代表される伝統的マーケティングのアプローチを、マーケティングの歴史や米国FMCGなどの具体例を通じて確認する。 宿題：自らが携わるブランドのマーケティングについて整理してくる。		
第3講			
概要	米国流マーケティング2		
事前、事後学習ポイント	差別化、マーケティングの課題		
詳細	第2講で出された宿題を各自発表する。消費者の意識や行動の変化、商品やサービスの成熟化という現代の消費環境と、差別化とその課題を理解し、自らが携わるブランドへの影響について双方向の議論で再認識する。		
第4講			
概要	ブランドとデザイン		
事前、事後学習ポイント	デザインの構造とモチーフ、志を表現するデザインとブランドの関係		
詳細	自動車のデザインを例にとり、欧州と日本のメーカーのデザインと、その背景にある考え方を対比する。グループディスカッションでデザインとブランドの関係について考えを深める。		
第5講			
概要	欧州ラグジュアリーブランド1		
事前、事後学習ポイント	伝統的マーケティングアプローチに対する「逆張りの法則」		
詳細	欧州のラグジュアリーブランドの歴史とマーケティングの考え方を学び、伝統的マーケティングと対比することにより、ブランドのプレミアム価値を双方向の議論で理解する。		

第6講	
概要	欧州ラグジュアリーブランド2
事前、事後学習ポイント	プレミアム価値のマネジメント
詳細	ブランドのプレミアム価値を維持向上させるための、コミュニケーション戦略、流通戦略のマネジメント手法について、実例を確認しながら、グループディスカッションで理解する。
第7講	
概要	ビジョン（志）とブランド
事前、事後学習ポイント	各社の企業理念検証、理念とブランドとの関係
詳細	内外主要企業の企業理念を比較し、自らの会社の理念を双方向で検証する。日本のブランドをケースとして選び、世界の消費者から憧れられるブランドにするための方策について、グループワークで議論する。
第8講	
概要	プレミアムブランド戦略まとめ
事前、事後学習ポイント	ブランドの力を引き出すために何をなすべきか
詳細	グループワークの結論をプレゼンテーションする。講義全体を振り返り、消費者が憧れるブランドの企業にとっての意味、そのためのビジョン（志）の役割とマーケティングアプローチについて再確認する。 レポート：自らが携わるブランドの価値を高めるために、やらなければならないこととは何か。なお、レポートについては後日フィードバックする。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	「The Luxury Strategy」 J. N. Kapferer, V. Bastien https://www.amazon.co.jp/Luxury-Strategy-Break-Marketing-Brands/dp/0749464917 「コトラーのマーケティング 3.0」 フィリップ・コトラー、ヘルマウン・カルタジャヤ https://www.amazon.co.jp/gp/product/4023308390/ref=as_li_ss_il?ie=UTF8&tag=toru0218-22&linkCode=as2&camp=247&creative=7399&creativeASIN=4023308390
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）、授業内での議論参加（40%）、レポート（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	プレミアムブランド戦略を理解し、自らの業務に応用することが期待できる。授業内での議論参加、レポート内容が極めて優れている
評価： A（89～80 点）	プレミアムブランド戦略をある程度理解し、授業内での議論参加、レポート内容が優れている
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、レポート内容がよい
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、レポート内容が普通
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、レポート内容が不十分
留意点 /Additional Information	この講義は、B to C ブランドが対象になる。（ただし、ここで学ぶことは B to B 企業にとっても援用できると考えられる。）

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	観光インバウンドマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	観光マーケティング論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Management for the inbound tourism		
教員/Instructor	中山 こそゑ	E-mail	nakayama-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
人口減少社会或いは成熟社会において、交流人口を増やすことが、今後の国の基幹産業となっていく。この背景を他先進国を一つのベンチマークとしながら、日本において何をやるのがマーケティングマネージメント上、優先事項なのかを授業を通し理解し、各受講生の出身母体でやるべきことを明確化する実践的な内容とする			
到達目標/Course Goals			
今後観光 MICE（meeting, incentive, convention, exhibition を総称する国交省が定めた略語）分野における District Management を担える人材の育成と当該分野におけるイノベーションを可能にする人材の育成。特にディプロマポリシー「DP 4：周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」を第一義の到達目標にするのは、本領域でのわが国で唯一足りない部分であるからである。また二次的には新たな産業のため「最新ビジネス環境の洞察力」を習得が前提となる。			
授業形態 /Form of Class	基本は事前課題をベースにした講義とグループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		準備は各テーマに関する自分の問題意識をまとめてくること。 授業後は毎回 A 4 1 枚にまとめたレポート提出	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	データで見る世界の inbound/outbound/MICE		
事前、事後学習ポイント	ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック、2025 大阪万博などで期待されている公表された情報は掴んでおくこと。		
詳細	概略の直近の数字を説明しますが、その数字の冷静に読む読み方を学んでいただく		
第 2 講			
概要	IR の各国のビジネス事情と周辺作業の育成		
事前、事後学習ポイント	授業開始時に日本での場所が決まっていればその地域の特性について情報を集めておく		
詳細	世界の IR がビジネスモデルとしてどのようなになっているのか、基本情報を与えつつ日本におけるプロス・コンスをディスカッションする		
第 3 講			
概要	観光の形の変遷		
事前、事後学習ポイント	今何を求められているか（外国人、日本人などのセグメンテーションで）考えておいてほしい		
詳細	日本のみならず、世界において観光に求められるニーズの変遷から、今後どのようなアンメットニーズがあるかを考える		
第 4 講			
概要	マーケティング理論に基づいたオポチュニティ		
事前、事後学習ポイント	Kindle の拙書「地方創生を成功させる 5 つの法則」を読んでおくこと		
詳細	マーケティング理論から見た足りない部分についてある都市を例にしながらグループ討議をしていく		
第 5 講			
概要	スポーツツーリズム、クルーズツーリズム、アートツーリズム、フィルムツーリズム		
事前、事後学習ポイント	ラグビーワールドカップ 2019 で作られているツーリズムを調べておくこと		
詳細	それぞれにおけるツーリズムの現状と課題について、若干の講義（情報提供）をもとにグループ討議をしながら、課題抽出を行う		
第 6 講			
概要	Industry 4.0, Society 5.0 から見るオポチュニティ		

事前、事後学習ポイント	上記ドイツや日本の基本計画を知っておくこと
詳細	キーワードの抽出をグループディスカッションで行いながら、日本の観光産業の未来を描く
第7講	
概要	観光を担う組織のあり方
事前、事後学習ポイント	現状の組織体がどんなものがあるか予習しておくこと
詳細	それらの組織の課題を明確にし、有りうべき姿 (to be) をグループごとに描き、short プレゼンテーションをする
第8講	
概要	Presentation
事前、事後学習ポイント	Presentation の準備
詳細	今までに学習してきたことを自分の身に置き換えて、何をすべきなのか、何を改革すべきなのか、優先順位は何なのかを明確に一人一人プレゼンテーションをする。5 minutes MAX
教科書 /Textbook	[地方創生を成功させるための5つの法則]KDP 観光白書
指定図書 /Course Readings	「新観光立国論」デビッド・アトキンソン著 「新観光立国論ものづくり国家を超えて」寺島実郎著
参考文献・参考 URL /Reference List	JNTO 各種統計、UIO 統計、観光白書
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席、ディスカッション、グループワーク、レポート、プレゼンテーション (10:25:20:20:25)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	課題を明確にし、その解決策を未熟ながらもデータを伴い提示でき、人との議論に耐えられること
評価: A (89~80 点)	課題を明確にし、その解決策を未熟ながらもデータを伴い提示できること
評価: B (79~70 点)	課題設定を明確にし、その解決策が臆けながらも提示できること
評価: C (69~60 点)	課題設定のみが明確であること
評価: F (59 点~)	課題の設定が曖昧であること、また論理的根拠が薄いこと
留意点 /Additional Information	ディスカッションを積極的にできるためにはどうすべきか、準備しておくこと。配点を多く取っております

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	商品ブランドマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	実践的ブランドマネジメント入門(概論)		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction to practical brand management		
教員/Instructor	佐野 扶美枝	E-mail	sano-f@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/顧客創造	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ネット販売が確立し、全ての商品、サービスの流通ルートが大きく変化している。同時に、お客様の情報入手源も多岐に渡り、価値観、商品選択基準も大きく変化し、マスブランディング、マスマーケティングの効果が低下している。そのような市場環境において、お客様に選ばれる強いブランドを創出するには、強い信念のもとブランドをマネジメントすることが必要である。「ブランド」とは何か、どうしてブランドが必要なのか、を実践的に理解し、ブランドマネジメントとは具体的に何をすればいいのかを理解する。ブランドマネジメントに必要なスキルを身に着け、自社の事業課題を解決するブランド構築ができる実践的なマネジメントを学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
ディプロポリシーでの「DP2：思考と判断力（知的問題解決力）」を身に着けブランド軸での事業戦略の構築ができるようになる。 企業活動にとって、どうして『ブランド』が必要か納得し、ブランドマネジメントに必要な実践的スキルを理解、習熟し、自身の業務課題について、ブランド価値向上の観点から戦略構築できるようになる			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義テーマについて、自社の状況を調べておく(メモ程度)		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	ブランドの必要性とブランド育成のためのマネジメントについて		
事前、事後学習ポイント	ブランド育成において、ブランドマネージャーの役割を理解する		
詳細	時間が必要なブランド育成とスピードが要求されるブランドマネジメントと相反する時間軸の中で、ブランドマネージャーの役割と備えるべき要件を理解する		
第2講			
概要	商品開発の基礎1		
事前、事後学習ポイント	具体的な商品開発過程を例に、ブランドマネージャーはいつどのタイミングで何をもって意思を決定し、開発を進めていくかを疑似体験する		
詳細	市場を把握するための情報、消費者調査の種類と手法、消費者調査の分析の仕方を学び、具体的な消費者調査から、新しい商品、サービスと提案する。 宿題：新規の商品、サービスの提案を行う企画書を作成する（グループワーク）		
第3講			
概要	商品開発の基礎2		
事前、事後学習ポイント	具体的な商品開発過程を例に、ブランドマネージャーはいつどのタイミングで何をもって意思を決定し、開発を進めていくかを疑似体験する		
詳細	宿題で作成した企画書をブラッシュアップさせるために、ターゲットの重要性、商品特徴とコンセプトの違い、パッケージデザインオリエンの必要要件、スケジュールの管理の仕方などを学び、関係者がわかりやすい企画書に仕上げる(グループワーク)		
第4講			
概要	宣伝広告戦略の基礎1		
事前、事後学習ポイント	第3講までで企画した商品(サービス)の宣伝広告活動を立案し、その過程でブランドマネージャーが果たすべき役割を疑似体験する		
詳細	各種メディアの特徴を理解し、3講までで企画した商品にふさわしいメディアを選択。宣伝広告内容を検討し、広告オリエン資料を制作する(グループワーク)		
第5講			
概要	宣伝広告戦略の基礎2		

事前、事後学習ポイント	5講の講義前に広告オリエン資料を完成しておく。
詳細	作成された広告オリエン資料を基に、広告オリエンに必要な要件、制作され宣伝広告の課題を発見する手法などを学ぶ。同時に広告代理店等の社外クリエイティブスタッフとの関係構築について学ぶ。(グループワーク/プレゼン)
第6講	
概要	販売促進戦略の基礎
事前、事後学習ポイント	企画した商品、宣伝広告をもとに、販売戦略を立案しておく。
詳細	商品は企画段階から販売チャネル前提で検討していくが、実際にできた商品と宣伝広告を元に販売チャネルを検討し、販売戦略を構築。 営業担当者へのプレゼンテーション、売上試算の手法を学び、 先方が納得できる商談資料を作成。その過程において、ブランドマネージャーが果たす役割を疑似体験する
第7講	
概要	デジタル時代のマーケティング
事前、事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション：IT時代のマーケティングについて最新の事例を通し、デジタルマーケティングにおいて、必須の要件を理解する。
詳細	IT技術を活用したマーケティングの最新情報を予定
第8講	
概要	ブランド戦略構築
事前、事後学習ポイント	あらかじめ設定した新サービス、新商品の上市プレゼンを準備する
詳細	第1講から7講までを踏まえて、 あらかじめ設定した新サービス、新商品の上市をプレゼンテーションする。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(24%)、授業内での議論参加(36%)、プレゼンテーション内容(40%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90点）	新サービス、新商品の提案内容がブランドマネジメントの要件を満たしており、論理的である。
評価： A（89～80点）	新サービス、新商品の提案内容がブランドマネジメントの要件を満たしている
評価： B（79～70点）	ブランドマネジメントに必要な要件を理解している
評価： C（69～60点）	授業内での議論への参加が積極的である
評価： F（59点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	自社のブランドについての課題意識を持って出席してほしい

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ヒューマンリソース概論Ⅰ		
サブタイトル/Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Human resources strategy of knowledge-creating company Ⅰ		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか、経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。			
到達目標/Course Goals			
知識創造型企業への転換に向けて徹底した議論と自社の課題の分析を通じて、ディプロマポリシーでの「実践知」を身に付け、経営戦略を実行に移すための人事戦略を理解し、自社内の環境に落とし込む「志を全うする戦略性と突破力」を達成することを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	人事戦略の基礎 1		
事前、事後学習ポイント	人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワーク		
詳細	伝統的な人事管理や、雇用管理、人間関係管理、労使関係管理を学ぶ。また、人事部の役割、人事の在り方、課題を学ぶとともに、グループディスカッションで、人事の役割を再認識する。 宿題：自社の人事組織について調べ、パワーポイントでまとめてくること。 第8講までに全員が発表する。		
第2講			
概要	人事戦略の基礎 2		
事前、事後学習ポイント	経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係		
詳細	IBR model による戦略スタイルと人事戦略、戦略スタイルと人材マネジメント手法の学習。7S モデルによる人事機能の学習。知識創造のプロセス（SECI）の学習。 また、グループワークにより動機づけについて学習し、発表する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。		
第3講			
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 1		
事前、事後学習ポイント	評価制度:これまでの評価制度の概要（年功制と成果主義）と功罪。なぜ知が創造されなくなったのか？		
詳細	日本の人事制度（職能資格制度）の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション②。		
第4講			
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 2		
事前、事後学習ポイント	職能資格制度の課題と知識創造		
詳細	引き続き、日本の人事制度（職能資格制度）の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。 2回にわたる講義を踏まえ、知識創造の観点から見た日本の人事制度について、グループディスカッションをしよう。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。		
第5講			

概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 3
事前、事後学習ポイント	成果主義の課題と知識創造
詳細	成果主義のしくみを抑え、その功罪及び問題点、疑問点について解説する。 そのことを踏まえ、自分たちの現状に照らして、成果主義の問題点をグループディスカッションし、まとめ、発表する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第6講	
概要	知識創造企業のための切り口：人事機能を別の角度から見てみる 4
事前、事後学習ポイント	コンピテンシーの新たな潮流
詳細	コンピテンシーの概念を理解し、その功罪及び問題点について解説する。 また、コンピテンシーの新しい役割をもとに、新評価基準の構成を学んだ後、「自分の大事にするコンピテンシー」を作成し、発表、討議する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第7講	
概要	知識創造企業の人事部の実践事例検討
事前、事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション：知識創造を実践している企業の人事部長を招いて
詳細	知識創造を実践している企業の人事部長を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第8講	
概要	知識創造型人事部のまとめ
事前、事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか
詳細	第1講から7講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社
参考文献・参考URL /Reference List	「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社 「AI×ビッグデータ人事を変える」福原正大、徳岡晃一郎著、朝日新聞社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	人事戦略に関して、自らの企画が行える。
評価： A（89～80点）	人事戦略論を深く理解し、自社の制度への改善案が描ける
評価： B（79～70点）	人事戦略論の概要が理解でき、自社の制度の課題を指摘できる。
評価： C（69～60点）	人事戦略の概要が理解できている。
評価： F（59点～）	人事戦略の理解が不十分で、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	秋学期に開講するヒューマンリソース概論Ⅱを受講するには、ヒューマンリソース概論Ⅰの単位修得が必須となる。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ヒューマンリソース概論 II		
サブタイトル/Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Human resources strategy of knowledge-creating company II		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。ヒューマンリソース概論 I に続き、そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、新しい人事の役割を、MBB（Management by Belief）を中心に議論する。			
到達目標/Course Goals			
知識創造型企業への転換に向けて、経営戦略を実行に移すための最新の人事戦略である MBB を理解し、ディプロマポリシーにある「イノベーターシップ」を発揮でき、「志を全うする戦略性」を身に付け、自社内での人事改革を行えるだけの決意と「知の再武装」を目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	ポスト成果主義の MBB		
事前、事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営		
詳細	春学期開講のヒューマンリソース概論 I の振り返りを行い、春学期の学習内容を確認する。それを踏まえ、MBO 思考の問題をあげながら、新しい人事の型である MBB を学ぶ。 宿題：自社の人事評価制度の課題をパワーポイントでまとめてくること。 第 8 講までに全員が発表する。		
第 2 講			
概要	ポスト成果主義の MBB とシャドーワーク		
事前、事後学習ポイント	成果主義を超える人事		
詳細	第 1 講に続き、MBB について学ぶ。MBB を促進するシャドーワークを学習し、自身のシャドーワーク経験について語り合ったのち、社内で促進する方法をグループディスカッションする。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①。		
第 3 講			
概要	MBB（Management by Belief）概論 1		
事前、事後学習ポイント	「思い」のマネジメントー個人ー		
詳細	MBB が個人にもたらす価値ー仕事の喜び、自己表現ーについて解説し、ビジョンを持つことや未来を切り開く思考の重要性を理解する。 その後、講義を踏まえた内容をグループディスカッションにて共有し、まとめ、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②。		
第 4 講			
概要	MBB（Management by Belief）概論 2		
事前、事後学習ポイント	「思い」のマネジメントー経営ー		
詳細	MBB が経営にもたらす価値ー高い志、知の創造と共有ーについて解説し、「思い」をベースに動く MBB 経営の枠組みを理解する。 その後、講義を踏まえた内容を自社に落とし込み、グループディスカッションし、発表する。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション③。		

第5講	
概要	MBB を実践するためのガイド 1
事前、事後学習ポイント	セルフコーチング演習
詳細	「思いのピラミッド」を作る基礎となる、「思い」を持つための重要性について、著名なリーダーを題材に開設する。 その後、セルフコーチング演習を行い、グループワーク（グループコーチング）を行う。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第6講	
概要	MBB を実践するためのガイド 2
事前、事後学習ポイント	「思い」のピラミッド演習、「しみじみ感」を持たせる思い
詳細	「思い」の7段階レベルを学んだ後、思いのピラミッド（ビジョン、背景、ストーリー、壁・しがらみ、突破するポリシー・具体策）の構造を解説する。 その後、自身の「思いのピラミッド」を各自作成し、グループディスカッションにて確認する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第7講	
概要	MBB 実践企業の人事部の実践事例検討
事前、事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション：MBB を実践している企業の人事部長を招いて
詳細	MBB を実践している企業の人事部長を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第8講	
概要	知識創造型人事部のまとめ
事前、事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか
詳細	第1講から7講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「MBB：思いのマネジメント実践ハンドブック」徳岡晃一郎、舞田竜宣著、東洋経済新報社。「イノベーターシップ」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	MBB を十分理解し、MBB に基づく新たな人事制度の企画ができる。
評価： A（89～80点）	MBB を理解し、現状の人事制度を改善する案を作成できる。
評価： B（79～70点）	自分の思いを明確化するツールや伝えるコミュニケーションを活用できる。
評価： C（69～60点）	MBB の基礎を理解して、ツール類の使い方を理解している。
評価： F（59点～）	MBB を理解できておらず、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	ヒューマンリソース概論Ⅱを受講するには、ヒューマンリソース概論Ⅰの単位修得が必須となる。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期	
科目名/Course Title	インナーコミュニケーション			
サブタイトル/Sub Title	組織変革を進めるチェンジマネジメントコミュニケーション			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Internal communication strategy			
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事		単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course				
変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M&Aやリストラなどさまざまな変革を迫られているが、社員の意識がついてこないために失敗する例は枚挙に暇がない。社員を的確に動機づけ、変革へ向けて意識改革を行い、行動に駆り立てるか。その成否を握る社内コミュニケーションのあり方について事例を基に研究する。				
到達目標/Course Goals				
社内コミュニケーションのあり方を理解し、ディプロマポリシーにある「実践知」と「実践的教養」を身に付け、自社内の環境に落とし込んで「イノベーターシップ」を発揮してみなを巻き込む優れたリーダーとして実践できることを目標とする。				
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向		学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	社内コミュニケーションの基礎(1)			
事前、事後学習ポイント	社内コミュニケーションの目的、主な領域と課題			
詳細	社内コミュニケーションのあり方、目的を学ぶとともに、その必要性について解説する。 また、グループディスカッションで、社内コミュニケーションの役割を再認識する。 宿題：自社の社内コミュニケーションについて、第1講の講義内容を踏まえ、 パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。			
第2講				
概要	社内コミュニケーションの基礎(2)			
事前、事後学習ポイント	社内コミュニケーションのフレームワーク			
詳細	第1講に続き、社内コミュニケーションの様々な手法を学ぶとともに、その具体例について解説する。また、社内におけるコミュニケーションの重要性を学び、リーダーの役割についてグループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。			
第3講				
概要	社内コミュニケーションの基礎(3)			
事前、事後学習ポイント	コーポレートコミュニケーション戦略と社内コミュニケーション			
詳細	第1講、第2講に続き、社内コミュニケーションの実践事例を学ぶとともに、よくある問題点について解説する。また、社外コミュニケーション戦略を学び、現実の問題についてソリューションを考え、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション②。			
第4講				
概要	コミュニケーションスキル(1)			
事前、事後学習ポイント	モチベーションを高める場づくりのコミュニケーションスキル演習			
詳細	コミュニケーション力の3つの柱、「発信力」、「受信力」、「質問力」について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。			
第5講				
概要	コミュニケーションスキル(2)			
事前、事後学習ポイント	変革を推進するチェンジマネジメントコミュニケーション戦略			

詳細	思考の型（インプット→セルフコーチング→マイポリシー）について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第6講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(1)
事前、事後学習ポイント	コミュニティ開拓者
詳細	リーダーの役割とリーダーシップ・コミュニケーションについて学ぶ。コミュニティ構築者としてのリーダーの役割について学ぶ。個人ワーク後、グループディスカッションにて「自分の理解」を深める。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第7講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(2)
事前、事後学習ポイント	針路設定者
詳細	ナビゲーター（針路設定者）の役割と重要性について解説する。履修者数によっては、教員と院生によるセッション（双方向）を行い、講義内容の理解を深める。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第8講	
概要	リーダーシップコミュニケーション(3)
事前、事後学習ポイント	変革の仕掛け人
詳細	組織の活性化を促す変革の仕掛け人（批評者、扇動者、学習推進者、イノベーション・コーチ）について学ぶ。 それぞれの役割について、グループディスカッションをし、自社内に落とし込んで考えてみる。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「リーダーシップ・コミュニケーション」ロバート・メイ、アラン・エイカーソン、徳岡晃一郎訳、ダイヤモンド社 （初回講義で注文を受けます）
参考文献・参考 URL /Reference List	「ミドルの対話型勉強法」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社 「世界の知で創る」野中郁次郎、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社 「本気の集団を作るチームコーチングの技術」徳岡晃一郎著、ダイヤモンド社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A + (100～90 点)	社内コミュニケーション戦略、リーダーシップコミュニケーションのあり方を理解し、優れた実践ができる。
評価： A (89～80 点)	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションを理解し、社内での改善を企画できる。
評価： B (79～70 点)	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーション、を理解し、社内の問題を分析できる。
評価： C (69～60 点)	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションの基礎が理解できている。
評価： F (59 点～)	理解が不十分であり、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	カルチャーベースマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	知識創造の企業文化戦略		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Culture Management		
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
強欲、株主価値至上主義などが問われ、新たな資本主義のあり様が模索されるなか、これまでの論理分析主体の左脳経営の時代は終わりを告げ、真に豊かなイノベーションを求めて人のつながりや組織的知識創造が重要になってきている。そのカギは自律的行動を促す濃密な企業文化だ。一人ひとりが、共通善に向けたよりよい成長を志向する価値観を共有する企業文化がないところにより戦略は描けない。イノベーションの時代の企業文化の価値とマネジメント手法について考える。			
到達目標/Course Goals			
企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、ディプロマポリシーにある「実践的教養」として社員のエンゲージメントを高める手法を身に着け、「イノベーターシップ」を発揮して、「志を全うする突破力」を自社内で実践できることを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	企業文化とは何か		
事前、事後学習ポイント	企業文化と経営戦略		
詳細	企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。 また、グループディスカッションで、日本企業と米国企業の文化違いを再認識する。 宿題：指定した企業の企業文化と組織文化について調べ、パワーポイントでまとめること。第8講までに全員が発表する。		
第2講			
概要	企業文化のマネジメント1		
事前、事後学習ポイント	マネジメントスタイル診断		
詳細	第1講に続き、企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。 授業後半はマネジメントスタイル診断を行い、個人の特性と組織のカルチャーの関係について、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。		
第3講			
概要	スターバックスの企業文化戦略1（仮）		
事前、事後学習ポイント	スターバックスからのゲストとの共同セッション		
詳細	スターバックスの方を招いての講義。（1回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション②。		
第4講			
概要	スターバックスの企業文化戦略2（仮）		
事前、事後学習ポイント	スターバックスからのゲストとの共同セッション		
詳細	スターバックスの方を招いての講義。（2回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。		
第5講			

概要	マイクロソフトの企業文化戦略（仮）
事前、事後学習ポイント	マイクロソフトからのゲストとの共同セッション
詳細	マイクロソフトの方を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。
第6講	
概要	オムロンの企業文化戦略（仮）
事前、事後学習ポイント	オムロンからのゲストとの共同セッション
詳細	オムロンの方を招いての講義。（2回目） 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション（双方向）を行い、現場を理解する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。
第7講	
概要	企業文化のマネジメント2
事前、事後学習ポイント	社内風土
詳細	企業文化のマネジメントにおける社内のそれぞれのポジションの役割を学び、社内の風土と風土改革、チェンジマネジメントについて考察する。 また、人事戦略の位置づけについてグループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。
第8講	
概要	企業文化とグローバル化
事前、事後学習ポイント	日本の企業文化はどう変わるべきか
詳細	ソーシャルビジネスの流れについて学び、「思い」を語り、文化を創るリーダーとチーフカルチャーオフィサーの役割を考える。 イノベーターシップ・コンピテンシーを各自行い、結果についてグループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「スターバックス成功物語」ハワード・シュルツ著、大川修二他訳、日経BP社 「スターバックス再生物語」ハワード・シュルツ著、月沢李歌子、徳間書店 「ヒット・リフレッシュ」サティア・ナデラ、日経BP社
参考文献・参考URL /Reference List	「ボールド：突き抜ける力」ピーター・ディアマナディスほか著、土方奈美訳、日経BP社 「本田宗一郎」野中郁次郎著、PHP
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、自社の企業文化の効果的な改善施策をまとめられる。
評価： A（89～80点）	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、自社の課題について深く分析でき、改善の方向性を検討できる。
評価： B（79～70点）	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、他社のベストプラクティスを自分の言葉で説明できる。
評価： C（69～60点）	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について基本的な理解ができている。
評価： F（59点～）	企業文化とそのマネジメントに関して理解が不十分であり、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	ゲスト(仮)は2018年の実績であり、秋学期開始前に変更になる可能性があります。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ストレスマネジメントと精神回復力		
サブタイトル/Sub Title	心身医学・行動科学的観点からみたストレスマネジメントと意識改革		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Stress Management and Resilience		
教員/Instructor	水木さとみ	E-mail	smizuki@mhi-inc.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
心理・社会的ストレスは身体に影響を及ぼし、様々な症状を誘発することは医学的にも明らかになっている。仕事をしていく上で、予期せぬ出来事やハプニングに遭遇しながらも高い目的に向かって進まなくてはならない。逆境の中、自己のもつ能力を最大限に発揮する手段にストレスマネジメントがある。本講座は、心理学・行動科学、さらに心身医学を交え、ストレスマネジメントと精神回復力を養うノウハウを実践的に習得すると共に、組織力向上を目指し、部下のメンタルヘルスにも触れる。労働契約法第5条安全配慮義務に位置づける予見可能性では、部下の変化や不調をいかに速やかに感知できるかが問われ、リスクマネジメントの流れを変える。それは、部下を守り、自身を守り、そして会社を守ることを意味する。より良い組織づくりに向けて、是非、職場のストレスマネジメントに役立てていただきたい。			
到達目標/Course Goals			
ストレスが招く身体化に関する知識を身につけ、職場における様々なハードルに立ち向かうために、ディプロマポリシーでの実践知と知の再武装を達成するために、上記目的に資する問題解決に向けた手法を実践する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義から、自らをとり巻く環境や自社内の環境のなかでの課題を探り、問題解決に向けたとり組みを具体化する		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	心理・社会的ストレスが招く身体化のメカニズム ～思考と感情が身体に与える影響～		
事前、事後学習ポイント	身体化のメカニズムを理解した上で、ストレスマネジメントの意義を知る		
詳細	適度なストレスは良い刺激となり自己成長を促すが、過度なストレスは身体に影響を与え、疾患を招くことが知られている。ストレスマネジメントの意義を理解し、メンタルヘルスへの正しい認識と意識を高める。ストレスが招く身体化のメカニズムを知り、自らの体験や職場の社員の体験を振り返り、グループディスカッションを通して気づきを得る。		
第2講			
概要	心理学・行動科学的観点からみる他者理解 ～対人関係ストレスをミニマムにするには～		
事前、事後学習ポイント	他者を主観で判断するのはなく、科学的根拠に基づき、他者理解を深める手法を学ぶ		
詳細	対話なくして仕事は成立しない。しかし残念ながら、職場における対人関係に悩む社員は少なくない。厚生労働省が実施する健康調査によると、ストレス要因の上位には、毎回“職場の人間関係問題”が挙がる。本講座では、対人関係ストレスをミニマムにし、良好な対人関係を構築するために、心理学・行動科学に基づき他者理解を深める。ケースを交えグループディスカッション、ロールプレイングを通して新たなコミュニケーション術を習得する。 宿題：可能な限り、職場で生じた対人関係問題に触れ、心理パターンを分析、行動理由を探り、関係性の改善に向けたアプローチを考える。発表者を募り、第3講でケースを発表、事例検討を行う。		
第3講			
概要	逆境に立ち向かうストレスマネジメント ～自己効力感 レジリエンスを交えて～		
事前、事後学習ポイント	自己効力感・レジリエンスの意味を理解し、行動拡大・行動成長を目指す。		
詳細	第2講の課題：発表者による事例検討会。 古くから“病は気から”ということわざがある。今や医学的、科学的にもその根拠は実証されている。逆境の中、困難な状況にあっても克服する人、過酷な状況にも左右されず良い結果をもたらす人がいる。そうした心理状態と精神回復力に焦点を当てる。米国心理学会では、こうした力は、誰もが学習する可能性があり発展させることができるとした。理論、手法に合わせて、自身が大学病院にてストレス性疾患の患者に向けて実施した独自のリラクゼーション法を紹介する。自律神経系のバランスを整え、平常心を養う手段として、ストレスマネジメントの一環として導入されたい。		
第4講			
概要	組織強化と育成 ～ラポールとモチベーション、フロー心理を交えて～		
事前、事後学習ポイント	ロジャーズが提唱するカウンセリングの基本姿勢と行動特性を考慮したモチベーション		

詳細	部下の育成にあたって信頼関係なくしては語れない。相手の印象を決定づける情報とは、言葉よりもむしろ、言葉以外からなるノンバーバル・コミュニケーションが大きな割合を占めることが知られている。本講座では、心理学を交えた面談法と行動科学を交え行動特性を考慮したモチベーションを紹介する。ケースを挙げ、グループワークを通して発表。
第5講	
概要	マインドアップと行動変容 ～行動変容ステージからみる意識改革～
事前、事後学習ポイント	部下の心理を読み、行動変容ステージからみたアプローチを検討する
詳細	本講義では、部下の自己成長に向けた適切なアプローチを考える。部下は行動するべき意味を理解していないため実行しないのか、あるいは頭の中では理解しているものの、実行するに至らないのか。部下の行動理由、心理、抱える問題を理解し、行動変容ステージからアプローチ法を検討する。ケースを交えたグループディスカッション、問題解決へと導く(発表)。
第6講	
概要	現代社会におけるストレス性疾患 ～早期発見と適切なとり組み～
事前、事後学習ポイント	早期発見、部下の変化や不調を迅速に感知するための観察法および面談法を習得する
詳細	ストレス社会を背景に、企業では社員のストレスチェックやメンタルヘルス研修の実地など、様々な取り組みがなされている。安全配慮義務に示す予見可能性は、メンタルヘルスの流れを変える早期発見の重要な位置づけとなる。部下の些細な変化や不調を迅速に感知する観察法および面談法を紹介すると同時に、状態に合わせた適切な対応を学ぶ。ケースを交えグループディスカッションを通して検討し、発表する。
第7講	
概要	精神的な問題を抱える社員の対応法 ～社員を救うメンタルサポート～
事前、事後学習ポイント	情緒的支援の有効性を理解し、適切な判断と対応を学ぶ。
詳細	失業者を対象に、情緒的支援の有無と疾患率や死亡率に関して、研究者らが調査したところ、明らかに相関が認められたことが報告された。このことは、周囲の精神的なサポートは非常に有効であることを意味づけている。本講座では、事例を通して、支援が有効なケースと専門家にリファーしなくてはならないケースの見極め方を紹介し、適切な支援法について紹介する。職場の休職者や復職者の支援にも、是非、活用していただきたい。
第8講	
概要	本講座のフィードバックと新たなとり組み ～本講座を通して何を学んだか？ 今後の活かし方を考える～
事前、事後学習ポイント	学びをどのように活かしていくのか、自社に向けた新たな対策とは。
詳細	全講座を通して学んだこと、気づきを得たことなどをシェアし、各自が今後の活かし方を発表する 宿題：最終レポート
教科書/Textbook	無し 適宜、講義資料を配布する。
指定図書/Course Readings	無し
参考文献・参考 URL /Reference List	「不安・うつは必ず治る」山田和夫著 勉誠出版 「MBB：思いのマネジメント」一條和生 徳岡晃一郎 中野郁次郎著 東洋経済新報社日経BP 社ヒューマンキャピタル Online 水木さとみ 「ストレスマネジメントのすすめ」「やさしい心理学から学ぶストレスマネジメント実践法」
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席 / プレゼンテーション / ディスカッション / レポート 各 25%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+ (100～90 点)	心身両面からみるストレスマネジメントの意義を十分に理解し、問題解決力が養われている
評価：A (89～80 点)	とり巻く環境のなかで、問題意識をもち、解決に向けた具体的・実践的な対策が提案できる
評価：B (79～70 点)	ケースにおける分析と適切な判断ができる
評価：C (69～60 点)	ディスカッションでは積極的に意見を発信している
評価：F (59 点以下)	発表、ディスカッションには消極的で、ストレスマネジメントの意義を理解できていない
留意点/Additional Information	評価方法にあるレポートに関しては、メールでフィードバックを行う

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	実践組織変革		
サブタイトル/Sub Title	組織変革のリーダーシップと技術（知考具）		
英 文 科 目 名 /Course Title(Eng.)	Organizational Change		
教員/Instructor	浜田 正幸	E-mail	hamada-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ リーダーシップと人事	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
① 組織論・組織マネジメント・組織イノベーションに関する基本的な知識と理論・モデルを学修する。② 組織変革の事例研究によって、組織を分析する軸と多様性を知る。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーのDP2:「知的課題解決力」とDP4:「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」に基づき、いかなる組織についても、その現状を客観的に分析することができる（実践知考具）。また組織改革の方向性（ビジョン）を提示し、戦略的に改革することができる（イノベーターシップ）。			
授業形態 /Form of Class	講義、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		資料・参考書籍の精読・整理。プレゼンテーション資料作成	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	オリエンテーション。組織変革事例研究1。		
事前、事後学習ポイント	組織論、リーダーシップ論に関する代表的な文献を入手する。		
詳細	講義の進め方。事例研究の方法について説明		
第2講			
概要	事例研究		
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織変革トピックス1。組織変革事例研究2, 3。		
第3講			
概要	事例研究		
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織変革トピックス2。組織事例研究4, 5。		
第4講			
概要	事例研究		
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織変革トピックス3。組織事例研究6, 7。		
第5講			
概要	事例研究		
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織変革トピックス4。組織事例研究8, 9。		
第6講			
概要	事例研究		
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		

詳細	組織変革トピックス 5。組織事例研究 10, 11。
第 7 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。
詳細	組織変革トピックス 6。組織事例研究 12, 13。
第 8 講	
概要	事例研究
事前、事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。
詳細	組織変革トピックス 7。組織事例研究 14。全体のまとめ。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	ジェームズ・C・コリンズ他 (1995). ビジヨナリーカンパニー 日経 BP 出版センター ロバート・キーガン他 (2013). なぜ人と組織は変わらないのか 英治出版 ロバート・キーガン他 (2017). なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか 英治出版
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	組織変革の事例研究発表・課題提出 (50%) 平常点・議論への参加 (50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	事例研究発表・課題提出の内容が優れている、かつ議論への参加が積極的である。
評価: A (89~80 点)	事例研究発表・課題提出の内容が優れているが、議論への参加が少ない。
評価: B (79~70 点)	事例研究発表・課題提出の内容が薄い、議論へは参加している。
評価: C (69~60 点)	事例研究発表・課題提出があるが内容が薄い、議論への参加も少ない。
評価: F (59 点~)	事例研究発表・課題提出がない、あるいは議論への参加が少ない。
留意点 /Additional Information	事例研究について濃密なディスカッションを行うので、クラスディスカッションに積極的に参加することができ、知的なバトルに対する耐性を有していること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	実践ポジティブ心理学		
サブタイトル/Sub Title	個人・組織のウェルビーイング（幸せ感）を高める方法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Positive Psychology		
教員/Instructor	三田真美	E-mail	qhronicles@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/ リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
新しい心理学の分野であるポジティブ心理学について、その学際的な背景から様々な応用範囲までを概論します。健康な人の精神状態に焦点をあてるポジティブ心理学は、人間にとって本当の幸せとは何かを追求するものです。本講座を踏まえ、自身の成長促進ならびに組織の課題解決の手がかりとして、日頃から活用いただくことを目的としています。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの DP3:「現状を変革しようとする意志力」を獲得し、DP5:「よりよいイノベーションを起こす生き方」を実践するために、①理論を踏まえ、ポジティブ心理学の各種エクササイズ（ポジティブ介入）を習得しながら、何らかの自己変容を体感する、②各自が所属する組織、場の課題解決において、ポジティブ心理学の応用可能性を考え、具体的な介入計画を立て、さらなる実践につなげていただきます。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、双 方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義のまとめ、指定する文献の熟読。宿題ミニレポート（実践）の作成、プレゼン準備。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	ポジティブ心理学とは何か―「幸せの 5 条件」		
事前、事後学習ポイント	ポジティブ心理学の目的と位置付けを知る		
詳細	ポジティブ心理学の成り立ち、学問的位置づけから、その主たる考え方、用語について概説する。ポジティブ心理学の実践において重要な役割を果たすエクササイズをいくつか紹介し、簡単なエクササイズの実践を課題として課す。		
第 2 講			
概要	快・不快・ポジティブな感情・経験から人生の満足度を考える		
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の基礎的な考え方を把握し、エクササイズを実践してみる		
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。ピークエンド理論やフレドリクソン「拡張―形成理論」などポジティブな感情にまつわる主要理論や人生の満足度にまつわる重要尺度について学び、ポジティブ感情とウェルビーイングの関係について理解を深める。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。		
第 3 講			
概要	自分と組織の「強み」を意識する―キャラクターストレングス		
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、より内省的にポジティブ心理学を捉えつつ、エクササイズを実践してみる		
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。幸福感を高める上で重視される「強み（キャラクターストレングス）」について理解を深める。強みを測定する幾つかの手法について学び、自身の強みも測定する。強みを認識し、組織において個々人の強みの活かし方についても考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。		
第 4 講			
概要	レジリエンスとマインドセットストレスと成長、達成の深い関係		
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える		
詳細	1 ヶ月の振り返りから始める。ストレスマネジメントにおいても注目されるレジリエンス（再起する力）は、ポジティブ心理学においても多方面で研究され、様々な介入方法が開発されている。レジリエンスについて、互いの体験も共有しながら、ポジティブ介入によるレジリエンストレーニング、リーダーシップと「成長マイン		

	ドセット」について考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第5講	
概要	フローと意志力、意味—ポジティブは創造の始まり
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。没頭が深い高揚感につながることを説いた「フロー理論」を手掛かりに、創造性とポジティブ性の関係について各自の体験も共有しながら考える。フロー状態につなげるために求められる「意志」「意味」についても考える。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第6講	
概要	ポジティブな人間関係——「情けは人のためならず」を科学する
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。誰しも独りでは幸せにはなれない。ポジティブ心理学においてもとりわけ「対人関係（アザー・ピープルマター）」は重視される。よりよい人間関係について「積極的—建設的反応」などを例に考え、利他的な行為の効用に関する科学的なエビデンスについても触れる。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第7講	
概要	ポジティブな職場づくり——熱い組織、冷たい組織
事前、事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の組織への応用可能性について考える
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。1講から6講で得たポジティブ心理学の知見を踏まえ、幸せな職場について議論する。ポジティブな組織変革の事例紹介も交える予定。宿題：簡単なエクササイズの実践を課す。
第8講	
概要	幸せのために何を残すべきか？——ポジティブ心理学からポジティブ・コンピューティングへ
事前、事後学習ポイント	最終レポートをまとめる
詳細	ポジティブ心理学をゲームやセンシングにも応用する「ポジティブ・コンピューティング」の可能性について触れ、これからの AI 全盛時代にあって個人や組織に幸せをもたらすものについて議論しながらイメージを共有し、各自にとってのウェルビーイングを考え、最終レポートとしてまとめる。
教科書 /Textbook	適宜、指示し、資料を配布します。
指定図書 /Course Readings	「ポジティブ心理学の挑戦 “幸福”から“持続的幸福”へ」マーティン・セリグマン著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）
参考文献・参考 URL /Reference List	「マインドセット “やればできる！”の研究」キャロル・ドゥエック著（草思社）、 「しあわせ仮説」ジョナサン・ハイト著（新曜社）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（40%） 授業内での議論参加（30%） レポート内容（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	出席率が良好。問題意識をもち積極的な議論参加、発表内容・レポート内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が良い。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が普通。
評価： C（69～60 点）	出席率が不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が不十分である。
評価： F（59 点～）	出席率が著しく不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が不十分。
留意点 /Additional Information	メール提出によるレポートはメールでフィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論		
サブタイトル/Sub Title	人や組織は変わることができるのか		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Case study - Innovative Leadership for Organization Development & Change Management		
教員/Instructor	迫川 史康	E-mail	sakogawa@hrbc.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
1. 魅力的な経営リーダーの特徴および変革時に有効なリーダーシップスタイルについて理解・考察を深める 2. 企業における経営リーダーの事例に触れながら、その有効性について考察を深める 3. 今後の経営リーダーの育成方法および自身の成長に向けての考察を深める			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーにおける「DP3：現状を変革しようとする意志力」を達成するために、変化の激しいビジネス環境の中、人と組織を牽引する魅力的なリーダーおよびリーダーシップの発揮例について、ビジネスケースを用いて討議する。経営人財早期選抜制度など次世代リーダー育成に積極的に取り組む企業がある一方で、その成果および育成プロセスは未だ発展途上である。本講義では、既存のビジネスモデルを牽引するだけでなく、新たなビジネスモデルを創造するイノベーターシップを人と組織の両面から考察し、自身の成長につなげることを目指す。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	各講義前に使用するビジネスケース、宿題、 参考図書を随時案内する		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	組織とリーダーシップ		
事前、事後学習ポイント	リーダーシップ論、変革型リーダーシップ、リーダーシップとマネジメント戦略と組織		
詳細	代表的なリーダーシップ論を理解し、グループディスカッションで、変革に必要なリーダー シップの要素を考察する 宿題：アサヒビールのビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる		
第2講			
概要	衰退企業の変革事例と変革のリーダーシップ		
事前、事後学習ポイント	企業変革のステップ、指示型リーダーシップと支援型リーダーシップ		
詳細	ビジネスケース：アサヒビールを討議する 第1講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 変革の各ステージにおけるリーダーの特徴を整理し、変革時に求められるリーダーシップの 要諦を考察する。 宿題：ヤマト運輸のビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる		
第3講			
概要	ビジネスモデルの創造とリーダーシップ		
事前、事後学習ポイント	イノベーションとリーダーシップ、ビジネスモデルとは何か、代表的なビジネスモデル		
詳細	ビジネスケース：ヤマト運輸を討議する 第2講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 ビジネスモデルとは何か、ビジネスモデルを創造する際のリーダーシップとビジネスマネジ メントの関係性を考察する。 宿題：のビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる		
第4講			
概要	イノベーションと組織マネジメント		
事前、事後学習ポイント	CS（顧客満足）とES（従業員満足）、組織マネジメント、権限委譲		
詳細	ビジネスケース：青梅慶友病院を討議する 第3講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 業界にイノベーションを起こしたリーダーの行動特性、思考特性を整理し、組織マネジメ ントの手法について考察する。 宿題：アラヴィンド病院のビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる		

第5講	
概要	新興国におけるイノベーションと人財マネジメント
事前、事後学習ポイント	新興国におけるイノベーション、専門職のマネジメント
詳細	ビジネスケース：アラヴィンド病院を討議する 第4講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 新興国においてイノベーションを起こしたリーダーが持つリーダーシップとマネジメント、新興国でのイノベーションの特性について考察する。 宿題：ミスミグループ本社のビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる
第6講	
概要	組織変革におけるリーダーシップ
事前、事後学習ポイント	組織変革のフレームワーク、ビジネスモデル、
詳細	ビジネスケース：ミスミグループ本社を討議する 第5講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 組織を分析するフレームワークを共有し、組織を変革するステップと各ステップにおけるリーダーとしての役割・行動を考察する。 宿題：コマツのビジネスケースを熟読し、設問に対する自身の考えをまとめる
第7講	
概要	ビジネスモデルの変革とリーダーシップ
事前、事後学習ポイント	グローバル展開、組織マネジメント、情報システム
詳細	ビジネスケース：コマツを討議する 第6講の宿題をグループで共有し、クラス全員で双方向のディスカッションを行う。 既存のビジネスモデルから脱却し、情報システムを使って新たなビジネスモデルへ変換していく事例を基に、リーダーシップおよびグローバル展開のあり方を考察する。
第8講	
概要	最終レポート（ショートケースの分析）の作成
事前、事後学習ポイント	リーダーシップ論、組織変革
詳細	第1講から第7講義までの内容と学びを踏まえ、時間内にショートケースの分析レポートを作成する。提出後、ショートケースの振り返りとフィードバックを行う。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する
指定図書 /Course Readings	なし。各講義前に使用するビジネスケースを配布する
参考文献・参考URL /Reference List	講義時に参考書籍、資料を随時案内する
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（25%）／講義議論参画度（50%）／レポート（25%） 3点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90点）	講義内のディスカッションへの参画度：優れている、最終レポートの内容：優れている
評価： A（89～80点）	講義内のディスカッションへの参画度：良い、最終レポートの内容：良い
評価： B（79～70点）	講義内のディスカッションへの参画度：良い、最終レポートの内容：普通
評価： C（69～60点）	講義内のディスカッションへの参画度：普通、最終レポートの内容：普通
評価： F（59点～）	出席不良、講義内のディスカッションへの参画度：不十分、最終レポートの内容：不十分
留意点 /Additional Information	講義で使用するビジネスケースの内容や使用順序を変更する場合がある 各講義前に配布されるビジネスケースを熟読し、自分の意見を準備して出席すること 第8講で実施する最終レポートの振り返りとフィードバックは、レポート提出後の講義時間内にて行う。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	組織行動とリーダーシップ		
サブタイトル/Sub Title	ひとを活かし組織力を高めるビジネスリーダーの組織行動の在り方		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Organizational Behavior for exercising Leadership		
教員/Instructor	須東朋広	E-mail	sudotomoiro@gmail.com
科目群/Course Classification	実践知考具/ リーダーシップと人事	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
企業の最大の資源は「ひと」であり、「ひと」の働き甲斐や職務満足感を高めることがビジネスリーダーには求められる。時代の変化に対応した「ひと」の活かし方と組織力（イノベーションや組織の生産性と働き甲斐向上）を高めることができるビジネスリーダーになることを目指す			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシー「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」と「知の再武装」を達成するために、「組織行動論」をもとに上記目的に資する「リーダーシップ論」「キャリア論」「モチベーション論」「学習理論」「組織変革論」「組織文化論」を学び、ひとを活かし組織力を高めるための組織行動の在り方を理解する。ビジネスリーダーとしてどのような場においても影響力を発揮できることを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、 グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	授業前に指定図書の熟読と予習（2時間程度）と授業後に 講義内容の整理（2時間程度）		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	激変する経営環境下による企業とビジネスリーダーのあるべき姿に向けた現状と課題		
事前、事後学習ポイント	経済環境、雇用環境の変化から企業とビジネスリーダーのあり方を考察する		
詳細	ビジネスモデルの崩壊による企業経営の変化と人口減少・少子高齢化時代による雇用の在り 方の変化について学ぶ。変化によって企業とビジネスリーダーはどうあるべきかについてグ ループディスカッションする。		
第2講			
概要	日本的経営の変化による組織・職場の現状と課題		
事前、事後学習ポイント	日本的雇用人事システムの変化を踏まえて「残すべきこと」と「変えるべきこと」を考察す る		
詳細	日本の成長を支えた日本的経営について学ぶとともに、今現在制度疲労を起こした日本的雇 用人事システムについて学ぶ。日本的雇用人事システムによる荒廃した組織・職場を立て直 すために職場リーダーは何をすればいいのかについてグループディスカッションする。		
第3講			
概要	成果を創出し続けるための能力発揮とエンプロイアビリティの構築		
事前、事後学習ポイント	パフォーマンスの定義・あり方と能力構築・向上の在り方を考察する		
詳細	パフォーマンスの定義・在り方と能力の定義や様々な理論を紹介する。エンプロイアビリテ ィ（雇用されうる能力）を高めることを、企業価値を向上させ組織力を高めることにつな がるために何をすべきかについてグループディスカッションする。 宿題：エンプロイアビリティを今までいかにどう高めてきたか、またこれから自身としてど う高めていくかについてパワーポイントでまとめてくること。 第7講までに全員が発表する。		
第4講			
概要	プロフェッショナル志向とキャリア・デザイン		
事前、事後学習ポイント	プロフェッショナルの定義・あり方とキャリア論を踏まえて考察する		
詳細	プロフェッショナルに関する理論やキャリア論に関する様々な理論を紹介する。それら理論か ら自身やフォロワーのキャリアの在り方を検証し、プロフェッショナル人材になるためにど う当てはめ応用すればみんながついていきたいと思われるかについてグループディスカッ ションする。 第3講で出された宿題のプレゼンテーション①と発表者へのフィードバック		

第5講	
概要	人が育ち、自分が育つメカニズム
事前、事後学習ポイント	学習理論とモチベーション論の観点から考察する
詳細	学習理論やモチベーション論に関する様々な理論を紹介する。それら理論から自身や今まで関わってきた人たちの学習の在り方やモチベーションが下がる行動を思い出し、どうアドバイスや修正すればみんながついていきたいと思われるかについてグループディスカッションする。 第3講で出された宿題のプレゼンテーション②と発表者へのフィードバック
第6講	
概要	リーダーシップと組織行動
事前、事後学習ポイント	自身のリーダーシップスタイルの在り方についてリーダーシップ論を踏まえて考察する
詳細	リーダーシップに関する様々な理論を紹介する。それら理論から自身のリーダーシップスタイルの在り方を検証し、今まで関わってきた課題のある組織を思い出し、どう当てはめ応用すればみんながついていきたいと思われるかについてグループディスカッションする。 第3講で出された宿題のプレゼンテーション③と発表者へのフィードバック
第7講	
概要	時代の変化や働く人の多様化へ対応するためにリーダーが行うべき変革の在り方
事前、事後学習ポイント	あるべき組織の構築に向けて組織変革論や組織文化論を踏まえて考察する
詳細	組織文化や組織変革に関する様々な理論を紹介する。それら理論をどう当てはめ応用すれば組織行員がイキイキとやる気に満ち溢れる組織に変えられるかについてグループディスカッションする。 第3講で出された宿題のプレゼンテーション④と発表者へのフィードバック
第8講	
概要	働く人一人ひとりの幸せと居場所づくり
事前、事後学習ポイント	職務満足と組織コミットメントを引き出すリーダーの立ち振る舞いを考察する
詳細	職務満足や組織コミットメントに関する様々な理論を紹介する。それら理論をどう当てはめ応用すれば生産性の向上につながるかについてグループディスカッションする。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「組織行動のマネジメント」(スティブンPロビンズ)
参考文献・参考URL /Reference List	「市場主義 3.0」(山田久)、「知識労働者のキャリア発達」(三輪卓巳)、「組織を強くする人材活用戦略」(太田肇)、「組織心理学」(若林満・松原敏浩)
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席率 (30%) 授業内での議論参画度・プレゼンテーション (40%) 最終レポート (30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	最終レポート、授業内での議論参加、プレゼンテーションが特に優れている。
評価: A (89~80 点)	最終レポートが優れており、授業内での議論参加、プレゼンテーションが良い
評価: B (79~70 点)	最終レポートが良く、授業内での議論参加が積極的、プレゼンテーションが良い
評価: C (69~60 点)	最終レポートやプレゼンテーションは及第点で授業内での議論参加が消極的、
評価: F (59 点~)	出席不良で、最終レポート未提出。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ファイナンス基礎Ⅰ（経営財務）【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	ファイナンス（企業金融）の基礎を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Finance I		
教員/Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
企業金融に関する問題発見とその解決のアプローチを学びます。現在価値、ポートフォリオ理論、投資、資本調達、資本構成など、ファイナンスの基礎知識に習熟し課題解決に利用できる技術を習得する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP1:知識と理解（最新ビジネス環境の洞察力）および「知の再武装」を達成するために、企業金融や財務分析の背景にある基礎知識や重要な概念を丁寧に説明する。また、金融、財務、会計、事業評価、リスクマネジメントの「仕組み」も把握し、資金調達や投資判断の応用力も身につける。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	ミクロ経済学など最新の経済学の考え方も併せて予習し、テキスト記載の問題により復習をする。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	パーソナルファイナンスとコーポレートファイナンス 会社と財務諸表分析入門		
事前、事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第1章と2章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 企業の4形態、企業の所有と支配 ② 株式市場 ③ 財務諸表入門（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）		
第2講			
概要	無裁定価格と財務意思決定 意思決定の評価法、貨幣の時間的価値		
事前、事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 裁定と一物一価の法則 リスクの価格、取引費用と裁定 ② お金の時間的価値、キャッシュフロー流れ ③ 現在価値、将来価値		
第3講			
概要	利子率、投資の意思決定法 利子率の表示と調整、決定要素、現在価値法ほか		
事前、事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 利子率の決定要素、リスクおよび税金 ② 資本の機会費用 ③ NPVと独立したプロジェクト ④ 内部収益率法 回収期間法		
第4講			
概要	資本予算の基礎、債券評価 利益の予測、フリーキャッシュフロー、債券価格および利回り、イールドカーブ		
事前、事後学習ポイント	教科書第7章および8章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 収益と費用の推定、増分利益予測、 ② サンクコスト、 ③ 債券価格の動的变化 イールドカーブと裁定取引		
第5講			
概要	株式評価 資本市場のリスクの価格付け、情報と株価		
事前、事後学習ポイント	教科書第9章および10章に目を通して予習、演習問題による復習		

詳細	① 配当割引モデルの適用、 ② 総還元モデル、フリーキャッシュフローモデル ③ リスクとリターン ④ システマティックリスク
第 6 講	
概要	最適ポートフォリオの選択と資本資産評価モデル、資本コストの推定 ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入、資本資産評価モデル
事前、事後学習ポイント	教科書第 11 章および 12 章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入、 ② 資本資産評価モデル、 ③ リスクプレミアム決定、ベータの推定
第 7 講	
概要	投資行動と資本市場の効率性 市場の効率性
事前、事後学習ポイント	教科書第 13 章および 14 章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 情報と合理的期待、 ② 個人投資家の行動とシステマティックな取引バイアス ③ 市場ポートフォリオの効率性 ④ マルティファクターモデル
第 8 講	
概要	負債と税 支払利息と税金控除
事前、事後学習ポイント	教科書第 15 章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 支払利息節税枠の評価 ② 税の下での最適資本構成
教科書 /Textbook	「コーポレートファイナンス：入門編」パーク・ディマーズ著、ピアソン、2011 年 “Corporate Finance, 2 nd .Ed” Berk/DeMarzo, Pearson Education, 2011
指定図書 /Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、2016 年、
参考文献・参考 URL /Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、 「FP テキスト パーソナルファイナンス」日本FP協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）プレゼンテーション（20%）、レポート（20%）ディスカッション（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化、分析、提案が行える。
評価： A（89～80 点）	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化、分析、が行える。
評価： B（79～70 点）	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化が行える。
評価： C（69 点～60 点）	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定が行える。
評価： F（59 点～）	企業金融の知識を利用し問題抽出か課題設定のいずれかしかできない。
留意点 /Additional Information	秋学期の「ファイナンス基礎Ⅱ」と連続して受講するのが望ましい。 レポートは提出次第、速やかにフィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ファイナンス基礎Ⅱ(リスクマネジメント)【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	企業金融の新しい考え方を学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Corporate Finance II		
教員/Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
企業金融とリスクマネジメントに関する問題発見と解決の応用アプローチを学ぶ。応用のケーススタディとしてはM&A、企業再編、コーポレートガバナンスの例を考える。リスクマネジメントでは、保険やデリバティブを使った解決策を身につける。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2:思考と判断(知的課題解決力)および「知の再武装」を達成するために、事業判断およびリスクマネジメントの新しい方法を学ぶ。コーポレートガバナンス、企業再編、M&Aの実務に習熟し、保険、先物、スワップ、オプションなどを利用したリスク管理手段を身につける。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		最新のミクロ経済学の必要知識も併せて予習し、テキスト記載の問題を解く復習により応用力を身につける。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	財務危機、インセンティブ、情報、シグナリング		
事前、事後学習ポイント	教科書の第16章と17章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 財務危機と経営者のインセンティブ、 ② 情報の非対称性とエイジェンシー問題、 ③ 配当政策、 ④ 配当のシグナリング効果		
第2講			
概要	資本予算と企業評価 加重平均資本コスト法(WACC法)、APV法		
事前、事後学習ポイント	教科書第18章および19章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 加重平均資本コスト法(WACC法)の使い方 ② APV法の使い方 ③ ファイナンスモデルの作成法		
第3講			
概要	オプション 金融オプション、プット・コール・パリティ、オプション価格評価		
事前、事後学習ポイント	教科書第20章および21章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 金融オプションの基礎 ② プット・コール・パリティの理解 ③ オプション価格評価の基礎 ④ 二項モデル、ブラック・ショールズ・モデル		
第4講			
概要	リアルオプション、リース契約 決定樹による分析		
事前、事後学習ポイント	教科書第22章および25章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① リアルオプションとは、決定樹による分析、 ② 延期オプション、成長オプション、撤退オプション ③ リース契約のエッセンス		
第5講			
概要	運転資本管理、短期ファイナンスプランニング 企業間信用、銀行融資		
事前、事後学習ポイント	教科書第26章および27章に目を通して予習、演習問題による復習		

詳細	① 運転資本管理、 ② 企業間信用、売掛金・買掛金管理、棚卸資産・現金管理 ③ 銀行融資による短期資金調達、 ④ コマーシャルペーパー
第 6 講	
概要	M&A、コーポレートガバナンス M&Aの歴史、買収プロセス、買収防衛策
事前、事後学習ポイント	教科書第28章および29章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① M&Aの歴史 ② 買収に対する市場反応 ③ 買収プロセス、買収防衛策 ④ コーポレート・ガバナンス
第 7 講	
概要	リスクマネジメント 保険、商品価格変動リスク、為替リスク、金利リスク情報
事前、事後学習ポイント	教科書第30章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 保険の仕組みと保険料の算出 ② 商品価格変動リスク管理と先物 ③ 為替リスク管理と先渡しとオプション ④ 金利リスク管理とイールドカーブ
第 8 講	
概要	国際コーポレートファイナンス 国際的に統合された資本市場
事前、事後学習ポイント	教科書第31章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 外貨建てキャッシュフローの評価 ② 価値評価と国際税制 ③ 為替リスクを伴う資本予算
教科書 /Textbook	「コーポレートファイナンス：応用編」バーク・ディマーズ著、ピアソン、2011 年、 “Corporate Finance, 2 nd .Ed”Berk/DeMarzo, Pearson Education, 2011
指定図書 /Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、2016 年、
参考文献・参考 URL /Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、 「FP テキスト リスクマネジメント」日本FP協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分(合計 100%)	出席(30%)プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、ディスカッション(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+(100～90 点)	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化、分析、提案が行える。
評価：A(89 点～80 点)	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化、分析が行える。
評価：B(79～70 点)	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化が行える。
評価：C(69～60 点)	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定が行える。
評価：F(59 点～)	事業評価あるいはリスクマネジメント手法を利用し、問題設定か課題設定のいずれかしかできない。
留意点 /Additional Information	春学期の「ファイナンス基礎Ⅰ」と連続して受講するのが望ましい。春学期受講していない場合は、上記指定図書にて同時並行的に基礎概念を学ぶこと。 レポートは提出次第、速やかにフィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	企業会計・簿記入門【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	社会人のための会計基礎知識		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Basic and practical knowledge of accounting for business person		
教員/Instructor	井村順子	E-mail	imura-j@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
現代の社会人にとって、企業会計及び簿記の基礎的な知識は、不可欠な要素となっている。本講義を通じて企業会計の基礎と実務上の論点を同時に学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
財務諸表の基本的な理解に始まり、重要論点を各回に学ぶとともに、最終的にはディスクロージャー制度を理解する。これにより会計にかかる初心者が有用に財務諸表を利用するための基礎知識を身につけることにより、知的課題解決力を高めるとともに最新ビジネス環境の洞察力を強化し、知の再武装を図る。			
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	事前準備として教科書の該当箇所を通読すること、宿題について考察すること 事後的には、教科書の該当箇所に加えて毎回講義で配布されるレジュメを確認すること		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	財務諸表とは何か		
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、基本的な財務諸表の役割を理解する 簿記一巡の仕組みを理解する		
詳細	➤ 貸借対照表と損益計算書を理解する ➤ 仕訳の仕組みを理解する ➤ 勘定科目の連動を理解する ディスカッション：現時点での各自の業務における財務諸表の有用な活用方法 次回の宿題：自社の財務情報または関心のある上場会社の財務情報を入手し、それらにおける収益の認識について調査し、疑問を持った点について考えること		
第2講			
概要	個別論点～収益認識		
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、なぜ収益認識が重要なのかを考える		
詳細	➤ 典型的な収益認識の基準を理解する ➤ 実現主義とは何か理解する ➤ 売上の計上にかかる典型的な仕訳を理解する ディスカッション：自社または関心のある上場会社における収益の認識、疑問を持った点について発表し、収益認識の重要性について考える 次回の宿題：自社または関心のある上場会社における棚卸資産の種類について調査し、どのような項目で構成されているか考えること		
第3講			
概要	個別論点～棚卸資産、原価計算の基礎		
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、棚卸資産にかかる論点を考える		
詳細	➤ 棚卸資産の取得価額の構成と流れを理解する ➤ 購入の場合と、自社生産の場合の違いを理解する ➤ 棚卸資産の払出数量の把握方法を理解する ➤ 棚卸資産の払出単価の決定方法を理解する ディスカッション：自社または関心のある上場会社におけるまたは関心のある上場会社の棚卸資産の種類、どのような項目で構成されているか発表し、論点を把握する		

	今回の宿題：自社または関心のある上場会社における固定資産の種類を調査し、また、減損会計の意義について考えること
第4講	
概要	個別論点～固定資産にかかる会計と固定資産の減損
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、固定資産にかかる論点を考える
詳細	➢ 固定資産の種類を理解する ➢ 有形固定資産の減価償却方法を理解する ➢ 減損会計の概要を理解する ディスカッション：固定資産の種類及び減損会計の意義について考えたことを発表し、固定資産会計の論点を把握する 次回の宿題：自社または関心のある上場会社における引当金の種類を調査し、引当金を計上することの意義について考えること
第5講	
概要	個別論点～引当金、キャッシュ・フロー計算書
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、引当金の概要にかかる論点を考える キャッシュ・フロー計算書の役割を考える
詳細	➢ 引当金の要件を理解する ➢ キャッシュ・フロー計算書と損益計算書の違いを理解するとともにキャッシュ・フロー計算書の作成方法の基礎を理解する ディスカッション：引当金の意義について考えたことを発表し、引当金の論点について考える。キャッシュ・フロー計算書の活用方法について共有する 次回の宿題：会計上と税務上の処理がなぜ異なるかを考えることを通じて、税効果会計の意義について考えること
第6講	
概要	個別論点～税効果会計、タックスプランニング
事前、事後学習ポイント	➢ 税効果会計の必要性を理解する ➢ 一時差異、永久差異とは何かを理解する ➢ 繰延税金資産の回収可能性について理解する ➢ タックスプランニングと会計について理解する ディスカッション：会計上と税務上の処理の相違点について考えたことを発表し、税効果会計の意義を把握する 次回の宿題：連結財務諸表と個別財務諸表の相違点を考えることを通じて、連結財務諸表の特徴とその活用法を考えること
詳細	
第7講	
概要	連結財務諸表
事前、事後学習ポイント	教科書を通読し、連結財務諸表の役割を考える
詳細	これまで学習した個別論点を総括するとともに、自社または関心のある上場会社における連結財務諸表を活用して、以下の学習をする ➢ 連結財務諸表とは何かを理解する ➢ 連結財務諸表の特徴を理解する ➢ 連結財務諸表を利用する ディスカッション：連結財務諸表と個別財務諸表の相違点、連結財務諸表の活用法と意義について考えたことを発表し、共有する 次回の宿題：ディスクロージャー制度にはどのようなものがあるのか、ディスクロージャー制度の有効な活用方法について考える
第8講	

概要	ディスクロージャー制度
事前、事後学習ポイント	財務会計の意義についてディスクロージャー制度を通して考える
詳細	▶ ディスクロージャー制度の体系を理解する ▶ 法定の制度と任意の制度の違いを理解する ▶ ディスクロージャー制度を利用する ディスカッション：ディスクロージャー制度の有効な活用方法について考えたことを発表し、共有する
教科書 /Textbook	財務会計講義 桜井久勝（中央経済社）
指定図書 /Course Readings	タックスプランニング（日本FP協会）
参考文献・参考 URL /Reference List	EDINET（金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム） http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/ 財務会計・入門 桜井久勝/須田一幸（有斐閣アルマ）テキスト会计学講義 原俊雄/高橋賢（中央経済社）、会社「経理・財務」入門 金児昭（日本経済新聞出版社）、実学 稲盛和夫（日本経済新聞社）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(20%)、授業内での議論参加(40%)、レポートの内容(40%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	重要な会計上の論点を的確にとらえ、関連する実務上の課題を自らの視点で考察することができる。
評価： A（89～80 点）	重要な会計上の論点を的確にとらえ、関連する実務上の課題を理解することができる。
評価： B（79～70 点）	重要な会計上の論点について理解し、関連する実務上の課題の一部を理解することができる。
評価： C（69～60 点）	重要な会計上の論点について理解することができる。
評価： F（59 点～）	いくつかの重要な会計上の論点について理解することができる。
留意点 /Additional Information	レポートについてはメールでフィードバックを行う。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期	
科目名/Course Title	マネジリアルアカウンティング			
サブタイトル/Sub Title	管理会計			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Managerial Accounting			
教員/Instructor	真壁 昭夫	E-mail	makabe.akio@gmail.com	
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
管理会計（マネジリアルアカウンティング）とは経営管理を行うための会計の一分野であり、経営戦略を策定し、その実行のための意思決定、業務活動のコントロールを通して経営者をサポートする役割を持つ。多くの企業が作成する事業計画書、取締役会の資料、中期経営計画などは管理会計抜きには成立せず、こうした資料や計画が経営戦略の策定、執行、成果の確認、修正（PDCA）を支えている。講義では、管理会計の概念、基本的な分析手法を学び、経営の意思決定や戦略の策定に用いることを目指す。				
到達目標/Course Goals				
マネジリアルアカウンティングの全体像を理解したうえで、損益分岐点分析などの基本的な分析手法を学習し、実務に生かすことを目的とする。その上で、ディプロマポリシーでの現状を変革しようとする意志力を高めることを目指す。				
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、 プレゼンテーション、双方向、ゲスト スピーカー		学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		参考文献の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	マネジリアルアカウンティングの基本概念			
事前、事後学習ポイント	マネジリアルアカウンティングの基本的な概念、目的の確認			
詳細	日々の企業経営の意思決定にはマネジリアルアカウンティングを用いた客観的な経営状況の把握が不可欠である。輪読を通してマネジリアルアカウンティングの全体像を把握し、実際の企業実務の中で事業ごとの業績評価に必要なコスト・損益、キャッシュフローなどの管理に管理会計がどう役立つか、グループディスカッションを通し理解を深める。			
第2講				
概要	ファイナンスアカウンティングとの違い			
事前、事後学習ポイント	マネジリアルアカウンティングとファイナンスアカウンティングがどう違うかを理解する			
詳細	ファイナンスアカウンティング＝財務会計は、投資家、金融機関など、企業外部のステークホルダーを対象に財務諸表を開示することを目的とする。マネジリアルアカウンティングは Managerial と記されるようにトップマネージャを中心とする“経営管理”を目的とする。こうした主な相違点を輪読などを通して把握する。			
第3講				
概要	損益分岐点分析			
事前、事後学習ポイント	損益分岐点とは何か、NPV（正味現在価値）法とIRR（内部収益率）への理解を深める			
詳細	損益分岐点とは売上高と総費用がイコールになる状況を指し、この算出を通して減価、操業度、利益（CVP）の関係を分析する。損益分岐点の算出を通して、目標利益売上高の算定プロセスを、計算例などを用いて理解する。また、実際のプロジェクトの評価を行う際に使われる NPV（正味現在価値）法の使い方、IRR（内部収益率）とは何か、その使い方を輪読やディスカッションを通して理解する。			
第4講				
概要	経営の意思決定のツール			
事前、事後学習ポイント	利益計画とは何か、目標利益の管理、それに関する指標を理解し、マネジリアルアカウンティングがどのように経営の意思決定につながるかを把握する			
詳細	企業経営は経営の理念やビジョンなど、抽象的な表現に置き換えられることが多い。それが実際の実務に落とし込まれた時、短期から長期までの時間軸の中でどう利益計画が策定されるかを、輪読などを通して理解する。また、利益計画を評価するための ROI（投資利益率）等の指標を理解し、経営意思決定をどう行うべきかグループディスカッションを行う。			

第5講	
概要	経営の意思決定のツール（2）
事前、事後学習ポイント	意思決定のための原価、プロダクトミックスの考え方、意思決定とリスクを理解する
詳細	意思決定に伴う原価は将来に関するものであり、機会費用、増分原価、機会費用の3つの概念を輪読形式で理解する。また、製品の組み合わせ＝プロダクトミックスをどう決定すべきか、受講者のプレゼンを通し、グループディスカッションを行いながら業務に関する意思決定とそこにどのようなリスクがあるかを理解する。
第6講	
概要	経営戦略のためのツール
事前、事後学習ポイント	経営戦略とは何かを確認し、競争戦略、SWOT分析などを確認し、経営戦略を策定する手法としてマネジリアルアカウンティングの考え方を取得する
詳細	なぜ企業は経営戦略の策定を重視するか、その意義を確認したうえで、具体的にどのようにして競争上の優位性を獲得するか、文献をもとにしつつグループディスカッションを行う。また、企業組織を取り巻く機会、脅威、組織の強み、弱みを分析するSWOT分析など、戦略策定のための具体的な手法を議論する。
第7講	
概要	経営計画とマネジリアルアカウンティング
事前、事後学習ポイント	事業部制、組織の再編、経営効率の向上などにマネジリアルアカウンティングがどう役立つかを理解する
詳細	デュポンチャートシステムを用いた事業部の業績の評価方法、選択と集中を進める中での組織再編の意義、EVA（経済的付加価値）の概念とその利点、注意点などへの理解を深め、どのように経営計画を取りまとめ、その評価を行うべきかグループディスカッションを行う。
第8講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	講義の総括を行い、疑問点、今後のマネジリアルアカウンティングの展開を議論する
詳細	講義で取り上げたマネジリアルアカウンティングの基本的な手法、経営評価に用いられる指標などの使い方を再度確認し、今後の企業経営、業務の中でどのような活用法、問題点があるか、受講者のプレゼンテーションを通して実務の観点からマネジリアルアカウンティングの展開を議論する。
教科書 /Textbook	なし、その都度適宜紹介する
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考URL /Reference List	「管理会計」 櫻井 通晴 同文館出版 「管理会計」 岡本 清 ほか 中央経済社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率／講義議論参画度／レポート 3点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90点）	評価： A ⁺ （100～90点） 授業内での議論参加が積極的であり、周囲の関心を引くプレゼンテーション内容となっている。分析－仮説の検証を含め、実務への応用も可能と考えられる。
評価： A（89～80点）	評価： A（89～80点） 授業内での議論参加が積極的であり、プレゼンテーション内容が優れている。実務への応用の可能性も高い。
評価： B（79～70点）	評価： B（79～70点） 授業内で相応の議論参加が認められ、プレゼンテーション内容にも問題がない。
評価： C（69～60点）	評価： C（69～60点） 欠席などにより授業内での議論参加がやや少ない、プレゼンテーションを実施。
評価： F（59点～）	評価： F（59点～） 出席不足。授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分など。
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	法の経済分析入門【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	経営者のためのルール学習法とその基礎知識		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Law & Economics		
教員/Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
経営に関連する法律・ルール・組織・ガバナンスなどのビジネス取引実務の「OS（オペレーション・システム）」とも呼ぶべき基盤に対する洞察力を得るための新しいアプローチを学ぶ。経営者がこのようなシステムを理解するためには、（一見、法律・ルールと経済は無関係にもみえるが、実は）新しい経済学の考え方を使って分析することがきわめて有効な武器となる。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーの「DP1:知識と理解（最新ビジネス環境の洞察力）および「知の再武装」の一環として、本講義ではまず、経営者・ビジネスマンにとっては必須であり、MBAの学習にとってもなくてはならない経済学、会計、ファイナンス、統計などの基礎知識を学ぶ。またそれを応用した、法律・制度・ルールの構造を読み解く手法である「法の経済分析」に習熟する。			
授業形態 /Form of Class	講義、発見学習、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		テキストの読解に必要な経済学、ファイナンス、会計の学習を含めた予習と、テキストの数多くのケーススタディにより復習することが必要である。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	「法と経済学」入門 法律や組織や制度など広い意味でのルールを理解するために、「経済学的」視点が、なぜ必要なのか？		
事前、事後学習ポイント	教科書第1章に目を通して予習、下記指定図書「法と経済学入門」でポイントの復習		
詳細	①経済学の「取引費用」を使った契約、不法行為、所有権、株式会社など具体事例を使った説明。 ②「決定分析」を使った経営の意思決定の方法の学習。		
第2講			
概要	新しい経済学 ゲーム理論、取引費用の経済学、情報の経済学、契約の経済学、行動経済学		
事前、事後学習ポイント	教科書第2章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習		
詳細	① 「囚人のジレンマ」などゲーム理論の基礎、 ② 「逆選択」「モラルハザード」など情報の経済学の基礎 ③ 2016年ノーベル経済学賞と契約の経済学		
第3講			
概要	契約の実際、簿記・会計・財務分析の基礎 必要最低限の簿記・会計の知識		
事前、事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習		
詳細	① 契約作成の基本原則など具体的契約の実際 ② 簿記・会計の基礎知識の習得・ ③ 財務分析の基礎		
第4講			
概要	ファイナンスの基礎、ミクロ経済学のエッセンス 企業経営、投資分析、ファイナンス・ミクロ経済学の基本		
事前、事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、また講義後はポイントの整理・復習		
詳細	① 投資評価や企業評価などファイナンスの基礎、 ② 市場分析、価格分析などミクロ経済学のエッセンス		
第5講			

概要	ミクロ経済とルール分析（外部性、公共財、厚生経済学）、財産法の経済分析
事前、事後学習ポイント	教科書P. 323-365に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	① ミクロ経済学の概念である外部性、公共財、厚生経済学などとルール分析の関係 ② 財産法（知的財産法を含む）の経済分析
第6講	
概要	不法行為法の経済分析、契約の経済分析 経済活動と不法行為法の経済分析、完備契約と不完備契約
事前、事後学習ポイント	教科書P. 366-403に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	① ビジネスおよび経済活動と不法行為法の関係の経済分析、 ② 不完備契約理論を使った契約の本質
第7講	
概要	民事訴訟法の経済分析、公的機関による法の実現、刑法の経済分析、統計分析その他の法律分野の経済分析、一変数の統計分析
事前、事後学習ポイント	教科書P. 403-474に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習
詳細	① 訴訟の提起から判決まで（民事訴訟法の経済分析） ② 公的機関による法の実現（罰金刑、自由系、隔離）と刑法 ③ 法の経済分析のための統計分析の基礎
第8講	
概要	多変数統計法の 経済分析のための統計分析応用
事前、事後学習ポイント	教科書P. 475-517に目を通し予習、講義後はポイントの整理・習
詳細	二変数統計、重回帰分析など統計分析応用編
教科書 /Textbook	「数理法務概論」H.ジャクソン/S.シャベル他著、有斐閣、2014年、 "ANALYTICAL METHODS FOR LAWYERS, 2ND. ED." Jackson/Kaplow, West Academic Publication, 2003
指定図書 /Course Readings	「法律家をめざす人のための経済学」常木淳著、岩波書店、2015年 「法と経済学入門」神田・小林著、弘文堂、1987年
参考文献・参考URL /Reference List	「FP テキスト 不動産運用設計」日本FP協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席（30%）プレゼンテーション（20%）、レポート（20%）、ディスカッション（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析、評価、提案が行える。
評価： A（89点～80点）	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析、評価が行える。
評価： B（79～70点）	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析が行える。
評価： C（69～60点）	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定。
評価： F（59点～）	法の経済分析を利用し、問題抽出か課題設定のいずれかしかできない。
留意点 /Additional Information	とくに履修の前提となる法律や経済学の基礎知識は求めない。 レポートは提出次第、速やかにフィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	組織と戦略の経済学【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	組織設計と戦略策定のための理論		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Economic Concepts for Strategy & Governance		
教員/Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
経営の組織、戦略、ガバナンスといった中心的課題についての経済学の新しいアプローチを学ぶ。経済学の視点から「企業」や「組織」や「戦略」や「ガバナンス」といった重要課題はどう捉えられるかを学び、経済理論と経営実務の両方の視点から経営の実際のとらえ方に習熟する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーの「DP2:思考と判断力（知的課題解決力）」および「知の再武装」の強力な武器として、経済学の視点を使った戦略や組織やガバナンスに対する新しい見方を習得し、経営実践に生かす技術に習熟する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	テキストの読解に必要な経済学の学習を含めた予習とテキスト章末の問題を復習することが必要である。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	経営戦略のための経済学、企業の水平境界 企業理論を経済学と結びつける		
事前、事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第1章と2章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	④ 近代企業の発展を歴史的に振り返る。 ⑤ 企業の水平境界とは何か ⑥ 規模の経済性と範囲の経済性		
第2講 企			
概要	業の垂直境界、市場での取引費用 企業の基礎、経済学的な「取引費用」概念の準用性		
事前、事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 外部市場を使うコストと企業の垂直境界 ② 技術革新と企業の境界の進化 ③ 経済学的な「取引費用」 ④ 契約と市場取引		
第3講			
概要	垂直境界の編成、多角化 技術効率、エイジェンシー効率、資産の所有権、多角化		
事前、事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 技術効率とエイジェンシー効率 ② 垂直統合と資産の所有権 ③ 多角化の程度と合理性		
第4講			
概要	市場と競争戦略 競争相手と競争、戦略的コミットメント		
事前、事後学習ポイント	教科書第7章および8章に目を通して予習、演習問題による復習		
詳細	① 競争相手の特定と市場の定義 ② 市場構造の測定 ③ 戦略的コミットメント ④ 柔軟性とオプションの価値		
第5講			
概要	価格競争のダイナミクス、参入と撤退		
事前、事後学習ポイント	教科書第9章および10章に目を通して予習、演習問題による復習		

詳細	① 動的な価格競争 ② 品質競争 ③ 参入阻止戦略 ④ 撤退促進戦略
第6講	
概要	業界分析、競争優位の戦略ポジショニング
事前、事後学習ポイント	教科書第11章および12章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 5つの競争要因分析 ② コーペティションとバリューネット ③ 競争優位の戦略ポジショニング ④ 市場セグメンテーション
第7講	
概要	持続的競争優位、競争優位の源泉 模倣可能性とイノベーション
事前、事後学習ポイント	教科書第13章および14章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 不完全な模倣可能性と業界の均衡 ② イノベーションへのインセンティブ ③ 進化経済学と動的ケイパビリティ
第8講	
概要	社内労働市場とエイジェンシー関係 組織は戦略に従う
事前、事後学習ポイント	教科書第15章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	
教科書 /Textbook	「戦略の経済学」ベサンコ・ラノブ・シャンリー著、ダイヤモンド社、2002年 “Economics of Strategy, 2 nd . Ed.” Besanko/Dranove/Shsanley, John Wiley & Sons, 2000
指定図書 /Course Readings	「組織の経済学」ミルグロム／ロバーツ、NTT出版、
参考文献・参考URL /Reference List	「会社法入門」田中亘著、東京大学出版会、2016年、 「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、 「FPテキスト 相続・事業承継設計」日本FP協会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席（30%）プレゼンテーション（20%）、レポート（20%）、ディスカッション（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析、評価、提案が行える。
評価： A（89～80点）	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析、評価が行える。
評価： B（79～70点）	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析が行える。
評価： C（69～60点）	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定が行える。
評価： F（59点～）	経営学か経済学の片方の視点かしか問題抽出あるいは課題設定しか行えない。
留意点 /Additional Information	履修の前提となる経済学、ファイナンス、会計の基礎知識は求めない。 レポートは提出次第、速やかにフィードバックします。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	中小企業の価値創造と事業承継		
サブタイトル/Sub Title	事業承継について習熟し、日本を支える中小企業の価値を創造する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	nnovation and business succession of small and medium enterprises		
教員/Instructor	藤本 江里子	E-mail	Fujimoto-e@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践的考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
「事業に成功して 50 点、承継に成功して 100 点」という言葉があるように、継続企業を前提としたとき、事業承継は経営者にとり最も重要な意思決定の 1 つといえる。さらに事業承継はわが国日本において喫緊の課題にもなっている。本講義では、ビジネスの変革期にさしかかる中小企業の価値創造と事業承継の課題解決者として活躍できるような実践知を学び、必要に応じてゲストスピーカーを招いて“生きた”事例を多数取り上げる。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの DP2：「知的課題解決力」と DP4：「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」を達成するために、本講義では、中小企業の事業承継の問題や課題の分析と課題解決に必要な法律上の知識を学び、適正な事業承継計画の立案と実践力、課題解決力を身につける。また、様々なケーススタディにより、ファミリービジネスの特徴や課題、中小企業におけるイノベーションについて検討し、事業承継問題に取り組む場合の実践的手法を身につける。受講者は、総合的な経営力向上と円滑な事業承継を目指す中小企業の経営者候補等を想定している。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内でのプレゼンテーション資料作成及びその事前準備。資料・図書の熟読・まとめ。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習		
詳細	受講生・教員の自己紹介とオリエンテーションを行ったあと、中小企業を取り巻く現状と課題、事業承継の問題について広く概観する。また、中小企業が生き残るための企業価値の向上と、事業承継計画の早期かつ適切な設計・実行の必要性について学ぶ。		
第 2 講			
概要	事業承継の法律と税務①		
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習		
詳細	世界のファミリービジネス研究について紹介し、日本における同族企業の親族内承継を進める場合の相続などの基本的捉え方と具体的な手順について講ずる。 事業承継計画を作成するうえで、最低限必要な、民法（相続法）、会社法などの基礎的法律について学ぶ。		
第 3 講			
概要	親族内承継の事例研究		
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習		
詳細	ゲストスピーカーへのインタビュー又はケーススタディにより、親族内承継の手法や事例について研究する。		
第 4 講			
概要	事業承継の税務②		
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習		
詳細	事業承継計画を作成するうえで、最低限必要な、税法（相続税法、所得税法等）の基礎知識について学ぶ。		
第 5 講			
概要	後継者育成の事例研究		
事前、事後学習ポイント	事後学習：講義内容の復習		
詳細	ゲストスピーカーへのインタビュー又はケーススタディにより、後継者育成の手法や実際の事例について学習する。		

第 6 講	
概要	M&A など第三者への承継手続と組織再編・信託などの手続き他
事前、事後学習ポイント	事前学習：具体的なイノベーション計画や事業承継計画書の作成準備 事後学習：講義内容の復習
詳細	中小企業を第三者へ承継する M&A などの応用的な具体的事例と手順について講ずる。事業承継と組織再編成、信託や従業員持株会の活用、生命保険の利用、金融施策の紹介など、事業承継の応用的論点についても踏み込んで講ずる。
第 7 講	
概要	M&A の事例研究
事前、事後学習ポイント	事前学習：具体的なイノベーション計画や事業承継計画書の作成準備 事後学習：講義内容の復習
詳細	ゲストスピーカーへのインタビュー又はケーススタディにより、日本の M & A 市場について、事業承継の出口としての M & A がどのように行われているのか、M & A の最新事例について学習する。
第 8 講	
概要	事業承継計画書の作成・発表と本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前学習：具体的な事業承継計画書の作成準備
詳細	中小企業の価値創造と事業承継の難しさを整理し、具体的な事業承継計画書を作成して深く学ぶ。最後に本講義のまとめとして全体を振り返る。
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布予定。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	【参考文献】 長戸貴之『事業再生と課税』東京大学出版会、2017 『FP テキスト 6 相続・事業承継設計』日本 FP 協会、2018. 税理士法人タクトコンサルティング編『事業承継 実務全書』日本法令、2018 他 【参考 URL】 中 小 企 業 庁 「 事 業 承 継 ガ イ ド ラ イ ン 」 （ 2 0 1 8 年 1 2 月 ） http://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/shoukei/2016/161205shoukei.htm
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）、授業内でのグループディスカッション・議論（40%）、事業承継計画書（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が特に優れている。
評価： A（89～80 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が優れている。
評価： B（79～70 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が良い。
評価： C（69～60 点）	中小企業の価値創造と事業承継について、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書が平均程度。
評価： F（59 点～）	出席不良で、議論・グループディスカッション内容・イノベーション計画や事業承継計画書に課題が多い。
留意点 /Additional Information	本講義は CFP®認定教育プログラムとなっている。 受講者の人数、所属、希望、事前知識等のをふまえて講義内容を柔軟にアレンジする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	企業分析と経営指標（KPI）		
サブタイトル/Sub Title	企業価値を創造する経営指標		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Analysis and Key Performance Indicators		
教員/Instructor	大津 広一	E-mail	ko@otsu-international.com
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
コーポレート・ガバナンス・コードの強化により、企業には資本コストを的確に把握したうえで、収益力・資本効率等に関する目標を提示し、株主に分かりやすい言葉・論理で明確に説明を行うことが求められています。現在進行中の豊富なケーススタディを基に、企業活動と経営指標（KPI）の有機的な結びつきを理解し、意思決定に活きる会計力修得を目的とします。			
到達目標/Course Goals			
企業経営者としてはもちろん、経営企画担当者、IR 担当者、経理・財務部門担当者にとって必須となる、経営戦略に合致した経営指標（KPI）を選別し、理論に適合した目標水準を設定した上で、これを社内外に対して的確にコミュニケーションすることのできるスキル修得を目指します。研究、製造、販売・マーケティング、コーポレート部門など、あらゆる職責の学生にとっても必須となる、ディプロマポリシーでの最新ビジネス環境の洞察力和知的課題解決力に寄与する財務分析力の獲得を目標とします。			
授業形態 /Form of Class	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	次回履修項目（書籍 2 章分）の読了と簡単な設問への解答準備		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	企業価値の定義と財務諸表分析		
事前、事後学習ポイント	教科書序章の読了		
詳細	企業価値を明確に定義し、すべての経営指標は中長期的に企業価値を高めるための代替手段であることを明確にします。企業価値の源泉となる FCF および WACC を知り、企業価値向上のための施策を整理します。決算書に慣れるために、10 社超の決算書分析を行います。		
第 2 講			
概要	ROE、ROA の意義と、ケーススタディ		
事前、事後学習ポイント	教科書 1 章、2 章の読了と簡単な設問への解答準備		
詳細	ROE、ROA について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ（コマツ、ブリヂストン、ニトリ他）について、講義と討議を交えて学習します。		
第 3 講			
概要	ROIC、EVA の意義と、ケーススタディ		
事前、事後学習ポイント	教科書 3 章、10 章の読了と簡単な設問への解答準備		
詳細	ROIC、EVA について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ（米ウォルマート、米ジョンディア、オムロン、ソニー、ピジョン他）について、講義と討議を交えて学習します。		
第 4 講			
概要	EBITDA マージン、売上高営業利益率の意義と、ケーススタディ		
事前、事後学習ポイント	教科書 4 章、5 章の読了と簡単な設問への解答準備		
詳細	売上高営業利益率、EBITDA マージンについて、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ（カルビー、ソフトバンク、三菱地所、東急電鉄他）について、講義と討議を交えて学習します。		
第 5 講			

概要	売上高成長率、EPS 成長率の意義と、ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	教科書 8 章、9 章の読了と簡単な設問への解答準備
詳細	売上高成長率、EPS 成長率について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ（ファーストリテイリング、ユニ・チャーム、アサヒグループホールディングス他）について、講義と討議を交えて学習します。
第 6 講	
概要	FCF 成長率、DE レシオの意義と、ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	教科書 6 章、7 章の読了と簡単な設問への解答準備
詳細	FCF 成長率、DE レシオについて、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ（米 P&G、米 Amazon、新日鐵住金他）について、講義と討議を交えて学習します。
第 7 講	
概要	プレゼンテーション： 選択した企業に関する、企業活動と KPI
事前、事後学習ポイント	個人、またはグループによる、プレゼンテーションの準備
詳細	グループまたは個人ワークによって選定した企業の経営戦略と目指すべき経営指標（KPI）について、事前考察準備の上でレポートを作成、当日はプレゼンテーションを行います。
第 8 講	
概要	期末試験
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	全体の履修を確認するための、期末試験を行います。
教科書 /Textbook	『企業価値を創造する会計指標入門』（大津広一著、ダイヤモンド社）
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『戦略思考で読み解く経営分析入門』（大津広一著、ダイヤモンド社） 『ビジネススクールで身につける会計力と戦略思考力』（大津広一著、日経ビジネス人文庫）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	試験、グループレポート・発表、平常点について、各 1/3 を配分
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	経営指標を理解し、自社の経営戦略に合致した KPI の設定を十分に行うことができる。
評価： A（89～80 点）	経営指標を理解し、自社の経営戦略に合致した KPI の設定をほぼ行うことができる。
評価： B（79～70 点）	経営指標は理解しているが、自社の経営戦略に合致した KPI の設定には一定の継続学習が必要とされる。
評価： C（69～60 点）	経営指標の理解に一定の継続学習は必要とされるが、財務諸表分析を行うことは出来る。
評価： F（59 点～）	経営指標の理解、財務諸表分析ともに一定の水準に達していない。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ファイナンスイノベーション基礎【CFP 必修】		
サブタイトル/Sub Title	基本的な数学的手法の習得を目指して		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Basic Mathematics for Finance Theory and Innovation		
教員/Instructor	小野里光博	E-mail	onosato@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ ファイナンス&ガバナンス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
高校時代又は大学受験以来、数学を使う機会がなかった文系出身者をはじめとする数学に苦手意識を持つ受講者を対象に、経営学やファイナンス理論等を学ぶために最低限必要な数学の基本的知識と手法を習得させる。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーにある知的課題解決力の基礎となるファイナンス理論の習得にあたって、必要最小限の数学の知識の習得を目標とする。具体的には、理論的な厳密さや網羅性は必ずしも追求せず、高校数学の復習から初めて、解析と統計学の基本的分野を中心に、基本概念の直感的な理解と必要最小限の数学的手法の習得を目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、双方向、問題演習	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理・定着を図るための問題演習。理解度にもよるが、一講義当たりの復習時間は 120 分から 180 分程度。	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	基本事項の確認と金融資産運用設計への活用例		
事前、事後学習ポイント	Σ 記号、等比級数、資金の時間価値、時間的割引率、企業価値		
詳細	Σ 記号の使い方と等比数列・級数の基礎を確認した上で、資金の時間価値や時間的割引率といったファイナンス理論の基本概念を抑え、金融商品の価値評価の考え方・算定方法を説明する。		
第 2 講			
概要	指数関数・対数関数		
事前、事後学習ポイント	指数の拡張、自然対数の底 e と連続複利、写像・関数、指数関数、対数と対数関数		
詳細	初めに中学で学習した指数を自然数から実数の範囲まで拡張し、自然対数の底 e を連続複利の概念との関係で紹介し、さらに写像・関数の概念と逆関数の説明を行う。以上を踏まえて、指数関数を説明、対数の概念を導入して指数関数の逆関数として対数関数を定義する。併せて指数関数・対数関数がファイナンス理論やミクロ経済学で多用される背景も説明する。		
第 3 講			
概要	微分法(1)		
事前、事後学習ポイント	関数の極限、関数の連続性、微分法の基礎概念、微分の公式、微分法の応用		
詳細	微分法を関数の変化の様子を調べる手法として位置付け、まず関数の極限と連続性を直感的に理解する。その上で、平均変化率・微分係数・導関数といった微分法の基礎概念を説明する。第 3 講では、整関数を例にとりて、微分の基本公式と関数の増減・凹凸を調べる手法を解説する。		
第 4 講			
概要	微分法(2)、積分法(1)		
事前、事後学習ポイント	指数関数・対数関数の微分、合成関数の微分、定積分の定義、微積分学の基本定理		
詳細	前半では、第 3 講の内容を復習した上で、新たに指数関数・対数関数の微分公式や合成関数の微分を学ぶ。第 2 講で説明した自然対数の底 e を解析的な観点から解説する、後半では、定積分の定義から入って、微積分学の基本定理の解説を通して微分法と積分法との関係を説明する。		
第 5 講			
概要	積分法(2)		
事前、事後学習ポイント	不定積分の定義、不定積分の公式、定積分の公式		

詳細	第4講の後半部分を復習した上で、具体的な積分計算の説明を行う。微積分学の基本定理から、定積分の計算において必要となる不定積分の概念を定義し、その基本公式や部分積分や置換積分の手法を学ぶ。その上で定積分の計算方法も学習する。
第6講	
概要	統計学(1)
事前、事後学習ポイント	記述統計と推測統計、度数分布とヒストグラム、記述統計における代表値（平均・中央値・最頻値）、散布度（分散・標準偏差）、二種類の変数の関係（共分散・相関係数）
詳細	統計の二つの分野である記述統計と推測統計のうち、本講では記述統計の基礎概念を扱う。小学生の頃から親しんでいる平均概念の他に中央値や最頻値といった概念があることを説明し、それぞれの特徴を理解させる。また代表値だけでは母集団の性質を記述するには不十分であることを事例で説明し、分散や標準偏差といった散布度の概念を説明する。最後に二種類の変数の関係を記述する共分散と相関係数の概念を説明する。特に誤用されることの多い相関係数の使用上の注意にも付言する。
第7講	
概要	統計学(2)
事前、事後学習ポイント	確率変数と確率分布、確率変数の期待値・分散・標準偏差、確率変数の標準化、正規分布
詳細	第6講の理解を踏まえて、本講では推測統計の基礎概念を扱う。記述統計の平均・分散・標準偏差の理解のアナロジーで、推測統計における期待値・分散・標準偏差の概念を説明する。また確率変数の標準化についても解説を行う。以上を踏まえて理論的にも実務的にも最も重要な確率分布である正規分布を導入する。確率変数の標準化と標準正規分布表を用いて、一般的な正規分布について様々な確率の計算方法を学ぶ。
第8講	
概要	統計学(3)
事前、事後学習ポイント	区間推定と仮説検定
詳細	第7講の理解を前提に、正規分布を用いて区間推定と仮説検定の基本的な考え方を説明する。
教科書 /Textbook	なし。講義レジュメを配布する。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	・「モノグラフ公式集」 矢野健太郎監修・春日正文編 科学新興新社 ・「すぐわかる微分積分」 石村園子著 東京図書 ・「完全独習 統計学入門」 小島寛之著 ダイアモンド社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（20%）、講義への参加（20%）、レポート（60%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義に積極的に参加し、レポートの内容が極めて優れている。
評価： A（89～80 点）	講義に積極的に参加し、レポートの内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	講義に参加し、レポートの内容が最低限のレベルを十分上回っている。
評価： C（69～60 点）	講義に参加し、レポートの内容が最低限のレベルに到達している。
評価： F（59 点～）	出席不良で、レポートの内容が不十分。またはレポートを提出しない。
留意点 /Additional Information	・コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること。基本的な数学的手法の習得のため、講義中に実際に手を動かす問題演習を行う。 ・特定の講義の習得具合を確認する目的で課すレポートは次回の講義で講評を行い、最終的な習得レベルを測る目的で最終講義のときに課すレポートについては採点終了後に模範解答例を示す。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	データドリブンの戦略構築		
サブタイトル/Sub Title	データ技術が書き換える現代の経営戦略の思考法と実践		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Data-driven Strategy Planning		
教員/Instructor	栗山 実	E-mail	m-kuriyama@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
現代の企業経営を担うビジネスリーダーとして欠かせない思考技術として、データサイエンスを活用して経営戦略の設計や意思決定を行う実践的手法を身につけることを目指します。 ビッグデータや機械学習・人工知能などが流行する現在、個々のデータ分析技術を熱心に勉強する人は増えていますが、企業の戦略策定・意思決定とデータ分析技術とを的確に結び付けられる人材は未だ不足しており、グローバル競争力や次世代の事業創造力を求める企業の多くがその人材育成・獲得に苦戦しています。 本講では、データサイエンスに立脚して経営上の戦略策定や意思決定を行うための実践的な思考法、発想の着眼点などを、ビジネスケースを踏まえた議論を交えながら深めていきます。統計学や分析手法、アンケート調査、ビッグデータ解析、データ表現技術、機械学習などを具体的な手法として扱いますが、それらはあくまで道具であり、経営視点での戦略構築や判断をどのように行えるかを議論の中心に置いて進めます。 企業経営の具体的な状況を設定したワークショップ型の演習を行い、グループに分かれて取り組むなどして自らの気づきを発言し議論を重ねる時間を取ります。それにより、小手先のデータいじり技術ではなく、データに基づく意思決定・戦略策定の根底にある発想を咀嚼し、自律的に実践する感覚を醸成し、新しい時代を創るビジネスリーダーとしての自分なりの思考法・視座を得ることを目指します。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの『DP2：思考と判断（知的課題解決力）』の現代的手法として、データサイエンスを活用した戦略思考・判断を行う技能の概要理解を得ることを目標とします。 また、講義・ディスカッションを通して、データによる市場理解の手法やデータ表現手法など、『DP1：知識と理解（最新ビジネス環境の洞察力）』、『DP4：表現と技能（周囲を巻き込みイノベーションを実現する力）』に寄与する実践的手法も扱います。データサイエンス時代における大企業組織の限界と変革の必要性、スタートアップ的なイノベーション手法など、『DP3：関心と意欲（現状を変革しようとする意志力）』、『DP5：高い志（よりよいイノベーション起こす生き方）』に関連する話題も、受講者の関心に応じて議論が発展することを期待します。 講義での具体的な到達目標として以下を想定します。 ・「経営戦略を考えること、データ技術でそれを考えること」の面白さ・奥深さをまず体得すること ・「新時代のビジネスリーダー」に必要な知識や視野を認識し、それを目指して自ら学び続ける基礎を得ること ・早速実際の仕事などで「実践」できる考え方や方法を演習や議論を通して身につけること			
授業形態 /Form of Class	講義 グループディスカッション グループワーク プレゼンテーション 双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	予定なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	予習：次回講義に関連する事柄の事前学習 復習：当回講義の要点の復習まとめ、自主的実践		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	導入：経営戦略策定とビジネスデータの概観		
事前、事後学習ポイント	戦略／戦術、意思決定、定量情報、ビッグデータ		
詳細	そもそも「戦略」とは何か、「データ」とは何か、経営の意思決定のために「戦略×データ」を語る上で必要な要素は何か、講義、グループワーク等を通じて気づきと動機づけを得て本講義全体の概観の導入とする		
第2講			
概要	技術<1>：データの表現		
事前、事後学習ポイント	グラフ、メッセージ、フレームワーク、論理思考・構造思考		
詳細	戦略思考・決断のためのデータ表現を設計する（例：情報の構造、グラフ表現、戦略のための可視化）。要点の講義ののち、グループワークを通じて実践上の洋書を体感し、全体でのディスカッションを深める		
第3講			
概要	応用<1>：手段と結果		
事前、事後学習ポイント	経営の目的、打ち手、因果関係、定量化、相関、検定		

詳細	経営目的達成のための行動決定を下す思考を理解する（例：4P 施策の選択、因果関係の特定、効果測定、予測と最適化）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第4講	
概要	技術<2>：データの取得
事前、事後学習ポイント	データベース、市場調査、インタビュー、質問票
詳細	戦略策定のためのデータ取得を設計する（例：販売履歴 DB、会員制度、ウェブサーベイ、FGI）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第5講	
概要	応用<2>：経営の地図
事前、事後学習ポイント	経営の方針判断、顧客の分布、クラスタリング、市場シェア、ペルソナ
詳細	戦略的な経営指針を空間的に描き出す（例：市場の可視化、顧客の特徴把握、クラスタリング）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第6講	
概要	総合<1>：戦略策定プロジェクト
事前、事後学習ポイント	プロジェクトマネジメント、スケジュール、タスク、目的・手段・手順
詳細	戦略策定を実際に行うまでの実務プロセスを習得する（設計・情報取得・分析・表現・戦略策定・意思決定）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。
第7講	
概要	総合<2>：組織改革プロジェクト
事前、事後学習ポイント	人材育成、組織課題、リーダーシップ、データサイエンティスト
詳細	データに基づく戦略策定が根付く組織を考える（基盤整備、能力構築、意識改革、人材育成・配置・採用）。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。 第一講からここまでの各回での質問への回答、補足説明。
第8講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	発表の準備
詳細	各自より、この講義を通じて学んだこと、今後の実践、継続的な学び等を発表。発表内容へのフィードバックや今後へのアドバイスなど、ディスカッションを深める
教科書 /Textbook	講義の際にワークシート・レジュメ配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	講義中に適宜提示
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(50%)、レポート・発表(20%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業内での議論参加の貢献が特に優れて『データサイエンスによる知的課題解決力』を発揮し、発表内容も優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加の貢献が A ⁺ に準じて大きい、発表内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、発表内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、発表内容が最低限を満たす。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	クリティカルシンキング		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスにおける「価値創造」「課題解決」に求められる論理思考、頭の使い方		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Critical Thinking		
教員/Instructor	柏木吉基	E-mail	kashiwagi@data-story.net
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
実務における課題解決および企画・提案を行う際の「マインド」「思考プロセス」「手法（ツール）」などを身につけます。単に“論理学”を学ぶのではなく、組織の中で、多くの人の納得・共感を得て、人や組織を動かすことができる人材となることを目指します。			
到達目標/Course Goals			
思い付きや勘と経験で方策や意見を言う思考の癖を取り払い、ディプロマポリシーにある「知的課題解決力」や「現状を変革しようとする意志力」を達成するために、ロジカルな根拠に基づいて結論を述べたり、本質的な問題解決ができるスキルを身に付けること。更に、これらのスキルを活用し、チームの合意形成をリードする人材となること。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		ビジネスケースへの取り組み	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	論理構築のための論理思考1 課題・論点の設定（定義）		
事前、事後学習ポイント	なし		
詳細	自分が言うべき内容、解くべき課題の具体性は、その後のプロセスや精度、結論の質に大きなインパクトを与えます。これらを防ぐための注意点や考え方、ポイントを学びます。		
第2講			
概要	論理構築のための論理思考2 演繹・帰納法、論理構造（ピラミッドストラクチャー）1		
事前、事後学習ポイント	【宿題】共通の課題（テーマ）に沿って、自らの主張を作ります		
詳細	演繹法や帰納法などの論理学を”ツール“として使いながら、自分の論理性のチェックを行い、主張を適切に作り上げるスキルを身に付けます。		
第3講			
概要	論理構築のための論理思考3 演繹・帰納法、論理構造（ピラミッドストラクチャー）2		
事前、事後学習ポイント	なし		
詳細	宿題のアウトプットをクラス内で共有、改善点、問題点を協議します。		
第4講			
概要	課題解決のための論理思考1		
事前、事後学習ポイント	なし		
詳細	課題定義～課題ポイントの特定までのプロセスについて学びます。具体的には課題を具体化した後、適切な切り口で課題分解し、具体性を高めるスキルを身に付けます。		
第5講			
概要	課題解決のための論理思考2		
事前、事後学習ポイント	課題要因の特定～方策案の絞り込みまでのプロセスについて学びます。具体的には、漏れない要因候補をどう出すか、挙げた対策案にどう優先度をつけるかなどのテクニックや思考法を身に付けます。（参加者の意向、講義の進捗などにより、ケーススタディを導入する可能性もあり）		
詳細			
第6講			

概要	<u>組織・チーム</u> で論点を整理する技術 1
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	チームでの合意を得るために必要なファシリテーションの技術を身に付けます。
第 7 講	
概要	<u>組織・チーム</u> で論点を整理する技術 2
事前、事後学習ポイント	試験課題の発表
詳細	第 1 回～5 回までで個人で身に付けたスキルをチームリーディングに応用し、チームで合理的な結論を出すためのテクニックを身に付けます
第 8 講	
概要	まとめと試験
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	プログラム全体を通したレビューと個人ワークの発表と評価。原則としてプレゼン発表時にフィードバックを予定
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『人は勘定より感情で決める』 柏木吉基著（技術評論社） https://www.amazon.co.jp/柏木吉基/e/B0042SL1HM
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率(10％)／講義議論参画度(30％)／最終レポート(60％) 3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義内容を十分に理解し、授業内での議論に積極的に参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	講義内容を理解し、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： C（69～60 点）	講義内容を理解している。
評価： F（59 点～）	講義内容の理解が十分でない
留意点 /Additional Information	特に無し

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	サービスサイエンス		
サブタイトル/Sub Title	インタビュー調査、分析からの実践知考察		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Service science		
教員/Instructor	中野 未知子	E-mail	nakano-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
付加価値としてのサービスが、あらゆる産業に入り込んでいる今日「サービスをどのように変革していくか」は、セクターや業種を問わず組織における重大な経営課題のひとつである。サービス自体がコモディティ化してしまうという課題を乗り越え、消費者・生活者にとって価値ある存在であり続けるためには、サービス現場で働く人々と消費者・生活者との間に起こる相互作用をしっかりと見つめ続けることが大切だ。 そこで重要になってくるのが、質的データのハンドリングスキルである。現場の傾聴や観察によって獲得した質的データから「何が起きているのか」を一定のモデルとして可視化し、量的データから得られる知見とも組み合わせながら考察することは、現状を改善したり良いところを伸ばしたりするための仕組みをつくっていく足掛かりとなってくれる。 本講義は、サービスサイエンスの実践への第一歩である。<u>インタビューデータから実践知を導出する過程を体験的に学ぶことを目的とする。よって講義と個人課題との両輪で授業を進める。</u>分析手法としては、質的データ分析手法のひとつである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いる。<u>修士論文執筆で質的データ分析を予定する人にとっても本講義が一助になれば幸いである。</u>授業では理論より実践に重きを置くが、理解してもらいたい理論については参考図書や文献を紹介する。尚、一部ケーススタディ講義として、協力企業であるトランスコスモス・アナリティクス株式会社からゲスト講師の登壇を予定している。			
到達目標/Course Goals			
1) ディプロマポリシーでの「DP2:思考と判断(知的課題解決力)」を達成するために、講義で扱う質的データ分析手法を用いて「サービス」の現状分析を行い、一定のモデルを導出・説明できること 2) ディプロマポリシーでの「DP5:高い志(よりよいイノベーション起こす生き方)」を達成するために、1) で獲得した実践知を自分の研究・実務においてどのように活用しうるか、具体例を用いて説明できること			
授業形態 /Form of Class	フィールドワーク、グループディスカッション、講義、ダイアログ、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		学期前半：学習内容整理、指定図書精読 学期後半：上記に加えて個別インタビュー課題実践（＝フィールドワーク）、最終日プレゼンテーション準備	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	【ケーススタディ】スターバックスの対人サービスをデータで語ると？		
事前、事後学習ポイント	サービス、サービスサイエンス、質的データ 宿題：学びの振り返り		
詳細	● 形態：講義、グループディスカッション ● 内容：インタビュー回答やアンケートの自由回答等質的データを用いた対人サービス分析事例紹介／サービスやサービスサイエンス等、基本用語の定義		
第2講			
概要	【ゲスト講義】企業におけるサービスサイエンス実践		
事前、事後学習ポイント	カスタマーケア、アナリティクス、マーケティング 宿題：学びの振り返り／指定図書担当箇所の精読と要約		
詳細	● 形態：ゲスト講義（予定）、質疑応答 ● 内容：企業内実践の成果や過程の紹介と質疑応答による学びの確認		
第3講			
概要	【演習】対人サービスを質的データで語ろう ① -実践に備えた予行演習-		
事前、事後学習ポイント	フィールドワーク、質的分析手法、M-GTA、リサーチクエスト 宿題：学びの振り返り／個別インタビュー課題：調査対象者とRQの検討		
詳細	● 形態：プレゼンテーション、質疑応答 ● 内容：指定図書輪読による質的研究手法、M-GTAの理解		
第4講			
概要	【演習】対人サービスを質的データで語ろう ② -実践に備えた予行演習-		

事前、事後学習ポイント	M-GTA、半構造化インタビュー、ダイアログ 宿題：学びの振り返り／個別インタビュー課題：設問項目の考案
詳細	● 形態：グループディスカッション、講義 ● 内容：インタビューデモンストレーションの傾聴、RQの精査
第5講	
概要	【個別インタビュー課題】対人サービスを質的データで語ろう ③ - 実践 -
事前、事後学習ポイント	M-GTA、仮説探索、仮説検証 宿題：学びの振り返り／個別インタビュー課題：実査、分析ワークシート作成
詳細	● 形態：グループディスカッション、講義 ● 内容：インタビューシミュレーション、設問項目の精査
第6～7講	
概要	【個別インタビュー課題】対人サービスを質的データで語ろう ④ - 実践 -
事前、事後学習ポイント	M-GTA、概念化 宿題：学びの振り返り／個別インタビュー課題：分析ワークシート作成、モデル作成
詳細	● 形態：グループディスカッション ● 内容：成果物イメージ検討、作成
第8講	
概要	【成果発表】学びの総まとめ
事前、事後学習ポイント	半年間の学びと、自分の研究・実務との紐づけ
詳細	● 形態：プレゼンテーション、質疑応答 ● 内容：インタビューから導出したモデルの個別プレゼンテーション／授業全体からの学びの振り返りとフィードバック
教科書 /Textbook	西條剛央（2007）『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）』新曜社 その他、適宜、資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	西條剛央（2007）『ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）』新曜社（教科書と同じ）
参考文献・参考 URL /Reference List	近藤隆雄（2012）『サービス・イノベーションの理論と方法』生産性出版 木下康仁（2003）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い』弘文堂 佐藤郁哉（2002）『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣 その他、適宜、講義中に紹介、または資料を配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業出席と参加姿勢（30%）、振り返りレポート・個別インタビュー課題実施(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業に出席且つ積極参加し、出席回について振り返りレポート・個別インタビュー課題を提出し、到達目標の 1)、2) 両方の面において優れたプレゼンテーションを行った
評価： A（89～80 点）	授業に出席且つ積極参加し、出席回について振り返りレポート・個別インタビュー課題を提出し、到達目標の 1)、2) どちらかの面において優れたプレゼンテーションを行った
評価： B（79～70 点）	授業に出席且つ積極参加し、個別インタビュー課題を提出し、到達目標の 1)、2) についてプレゼンテーションを行った
評価： C（69～60 点）	授業に出席且つ参加し、個別インタビュー課題を提出し、プレゼンテーションを行った
評価： F（59 点～）	授業への出席が不十分、個別インタビュー課題が未提出だった
留意点 /Additional Information	体験から学ぶ点が大いいため、第 4～8 講の期間中に学外時間外でインタビュー実査とその結果のまとめ、第 8 講でまとめた内容のプレゼンテーションをしていただく。進め方は教員から指示する

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	データビジネス活用		
サブタイトル/Sub Title	一流の問題解決者になる、良い研究者のための「問題解決モデリング」		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Business Data Science III		
教員/Instructor	志賀敏宏	E-mail	
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
「①リサーチクエスチョン (RQ.) ⇒②仮説構築⇒③仮説検証⇒④モデル構築と考察 (⇒結論と課題)」が問題解決、あるいは研究の過程です。この過程と現実をつなぐ能力⑤「現実のまとめ方 (厚い記述、データ、論理)」もこの課程と不即不離です。講義目的は、これらの能力を高め、発見的な問題解決力、研究力を高めることです。そのため①～⑤の論理を学び、シミュレーション (実践練習) を行います。			
到達目標/Course Goals			
到達目標は、受講生各位の抱える課題 (修論テーマ候補等) の解決に十分な、すなわち一流のビジネスマン、研究に必要な「知的問題解決力」 (本大学院のディプロマポリシーDP2) を修得することです。			
授業形態 /Form of Class	双方向、ディベート、プレゼンテーション、グループワーク	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習 (予習・復習等) に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	授業ごとの復習を踏まえて、次回授業でのプレゼンテーションの資料作成。関連資料・図書の検討・参照。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題 (①RQ.のプレゼン準備)		
詳細	i)オリエンテーション、ii)発見的な問題解決・研究過程の理論と本質要素、iii)データドリブンの吟味		
第 2 講			
概要	①RQ.のプレゼン		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題 (②仮説構築と⑤現実のまとめ方のプレゼン準備)		
詳細	・①RQ.のプレゼン (i)テーマ設定、ii)目的の明確化、iii)RQ.とその理由) ・上記のディスカッション (プレゼンに対する教員からのフィードバック含む、以下同じ)		
第 3 講			
概要	②仮説構築と⑤現実のまとめ方のプレゼン		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題 (中間プレゼン準備)		
詳細	・②仮説構築 (i)仮説、ii)理由) と⑤現実のまとめ方 (厚い記述、データ、論理) の方針と見通し (得られそうな結果) のプレゼン ・上記のディスカッション		
第 4 講			
概要	中間プレゼン		
事前、事後学習ポイント	次回への宿題 (③仮説検証のプレゼン準備)		
詳細	・中間プレゼン (①、②、⑤) ・上記のディスカッション		
第 5 講			
概要	③仮説検証のプレゼン		
事前、事後学習ポイント	事後の宿題 (最終プレゼン準備)		
詳細	・③仮説検証の方針と見通し (得られそうな結果) のプレゼン ・上記のディスカッション		
第 6 講			
概要	最終プレゼン (1 回目、受講者の半数プレゼン)		

事前、事後学習ポイント	総復習（学びの結果、今後の課題）
詳細	・最終プレゼン（①～⑤、④はできれば） ・上記のディスカッション
第7講	
概要	最終プレゼン（2回目、受講者の残り半数プレゼン）
事前、事後学習ポイント	総復習（学びの結果、今後の課題）
詳細	・最終プレゼン（①～⑤、④はできれば） ・上記のディスカッション
第8講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前準備：総復習結果のコメント準備
詳細	i)学びの結果、今後の課題（受講生全員） ii)講師まとめと更なる学びの向けての意見交換
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	伊丹敬之（2001）『創造的論文の書き方』有斐閣
参考文献・参考 URL /Reference List	G.M.ワインバーグ（1990）『コンサルタントの秘密-技術アドバイスの人間学』 ※初回に図書の概要を紹介しますので、入手される場合もそれ以降でかまいません
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、プレゼン内容(40%)、授業内での議論（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	問題解決/研究過程の思考能力、議論・プレゼン内容が特に優れている。
評価： A（89～80 点）	問題解決/研究過程の思考能力、議論・プレゼン内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	問題解決/研究過程の思考力、議論・プレゼン内容が良い。
評価： C（69～60 点）	問題解決/研究過程の思考意欲があり、議論・プレゼンが可能である。
評価： F（59 点～）	問題解決/研究過程の思考意欲が不足、議論・プレゼンが困難である。
留意点 /Additional Information	データドリブン経営の前提・基盤となる科目です。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスデータ活用実践(事業提案)		
サブタイトル/Sub Title	データ活用を前提とした事業企画の初歩		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Development using Data Science		
教員/Instructor	佐藤洋行	E-mail	Sato-h@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
近年、経営においてデータ活用は欠くべからざるものとなっているが、その進め方について、データ解析の手法を解説する書籍や講義は多い一方で、プロジェクト管理や組織について言及したものは少ない。本講義では、ビジネスにおけるデータ活用プロジェクトに数多く携わってきた講師の実践知を体系的に学んでもらうことで、ビジネスにおけるイノベティブなデータ活用事業を企画提案するために必要な知識を幅広く身につけてもらう。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーの「表現と技能」を、データドリブン経営の視点で達成するために、データ活用プロジェクトの企画提案書作成に必要な高い実践知を身につけてもらうこと			
授業形態 /Form of Class	講義／グループディスカッション／ プレゼンテーション／双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	毎回の授業で、次の授業で取り扱う例題を提示し、次の授業までにその解決策について考えてもらう。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	イントロダクション： データ活用方法の分類による事業企画の基礎学習		
事前、事後学習ポイント	データ活用の事例とその分類、ビジネスフレームワークとの関係性		
詳細	データ活用の事例を紹介しながら分類し、各種ビジネスフレームワークとの関係性について論じる。これにより、データ活用プロジェクトの発想を論理的に行うための技術を身に付ける。		
第2講			
概要	データ活用のためのシステムインフラⅠ データ収集		
事前、事後学習ポイント	Web上の行動データ収集、オフラインでのデータ収集、各種センサーの発達		
詳細	現実をデータ化するための手法、複数のデータを結合して活用する際に利用可能なキー項目について学ぶ。また、それと各種ビジネスフレームワークとの関係性を理解することで、必要なデータの収集を効率的に行うための発想を論理的に行うための技術を身に付ける。		
第3講			
概要	データ活用のためのシステムインフラⅡ ツール／サービスの整理と事例紹介		
事前、事後学習ポイント	クラウドサービス、オープンソースソフトウェア、フリーソフトウェア		
詳細	データ活用に利用可能なクラウドサービスや、オープンソース／フリーソフトウェアを、それぞれオンプレミス環境やクラウドソースソフトウェアとの関係の中で学ぶ。それにより、データ活用事業のインフラを合理的に選択するための知識を身に付ける。		
第4講			
概要	データ活用プロジェクト推進のためのフレームワーク		
事前、事後学習ポイント	データ分析のフレームワーク、PPDAC、CRISP-DM		
詳細	データ分析のフレームワークである、PPDACやCRISP-DMを紹介しながら、それらの共通点を探り、データ分析の進め方の核心を理解する。それにより、データ活用事業のプロジェクト推進の基礎を理解する。		
第5講			
概要	データ活用のための人材		
事前、事後学習ポイント	データ活用事業におけるステークホルダー、データサイエンティストのスキル定義		
詳細	第4講で学んだデータ活用プロジェクトのフレームワークの各ステップにおいて、どのようなステークホルダーが存在するのかを整理する。その上で、プロジェクトに重要な役割を果たすデータサイエンティストについて、どのようなスキルが必要かを、データサイエンティスト協会のまとめたスキル定義に従って論じる。それによって、データ活用に必要な人材を		

	理解し、事業企画の実現可能性を高められるようにする
第 6 講	
概要	データ活用のための組織
事前、事後学習ポイント	プロジェクトマネジメント、アジャイル開発、スクラム
詳細	データ活用プロジェクトの大きな特徴である、不確実性をマネジメントするためのプロジェクト体制について、アジャイル開発手法のひとつであるスクラムを基礎にして学ぶ。それにより、合理的なプロジェクト体制を設計できるようにする
第 7 講	
概要	データ活用事業提案①
事前、事後学習ポイント	事業企画と提案
詳細	これまで学んだ知識を組み合わせ、実際にデータ活用事業の企画を行い、提案書にまとめる
第 8 講	
概要	データ活用事業提案②
事前、事後学習ポイント	提案のフィードバックと改善
詳細	まとめた提案書をプレゼンテーションし、フィードバックをもらう。また、そのフィードバックに基づいて改善を行ってもらう
教科書 /Textbook	無
指定図書 /Course Readings	無
参考文献・参考 URL /Reference List	戦略的データサイエンス入門 (Foster P. & Tom F. (2014))、スクラム実践入門 (貝瀬岳志 他 (2015))
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席率 (30%) / 講義議論参画度 (20%) / 最終レポート (50%) 3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	優れたデータ活用事業の企画を提案書としてまとめられている
評価: A (89~80 点)	データ活用事業の企画を提案書としてまとめられている
評価: B (79~70 点)	データ活用事業の企画をプレゼンテーションできている
評価: C (69~60 点)	データ活用事業の企画を作成している
評価: F (59 点~)	データ活用事業の企画を作成できなかった
留意点 /Additional Information	無

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	集中ゼミ（統計検定）		
サブタイトル/Sub Title	統計的データの分析入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	なし		
教員/Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ビジネスでのデータサイエンスにおいては、適切な統計的処理を必須である。そのための基礎となるデータの分析に関する統計活用力を修得する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの DP1:知識と理解(最新ビジネス環境の洞察力)と「知の再武装」を達成するために、以下の力について修得する。 (1) 基本的な用語や概念の定義に関して理解できる統計リテラシー力を修得する (2) 用語の基礎的な解釈や2つ以上の用語や概念の関連性を理解できる統計的推論力を修得する (3) 具体的な文脈に基づいて統計の活用ができる統計的思考力を修得する 統計検定 2 級または 3 級に合格する			
授業形態 /Form of Class	講義，グループワーク	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	事前にテキストを読んでおくこと		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	データの変数とグラフでの表現		
事前、事後学習ポイント	データ		
詳細	データ行列を扱える力を修得するために、データで扱う変数について理解する。データの図的表現力を修得するために、データの散らばりのグラフ表現（ヒストグラム、箱ひげ図、折れ線グラフ、幹葉図）について学ぶ		
第 2 講			
概要	データの要約		
事前、事後学習ポイント	分布の代表値による把握		
詳細	データで要因を比較できる力を修得するために、特徴量の違いを理解するデータの特徴量（中央値、平均値、最頻値）について学ぶ		
第 3 講			
概要	散らばり		
事前、事後学習ポイント	特徴量との関係を理解する		
詳細	リスクを評価できる力を修得するために、データの散らばりの指標（四分位数，四分位範囲（四分位偏差））について学ぶ		
第 4 講			
概要	相関関係		
事前、事後学習ポイント	相関係数		
詳細	変数間の関係を量的に理解できる力を修得するために、データの標準化と 2 変数の相関（相関，散布図（相関図），相関係数）について学ぶ		
第 5 講			
概要	確率基礎		
事前、事後学習ポイント	ベン図		
詳細	事象の生起について，確率分布を通じて理解する力を修得するために，確率（独立な試行）について学ぶ。複数の事象の同時生起について理解するために確率（条件付き確率）やベイズの定理について学ぶ		
第 6 講			
概要	分布		

事前、事後学習ポイント	期待値
詳細	代表的ないくつかの分布（二項分布，正規分布，ポアソン分布）について学ぶ。標本分布についても学ぶ
第 7 講	
概要	平均の推定
事前、事後学習ポイント	区間推定，中心極限定理
詳細	標本平均の分布について学ぶ。特に，信頼区間の構成について学ぶ
第 8 講	
概要	まとめ
事前、事後学習ポイント	過誤
詳細	仮説検定について学ぶ。
教科書 /Textbook	講義時に指定する
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	なし
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	統計検定 2 級か 3 級に合格か，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力・仮説構築力を修得
評価： A（89～80 点）	統計検定 2 級か 3 級に合格に近い点数を得たか，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力・仮説構築力のいずれか 3 つの力を修得
評価： B（79～70 点）	統計検定 3 級で一定の評価を得たか，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいずれか 2 つの力を修得
評価： C（69～60 点）	統計検定 3 級で一定の評価を得たか，統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいずれか 1 つの力を修得
評価： F（59 点～）	いずれも修得できない
留意点 /Additional Information	PC により演習も行う

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	マーケティングリサーチ		
サブタイトル/Sub Title	マーケティングリサーチ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Marketing Research		
教員/Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
マーケティングにおいて市場創造活動のための情報を提供することがマーケティングリサーチですが、デジタル化に伴い、きちんとデータを収集することが減ってきている。この講義では、マーケティングリサーチでの目的と手段の点かマーケティングリサーチに関して講義する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2:「知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、エビデンスベースで考え、リサーチの目的に沿った手法を理解して活用にできるようになる。特に、仮説設定型アプローチと収集したデータが同じ集団からのデータとは考えにくいので、そのような場合にも適切な手法を適用できるようになる。また、質的データをも分析できるようにすることも目標の1つである。			
授業形態 /Form of Class	グループワーク、グループディスカ ッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		分析を含めた事前課題レポート作成	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	マーケティングリサーチでのデータ		
事前、事後学習ポイント	EXCEL の操作を復習しておくこと		
詳細	マーケティングリサーチの目的と扱うデータの種類および基礎的な手法について講義する		
第2講			
概要	サンプリングと調査方法		
事前、事後学習ポイント	事前に配布した資料を整理してサンプリングや収集方法の特徴を理解しておく		
詳細	マーケティングリサーチでの基本的な調査方法について講義する。特にデータ品質について も学ぶ		
第3講			
概要	仮説設定と調査データの整理		
事前、事後学習ポイント	外れ値や層化などについて整理しておく		
詳細	リサーチのための仮説設定と、あるテーマについて収集してデータについて分析できるよう に整理する。		
第4講			
概要	マーケティング分析の手法 基礎 データの層別		
事前、事後学習ポイント			
詳細	マーケティングリサーチの目的に応じた基礎的な手法について講義する。ピボット集計やグ ループ別ヒストグラムの活用について講義する。		
第5講			
概要	マーケティング分析の手法 I 要因効果の整理		
事前、事後学習ポイント	相関係数や質的変数の連関係数について整理する		
詳細	質的要因の効果を分析する手法について講義する。主効果モデルを扱うコンジョイント分析 について講義する。		
第6講			
概要	マーケティング分析の手法 II 潜在変数の想定		

事前、事後学習ポイント	潜在変数および因子の直交について整理しておく。
詳細	潜在変数を仮定する因子分析について講義する。
第7講	
概要	マーケティングデータの分析
事前、事後学習ポイント	分析目的や分析データを整理しておく
詳細	目的を設定して、対応するマーケティングデータを分析して、まとめる
第8講	
概要	分析発表
事前、事後学習ポイント	
詳細	目的に応じて分析して結果を発表する
教科書 /Textbook	資料を配布する
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	確率思考の戦略論、「欲しい」の本質～人を動かす隠れた心理「インサイト」の見つけ方
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席：ディスカッション：演習：発表＝30：20：30：20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	目的を明確にして、適切な分析とシミュレーションをもとにそこからの提案を行うことができる
評価： A（89～80 点）	目的を明確にして、適切な分析をもとにそこからの提案を行うことができる
評価： B（79～70 点）	目的を明確にして、適切な分析を行うことができる
評価： C（69～60 点）	目的を明確にして、適切な基礎分析を行うことができる
評価： F（59 点～）	目的が明確でもなく、または、適切な基礎分析ができない
留意点 /Additional Information	データ活用入門や統計的データ分析を履修することが望ましい

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	データ活用入門		
サブタイトル/Sub Title	ビジネスのためのデータ分析入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction to Data Analysis for Business		
教員/Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ビジネスインテリジェンスに代表されるように、ビジネスにおいてデータをもとに解決案を提案することが求められる。その場合、統計学の活用力や知識が必須である。この講義では、統計的思考をもとに実際のビジネス現場でデータをもとに統計学を活用して課題解決ができるデータ分析実践力を修得できることを目指す。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」と「知の再武装」を達成するために、「デジタル技術」をもとに上記目的に資する「課題解決のためのモデル構築」と「データ分析」で統計学を活用して実践的なデータ分析と提案ができるようになる。そのために、調査設計、データ収集、データモニタリング、データ分析、分析結果の発表を行える力を修得する。			
授業形態 /Form of Class	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		毎授業後にチーム毎のレポートを提出すること	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	データの要約と分布		
事前、事後学習ポイント	EXCELの操作を復習しておくこと		
詳細	分析のフレームを活用できる力を修得するために、PDSAと統計で扱う変数の型について学ぶ。分布に関しても学修する。分析ソフトのインストールも行う		
第2講			
概要	仮説構築、データ収集と分析入門		
事前、事後学習ポイント	データについて調べておく 分析ソフトのインストールを行っておくこと		
詳細	討議力や仮説構築力を修得するために、実データについて、チームで仮説を構築し、基礎分析で検討する。データ収集法や箱ひげ図などの視覚化についても講義する		
第3講			
概要	量的変数間の関係を探る：相関関係からの構造発見		
事前、事後学習ポイント	相関係数について整理しておく		
詳細	相関関係と因果関係の違い、および相関関係から因果関係を検討する。		
第4講			
概要	質的要因の効果評価：区間推定を活用する		
事前、事後学習ポイント	推測について理解しておく		
詳細	仮説検証力を修得するために、仮説の検証や区間推定について学修する。中心極限定理についての知識も学修する。		
第5講			
概要	線形モデルの活用：主効果と残差分析		
事前、事後学習ポイント	説明変数と目的変数について整理しておく		
詳細	要因効果を評価できる力を修得するために、重回帰モデルや分散分析などの活用について学修する。残差の分析の重要性についても学修する。		
第6講			
概要	交互作用		
事前、事後学習ポイント	仮説の表現とその評価		

詳細	複数の要因がある場合のモデルを比較検討する力を修得するために、モデルの適合度やついて学修する。
第7講	
概要	発表資料作成
事前、事後学習ポイント	無し
詳細	データプレゼンテーション力を修得するために実際のデータについてPDSAをもとに分析レポートを作成する
第8講	
概要	発表
事前、事後学習ポイント	無し
詳細	チーム別の分析結果発表を行う レポートへのフィードバックを行う。
教科書 /Textbook	無し。講義資料は適宜用意する。
指定図書 /Course Readings	無し
参考文献・参考 URL /Reference List	無し
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席:ディスカッション:グループワーク:小テスト:レポート:プレゼンテーション=20:20:20:0:20:20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価： A（89～80点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価： B（79～70点）	課題設定—データ収集—分析を行える
評価： C（69～60点）	課題設定—データ収集を行える
評価： F（59点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	Google Classroom を用いても資料の配布などを行う。 チームでの学習となるので、積極的にディスカッションなどに参加すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	統計的データ分析		
サブタイトル/Sub Title	なし		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Statistical Data Analysis		
教員/Instructor	久保田 貴文	E-mail	kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ビジネスデータ分析するための最低限のスキルを身につける。統計ソフトウェアの中でも特にRを用いて入門的な内容と、それをデータ分析に活かす為の準備、そして実際の場面で必要な考え方を学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
R言語を用いて、データのハンドリング、グラフの作成、レポートやプレゼンテーションの作成のスキルを修得する。さらに、後半ではビジネスにおけるデータを分析するためのスキルを習得する。 なお、特に達成しようとするディプロマポリシーは、DP2:「知的課題解決力」であり、また、次に達成しようとするディプロマポリシーはDP3:「現状を変革しようとする意志力」である。			
授業形態/ Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	主に事後学習として1講義につき、3時間程度。授業内でのR等の実施を実践してみる。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	イントロ		
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	R入門、パッケージのインストール、radiantによるデータのインポート、1変数データの記述統計、さらにベクトルや行列の演算、並べ替え、データの読み込み・書き出し、さらに繰り返し処理等を学ぶ		
第2講			
概要	平均の検定、平均の差の検定		
事前、事後学習ポイント	事後学修として、平均の差の検定を行うこと。		
詳細	平均の検定、平均の差の検定		
第3講			
概要	分散分析		
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	効果を検証する：検定（平均値の差の検定、比率の差の検定）や分散分析をRを用いて実行する。		
第4講			
概要	回帰分析		
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	市場反応を分析する：Rにより相関分析や回帰分析などを行い関連性を分析する。		
第5講			
概要	回帰分析		
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	市場反応を分析する：Rにより相関分析や回帰分析などを行い関連性を分析する。		
第6講			
概要	ロジスティック回帰分析		
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		

詳細	判断する：Rによりロジスティック回帰分析を行いスパムメールの判別や施策の実施の有無について判断するような分析を行う。
第7講	
概要	独立性の検定
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。
詳細	クロス集計，質的データの適合度検定，カテゴリー間の関連性の検定
第8講	
概要	総合演習・最終課題
事前、事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したRのコードを実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。
詳細	演習：第1講～第7講までの内容をふまえて、課題を課す。
教科書 /Textbook	特に指定しない。毎回資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	特に指定しない。毎回資料を配布する。
参考文献・参考URL /Reference List	特に指定しない。毎回資料を配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（20%），ディスカッション（20%），グループワーク（20%），小テスト（0%），レポート（20%），プレゼンテーション（20%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ （100～90点）	統計的データ分析を実施するための課題設定（仮説の設定），データ収集，データ分析，仮説の検証，課題解決（改善）のための提案が行える。
評価：A（89～80点）	統計的データ分析を実施するための課題設定（仮説の設定），データ収集，データ分析，仮説の検証が行える。
評価：B（79～70点）	統計的データ分析を実施するための課題設定（仮説の設定），データ収集，データ分析が行える。
評価：C（69～60点）	統計的データ分析を実施するための課題設定（仮説の設定）が行え，データ収集もしくはデータ分析が行える。
評価：F（59点～）	統計的データ分析を実施するための課題設定（仮説の設定）しか行えない。
留意点 /Additional Information	講義の中ではプログラミング言語であるRとその応用ソフトであるRstudio および R Markdown を用いて解析する。また，講義のなかでレポートのフィードバックを行う。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	マーケティングデータサイエンス基礎		
サブタイトル/Sub Title	データサイエンスの取り扱い方		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Foundations of Data Science in Marketing		
教員/Instructor	佐藤洋行	E-mail	Sato-h@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
近年、マーケティングにおいてデータ活用は欠くべからざるものとなっている。一方で、取得できるデータの種類も量も膨大になっていく中、意思決定に貢献しないレポートが生産され続けているような現場も見られる。本講義では、マーケティングにおけるデータ活用プロジェクトに数多く携わってきた講師の実践知を体系的に学んでもらうことで、ビジネスにおけるデータサイエンスを用いた創造的思考力を高めるために必要な知識を幅広く身につけてもらう。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーの「思考と判断」を、データドリブン経営の視点で達成するために、マーケティング分野でデータサイエンスを活用するために必要な高い実践知を身につけてもらうこと			
授業形態 /Form of Class	講義／グループディスカッション／ プレゼンテーション／双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	毎回の授業で、次の授業で取り扱う例題を提示し、次の授業までにその解決策について考えてもらう。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	イントロダクション： 意思決定はどのようにして行われるのか		
事前、事後学習ポイント	経済学的な意思決定とデータサイエンス		
詳細	マーケターがデータと向き合ったときに陥りがちな間違いについて、なぜそれが起こるのかを考えることで、意思決定とはどのようなもので、データサイエンスとどのようなつながりがあるのかを論じる。それによって、データ活用に関する実践知を身につけてもらう。		
第2講			
概要	データサイエンスの可能性と限界① 情報とデータ、実験計画		
事前、事後学習ポイント	データの不完全性、実験計画の重要性		
詳細	マーケティングに関するデータの種類も量も膨大になる中で忘れられがちな、データの不完全性と、実験計画の重要性について改めて認識してもらうとともに、マーケターはそれらとどのように向き合うべきかについて論じる。それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。		
第3講			
概要	データサイエンスの可能性と限界② データ分析と意思決定		
事前、事後学習ポイント	データ分析と意思決定の間の溝		
詳細	データ分析の結果を読み解く際に注意すべきことについて論じるとともに、それが意思決定に及ぼす影響について考える。それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。		
第4講			
概要	データサイエンスの可能性と限界③ データ分析の効用		
事前、事後学習ポイント	効用価値説、選好、完備性		
詳細	効用価値説から眺めたときのデータ分析がどのようなものかを議論する。その上で、データ分析の真の価値について考察し、分析結果の他者への説明力を高めるための実践知を身につけてもらう。		
第5講			
概要	マーケティングデータの広がり		
事前、事後学習ポイント	DMP、CDP、オムニチャネル、センサー、RFID		
詳細	マーケティングに活用可能なデータは質も量も増加の一途をたどっている。そのトレンドについて整理し、データ品質管理やデータ整理・編集についての実践知を身につけてもらう。		
第6講			

概要	顧客獲得とデータサイエンス
事前、事後学習ポイント	顧客獲得コスト、ブランド、シェア
詳細	自社データをマーケティングに活用する際に忘れられがちな、ブランド力や市場シェアと獲得顧客数との関係性について改めて認識してもらうとともに、そのような視座から見たときの顧客獲得コストに与えられる意味について議論する。それによって、データに基づく創造的思考力を高めるための実践知を身につけてもらう。
第 7 講	
概要	CRM とデータサイエンス
事前、事後学習ポイント	顧客努力、モーメント、コミュニケーションの一貫性
詳細	マーケターは顧客とのコミュニケーションでフリークエンシーを気にすべきか否か、というテーマについて、顧客努力やモーメントというキーワードから議論する。それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。
第 8 講	
概要	マーケティングと AI
事前、事後学習ポイント	深層強化学習、状態、行動選択、報酬
詳細	AI の基本技術として隆盛を極める深層強化学習について、概要を理解し、そのマーケティングへの応用可能性を探る。翻って、マーケターが何をすべきかを考え、プレゼンテーションをし、フィードバックをもらう。また、そのフィードバックに基づいて改善を行ったものを最終レポートにまとめてもらう。
教科書 /Textbook	無
指定図書 /Course Readings	会社を変える分析の力（河本 薫（2013））、統計学が最強の学問である【実践編】（西内啓（2014））
参考文献・参考 URL /Reference List	不確実性下の意思決定理論（イツァーク・ギルボア（2014））
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（30%）／講義議論参画度（20%）／最終レポート（50%） 3 点の総合評価
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用をプロジェクト化できるだけの整理された知識をレポートとしてまとめることができている
評価： A（89～80 点）	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用に関してアイデアをプレゼンテーションできるほどに知識が整理されている
評価： B（79～70 点）	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用に関してアイデアをもっている
評価： C（69～60 点）	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解している
評価： F（59 点～）	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解していない
留意点 /Additional Information	無

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	DX 変革：AI/Watson に学ぶ知のデジタル化の実践知		
サブタイトル/Sub Title	なし		
英文科目名/Course Title(Eng.)	なし		
教員/Instructor	鈴木 至	E-mail	Suzuki-i@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	実践知考具/ データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
デジタル変革時代の企業経営において、テクノロジーによるデータ活用を推進することが競争力の源泉になる。デジタルトランスフォーメーション（DX 変革）の戦略・シナリオの中で、知のデジタル化の一つである人工知能を題材に、その理解とデータ評価・整備について IBM Watson のケーススタディを通じて実践知を学習する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP3 現状を変革しようとする意志力」と「知の再武装」を達成するために、人工知能もとに上記目的に資する「業務検討(ユースケース)」と「データ評価」を通じて、変革に向けた提案が出来るようになる。			
授業形態 /Form of Class	講義、個人ワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり (第5講 AI デモ 見学予定)
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	中間・最終プレゼンテーション資料作成。 ユースケース、データアセスメントのまとめ。 資料・図書・文献の熟読。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	事前学習：		
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②人工知能の事例紹介と企業のケーパビリティ(講義)、③人口知能の活用アイデア出し、④次回への課題提示（AI 活用のアイデア候補の抽出）		
第2講			
概要	ユースケース候補の抽出と選定		
事前、事後学習ポイント	事前学習(課題)：アイデア候補の作成		
詳細	①活用アイデアからユースケースを導出、②ユースケースの評価、優先順位付、③シナリオ作り、④対象データ候補の検討、⑤次回の課題提示(ユースケース詳細化)		
第3講			
概要	価値を最大化するシナリオの詳細化		
事前、事後学習ポイント	事前準備：ユースケースの準備（一覧と候補）		
詳細	①人工知能活用のシナリオ詳細化(講義)、②シナリオ詳細化の実践、③必要となるデータ検討、④次回の課題提示(データの調査と課題)		
第4講			
概要	データアセスメント(評価と整備)の実践		
事前、事後学習ポイント	-		
詳細	①データアセスメント手法(講義)、②設定シナリオに基づきデータアセスメントの実践と結果プレゼン、③次回の課題提示(中間レポート作成の指針)		
第5講			
概要	中間レポートのプレゼン		
事前、事後学習ポイント	事前準備：中間レポート作成		
詳細	①人工知能活用のユースケースのプレゼンと相互評価、③次回の課題提示(学習モデル設計)		
第6講			
概要	学習モデルの設計と人工知能の性能評価		
事前、事後学習ポイント	-		

詳細	①学習モデル設計(講義)、②人工知能の性能評価(講義)、③学習モデル設計と性能評価の実践、④最終レポートの作成指針
第7講	
概要	最終レポートのプレゼン
事前、事後学習ポイント	事前学習：最終レポート、プレゼン準備
詳細	①最終レポートのプレゼン、②活用モデル実践における課題・提言の検討
第8講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前学習：最終レポートの追加・修正
詳細	①本講義のまとめ、②人工知能、データ活用における課題・提言の意見交換
教科書 /Textbook	なし、適宜資料配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(20%)、個人ワーク(30%)、プレゼン内容(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	人工知能によるデータ活用を実践する能力が高く、プレゼン内容が課題解決に寄与するとともに、提言とその解決策を具体的に提示できている
評価： A（89～80 点）	人工知能によるデータ活用の実践手法を理解しており、プレゼン内容が課題解決に寄与している
評価： B（79～70 点）	人工知能を活用した解決策を定義できる
評価： C（69～60 点）	人工知能を活用した解決策に課題がある
評価： F（59 点～）	出席不良で、人工知能を活用した解決策を導き出せない
留意点 /Additional Information	より体系にそってデジタル変革を理解するために、DX 変革 他 2 講座とあわせて受講することをお勧めします。 ・DX 変革：顧客起点のトランスフォーメーション実践知（森 祐之先生） ・DX 変革：データサイエンスによる企業変革（前田 英志先生）

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	DX 変革：データサイエンスによる企業変革		
サブタイトル/Sub Title	データサイエンスを用いた企業変革力を身にまとう		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Enterprise Transformation driven by Data Science		
教員/Instructor	前田 英志	E-mail	hideshi@jp.ibm.com
科目群/Course Classification	実践知考具/データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
データサイエンスは手段であり、目的は企業を変革し大きなビジネス価値を実現することです。データサイエンスを用いた企業の変革には、①ビジネス課題をデータサイエンスを用いて解くこと ②データサイエンスの力を活用するためのデータ基盤を整備すること ③データサイエンスを推進するための組織を立ち上げること ④データサイエンスに関わる高度人材を育成すること の4つが必要となります。これら4つが、融合して初めて大きなビジネス価値を実現できます。当学では、これら4つを自身に関連する企業を用いて具体的に学び、データサイエンスを用いた企業変革が行えるようになることを目指します。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2：知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、上記目的に資する「データサイエンスによるビジネス課題の解決検討」、「データ基盤検討」、「データ推進組織の設計」、「データに関わる高度人材の育成方法の検討」を通じて、データサイエンスを用いた企業変革を体系的にご自身で提言できるようになることを目標とします。			
授業形態/Form of Class	講義、個人ワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	中間・最終プレゼンテーション資料作成。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：自社もしくは他企業が、データドリブン経営の成熟度マップでいうとどのセグメントにいるのかを調査する（調査結果を次講で議論する）		
詳細	①オリエンテーションと教員、受講生の自己紹介 ②「データドリブン経営とは？」（講義とディスカッション）		
第2講			
概要	データサイエンスを用いた変革プロジェクトの理解		
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：データサイエンスを用いた変革プロジェクトで自社もしくは他企業に適用できるものを体系的に洗い出す（調査結果を次講で議論する）		
詳細	①「データドリブン経営の成熟度」の調査結果の発表とディスカッション ②データサイエンスを用いた変革プロジェクトの講義とディスカッション		
第3講			
概要	データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの理解		
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーのが、自社もしくは他企業において、具体的にどうなっているかを調査する（調査結果を次講で議論する）		
詳細	①「データサイエンスを用いた変革プロジェクト」の調査結果発表とディスカッション ②データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの講義とディスカッション		
第4講			
概要	データサイエンスを支える組織の理解		
事前、事後学習ポイント	事前：なし 事後：データサイエンスを支える組織が、自社もしくは他企業において、具体的にどの部門が担っているかを調査する（調査結果を次講で議論する）、		
詳細	①「データサイエンスを用いたシステム」に関する調査結果発表とディスカッション ②データサイエンスを支える組織の講義とディスカッション		
第5講			

概要	データサイエンスを活用するために必要な人材の理解
事前、事後学習ポイント	事前：事後：データサイエンスを活用するために必要な人材が、自社もしくは他企業において、具体的にどこにいるかを調査する（調査結果を次講で議論する）
詳細	①「データサイエンスを支える組織」の調査結果の発表とディスカッション ②データサイエンスを活用するために必要な人材の講義とディスカッション ③最終プレゼンテーションのやり方の説明とフォーマットの配布
第 6 講	
概要	中間プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	事前：データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後：
詳細	①「データサイエンスを支える人材」の調査結果の発表と議論 ②データサイエンスを用いた企業変革の中間プレゼンと議論（プレゼンに対してはフィードバックがあります。）
第 7 講	
概要	最終プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	事前：中間発表のコメントを元に、データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後：
詳細	①データサイエンスを用いた企業変革の最終プレゼンと議論（プレゼンに対してはフィードバックがあります。）
第 8 講	
概要	ふりかえりと明日への一歩
事前、事後学習ポイント	事後：今後ご自身が実施するとコミットした内容を実務の中で意識する
詳細	①受講生のふりかえり ②今後に向けたディスカッション
教科書 /Textbook	なし、適宜資料配布
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼン内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が非常に優れている。
評価： A（89～80 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が良い。
評価： C（69～60 点）	データサイエンスを用いた企業変革に関わる議論、プレゼン内容が平均程度。
評価： F（59 点～）	出席不良で、議論、プレゼン内容に問題が多い。
留意点 /Additional Information	より体系にそってデジタル変革を理解するために、DX 変革 他 2 講座とあわせて受講することをお勧めします。 ・DX 変革：顧客起点トランスフォーメーションの実践知（森 祐之先生） ・DX 変革：AI/Watson に学ぶ知のデジタル化の実践知（鈴木 至先生）

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	DX 変革：顧客起点のトランスフォーメーション実践知		
サブタイトル/Sub Title	エクスペリエンス（体験）デザインからのデジタル変革アプローチ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Customer Experience driven Digital Transformation		
教員/Instructor	森 祐之	E-mail	msmori@jp.ibm.com
科目群/Course Classification	実践知考具/データドリブン経営	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
AI（Augmented Intelligence）をはじめとする、デジタル時代における先進技術のポテンシャルを引き出すには、解決すべき課題の深い洞察に基づく、エクスペリエンス（顧客体験、ユーザー体験）のデザインが重要です。本講義では、企業や社会において、デジタル・トランスフォーメーションを企画、推進できるための実践知を身につけることを目指します。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP5：よりよいイノベーション起こす生き方」と「実践知」を達成するために、上記目的に資するデジタル・トランスフォーメーションの企画、推進の実践を通じて、解決すべき課題の深耕、体験のデザイン、技術の探索を含む要諦を学びます。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）程度の具体的な学習内容	必要な時間に準じる プレゼンテーション資料作成。 顧客観察、課題検討、技術情報収集。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	事前：デジタル・トランスフォーメーション事例の調査		
詳細	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②デジタル・トランスフォーメーションとは、③次回への課題提示（テーマ案事前検討）		
第 2 講			
概要	デジタル・トランスフォーメーションのケーススタディ		
事前、事後学習ポイント	事前：自身が題材とする検討テーマの選定		
詳細	①グループワークによるデジタル・トランスフォーメーションの成功要因分析とプレゼン、②デジタル・トランスフォーメーション検討テーマの選定、③次回への課題提示（顧客観察）		
第 3 講			
概要	課題（ペインポイント）の深耕		
事前、事後学習ポイント	事前：顧客観察により解決すべき課題に関する理解深化		
詳細	①グループディスカッションによる解決すべき課題の特定と深耕、②課題解決後の姿（顧客体験、ユーザー体験）の定義、③次回への課題提示（中間プレゼン準備）		
第 4 講			
概要	デジタル・トランスフォーメーション企画中間プレゼン		
事前、事後学習ポイント	事前：顧客体験、ユーザー体験の洗練、中間プレゼン準備		
詳細	①グループごとの中間プレゼンと相互評価、②ペインポイントと解決後の姿の深耕、③次回への課題提示（先進技術動向調査）		
第 5 講			
概要	体験の洗練と先進技術の探索		
事前、事後学習ポイント	事前：中間プレゼンフィードバックを踏まえた顧客体験、ユーザー体験の洗練、先進技術のポテンシャルと限界の調査		
詳細	①洗練された体験の確認、②先進技術の紹介、③グループディスカッションによる課題解決アイディアの検討、④次回への課題提示（実現に向けたリスクの検討）		
第 6 講			
概要	検証アプローチ		
事前、事後学習ポイント	事前：課題解決アイディア実現に向けたリスクと対策の検討		
詳細	①グループディスカッションによるリスクの検討、②デジタル・トランスフォーメーション		

	実施アプローチの検討、③次回への課題提示（最終プレゼン準備）
第7講	
概要	最終プレゼン
事前、事後学習ポイント	事前：プレゼンにおける役割分担
詳細	①最終プレゼンと相互評価、②企画の洗練
第8講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	事前：デジタル・トランスフォーメーション実践にあたっての壁
詳細	①本講義のまとめ、②デジタル・トランスフォーメーション実践に向けての意見交換
教科書 /Textbook	なし。適宜資料配布。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	なし。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、グループワーク参加(40%)、プレゼン(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策の内容が高度で優れており、すぐに所属組織等における実践が期待できる。
評価： A（89～80 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策の内容が高度で優れている。
評価： B（79～70 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策の内容が良い。
評価： C（69～60 点）	解決すべき課題、先進技術を活用した解決策が定義できている。
評価： F（59 点～）	出席不良で、課題及び解決策の定義に貢献できていない。
留意点 /Additional Information	受講生自身が、この講義を通じてデジタルトランスフォーメーションを企画する題材（強い課題意識）を持っていること。 より体系にそってデジタル変革を理解するために、DX 変革 他 2 講座とあわせて受講することをお勧めします。 ・DX 変革：データサイエンスによる企業変革（前田 英志先生） ・DX 変革：AI/Watson に学ぶ知のデジタル化の実践知（鈴木 至先生）

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	医療介護業界の未来		
サブタイトル/Sub Title	The future perspective of healthcare and long term care		
英文科目名/Course Title(Eng.)	毎年 2 兆円弱成長する分野とは		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
医療はコアの国民医療費の部分のみで 40 兆円超、周辺を入れればその 2 倍にもなろうかという巨大な産業分野になっている。介護ももはや 10 兆円産業である。 本講座では、医療/介護のコア部分、医療/介護周辺産業について経営学の視点で論じる。 その時々環境変化・政策変化に応じてトピックスは柔軟に対応する。並行される医療介護オムニパス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれなかった点を深めることも可能である。 秋学期に開講される医療介護オムニパス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれない点を深めることも目的としている。			
到達目標/Course Goals			
最近の医療/介護の状況を展望し今後を考える。ディプロマポリシーで知識と理解を達成するために、各自 1 回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめることができるようになること。			
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	自己紹介、医療介護制度概要		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	自分の持つ問題点を明らかにする		
第 2 講			
概要	海外の医療		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	国際比較を行う。		
第 3 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める		
第 4 講			
概要	受講生の選択トピックスによる演習		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第 8 講までに全員が発表する		
第 5 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて外部講師が講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める		
第 6 講			

概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第7講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第8講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「命の値段はいくらなのか?」(角川新書)、「医療危機」(中公新書)
参考文献・参考URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業参加(50%)、個人の発表(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+（100～90点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価：A（89～80点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価：B（79～70点）	課題設定—データ収集—分析を行える
評価：C（69～60点）	課題設定—データ収集を行える
評価：F（59点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	医療介護領域のマネジメント		
サブタイトル/Sub Title	Healthcare and long term care management		
英文科目名/Course Title(Eng.)	新たなチャンスを探る		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
年々の医療介護費用の増加は2兆円を超す。これをコストとみればマイナスであるが、市場の広がりともいえる。一方、倫理的な部分や規制が多い業種であるがゆえに、その中で生きていくにはかなりの修練が必要になる。当該講座では、医療や介護事業者あるいはその分野に外部から関心を持つ者を対象にし、複雑な業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。議論を多く行い、また外部講師も以前とは異なるために、前期後期の連続履修が理解を深めることになると思う。			
到達目標/Course Goals			
医療介護業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。ディプロマポリシーでの知識と理解を達成するために、各自1回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめることができるようになること。			
授業形態/Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	自己紹介、医療介護制度概要		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	自分の持つ問題点を明らかにする		
第2講			
概要	海外の医療		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	国際比較を行う。		
第3講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める		
第4講			
概要	受講生の選択トピックスによる演習		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめること。第8講までに全員が発表する		
第5講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）により理解を深める		
第6講			
概要	受講生の選択トピックスによる演習		

事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第7講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第8講	
概要	受講生の選択トピックスによる演習
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「医療危機」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「日本の医療 比べてみたら 10 勝 5 敗 3 分けて日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業参加(50%)、個人の発表(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+（100～90点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価：A（89～80点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価：B（79～70点）	課題設定—データ収集—分析を行える
評価：C（69～60点）	課題設定—データ収集を行える
評価：F（59点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	医療介護マネジメントの実践知を学ぶ		
サブタイトル/Sub Title	事例から積み上げよう		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Inovation for the healthcare		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知／ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
医療介護分野は、もはや制度の変更だけではなく、民間からの新しいイノベーションがなければ解決できない問題を多く抱えているのではないか。このオムニバス講義では、多摩大学大学院の OB/OG あるいは現場で実践知を持っている方にプレゼンテーションをしていただき、それに対しての議論を行うことで、深めていきたい。			
講義要旨			
ディプロマポリシーでの思考と判断を達成するために、医療介護分野での様々な取り組みを知ること、自らの問題解決や特定課題論文の作成に役立てることを目標とする。			
授業形態/Form of Class	講義、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	最新の情報について毎回資料が配られるので、十分な復習が望まれる。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて理解し議論する 最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		
第 2 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		
第 3 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		
第 4 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		
第 5 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		
第 6 講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める		

第7講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
第8講	
概要	外部講師の講義と議論
事前、事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話（双方向）、ディベートにより理解を深める
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「命の値段はいくらなのか?」(角川新書)「日本の医療 比べてみたら10勝5敗3分けで日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業参加(50%)、レポート(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+（100～90点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価：A（89～80点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価：B（79～70点）	課題設定—データ収集—分析を行える
評価：C（69～60点）	課題設定—データ収集を行える
評価：F（59点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	異業種間のコミュニケーション術		
サブタイトル/Sub Title	これからのイノベーションを起こすために		
英文科目名/Course Title(Eng.)	The Art of Communication among different departments		
教員/Instructor	白井 雅弓	E-mail	shirai-a@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
近年、医療業界等、急速な技術革新を伴う業界において、様々な分野の専門家が協力して仕事をする機会が増えている。こうした際に円滑なコミュニケーションを行い業務を遂行するためには、I. 多様な専門的分野が入り組んだ複雑な現状を分析する技術、II. 専門的知識の共有が困難な中での情報の共有・理解、III. 共有した情報を用いてチームとして意思決定をする技術が必要とされている。 これらの技術を身につける第一歩として、会話の基本的構造に理解を深め、自分の意見の構造や相手の意見の妥当性を考慮する能力を習得する。次に、基礎的な企画の作成法・分析法について理解を深める。また、企画・分析の根拠となる専門性の高い情報(論文等)の妥当性について分析を実際に講義内で行い、最初に学んだ基本的論理構造の理解を深める。これらの講義・演習と並行して、自分の考えの構成の仕方、考えの根拠となる専門的情報(学術論文等)の妥当性の判断方法、情報から自分の考えを導く過程の妥当性の判断方法等を学ぶ。 最後に、実際の変化する現場へ対応する能力を向上させるため、可能ならば受講者の決めた課題に対する分析・企画をグループで演習する。この演習を通し、オペレーション等の改善方法をシステム思考等の概論を用いて学ぶ。 尚、本講義の対象者として、医療業界をはじめとした、技術革新や政策の変化により変化する業界に興味のあるもの・論文等の専門的文書に苦手意識があるものを想定する。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「イノベーターシップ」を実現するために、受講生自身の企画等についての考えを円滑に意見交換できるよう、「情報収集能力と分析力」、「実践的教養」を身につける。			
授業形態 /Form of Class	講義、双方向、グループワーク、 ディベート、	学外学習 /Off-Campus Learning	無 (希望により検討)
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	資料・参考文献の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	自己紹介・オリエンテーション、意見の解釈・構築方法 I		
事前学習ポイント	特になし		
詳細	自己紹介・オリエンテーション、 意見提示や相手の意見の評価解釈を円滑にする要素についての検討 前提・想定・結論についての学習①		
第2講			
概要	意見の解釈・構築方法 II 企画作成法 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)の予告		
事前、学習ポイント	これまでの講義の復習 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)のテーマ探し		
詳細	前提・想定・結論等の論理構造についての学習② 企画作成法の基礎 (SWOT 分析等、企画の妥当性の分析方法について紹介)について 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)の詳細説明・質疑応答		
第3講			
概要	論理的思考に基づく学術論文の読み方		
事前学習ポイント	本講義の復習 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)のテーマ探し		
詳細	専門的情報を吟味する必要性について 論文の基本的構造・エビデンスのレベルをはじめとした論文の質の判断法について		
第4講			
概要	企画のための論理思考に基づく学術論文の読み方(演習) I		

事前学習ポイント	これまでの講義内容の復習 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)のテーマ探し I
詳細	受講者の選択した学術論文について実際に分析 ※受講者の理解度・希望により、内容を適宜変更予定
第 5 講	
概要	企画のための論理思考に基づく学術論文の読み方(演習) II
事前学習ポイント	これまでの講義内容の復習 論理的思考に基づく学術論文の読み方(演習)のテーマ探し II
詳細	受講者の選択した学術論文について実際に分析 ※受講者の理解度・希望により、内容を適宜変更予定
第 6 講	
概要	システム思考等の概論 組織でのイノベーションの考え方、現行システムの是正法 I
事前学習ポイント	これまでの講義内容の復習 現行システムの是正法を実際に検討したい身の回りの事例について検索
詳細	システム思考等、現場の複雑性に対するアプローチについて概説・検討 現行システムの是正法について受講生の選択した事例を検討 I
第 7 講	
概要	組織でのイノベーションの考え方、現行システムの是正法 II
事前学習ポイント	現行システムの是正法について受講生の選択した事例を検討 II ※受講者の理解度・希望により、内容を適宜変更予定
詳細	現行システムの是正法について受講生の選択した事例を検討 II ※受講者の理解度・希望により、内容を適宜変更予定
第 8 講	
概要	本講義のまとめ
事前学習ポイント	これまでの講義内容の復習
詳細	本講義全体を振り返り、異業種間で働く際の留意点について検討、意見交換
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	真野俊樹 (2006)『入門 医療経済学』 Marc Roberts 他 (2010)『実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか』 福原俊一 (2013)『臨床研究の道標－7つのステップで学ぶ研究デザイン』 Peter M. Senge (2011)『学習する組織 システム思考で未来を創造する』 Trisha Greenhalgh (2016)『読む技術 論文の価値を見抜くための基礎知識』 末吉孝生 (2014)『コレが欲しかった！と言われる「商品開発」のきほん』 野矢茂樹(2018)『増補版 大人のための国語ゼミ』
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席 (30%)、授業内での議論・グループワーク貢献 (70%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+ (100～90 点)	論点の指摘が鋭く、議論が優れている
評価： A (89～80 点)	指摘すべき論点に考慮することができ、議論もよい
評価： B (79～70 点)	議論において、自身の考慮した論点に基づいた論理展開が可能
評価： C (69～60 点)	論点を考慮する意欲があり、議論に参加する意欲が感じられる
評価： F (59 点～)	出席不良で、議論に課題が多い
留意点 /Additional Information	本講義では医療業界を主に取り上げますが、他業界における異業種間の連携についても役立つように授業を構成しています。 対象者として、医療業界をはじめとした、技術革新や政策の変化により変化する業界に興味のあるもの・論文等の専門的文書に苦手意識があるものを想定しています。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	医療介護の成長戦略		
サブタイトル/Sub Title	成長するヘルスケア分野で生き残り発展する組織としての戦略の方向性		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Growth strategy of healthcare and long term care		
教員/Instructor	末松 清一	E-mail	Ksue2006@fa2.so-net.ne.jp
科目群/Course Classification	ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
超高齢化社会の到来を控えて、医療・介護業界は我が国の成長分野として注目されている。一方で医療・介護組織は組織のマネジメントや戦略思考の脆弱性が指摘されている。医療・介護分野を成長産業と捉え、組織を戦略的に成長させるためにはどうあるべきか、成長戦略作成プロセスを、先進事例研究などを通じて学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの DP1：「最新ビジネス環境の洞察力」および DP2：「知的課題解決力」を達成するために、 ・激変する医療・介護組織を取り巻く環境を理解し、医療・介護組織の経営課題を明らかにする。 ・医療介護組織の戦略スタッフに必要な課題解決手法やスキルノウハウを習得する。 ・成長産業の視点から成長戦略策定プロセスを理解し、実践に活用できるレベルに到達する。			
授業形態 /Form of Class	講義およびグループワーク、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなどを組み合わせて進める。	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各回の講義内容の復習と整理を必ず行うこと。 参考図書等の熟読。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	医療・介護組織を取り巻く経営環境と各組織の戦略課題		
事前、事後学習ポイント	医療・介護組織を取り巻く経営環境および自組織の戦略課題の整理		
詳細	制度ビジネスとして守られてきた医療・介護業界に起きている経営環境の変化を理解し、その中であって自組織の戦略課題は何かを講義とディスカッションを通して理解する。 宿題：第 1 講での気づきをベースに自組織の現況を分析しレポートにまとめてくること。		
第 2 講			
概要	医療介護組織の成長戦略概論		
事前、事後学習ポイント	参考文献等を通じて、経営戦略（成長戦略）の基本を理解する。		
詳細	医療・介護業界を成長産業と捉え、企業の成長戦略モデルを学ぶ。そこから自組織に適合する成長戦略モデルは何かを講義とチームワークで理解を深める。 宿題：第 2 講での学びを再整理すること。		
第 3 講			
概要	自組織の戦略課題を明らかにする～未来対応型課題解決ツールを活用して		
事前、事後学習ポイント	戦略課題を適切に分析・把握できるスキルを身につけること。		
詳細	自組織の成長戦略を実現することを前提に置き、フレームワークを使って現状を分析し、戦略課題を明らかにする。講義とディスカッションを通じてフレームワークの理解を深める。 宿題：授業で明らかにした自組織の戦略課題の内容を、再度フレームワークを使って精緻化してくる（提出を求める）		
第 4 講			
概要	成長戦略策定プロセスの明確化～MB フレームをベースとして		
事前、事後学習ポイント	日本経営品質賞アセスメント基準書を熟読し、内容の理解を深め、戦略実現のための社内プロセスを明らかにする。		
詳細	MB フレームを活用して、成長戦略を実現できる組織力をどのように構築すべきかを講義とグループワーク、ディスカッションを通じて学ぶ。 宿題：MB フレームを使って自組織の戦略実現に必要な組織力とプロセスを再整理してくる（提出を求める）		
第 5 講			
概要	演習（ケーススタディ）－ 1. ～医療組織の成長戦略研究		
事前、事後学習ポイント	ケーススタディで取り上げる医療組織の成長戦略および戦略実現の組織力を理解する。		

詳細	高い組織力を有し、成功裏に成長戦略を進めている医療組織（3例を取り上げる）を取り上げ、講義とグループワークでその成長戦略モデルを分析する。 宿題：取り上げたケースと自組織との対比を行うことで、自組織の戦略と組織力の関係性を深堀する。
第6講	
概要	演習（ケーススタディ）－2．～介護組織の成長戦略研究
事前、事後学習ポイント	ケーススタディで取り上げる介護組織の成長戦略および組織力を理解する。
詳細	高い組織力を有し、成功裏に成長戦略を進めている介護組織（2例を取り上げる）を取り上げ、講義とグループワークでその成長戦略モデルを分析する。 宿題：取り上げたケースと自組織との対比を行うことで、自組織の成長戦略モデルを検証する。
第7講	
概要	課題発表～全受講生によるプレゼンテーションとディスカッション
事前、事後学習ポイント	自組織の成長戦略モデルを仮説設定し戦略課題とその解決策をPPにまとめ、プレゼンテーションできるようにすること。
詳細	第1講から第6講までで学び、理解を深めた成長戦略モデルと戦略実現に必要な組織力の視点から自組織を取り上げてプレゼンテーションを行う。発表後は全員でのグループ・ディスカッションを通じて、理解を深める。（プレゼンテーションは全員行うが受講生数によっては、第8講も発表にあてる）
第8講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーションの準備
詳細	プレゼンテーションおよび全体の振り返り。 まとめとして講義。第1講から第7講までの学びをグループ・ディスカッションで全体の整理に資する。
教科書 /Textbook	なし。講義資料を適宜配布する。
指定図書 /Course Readings	無し
参考文献・参考URL /Reference List	「リーダーのための戦略思考」富山和彦・岸本光永 編著、日本経済新聞出版社 「非営利組織のマネジメント」島田恒著 東洋経済新報社 「2019年度版 日本経営品質賞アセスメント基準書」日本経営品質賞委員会
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席（30%）、授業中の議論参加（30%）、プレゼンテーションの内容（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+（100～90点）	医療・介護組織の成長戦略を理解し、授業でグループワークやディスカッションに積極的に参加。優れたプレゼンテーションの内容であること及び出席率もよいこと。
評価：A（89～80点）	医療・介護組織の成長戦略を理解し、授業でグループワークやディスカッションに積極的に参加。優れたプレゼンテーションの内容であること。
評価：B（79～70点）	授業内で積極的な議論へ参加し、プレゼンテーションの内容が良いこと。
評価：C（69～60点）	授業内での議論参加およびプレゼンテーション内容は普通である。
評価：F（59点～）	出席不足。授業内での議論参加およびプレゼンテーション内容が不十分である。
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが戦略実践の基礎であるので議論には積極的に参画すること。さらに、授業を通して自組織に適した成長戦略策定プロセスを展開できるスキルと知識および課題解決力を身につけること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	地域包括ケアのビジネスモデル		
サブタイトル/Sub Title	SDGs の GOAL11 住み続けられるまちづくりを医療介護ビジネスで支える		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business method of the Community- based Integrated Care System		
教員/Instructor	石井 富美	E-mail	ishii-f@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ヘルスケア	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
地域包括ケアシステムにおける医療介護の専門職の役割を知り、持続可能なビジネスモデルを構築する。			
到達目標/Course Goals			
地域包括ケアシステムの本質を知り、医療介護の専門職の役割を知ること、新しい価値観を持つことができる。 ディプロマポリシーでの最新ビジネス環境の洞察力を達成するために、社会保障制度改革の展望を知る。 ヘルスケア分野のデータを新たなビジネスモデルに活かし、人口減少社会の中でのまちづくり、コミュニティづくりをプランニングすることでディプロマポリシーの周囲を巻き込みイノベーションを実現する力を身につける。			
授業形態 /Form of Class	講義とケース資料を踏まえて、課題によるグループディスカッションを行います。各自が考えたビジネスモデルのプレゼンテーションを行っていただきます。	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義に必要な参考資料には事前に目を通しておいてください。	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	地域包括ケアシステム時代の多職種間コミュニケーション		
事前、事後学習ポイント	厚生労働省の HP、地域包括ケアシステムについて事前に目を通しておく。		
詳細	域包括ケアシステム時代にはダイバーシティに対応できるコミュニケーション力が求められます。セルフメディエーションを用いたコミュニケーション力を講義とロールプレイで学びます。		
第 2 講			
概要	地域包括ケアシステムにおける「医療」の役割		
事前、事後学習ポイント	グループディスカッションを踏まえて、自分の考えを事後レポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。		
詳細	地域包括ケアシステムのフィールドは地域での「暮らし」です。少子高齢化社会の「暮らし」をささえる医療の役割を共に考えます。また、地域の中での多世代、様々なハンディキャップを越えて交流する仕組みを作り、医療・介護の専門職が関わりながら地域の暮らしの中で生き、暮らしの中で看取る仕組みを先進事例から学びます。		
第 3 講			
概要	保健医療 2035 を読み解く		
事前、事後学習ポイント	グループディスカッションを踏まえて、自分の考えを事後レポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。		
詳細	人口減少社会における社会保障制度の在り方を示した保健医療 2035 を読み解き、今から 20 年かけてヘルスケアに携わる専門職は何をしていく必要があるのか、行政、企業、民間団体に求められている役割を共に考えます。		
第 4 講			
概要	個人の尊厳と QOL・QOD 人生会議のあり方		
事前、事後学習ポイント	グループディスカッションを踏まえて、自分の考えを事後レポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。		
詳細	人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会の資料から、死生観の多様性への対応を考えていきます。		
第 5 講			

概要	ヘルスケア分野の IT 化、情報利活用の可能性
事前、事後学習ポイント	グループディスカッションを踏まえて、自分の考えを事後レポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。
詳細	AI、ロボティクスなど医療介護分野の技術革新が進む中、科学的介護という考え方も進んできている。医療介護健康などのヘルスケアデータの利活用の可能性を考え、新たなビジネスを考えていきます。
第 6 講	
概要	地域包括ケア時代の「連携」 医療機関・企業・研究機関・行政などの新しい連携の形
事前、事後学習ポイント	グループディスカッションを踏まえて、自分の考えを事後レポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。
詳細	地域包括ケア時代の「連携」 医療機関・企業・研究機関・行政などの新しい連携の形、専門分野での連携だけではなく、リビングラボも視野に入れた幅広い連携について、事例を紹介しながら、自分たちのリソースを活用した新しい取り組みを共に考えます。
第 7 講	
概要	受講生による発表
事前、事後学習ポイント	受講生の発表についての意見をレポートとして提出していただきます。
詳細	これまでの講義、ディスカッションから考えたビジネスモデルの発表をしていただきます。レポートは講評、採点後に返却します。
第 8 講	
概要	受講生による発表の講評と先行事例紹介
事前、事後学習ポイント	自らのビジネスモデルをレポートとして提出していただきます。レポートは講評、採点後に返却します。
詳細	すでに実装されている地域包括ケアモデル、新規ビジネスなどを紹介し、現状と課題、可能性などについて情報提供を行います
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	医療・介護制度改革に向けた病院経営戦略 石井富美著 出版社：日本医療企画 ISBN978-4-86439-607-3
参考文献・参考 URL /Reference List	内閣府、経済産業省、厚生労働省などのホームページから下記のキーワードの資料を参考文献とします ・地域包括ケアシステム資料 ・次世代ヘルスケア産業協議会資料 ・認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）・保健医療 2 0 3 5 ・未来投資戦略 ・次世代医療基盤法 ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	ビジネスモデル発表（30%）、ディスカッションへの参加(20%)、各回のレポート（30%）授業への参加態度(20%) となるように重み付けをして、満点が 1 0 0 点になるように合計得点を算出する。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A*（100～90 点）	上記合計得点で 8 0 点以上で、持続可能なビジネスモデルを構築できる
評価： A（89～80 点）	上記合計得点で 7 0 点以上で、持続可能なビジネスモデルを構築できる
評価： B（79～70 点）	上記合計得点で 6 0 点以上で、地域包括ケアシステムでの医療介護の役割を理解できる
評価： C（69～60 点）	上記合計得点で 5 0 点以上で、地域包括ケアシステムを理解できる
評価： F（59 点～）	上記合計得点で 5 0 点以上
留意点 /Additional Information	講義の中でビジネスモデル発表ができなかった場合、レポートの提出により採点を行います。配分は 20% となります。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	アジアビジネス戦略とグローバル共創		
サブタイトル/Sub Title	“アジアの世紀”に勝ち抜く経営を探る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Strategy in Asia and Global Knowledge Synthesizing		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
2015年ASEAN経済共同体が発足し、中国の発展の共に21世紀は“アジアの世紀”といわれている。 日本企業が経済のグローバル化の進展の中、アジア（とりわけASEAN）でどう知の共創を進めてきたか real story を丹念に掘り下げながらその歴史、現状・課題を探る。			
到達目標/Course Goals			
日本企業のグローバル経営がどのように展開されてきたか、製造業・小売業のアジアでの実践知を整理しながら、経営のグローバル化とは何かの本質に迫り、グローバルビジネスリーダーとしてDP1にあるように「最新ビジネス環境の洞察力」を修得する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、ゲストスピーカー、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		課題図書、推薦図書研究 関心ある産業の ASEAN でのグローバル経営の歴史と現状の課題調査、研究	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	経済活動のグローバル化と企業経営		
事前、事後学習ポイント	18世紀–20世紀のグローバル産業史（日本・自国）の整理 課題図書 杉山伸也著『グローバル経済史入門』		
詳細	18世紀産業革命以降現在までのグローバル経済の流れと現状について学ぶ 1990年初頭から進展した経営のグローバル化とは何か？を整理する		
第2講			
概要	アジア経済のグローバル化と日本企業		
事前、事後学習ポイント	関心ある産業・企業（日本企業）のアジア進出を整理しておくこと 課題図書 進藤榮一著『アジア力の世紀』		
詳細	アジアの諸国は経済のグローバル化進展の中でどう生き抜いてきたのか？ また日本（企業）はどのように関わってきたのか？		
第3講			
概要	日本企業のグローバル化（自動車産業）とアジア進出		
事前、事後学習ポイント	課題図書 野中郁次郎・徳岡晃一郎著『世界の知で創る』		
詳細	日本の自動車産業は何故グローバル展開に成功したか？ また何故アジア（ASEAN）で圧倒的なシェアを確保できているか？		
第4講			
概要	日本小売業のアジア進出		
事前、事後学習ポイント	日本に進出した海外小売業の研究 推薦図書 大泉啓一郎著『消費するアジア』		
詳細	日本の小売業のアジア進出にはどのような背景があったのか？		

	また欧米小売業と比べその経営戦略は成功しているだろうか？ ゲストスピーカーを予定
第5講	
概要	グローバル組織運営と知の共創、人材育成
事前、事後学習ポイント	課題図書 野中郁次郎・竹内弘高著『知識創造企業』
詳細	グローバル経営の中心となる組織運営と人材育成について実践知を学ぶ
第6講	
概要	グローバルビジネスリーダーシップ
事前、事後学習ポイント	事前課題 関心あるグローバルビジネスリーダーを一名選び、研究しておくこと
詳細	グローバル経営の中でのリーダーの役割、資質、育成、評価、コミュニケーションなど Real story をもとにディスカッションする
第7講	
概要	受講者レポート発表とディスカッション1
事前、事後学習ポイント	本講義に関するレポートの作成
詳細	レポート発表とグループディスカッション
第8講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	これまでの講義での疑問の整理
詳細	第1講から6講までの講義・ディスカッションでの内容の整理
教科書/Textbook	なし（その都度講義資料を配布いたします）
指定図書 /Course Readings	杉山伸也著『グローバル経済史入門』 進藤榮一著『アジア力の世紀』 野中郁次郎・徳岡晃一郎著『世界の知で創る』 野中郁次郎・竹内弘高著『知識創造企業』
参考文献・参考 URL /Reference List	矢作敏行著『小売国際化プロセス』 大泉啓一郎著『消費するアジア』 岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 25%、クラス貢献度 25%、プレゼンテーション 25%、レポート 25%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	高い出席率で、クラスへの貢献度が非常に高く、プレゼン、レポートが非常に優れている
評価： A（89～80 点）	高い出席率で、クラスへの貢献が高く、プレゼン、レポートが優れている
評価： B（79～70 点）	出席率が良く、クラスへの貢献もあり、プレゼン、レポートが良い
評価： C（69～60 点）	出席率が悪くなく、クラスへの貢献が限定的で、プレゼン、レポートなどが普通
評価： F（59 点～）	出席率が悪く、クラスでの発言も少なく、プレゼン、レポートが不十分
留意点 /Additional Information	講義内容は、履修者数及び毎回の進捗に応じ、柔軟に構成を変えることがあります。 レポートは提出後、個別にフィードバックする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	Business Communication for Global Leaders		
サブタイトル/Sub Title	Business Communication for Global Leaders		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Communication for Global Leaders		
教員/Instructor	Mark Austin	E-mail	austin@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
The rise to ubiquity of the internet has had a revolutionary effect on the production and consumption of media. With the emergence of social media, the traditional, vertical, top-down dissemination of content has been replaced by a horizontal "two-way electronic conversation." In digital news production, two or more of the "five plus one" elements of multimedia (text, video, photography, audio and graphics plus social media) are combined to tell stories more effectively than was possible before the internet. It is essential for businesses and managers to learn how to communicate effectively in this new media environment.			
到達目標/Course Goals			
Through my sessions, I aim to apply the principles of good journalism, especially business journalism, and, to a lesser extent, of marketing, to help the students express themselves effectively in speech and writing in business contexts in English. DP4: 「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」 The key word is empathy (共感力): Having students think about the end users of the stories they tell.			
授業形態 /Form of Class	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	Introduction: The 21st-century media environment		
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Speech by Guardian editor Katherine Viner on the media industry revolution. Daily Yomiuri business article on telecommuting by Mark Austin.		
詳細	Quiz on communications and technology. Overview of the history of news media. Effective storytelling using media. CLASS GOAL: To introduce key concepts approached in the course. MATERIALS: Handout for fill-in-the-blanks activity on media history. レポートをフィードバックする。		
第2講			
概要	Journalism 101: the 7 key news values; news judgment		
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Asian Age article on finding bugs in Facebook, Economic Times article on internet companies changing prices according to demand in real time.		
詳細	An explanation of the seven key news values governing how to assess the importance of a news story. CLASS GOAL: To have the students think about the end user of messages they send. MATERIALS: Handout for activity on assessing newsworthiness. レポートをフィードバックする。		
第3講			
概要	Plain English: Orwell's Six Rules; writing press releases		
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. George Orwell's "Six Rules."		
詳細	An explanation of George Orwell's "Six Rules" for effective communication. CLASS GOAL: To get students thinking about the way they write. Editing activity. Lede-writing activity. MATERIALS: Handout for editing activity. Proofreaders' marks handout. レポートをフィードバックする。		
第4講			
概要	Story structure: inverted pyramid and the Wall Street Journal formula		
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. OneIndia news story on a murder. Example news story about a fire.		
詳細	An explanation of inverted pyramid news storytelling, in which information is expressed in order of importance, and the Wall Street Journal storytelling formula. Newswriting activity to practice inverted pyramid storytelling. Lede-writing activity. CLASS GOAL: To have students		

	practice effective communication. MATERIALS: None. レポートをフィードバックする。
第 5 講	
概要	Multimedia journalism: nonlinear storytelling
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint.
詳細	An introduction to multimedia and nonlinear storytelling. CLASS GOAL: To have the students think about the strengths and weaknesses of the “five plus one” media elements—text, video, still photography, audio, graphics and social media, and how they can be combined for effective communication. Students watch two documentary videos, by the BBC and SBS, featuring multimedia content and look at an interactive graphic by La Stampa. MATERIALS: Handout for multimedia storytelling activity. レポートをフィードバックする。
第 6 講	
概要	Social media: brand-building and crisis management
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. History of Adidas, Coca-Cola, Burberry and J ä germeister.
詳細	An introduction to social media and brand-building. CLASS GOAL: To have the students think about the importance of social media presence in brand-building. The history of four famous brands—Adidas, Coca-Cola, Burberry and J ä germeister. Mistakes they made and how they rehabilitated their brand. MATERIALS: Handout questionnaire on students’ social media presence. Three interactive web quizzes on social media. レポートをフィードバックする。
第 7 講	
概要	Talk by outside speaker/attendance at outside event (To be decided.)
事前、事後学習ポイント	(To be decided.)
詳細	(In 2016, the class visited Bloomberg’ s Tokyo bureau and had lunch at the Foreign Correspondents’ Club of Japan. CLASS GOAL: To show the students how an innovative business news provider gathers and publishes its content. Interaction with Bloomberg’ s Japan/Koreas political editor. MATERIALS: None. In 2017 and 2018, the class visited NHK Museum to take a look at the development of Japan’ s public broadcaster. MATERIALS: None.)
第 8 講	
概要	Wrap-up: three graded quizzes covering key points in the course
事前、事後学習ポイント	READING: PowerPoint. Review of course content.
詳細	Quiz on business journalism and media in general. Quiz on punctuation. Quiz on three TV and internet video commercials—what their messages are and how they communicate them. CLASS GOAL: To assess students’ absorption of course content. MATERIALS: Answer sheets for three quizzes.
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	適宜、講義資料を配布する。
参考文献・参考 URL /Reference List	適宜、講義資料を配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席:ディスカッション:グループワーク:小テスト:レポート:プレゼンテーション= 20:20:10:10:20:20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。分析—仮説の検証—提案が行える。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。分析—仮説の検証が行える。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。分析が行える。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点/Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	「世界潮流と企業戦略」		
サブタイトル/Sub Title	-時代認識に基づくアジア戦略と組織イノベーション-		
英 文 科 目 名 /Course Title(Eng.)	Global Trends and Corporate Strategy		
教員/Instructor	金 美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ アジアビジネス戦略	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
寺島実郎学長は、「経営とは、時代認識だ」と述べている。成功した多くの経営者は、「時代が良かった」「時代が味方した」、「時代が追い風となった」、「時代に欠落したことを補っただけ」などと要因分析している。したがって「新しい時代を創る志を持つ」、「時代と向き合う」「時代と戦う」ことが、大切である。 本講義は、激動する国際情勢、躍動するアジア経済、グローバルヒストリーなどの考察を通じて時代認識を深めると共に、リベラルアーツ(国際教養)を身に付ける。また、これからの日本企業のアジア戦略、アジアビジネス、インバウンドビジネス、組織イノベーション、グローバル人材育成の在り方を考察する。			
到達目標/Course Goals			
21 世紀のアジアは、巨大な市場規模や豊富な天然資源など高い経済的潜在性を背景に、世界経済を牽引する。アジア開発銀行(ADB)によるとアジア GDP は、世界 GDP に占める割合が 2030 年代には 50%を超えると予測されている。まさしく「アジア経済＝世界経済」、「リバース・イノベーション(先進国でなく、アジア新興国の製品やビジネスモデルがグローバルビジネスを牽引)」の時代である。日本は、すでに対アジア貿易が総貿易の 50%、対アジア・ユーラシア貿易は 74%にも達する。 したがって日本企業は、①いかにアジア・ユーラシアダイナミズムを中心とした世界経済の構造変化に対応するか、②いかにアジア・新興国市場で販路を開拓するか、③いかにアジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込むかが、切迫した経営課題となっている。 本講義では、世界潮流やアジア・ユーラシアダイナミズムを俯瞰してグランドデザインを構想し、グローバル戦略を描く地政学的知恵を養う。また、日本企業の課題や履修者の職場の課題について、組織イノベーション、グローバル人材育成、インバウンド戦略、アジア・新興国ビジネスモデルなどの観点からその解決策を考える。 この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。			
授業形態 /Form of Class	講義、双方向、プレゼンテーション、	学外学習 /Off-Campus Learning	無
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		教科書を通読すること。	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	世界潮流とアジア・ユーラシアダイナミズム		
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		
詳細	ガイダンス。各講義の最初にアジアに関するビジネス・時事・問題意識を簡単に報告して頂くため事前調査を行うこと。報告内容をもってディスカッションも行う。		
第 2 講			
概要	アジアパラドックスとグローバルビジネス		
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		
詳細	アジア・ユーラシアダイナミズムとは何か、その実態を解説する。 また、アジア・ユーラシアダイナミズム時代といかに向き合うかをディスカッションする。		
第 3 講			
概要	日本企業の現状と課題		
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		
詳細	アジア企業を鏡にして、日本企業の等身大の姿を映し出す。そして日本企業の強		

	みと弱みを再検討する。 日本企業の今後の経営課題や経営戦略についてディスカッションする。
第4講	
概要	地政学的知を活かしたグローバル戦略①
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	ビジネスパーソンや経営者が、平和に敏感でなければならぬ理由について解説する。 また、ビジネス教養やグローバル組織・人材育成について考える。 日本の立ち位置や平和についてディスカッションする。
第5講	
概要	地政学的知を活かしたグローバル戦略②
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	豊富なエネルギー資源やユーラシア大陸を繋ぐ国際物流拠点など北東アジア経済圏の地政学的優位性について解説する。 日本企業の地政学的戦略についてディスカッションする。
第6講	
概要	アジア・新興国ビジネスモデル
事前、事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。
詳細	日本・中国・韓国・台湾企業の強みや知恵を生かしたビジネスモデルを考える。 今後のアジアビジネスやインバウンド戦略についてディスカッションする。
第7講	
概要	戦略レポートのプレゼンテーション①
事前、事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題について組織イノベーション、グローバル組織・人材育成、インバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。
第8講	
概要	戦略レポートのプレゼンテーション②および総括
事前、事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題について組織イノベーション、グローバル組織・人材育成、インバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。
教科書 /Textbook	『これからの日中韓経済学』（編著：岡山大/田口雅弘、多摩大/金美德、えにし書房、2018年）
指定図書 /Course Readings	①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』（金美德、PHP新書、2012年） ②『日本企業没落の真実-日本再浮上27 核心-』（金美德、中経出版、2013年） ③『図解 韓国四大財閥早わかり』（金美德、中経出版、2012年） ④『中東・エネルギー・地政学』（寺島実郎、東洋経済新報社、2016年） ⑤『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』（寺島実郎、NHK出版、2017）
参考文献・参考URL	①『世界を知る力』（寺島実郎、PHP新書、2010年）

/Reference List	②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年) ③『何のために働くのか 自分を創る生き方』(寺島実郎、文藝春秋、2013 年)
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席率 40%、議論参画度 30%、最終発表(戦略レポート)30%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+ (100～90 点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、90 点以上の場合。
評価：A (89～80 点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、80～89 点の場合。
評価：B (79～70 点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、70～79 点の場合。
評価：C (69～60 点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、60～69 点の場合。
評価：F (59 点～)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、59 点以下の場合。
留意点 /Additional Information	①戦略レポートの最終発表は、5 つの項目に沿って相互評価を行う。 ③ 戦略レポートは、最終発表後に担当教員にメールで提出すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	日本企業の中国ビジネス		
サブタイトル/Sub Title	～インバウンド、越境 EC、貿易衝突、5G や EV への突入など、これからの中国市場との付き合い方を一緒に考えて学ぼう		
英 文 科 目 名 /Course Title(Eng.)	Case Study of Japanese business in China		
教員/Instructor	徐向東	E-mail	xu@cm-rc.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ アジアビジネス戦略	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
米中貿易衝突の行き先が不明瞭なまま、世界は新しい年に入っている。インバウンドの拡大によって日本人が身近で中国人の消費力の影響を感じている。5G や EV など次の時代に向ける中国企業のプレゼンスが高まっている。この授業では、現場の最新情報をもとにこれからの中国ビジネスの戦略と実践を学習する。			
到達目標/Course Goals			
中国ビジネスの基礎を身に付けながら、具体的な最新事例を通して、新興市場に対する知の再武装、そして新興市場を取り囲むイノベーションや問題解決能力を養う			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、 学生の発表(プレゼンテーション)、 グループワーク、外部視察など	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義内容の整理、関係資料の検索と整理、必要に応じて 現地視察		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	「正しいポジション」をつかむ～中国市場の基礎を理解する		
事前、事後学習ポイント	人口規模、行政区分、収入水準などの基礎知識		
詳細	日本と大きく異なる中国のような新興市場の基本事情を理解するうえで、新しい新興市場におけるポジショニング戦略の基本知識を学ぶ		
第 2 講			
概要	ターゲットのニーズをきちんと押さえる～中国のような新興市場の「ニーズ」を理解する		
事前、事後学習ポイント	日本とは文化も生活習慣も社会事情も違う国や地域の消費者ニーズのつかめ方を学ぶ		
詳細	消費者ニーズをつかむための定量、定性分析や観察のノウハウを学ぶ		
第 3 講			
概要	正しいチャネルの展開～中国など新興国の流通を理解する		
事前、事後学習ポイント	伝統チャネルから EC チャネルへの進行や、ビッグデータキャッシュレスの進化の激しい中国の事例から、新しい「モノ・カネ」流通の仕組みを学ぶ。		
詳細	日本の先に進んだスマホ決済や越境 EC など中国の新しい金融や流通事情を学ぶ		
第 4 講			
概要	新興国への正しい情報発信やコミュニケーション手法		
事前、事後学習ポイント	ネット時代における口コミなどの情報拡散の施策を学ぶ、特に日本とは文化やメディア事情が大きく違う中国のような新興市場の情報拡散のコツを理解する		
詳細	フェイスブックや Twitter ではなく、微博、微信など中国の SNS 事情を学ぶ		
第 5 講			
概要	体験など販促活動の展開		
事前、事後学習ポイント	日本商品を理解するための消費者体験、W11 など中国の重要な販促事情を理解する		
詳細	消費者体験、W11 など		
第 6 講			
概要	ビジネスモデルの構築～日本と海外の相違を理解する		
事前、事後学習ポイント	花王、資生堂、ユニクロ、無印良品等々、中国市場の取り込みの企業のビジネスモデルを学ぶ		

ト	検証
詳細	日本以外の市場を取り込む新しいビジネスモデルの構築を学ぶ
第7講	
概要	4倍速のスピードの行動力を身に着ける
事前、事後学習ポイント	海外市場に勝つためのスピード感、素早く正しい判断を下すための肌感覚の培い方を学ぶ
詳細	行動に移す実践力を学ぶ
第8講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	これまでの授業を総括
詳細	
教科書 /Textbook	『「爆買い」中国人に売る方法』（日本経済新聞出版社 2015）
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『中国人にネットで売る～2つの“ネット”の正しい使い方、つくり方』（東洋経済新報社 2011）、『中国人に売る時代！巨大市場開拓の成功の法則』（日本経済新聞出版社 2009）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 / 講義議論参加度 / 最終レポート 3点の総合評価。そのうち、出席(40%)、授業内での議論・グループワーク参加(30%)、プレゼン内容(30%)の構成で評価を行う。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	出席率は 100%、毎回積極的に議論に参加し、小レポート（つまりゼミ発表は少なくとも 1 回やっていて、プレゼン内容も優秀であること。
評価： A（89～80 点）	出席率は 90%、毎回積極的に議論に参加し、小レポート（つまりゼミ発表は少なくとも 1 回やっていて、プレゼン内容はしっかり準備していること。
評価： B（79～70 点）	出席率は 80%、毎回積極的に議論に参加し、小レポート（つまりゼミ発表は少なくとも 1 回やっていること。
評価： C（69～60 点）	出席率は 70%、毎回積極的に議論に参加し、小レポート（つまりゼミ発表は少なくとも 1 回やっていること。
評価： F（59 点～）	出席率は 60%以下、議論に参加していること。
留意点 /Additional Information	講義内でフィードバックやメールでフィードバックを行う

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	Business in Globalized India		
サブタイトル/Sub Title	The Japan Perspective		
英 文 科 目 名 /Course Title(Eng.)	A young, vibrant, progressive and economically strong India provides a lot to learn from in the contexts of global business, leadership and innovation.		
教員/Instructor	Aniruddha Mallik	E-mail	aniruddha@ageraconsulting.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ アジアビジネス戦略	単 位 数 /Credits	2
講義目的/Aim of Course			
Through my sessions, I aim to present various aspects of global business, leadership, innovation and management in India and the lessons that we can learn from globally successful Indian leaders and entrepreneurs.			
到達目標/Course Goals			
To achieve DP1 (最新ビジネス環境の洞察力) of the Diploma Policy – Insight into the latest business environment, we shall explore various aspects of global business, management, leadership, entrepreneurship and innovation, keeping a focus on India and the global perspective. India is an excellent example of a rapidly globalizing world, where traditional super powers are being pushed back and emerging economies are becoming more and more powerful. There’s a lot to learn from how Indian business leaders have evolved new and more globally successful business models and management strategies to ensure that their companies stay ahead of the competition.			
授業形態 /Form of Class	Interactive classroom sessions	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	なし		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	Introduction to the Fundamentals of India		
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:Country profile, common misconceptions, advantage India		
詳細	Introduction to the Fundamentals of India: Country profile, common misconceptions, advantage India		
第 2 講			
概要	Advantage India (Part 1)		
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:What makes Indian business leaders globally successful? What gives them the edge over others as they expand beyond India and go global?		
詳細	Advantage India (Part 1): What makes Indian business leaders globally successful? What gives them the edge over others as they expand beyond India and go global?		
第 3 講			
概要	Advantage India (Part 2)		
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:Showcase of successful Indian professionals who have become global business leaders. A look at their profiles, careers and accomplishments and what we can learn from them.		
詳細	Advantage India (Part 2): Showcase of successful Indian professionals who have become global business leaders. A look at their profiles, careers and accomplishments and what we can learn from them.		
第 4 講			
概要	Corporate India		
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:The modern corporate world in India and what are the expectations of companies from their employees; the keys to success in a		

	rapidly growing and extremely competitive environment
詳細	Corporate India: Exploring the modern corporate world in India and what are the expectations of companies from their employees; the keys to success in a rapidly growing and extremely competitive environment
第 5 講	
概要	Innovation in India: “JUGAAD”
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:“Frugal Innovation” is a concept that India has mastered and it’s commonly called as “JUGAAD”. From space to daily life, innovation in India is happening everywhere.
詳細	“Frugal Innovation” is a concept that India has mastered, and it’s commonly called as “JUGAAD”. From space to daily life, innovation in India is happening everywhere.
第 6 講	
概要	Entrepreneurship in India
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:Various topics related to entrepreneurship in India, covering business both small and big, looking at both traditional and modern entrepreneurial case studies and success stories.
詳細	Entrepreneurship in India: Exploring various topics related to entrepreneurship in India, covering business both small and big, looking at both traditional and modern entrepreneurial case studies and success stories.
第 7 講	
概要	Think, Organize, Present... Make an Impact
事前、事後学習ポイント	事前:なし 事後学習ポイント:Develop your thought process, compile and consolidate key points, develop the skills to present your points of view with confidence and high impact
詳細	Think, Organize, Present... Make an Impact: Develop your thought process, compile and consolidate key points, develop the skills to present your points of view with confidence and high impact
第 8 講	
概要	Presentation of Assignment by Students
事前、事後学習ポイント	なし
詳細	Students make a presentation based on the assignment given earlier. Also, we do a wrap-up of our course with key points and discussions.
教科書/Textbook	なし
指定図書/Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分(合計 100%)	Attendance, Class Participation, Presentation Assignments
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A+ (100~90 点)	Participation in the classes and quality of assignment presentations were excellent. They were able to effectively analyze course contents and provide ideas, comments and useful insight.
評価: A (89~80 点)	Participation in the classes and quality of assignment presentations were excellent.
評価: B (79~70 点)	Participation in the classes and quality of assignment presentations were good. They were able to analyze course contents.
評価: C (69~60 点)	Participation in the classes and quality of assignment presentations were average.
評価: F (59 点~)	Participation in the classes and quality of assignment presentations were inadequate.
留意点/Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	非営利法人のファイナンス		
サブタイトル/Sub Title	株式会社以外の非営利法人（NPO、学校法人、財団法人、医療法人等）の資金調達手法の研究		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Finance for Not-for-Profit Organizations		
教員/Instructor	堀内勉	E-mail	t-horiuchi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
営利法人である株式会社のコーポレートファイナンスは、既に確立された学問分野であり、世界的に共通の物差しがある。他方、NPO に代表される非営利法人のファイナンス（資金調達）手法についてはいまだ発展途上で、寄付金や公的補助金やクラウドファンディングなども含めて、今後、体系立てて研究していく必要がある。 開講 4 年目である本講義では、こうした新しいファイナンス分野である、「非営利法人のファイナンス」について、受講生自らがまず問題意識を持ち、その上で体系立てて理解し、実際の資金調達ができるようなレベルにまで到達することを目的とする。 2018 年 6 月に設立された多摩大学社会的投資研究所とその連携機関（ルール戦略形成研究所、社会的投資推進財団、新経済連盟）などのコンファレンスに、日程調整の上、クラス全体で参加することを検討。			
到達目標/Course Goals			
非営利法人の資金調達手段の特徴を理解し、自らが NPO などの非営利法人を立ち上げた時に、実際の資金調達ができるようになることに加え、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで到達することを目標とする。その前提として、ソーシャルビジネスの分野において、ディプロマポリシーでの「DP1：最新ビジネス環境の洞察力」を達成するために、国連 SDGs や ESG の最新動向などを理解した上で、社会を取り巻く環境変化とこれからの進むべき方向性について、自ら理解し考える力を習得する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	外部コンファレンスへの参加を検討
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		前回講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	非営利法人の資金調達の概要		
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の枠組みについての、ソーシャルファイナンスの観点からの概観		
詳細	1. 受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション 2. 本講座講師によるソーシャルファイナンスの講義（資料は当日配布） 3. 二回目以降の講義の進め方、受講生のプレゼンテーション、提出レポートの作成方法などについてのすり合わせ 宿題：指定図書をよく読んでくること。		
第 2 講			
概要	公的支援制度（政策金融）①		
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の公的支援の枠組みの理解		
詳細	1. 受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション 2. ゲストスピーカー：日本政策金融公庫（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。		
第 3 講			
概要	公的支援制度（財団助成）②		
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達の公的支援の枠組みの理解		
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー：日本財団/社会的投資推進財団（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。		
第 4 講			
概要	資金調達の手法①（寄附）		
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（寄附）の手法の理解		

詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ファンドレイジング協会（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第5講	
概要	資金調達の手法②（クラウドファンディング）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（クラウドファンディング）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ジャパンギビング（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第6講	
概要	資金調達の手法③（ソーシャルベンチャーフィランソロピー）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（ソーシャルベンチャーフィランソロピー）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： ソーシャル・ベンチャー・フィランソロピー（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第7講	
概要	資金調達の手法④（社会投資ファンド）
事前、事後学習ポイント	非営利法人の資金調達（社会投資ファンド）の手法の理解
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. ゲストスピーカー： KIBOW 社会投資（仮） 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
第8講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	講義全体を通じたディスカッション
詳細	1. 前回の講義内容のまとめを担当者がプレゼンテーション 2. 本講に関する提出レポートの概要を各人から説明 宿題：前回の講義内容をよく復習してくること。
教科書 /Textbook	無し
指定図書 /Course Readings	『日本における社会的インパクト投資の現状 2017』（G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会） 『社会的投資市場形成に向けたロードマップ』（日本ファンドレイジング協会 伊藤健）
参考文献・参考 URL /Reference List	『ソーシャルファイナンスの教科書』（生産性出版 河口真理子） 『非営利団体の資金調達ハンドブック』（時事通信社 徳永洋子）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が一応の水準を満たしている。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	新しいビジネス分野であり、教科書的な回答は存在しないので、ディスカッションに積極的に参加して自らの力で考えること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	トライセクターリーダー論		
サブタイトル/Sub Title	ポスト・マネー資本主義時代のリーダーシップ・マネジメント		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Tri-Sector Leaders		
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
トライセクターリーダーとは、政治行政・企業ビジネス・NPO の3つのセクターのすべてに通用するリーダー、あるいは、3つのセクターの枠を越えてより良き社会を実現していくリーダーである。この講義は、より多くのトライセクター・リーダーが輩出されることを目的とする。なお、このテーマは、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。			
到達目標/Course Goals			
受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」 DP2:「知的課題解決力」 DP3:「現状を変革しようとする意志力」 DP4:「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」 DP5:「よりよいイノベーション起こす生き方」を達成するために、上記目的に資する下記2つを到達目標とする。 1) 日本社会で稀有なトライセクター・リーダーシップの発揮こそが、自身の目の前の仕事、キャリア、会社、そして社会のイノベーション実現への最適な差別化要因であることを実行レベルで認識する。 ・人類は、公共・企業・NPO の3つのセクターの水平ボーダレス化に直面している。言い換えれば、少子高齢化と多国籍企業台頭、IT/AI 革命に伴う国家の影響力低下・相対化である。このポスト・マネー資本主義＝国民国家と利益至上企業の影響力低下社会において、もはやトライセクターリーダーこそが、企業、政治、NPO 他あらゆる組織で必然であることについての熟議する。 2) トライセクター・リーダーとしての実践の開始 ・トライセクター・リーダーへの具体的プランを各自作成し、実践につなげる ・国内外の先駆的トライセクターリーダー＆プロジェクトのケースをベンチマーク・指針とし、実践につなげる。			
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習/ Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定文献の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	トライセクターリーダーの必然1：3つのセクターの水平ボーダレス化		
事前、事後学習ポイント	・ポスト・マネー資本主義とは ・3つのセクターボーダレス化の根本原因は少子高齢化		
詳細	・全ての消費社会が進んだ国において、少子高齢化を逃れられないことから到来しているポスト・マネー資本主義社会への理解と、公共・企業・NPO の3つのセクターの水平ボーダレス化を学ぶとともに、ディスカッションで熟議を進める。		
第2講			
概要	トライセクター・リーダーの必然2：IT 革命と AI 革命		
事前、事後学習ポイント	・IT・AI は社会や組織の透明化・双方向化推進ツールである		
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1) IT/AI 革命によって、中央集権的大組織（国家、伝統的大企業）は弱体化し、DAO（Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織）が必然となる 2) IT・AI こそ、トライセクター・リーダーに相応しいイノベーション・ツールである		
第3講			
概要	トライセクターリーダーの必然3：国民国家と多国籍企業		
事前、事後学習ポイント	・国民国家の影響力低下によるグローバル組織とローカル組織の2極化		
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1) 無限責任・国家と有限責任・企業とのギャップ。2) 国民国家の規模をしのぐ多国籍・無国籍大企業が数多く台頭した社会における社会機能のギャップ。3) ギャップこそ新規事業、ベンチャーの起業、社会起業の好機である		
第4講			
概要	ジャパニーズ・トライセクターリーダーの必然4：戦略的日本人		

事前、事後学習ポイント	・唯一無二の日本人4つの中立ポジションは、最強の戦略を可能にする
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1) 日本人の4つの中立ポジション「宗教、人種、軍事、経済」と最適戦略とは 2) 日本人は唯一無二のポジションを活かせば、世界のトライセクターリーダーに相応しい
第5講	
概要	トライセクターリーダー・プロジェクト ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	実際のトライセクターリーダー・プロジェクトのケースを学び、自分の現在地点と目指すべき到達地点を我究する
詳細	実際のトライセクターリーダー・プロジェクトのケースを、講義、ディスカッション、グループワークを通じて学ぶ。
第6講	
概要	実在のトライセクターリーダー・プロジェクトをロールモデル
事前、事後学習ポイント	実際のトライセクターリーダー・プロジェクトを自身のリサーチ・プレゼンテーションを通じて学び、自分の現在地点と目指すべき到達地点を我究する
詳細	・下記について、講義、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを進める。 1) 実在するトライセクターリーダー・プロジェクトをリサーチ、ベンチマークし、プレゼンテーションを行う 2) 第5講までの理解を元に、自身の解決すべき問題、目指すべきテーマの明確化への仮説・検証の取り組み方を習得する ・未来がどうなるかではなく、自分たちが未来を創る。Cross-Disciplinary こそトライセクターリーダー ・ディスカッションによりあぶりだされた、自身の解決すべき問題への取り組み ・自身の抱える問題とその真因、解決策の策定、他メンバーへの共有とフィードバック
第7講	
概要	ゲスト講師・先輩トライセクター・リーダーの実践を講義・討論で学ぶ
事前、事後学習ポイント	社会・ビジネスの新たな地平を拓く、先輩トライセクター・リーダー“仕事の流儀“
詳細	先輩トライセクター・リーダーの「原体験」「力の源泉」「実践の現場」「未来への戦略」等を講義とディスカッションで学ぶ
第8講	
概要	トライセクター・リーダー実践計画 最終プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	実践計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返り
詳細	各自作成した実践計画最終プレゼンテーションとディスカッション・グループワーク トライセクター・リーダーシップ・ジャーニー出発への決意表明
教科書/Textbook	なし。
指定図書 /Course Readings	『未来の選択～僕らの将来は、政策でどう変わる?』(金野素一 著 /ディスカヴァー21 社)
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経ビジネス・カンパネラ連載『トライセクター・リーダーの時代』(金野素一著/日経 BP 社/2015 年 7 月～) http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	評価方法 出席: ディスカッション: リサーチプレゼンテーション: 実践計画=25: 20: 25: 30
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A+ (100~90 点)	トライセクター・リーダーを理解し、授業内でのプレゼン&議論参加、実践計画内容が優れている。
評価: A (89~80 点)	トライセクター・リーダーを理解し、授業内でのプレゼン&議論参加、実践計画内容が良い。
評価: B (79~70 点)	トライセクター・リーダーを理解し、授業内でのプレゼン&議論参加、実践計画内容が普通。
評価: C (69~60 点)	トライセクター・リーダーを理解し、授業内でのプレゼン&議論参加、実践計画内容のいずれかが普通。
評価: F (59 点~)	出席不良で、トライセクター・リーダーの理解、授業内でのプレゼン&議論参加、実践計画内容が不十分。
留意点/Additional Information	・《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるので議論には積極的に参画すること ・実際の先駆的トライセクターリーダー&プロジェクトのいずれを、自分自身のロールモデルにするかを探究する

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ベンチャーCFO 養成講座		
サブタイトル/Sub Title	経営者としてのベンチャーCFO を目指すための入門講義		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Startup CFO Training Program		
教員/Instructor	新村 和夫	E-mail	kazuhiro@startupleadership.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
近年、ベンチャー企業に注目が集まっており、IPO 市場も活況を呈していますが、一方で日本のベンチャー業界では財務経理・経営管理の責任者である CFO が不足しており、ベンチャー企業の成長ネックになっています。本講では、ベンチャー企業の成長を加速させる CFO 人材の養成のため、各回に実務家・専門家を招き、ベンチャーにおける機関設計、事業計画の策定、資本政策などを体系的に学びます。創業期から急成長期までの起業ステージ、初期ラウンドの資金調達から売却までを対象とします（上場に係る準備・審査対応や、上場後の IR などは本講の対象としません）。本講は一般社団法人日本 CFO 協会による寄附講座であり、同協会との共同開催になります。多摩大学大学院 MBA の大学院生に加え、同協会の個人会員も受講可能です。多様なバックグラウンドを持つ受講生による積極的なディスカッションを期待します。なお、実務家・専門家の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性がありますので、留意して下さい。			
到達目標/Course Goals			
受講生自身の抱える課題に対して、ディプロマポリシーでの「イノベーターシップ」、「実践知」、「実践的教養」を達成するために、上記目的に資するベンチャービジネスにおける CFO の実務に必要な基本的な知識を学習します。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、 レゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	各回での出席レポート（A4 で 1 枚程度） 最終レポート（A4 で 10 枚まで）		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	ベンチャーと CFO		
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「本講に期待すること」（A4 で 1 枚程度）を第 1 講の当日に提出。		
詳細	ベンチャーという特殊な経営環境での CFO の役割を知り、CFO の基本知識である株式会社の機関設計、整備すべき書類、決算や納税について理解します。外部講師を招きます。		
第 2 講			
概要	事業計画の策定		
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を第 2 講の当日に提出。		
詳細	CFO の主要業務である事業計画の作成を理解します。損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の内容と関係性を知り、ベンチャーの戦略や事業構造に則した事業計画を策定する方法を学びます。外部講師を招きます。		
第 3 講			
概要	ファイナンスと企業価値算定		
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を第 3 講の当日に提出。		
詳細	ベンチャーが実施できるファイナンスの種類と、それぞれの特徴を学びます。また、ベンチャーの株式発行による資金調達で必要になる企業価値の算定方法を理解します。外部講師を招きます。		
第 4 講			
概要	資本政策		
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を第 4 講の当日に提出。		
詳細	ベンチャーのファイナンスで特に重要であり、かつ難度が高い株式発行による資金調達について、長期計画である資本政策のあり方を学びます。外部講師を招きます。		
第 5 講			
概要	企業法務と重要契約		
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」（A4 で 1 枚程度）を第 5 講の当日に提出。		
詳細	株式発行や M&A による売却時には、関係者の権利義務関係を規定する契約書の作成と締結が必要となります。企業ステージごとの企業法務と重要契約を学びます。外部講師を招きま		

	す。
第 6 講	
概要	その他の重要な論点
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4 で 1 枚程度)を第 6 講の当日に提出。
詳細	第 1 講から第 6 講でカバーできなかった項目や、補足が必要な項目について学習します。また最終講義のプレゼンテーションについて詳細を確認します。必要に応じ、外部講師を招きます。
第 7 講	
概要	CFO の経営実務
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4 で 1 枚程度)を第 7 講の当日に提出。
詳細	ベンチャーを経営する局面で CFO が直面する様々な経営課題について理解します。また、実際にベンチャーの CFO として活躍する講師を招き、実務的な観点から講演を実施し、議論します。外部講師を招きます。
第 8 講	
概要	プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4 で 1 枚程度)と、最終レポート(A4 で 10 枚まで)を第 8 講の当日に提出。
詳細	第 8 講に最終レポートを提出しますが、希望者を募り、レポートのプレゼンテーションを実施します。発表者は成績に加点します。レポートのテーマは、①自社の経営計画 ②起業のための事業プラン ③任意のベンチャーの経営の分析などを想定しています。
教科書 /Textbook	なし。適宜、資料を配布します。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	参考文献は、適宜、授業中に紹介します。 過去に一般社団法人日本 CFO 協会で開催された講座の内容は、以下をご参考下さい。 ベンチャーCFO 育成講座 (第 1 期) http://www.cfo.jp/event/9657/ ベンチャーCFO 育成講座 (第 2 期) http://www.cfo.jp/event/11925/ ベンチャーCFO 育成講座 (第 3 期) http://www.cfo.jp/seminar/venture_cfo/
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席レポート 40%・授業内での議論 20%・最終レポート 25%・発表 15%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	CFO の実務に必要な知識を深く理解し、議論・レポート内容が非常に優れている。
評価: A (89~80 点)	CFO の実務に必要な知識を良く理解し、議論・レポート内容が優れている。
評価: B (79~70 点)	CFO の実務に必要な知識を十分に理解し、議論・レポート内容が平均以上である。
評価: C (69~60 点)	CFO の実務に必要な知識を最低限、理解し、議論・レポート内容が平均程度である。
評価: F (59 点~)	出席不良で、議論・レポート内容に課題が多い。
留意点 /Additional Information	一般社団法人日本 CFO 協会による寄付講座で、同協会との共同開催です。 実務家・専門家の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性があります。 出席レポート・最終レポートは、A4 の紙に印刷して提出して下さい。 出席レポート・最終レポートは、原則として、返却しません。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ソーシャル・ファイナンス		
サブタイトル/Sub Title	社会的課題解決のための新たなファイナンス手法		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Social Finance		
教員/Instructor	小林立明	E-mail	Kobayashi-t@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
現代日本が抱える多様な課題を解決するためには、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスなど、ビジネス手法の活用が求められる。このために必要な資金を調達するためには、通常の企業ファイナンスとは異なるソーシャル・ファイナンスについての知識とノウハウが必要である。この講義では、ソーシャル・ファイナンス市場の特性を理解し、社会的課題解決に必要な資金調達手法であるソーシャル・ファイナンスの考え方と実践手法を修得することを目指す。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2：知的課題解決力」と「DP5：よりよいイノベーションを起こす生き方」を達成するために、「ソーシャル・ファイナンス」手法を活用して社会課題解決に取り組む際の実践的な資金調達ができるようになる。このために、内外のソーシャル・ファイナンス市場の規模、分野、投資団体及び革新的な投資手法に関する知識と、ソーシャル・ファイナンスの戦略策定、資金調達、インパクト評価・報告、スケールアップ戦略などを実践的できる能力を修得する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準じる程度の具体的な学習内容		プレゼンテーション資料の作成、 資料・図書の熟読・まとめ	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	ソーシャル・ファイナンスの現在		
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・ファイナンス、社会的インパクト、SDGs 目標		
詳細	① 受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション ② ソーシャル・ファイナンスとは何か。グローバルなマーケットの動向と主要分野の概観 ③ コース修了時のプレゼンテーション内容を提示		
第2講			
概要	ソーシャル・ファイナンスの手法Ⅰ：資金供給者の視点		
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・ファイナンス手法（案件探索、審査、契約、モニタリング・評価・報告、出口戦略）		
詳細	①資金提供者の視点からみたソーシャル・ファイナンスの手法を、戦略策定から出口戦略に至る各段階において理解する。その上で、ソーシャル・ファイナンス分野における主要プレイヤーの行動特性をグループ・ワークで検討する。 ② 外部講師によるケース・スタディとディスカッション（インパクト投資）		
第3講			
概要	ソーシャル・ファイナンスの手法Ⅱ：市場の視点		
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・ファイナンスのエコシステム、ソーシャル・ファイナンスのリスク要因		
詳細	① 市場という観点から見たソーシャル・ファイナンスの特性を理解する。その上で、市場拡大に向けた内外の諸施策（中間支援組織育成、公的ファンド、税制優遇、評価・格付け制度整備、新たな法人格の整備等）を概観する。 ② 外部講師によるケース・スタディとディスカッション（エコシステム整備）		
第4講			
概要	ソーシャル・ファイナンスの実践Ⅰ：戦略策定		
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・ビジネス戦略（セオリー・オブ・チェンジ、ロジックモデル、KPI、インパクト評価）、法人格（非営利、営利、ハイブリッド）、スケールアップ戦略		
詳細	①実践者の視点から、社会的課題解決に向けたビジネス戦略策定に必要な基本手法を理解する。さらに、法人格選択やスケールアップ・モデルを通じたソーシャル・インパクト・ビジネス発展戦略の精緻化をグループ・ワークで検討する。 ②外部講師によるケース・スタディとディスカッション（インパクト評価）		
第5講			

概要	ソーシャル・ファイナンスの実践Ⅱ：主要資金調達手法
事前、事後学習ポイント	寄付、助成金・補助金、デット・ファイナンス、エクイティ・ファイナンス、ストラクチャード・ファイナンス
詳細	①実践者の視点から、現在の日本において利用可能なソーシャル・ファイナンス手法を概観し、それぞれの特性を理解する。これを踏まえて、ソーシャル・インパクト・ビジネス発展戦略における最適なソーシャル・ファイナンス・モデルのあり方をグループ・ワークで検討する。 ②外部講師によるケース・スタディとディスカッション（ハンズオン支援）
第6講	
概要	ソーシャル・ファイナンスの実践Ⅲ：革新的資金調達手法
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・インパクト・ボンド、クラウドファンディング、市民ファンド、コミュニティ・ファンド、ソーシャル IPO、ICO
詳細	①現在、国内外で発展途上にある革新的なソーシャル・ファイナンス手法やインフラを概観し、それぞれの特性を理解する。これを踏まえて、ソーシャル・インパクト・ビジネス発展戦略における各手法の活用可能性をグループワークで検討する。 ②外部講師によるケース・スタディとディスカッション（ソーシャル・インパクト・ボンド）
第7講	
概要	最終プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーション準備
詳細	①受講生によるソーシャル・インパクト・ビジネス発展戦略とソーシャル・ファイナンス・モデルについてのプレゼンテーション ②各プレゼンテーションについてのグループ・ディスカッション
第8講	
概要	総括セッション
事前、事後学習ポイント	最終プレゼンテーションへの追加・修正
詳細	①プレゼンテーションに対する講師のフィードバック ②本講義のまとめ
教科書 /Textbook	なし。適宜、資料を配付。
指定図書 /Course Readings	L.M.サラモン（2014）「フィランソロピーのニューフロンティア」（ミネルヴァ書房）
参考文献・参考 URL /Reference List	紫牟田伸子他編（2016）「日本のシビックエコノミー」（フィルムアート社） 金子郁容他編（2016）「ソーシャル・インパクト・ボンドとは何か」（ミネルヴァ書房） マーク・J・エプスタイン他（2015）「社会的インパクトとは何か」（英治出版） G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会（2017）「日本における社会的インパクト投資の現状 2017」 (http://impactinvestment.jp/2018/02/2017.html) 他
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）、グループ・ディスカッション参加（30%）、プレゼン内容（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義内容の理解度と実践に向けての意欲が極めて高く、議論・プレゼン内容がすぐれている
評価： A（89～80 点）	講義内容の理解度と実践に向けての意欲が高く、議論・プレゼン内容がすぐれている
評価： B（79～70 点）	講義内容を理解し、実践に向けての意欲があり、議論・プレゼン内容が良い。
評価： C（69～60 点）	講義内容を一定程度理解し、議論・プレゼン内容が平均程度
評価： F（59 点～）	出席不良で、議論・プレゼン内容に課題がある。
留意点 /Additional Information	外部講師によるケース・スタディとディスカッションの内容については開講時に提示する。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ソーシャルビジネス演習		
サブタイトル/Sub Title	新しい生き方働き方としての社会起業家		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Social Business		
教員/Instructor	田中 勇一	E-mail	tanaka@resoul.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ソーシャルインパクトビジネス	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
地方の過疎化、医療介護問題、格差、うつ病やひきこもりの増加など社会課題が山積する中、それらの社会課題を事業により解決するソーシャルビジネスが注目されています。ソーシャルビジネスのいくつかの事例や、「三方よし」を実践し持続可能な事業を生み出している日本の長寿企業の事例をとおして、ソーシャルビジネスのエッセンスを学びます。そして、自分の中に必ずある志（思い）を見つめ、その志を形にするための具体的な手法を実践していく中で、自分にしかできないソーシャルビジネスの実現を目指します。また、本講義では、具体的にソーシャルビジネス事例を学ぶ機会として、社会起業家を招いての講義が2回あります。			
到達目標/Course Goals			
ソーシャルビジネスは、単なる儲けだけを狙うビジネスよりも難易度は高いものの、自分の心の奥底にある「志」「やむにやまれぬ思い」を引き出し、ビジネスの手法を用いて持続可能な形にしていくことで、実現することができます。演習を通して、自分にしかできない事業や活動を見出し醸成するとともに、ディプロマポリシーの「DP3:現状を変革しようとする意志力」「DP4:周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」「DP5:よりよいイノベーションを起こす生き方」の達成を目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、双方向、 グループディスカッション、 ディベート、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と事業計画（活動計画）の精緻化	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	ソーシャルビジネスとは（ソーシャルビジネス概論）		
事前、事後学習ポイント	社会起業家やソーシャルビジネス（社会課題を解決する持続可能な事業）についての理解		
詳細	社会起業家や長寿企業の事例を通して、社会課題を解決する持続可能な事業（ソーシャルビジネス）の概要を理解するとともに、ソーシャルビジネスを実現するために必要な3つの要素、「自分らしさ」「社会貢献力」「ビジネス力（稼ぐ力）」について理解する。 さらに、関心のある社会課題や自分の強みについて、全員がプレゼンテーションし、双方向のディスカッションを通して、社会課題を自分事に落とし込む。		
第2講			
概要	ソーシャルビジネス演習（1）原体験ワーク		
事前、事後学習ポイント	原体験の重要性の理解、各自のやりたいこと・関心のあること・強み等の整理		
詳細	「やむにやまれぬ思い（原体験）」がソーシャルビジネスの原動力になることを理解するとともに、グループワークを通して、各自が、自分のやりたいこと、関心のあること、強み等について書き出し、グループディスカッションを通して、それらを整理する。 宿題：やりたいこと、関心のあること、強みを表す言葉（自分を表すキャッチフレーズ）を作成し、第3講で全員が発表する。		
第3講			
概要	ソーシャルビジネス演習（2）志を立てる、持続性の獲得		
事前、事後学習ポイント	志を立てることの重要性と持続性の獲得に必要なことの理解、事業計画（活動計画）の落とし込み		
詳細	ソーシャルビジネスにおける志を立てることの重要性や持続性の獲得に必要なことを理解する。全員が、自分のやりたいこと、関心のあること、強みなどを活かした事業計画（活動計画）を、志シート（「顧客」、「提供価値」、「解決すべき社会課題」、「志」を記入）に落とし込んだ上で発表し、双方向のディスカッションを通して理解を深める。 第2講で出された宿題のプレゼンテーション。宿題：志シートを完成させ第5講で発表。		
第4講			
概要	事例研究（1）ゲスト講師（社会起業家）による講義とディスカッション		
事前、事後学習ポイント	ソーシャルビジネスの事例を直接学び、各自の事業計画（活動計画）に活かす		

詳細	ソーシャルビジネスを実践している社会起業家より、事業の立ち上げの経緯や事業への思い、事業化に至るまでの試行錯誤やターニングポイント、さらには成功のポイントなどについての話を聞くとともに、社会起業家と院生との双方向のディスカッションを通して、理解を深める。宿題：ゲスト講師より学んだことをまとめ、第5講で発表。
第5講	
概要	ソーシャルビジネス演習（3）差別化戦略
事前、事後学習ポイント	差別化戦略を学び、各自の事業計画（活動計画）における差別化戦略を策定する
詳細	ソーシャルビジネスにおける差別化戦略について理解するとともに、各自がポジショニングマップを用いて事業計画（活動計画）の差別化戦略をプレゼンテーションし、講師と院生の双方向のディスカッションを通して、その差別化戦略をより明確にする。 第3講及び第4講で出された宿題のプレゼンテーション
第6講	
概要	事例研究（2）ゲスト講師（社会起業家）による講義とディスカッション
事前、事後学習ポイント	ソーシャルビジネスの事例を直接学び、各自の事業計画（活動計画）に活かす
詳細	ソーシャルビジネスを実践している社会起業家より、事業の立ち上げの経緯や事業への思い、事業化に至るまでの試行錯誤やターニングポイント、さらには成功のポイントなどについての話を聞くとともに、社会起業家と院生との双方向のディスカッションを通して、理解を深める。宿題：ゲスト講師より学んだことをまとめ、第7講で発表。
第7講	
概要	ソーシャルビジネス演習（4）事業計画（活動計画）ブラッシュアップ
事前、事後学習ポイント	これまで学んだことを活かして、各自の事業計画（活動計画）を精緻化する
詳細	全員が、第6講までの講義やディスカッションを通して学んだことを活かした事業計画（活動計画）をプレゼンテーションし、講師と院生の双方向のディスカッションを通して、その事業計画（活動計画）をより実現性が高く持続可能なものにブラッシュアップする。 第7講で出された宿題のプレゼンテーション
第8講	
概要	事業計画（活動計画）発表会
事前、事後学習ポイント	事業計画（活動計画）のプレゼンテーションと講師のフィードバック
詳細	全員が、パワーポイントを用いて、第7項までの講義やディスカッションを通して学んだことを最大限に活かした実現性が高く持続可能な事業計画（活動計画）をプレゼンテーションし、講師がフィードバックを行う。さらに、発表した事業計画（活動計画）を実現するための行動計画についても発表する。
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	知性を磨く「スーパージェネラリスト」の時代（光文社新書） 著者：田坂広志
参考文献・参考URL /Reference List	なし。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(40%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	ソーシャルビジネスを理解し、プレゼンテーション内容が実現性・持続性も伴っており、とても優れている。
評価： A（89～80 点）	ソーシャルビジネスを理解し、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	ソーシャルビジネスを理解し、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	ソーシャルビジネスを理解し、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、ソーシャルビジネスの理解やプレゼンテーション内容が不十分
留意点 /Additional Information	ソーシャルビジネスを実践していくために必要な共感力を養うため、授業中に発表される他の学生のプランを自分事としてとらえ、議論に積極的に参加すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期	
科目名/Course Title	最新テクノロジーと AI の世界			
サブタイトル/Sub Title	文系知（人間）が、理系知(最新テクノロジー)を活かす			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Advanced Technology and Artificial Intelligence			
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com	
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
この講義は、最新技術を修得するのではなく、先端技術は何に活かせるのかを学びます。そして AI（人工知能）革命、IT 革命によって、多くの仕事が消失するといわれる中、目的・価値そのものを創り出す文系知により、理系知＝最新技術（AI、ロボティクス等）を、自分のビジネス、企業、そして社会や人間のためにどう活用するかを探究し実践につなげます。 なお、先端技術や AI 分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。				
到達目標/Course Goals				
「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる。イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」DP2:「知的課題解決力」DP3:「現状を変革しようとする意志力」DP5:「よりよいイノベーション起こす生き方」を達成するために、上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した最新技術とそのビジネス実践の知見を得ることで、先端技術を活かした仕事を通じてイノベーションを実現し得るビジネスパーソンとなることを目標とします。				
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義内容のリサーチ・整理と指定文献の熟読		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可				
第 1 講				
概要	最新テクノロジーと AI 総論			
事前、事後学習ポイント	未来や技術がどうなるかではなく、自分自身が技術を活かし未来を創るために何を為すか。			
詳細	下記テーマについての講義とディスカッションを進めます ・最新テクノロジーの基本フレームワーク ・文系知（＝人間）によって、理系知（＝最新技術）を活かすとは ・「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる			
第 2 講				
概要	AI とは何か			
事前、事後学習ポイント	AI の基本フレームワークの理解			
詳細	AI の沿革、基本技術、活用パターンを講義とディスカッションで学習する。 必要に応じてゲスト講師を招く			
第 3 講				
概要	ブロックチェーン			
事前、事後学習ポイント	ブロックチェーン技術が、なぜフラット・自立型組織を必然とさせるのか			
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ブロックチェーン技術のフレームワーク ・あらゆるものを分散化させる ・ 社会や企業がブロックチェーン技術をどう活かすのか			
第 4 講				
概要	ロボティクス、RPA			
事前、事後学習ポイント	ロボティクス、RPA が、AI、IoT やビッグデータ活用と連動する意味			
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ロボティクス、RPA のフレームワーク ・社会や企業がロボティクスをどう活かすのか			
第 5 講				

概要	AR/VR
事前、事後学習ポイント	AR/VR が、なぜ社会を変え、科学技術の透明化を加速させるのか
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ AR/VR のフレームワーク ・ 社会や企業が AR/VR をどう活かすのか
第 6 講	
概要	最新テクノロジー・企業ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	既知の企業における最新テクノロジーの活用をベンチマークし、自身・自社へ活かす
詳細	最新テクノロジー活用の具体的ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッションを進める
第 7 講	
概要	AI 革命で変わる社会
事前、事後学習ポイント	AI 革命の本質、AI と人間の関係について、自分の頭で考える
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ AI 革命で社会と企業、人間がどう変わるのか ・ 真の人間の幸福達成のために、社会や企業が先端技術をどう活かすべきなのか？
第 8 講	
概要	最新テクノロジー：自身・自社への応用計画プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	自身・自社の課題は何か？その課題の中で、テクノロジーで解決できるものは何か？
詳細	自身・自社への最新テクノロジーの応用計画を各自プレゼンテーションし、ディスカッション・グループワークを通じて教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進める
教科書/Textbook	なし。
指定図書 /Course Readings	適宜、指定図書を紹介する。
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野素一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～） https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/column/17/030200062/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	評価方法 出席：ディスカッション：リサーチプレゼンテーション：応用計画＝25: 20: 25: 30
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、応用計画内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、応用計画内容が良い。
評価： B（79～70 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、応用計画内容が普通。
評価： C（69～60 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、応用計画内容のいずれかが普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内でのプレゼン&議論参加、応用計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・ 秋学期に開講する「IT ビジネス原理と先端戦略」「IT・AI ビジネス創出演習」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・ 《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	IT ビジネス原理と先端戦略		
サブタイトル/Sub Title	X-Tech（クロステック）とその実践に学ぶ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Theory and Advanced Strategy of IT business		
教員/Instructor	金野索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
今や IT 革命とは、IT 産業だけではなく、全ての産業・業種に及ぶ「××業種と IT」＝「X-Tech」のことである。パーソナルコンピュータが登場して約 30 年、インターネットが普及を始めて約 20 年、IT というツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ません。クラウドやビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの知見なくして、企業のイノベーションや自身のビジネス・キャリアは深化しません。本科目は、現代のビジネスパーソンに不可欠な、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体の“最新の IT ビジネス原理と先端戦略の視点・ノウハウ＝X-Tech”を俯瞰し、体系化したものを学びます。そして、自身の目の前の仕事やキャリア、所属企業の創造や戦略の明確化を図り、IT を駆使したイノベーションを実現できる理論と実践の知見を獲得します。なお、IT 分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。			
到達目標/Course Goals			
“イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。”自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの、DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」DP2:「知的課題解決力」を獲得し、DP5:「よりよいイノベーション起こす生き方」を実現するために、上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した“最新の IT ビジネス原理と先端戦略＝X-Tech の理論と実践”に精通し、その分析と実現性の高い応用計画立案・提案を行える力を修得する。			
授業形態/Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容関してのリサーチ・整理と指定文献の熟読	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	IT ビジネス原理と先端戦略 総論		
事前、事後学習ポイント	あらゆる業種、職種、個人キャリア、組織に活かせるツールとしての IT を理解		
詳細	下記テーマについての講義とディスカッション 1) IT 革命とは、IT 産業だけではなく、「××業種と IT」＝「X-Tech」のことである。 2) IT は、業種、職種を越えて、ビジネスモデルと仕事の仕方を変えている 3) AI/IT 革命によって、中央集権的大組織（国家、伝統的大企業）は弱体化し、 DAO（Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織）が必然となる		
第 2 講			
概要	インターネットソリューション基本類型・原理		
事前、事後学習ポイント	「既存の IT 知見」と「既存の IT 知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれることを理解する		
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・インターネットソリューション基本類型・原理 ①API ②CGM ③フリー戦略 ④決済最適化 ⑤P2P ⑥O2O ⑦SNS 戦略 ⑧ロングテール ⑨モバイル最適化 ⑩VUI ⑪プラットフォーム戦略他		
第 3 講			
概要	IT が変えた職種・仕事の最新原理		
事前、事後学習ポイント	既知の職種×ICT=職種別の新たな仕事の原理を理解する		
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・IT が変えた職種・仕事の最新原理 1) 経営戦略：システム・デザイン・ストーリー思考へ 2) マーケティング：マーケットからグロースハッカーへ 3) 人事・組織：野球型からサッカー型へ、コーディネーターからファシリテーターへ 4) 財務：フィンテック、決済システム、暗号通貨、クラウドファンディング他 5) 製造：3D プリンター革命で、集中メインフレーム型から分散ネットワーク型へ		
第 4 講			

概要	X-Tech Timemachine(クロステック・タイムマシン)とは①
事前、事後学習ポイント	既知の産業・業種×ICT= (X-Tech クロステック)=新たな原理を業種・産業別にベンチマークし、自分・自社に活かす。
詳細	・「X-Tech」とは、「××業種と IT」のことである ・「X-Tech Timemachine」とは、下記 1) の業種ごとに、下記 2) の地域別にビジネスモデルを調査分析し、そのモデル・ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かすことである 1) X-Tech 業種分類例：Fin-Tech, Agri-Tech, Ed-Tech, Poli-Tech, Medi-Tech 等 2) 地域分類例：北米、南米、東アジア、西アジア、日本、欧州、アフリカ等 上記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める
第 5 講	
概要	X-Tech Timemachine(クロステック・タイムマシン)とは②
事前、事後学習ポイント	既知の産業・業種×ICT= (X-Tech クロステック)=新たな原理を業種・産業別にベンチマークし、自分・自社に活かす。
詳細	・「X-Tech」とは、「××業種と IT」のことである ・「X-Tech Timemachine」とは、下記 1) の業種ごとに、下記 2) の地域別にビジネスモデルを調査分析し、そのモデル・ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かすことである 1) X-Tech 業種分類例：Fin-Tech, Agri-Tech, Ed-Tech, Poli-Tech, Medi-Tech 等 2) 地域分類例：北米、南米、東アジア、西アジア、日本、欧州、アフリカ等 上記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める
第 6 講	
概要	破壊的な世界・日本の最先端企業の戦略ケーススタディ
事前、事後学習ポイント	業種・職種・地域の枠を越える、破壊的先端企業のイノベーション戦略の実践を理解する
詳細	業種・職種・地域の枠を越えた、全く新しい最先端企業の実践ケースの学びの講義とプレゼンテーション、ディスカッション
第 7 講	
概要	近未来の X-Tech ビジネス原理と戦略
事前、事後学習ポイント	高速進歩変化する X-Tech ビジネス原理と戦略を予測し、実践可能なポジションを獲得する
詳細	業種・職種・地域の枠を越えた、近未来の X-Tech ビジネス原理と戦略を見通し、今後の自身・自社のアドバンテージの得るための講義とプレゼンテーション、ディスカッション
第 8 講	
概要	IT ビジネス原理と先端戦略の自身・自社への応用計画プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	自身・自社が特化すべき原理・戦略を明確化する
詳細	自身・自社への IT ビジネス原理と先端戦略の応用計画を各自プレゼンテーションし、ディカッション・グループワークを通じて教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進める
教科書/Textbook	なし。
指定図書/Course Readings	適宜、指定図書を紹介する。
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野素一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～） https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/column/17/030200062/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	評価方法 出席：ディスカッション：リサーチプレゼンテーション：応用計画＝25: 20: 25: 30
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	IT ビジネス原理と先端戦略に精通している一分析一応用計画立案一実現性の高い計画提案を行える
評価： A（89～80 点）	IT ビジネス原理と先端戦略に精通している一分析一応用計画立案を行える
評価： B（79～70 点）	IT ビジネス原理と先端戦略に精通している一分析を行える
評価： C（69～60 点）	IT ビジネス原理と先端戦略に精通している
評価： F（59 点～）	IT ビジネス原理と先端戦略を理解している
留意点 /Additional Information	・春学期に開講する「最新テクノロジーと AI の世界」、秋学期に開講する「IT・AI ビジネス創出演習」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・《読む・書く・聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	IT・AI ビジネス創出演習		
サブタイトル/Sub Title	IT・AI ビジネス創出演習		
英文科目名/Course Title(Eng.)	IT・AI Business Planning		
教員/Instructor	金野 索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
IT/ AI ビジネス創出で拓く企業と自己キャリアの新たな地平～IT/AIを活用した現実の新規事業をプランニングし、日本を代表する現役の起業家・経営者と投資家へ提案を行い、その結果によっては、実際の起業あるいは社内起業に繋げる。まさに、日本の IT/AI ビジネスにおける最先端の理論と実践を往来し、企業と自分自身のイノベーションを推進する場とする。			
到達目標/Course Goals			
受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの DP1:「最新ビジネス環境の洞察力」DP2:「知的課題解決力」DP3:「現状を変革しようとする意志力」DP4:「周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」DP5:「よりよいイノベーション起こす生き方」を達成するために、上記目的に資する IT/AI を活用した新規事業を構想、計画し、実践・推進できるイノベーターシップを持ったビジネスパーソンとなることを目標とします。			
授業形態 /Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		講義内容に関するリサーチ・計画作成と指定文献の熟読	
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	新規事業、ベンチャービジネス その本質		
事前、事後学習ポイント	自分自身は何のビジネスをやりたいのか？		
詳細	新規事業、ベンチャービジネスとは何か、その本質をケースを交えながら、講義とディスカッション、グループワークを通じて学ぶ		
第 2 講			
概要	IT/AI を活用した新規ビジネス事業計画をつくる		
事前、事後学習ポイント	何のための、誰に対する計画か		
詳細	新規事業計画書の作成について、講義とディスカッションにより学ぶ		
第 3 講			
概要	ゲスト講師：現役 IT/AI ベンチャー経営者の講義		
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（構想）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を実践者から学ぶ		
詳細	現役 IT/AI ベンチャー経営者のノウハウ戦略とその実践を講義とディスカッションから学ぶ		
第 4 講			
概要	ゲスト講師：現役投資家（投資分野：ベンチャーIT/AI 企業専門）の講義		
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（構想）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を専門家から学ぶ		
詳細	現役 IT/AI ベンチャー投資家のノウハウ戦略とその現場を講義とディスカッションから学ぶ		
第 5 講			
概要	事業計画案中間指導		
事前、事後学習ポイント	事業計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の検証		
詳細	各自作成した事業計画ブラッシュアップのための中間プレゼンとディカッション・グループワーク・指導を行う		
第 6 講			
概要	ゲスト講師：現役 IT/AI ベンチャー経営者への提案		

事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（計画）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を実践者から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー経営者へ自身の事業計画をプレゼンテーションを行い、実践者からフィードバックと検証を進める
第 7 講	
概要	ゲスト講師：現役投資家（投資分野：ベンチャーIT/AI 企業専門）への提案
事前、事後学習ポイント	自分の現在地点（計画）と、目指すべき自分の到達地点（実践）の乖離を専門家から学ぶ
詳細	現役 IT/AI ベンチャー投資家へ自身の事業計画をプレゼンテーションを行い、専門家からフィードバックと検証を進める
第 8 講	
概要	IT/AI ビジネス創出総括
事前、事後学習ポイント	ビジネス創出とは「既存の知見」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」である
詳細	下記について、講義、ディスカッション、グループワークを通じて学ぶ ・自身の事業計画を最終総括し、教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進め、今後の特化すべき課題、事業戦略、実践を明確化する
教科書/Textbook	普通の君でも起業できる（大前研一、金野素一、他 著 ダイアモンド社）
指定図書 /Course Readings	適宜、指定図書を紹介する。
参考文献・参考 URL /Reference List	WEB 日経 IT プロ連載『Peace Tech イノベーター』（金野素一著/日経 BP 社/2017 年 1 月～） https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/column/17/030200062/
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	評価方法 出席：ディスカッション：事業計画＝30: 30: 40
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、事業計画内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、事業計画内容が良い。
評価： B（79～70 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、事業計画内容が普通。
評価： C（69～60 点）	授業内でのプレゼン&議論等への参加、事業計画内容のいずれかが普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内でのプレゼン&議論参加、応用計画内容が不十分。
留意点 /Additional Information	・春学期に開講する「最新テクノロジーと AI の世界」、秋学期に開講する「IT ビジネス原理と先端戦略」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。 ・《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	日本のモノづくり経営		
サブタイトル/Sub Title	日本の製造業の強みである「改善」を通じて行う経営力向上の具体的考察		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Production Management in Japan based on Kaizen (Continuous improvement)		
教員/Instructor	柿内幸夫	E-mail	yukio-kakiuchi@nifty.com
科目群/Course Classification	実践知具/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
製造業の経営では、経営者が戦略、方針、方策を適切に示すことは重要だが、それらを実務者が現場で現場改善力を駆使して実行できなければならない。本講座では、その両方を対象にするが、後者の現場管理面により重点を置き、製造業の経営を解説し理解を深める。その理論は製造業以外の業種にも応用ができる。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP4:表現と技能」(周囲を巻き込みイノベーションを実現する力)の達成を目指す。製造業の経営において、モノのつくり方によって利益が増減する事実を、実例とその分析を通じて解説する。ビジネスを進めるにあたって、現場からの情報収集と改善実行がどのように経営を支えるかの理解を深め、実際の経営の際に活用できる知識および判断力を習得することを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション、 グループワーク、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		各授業後にその内容に関するレポートを提出すること。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	オリエンテーション 日本のモノづくり概要 モノづくり環境の変化 モノづくりの基本 5S		
事前、事後学習ポイント	事前準備は不要。事後に戦後日本の工業発展についての概要をまとめる		
詳細	日本のモノづくりの特徴について学び、その後グループディスカッションで全貌を把握する。ワイワイガヤガヤの練習。グループワーク 宿題：講義で得たことをA4一枚にまとめる。次回発表する。		
第2講			
概要	5Sを経営に生かす：KZ法解説 全員が改善に参加：チョコ案解説		
事前、事後学習ポイント	5Sを理解して参加。日本のモノづくりの特徴である全員参加について概要を把握する		
詳細	KZ 法およびチョコ案を説明した後、社内の問題と解決能力を発掘することについてグループディスカッション。 宿題：講義で得たことをA4一枚にまとめる。次回発表する。		
第3講			
概要	モノづくり経営の基本 ムダとは何か？ ムダ改善実習（動作経済の4原則）ビデオを使った標準作業訓練実習グループワーク		
事前、事後学習ポイント	『トヨタ生産方式』の7つのムダを読んでおく。		
詳細	7つのムダのそれぞれの具体的な意味と経営への貢献。その中であらゆる業界に通じる動作のムダの改善を、実習を通じて体得する。グループワーク、 宿題：講義で得たことをA4一枚にまとめる。次回発表する。		
第4講			
概要	日産自動車のモノづくり（日産生産方式） （外部講師）元日産自動車NPW推進部シニアエキスパート 武尾裕司氏		
事前、事後学習ポイント	事前準備は不要。		
詳細	日産自動車におけるモノづくりの変化。トヨタ生産方式との比較。グループディスカッション。 宿題：講義で得たことをA4一枚にまとめる。次回発表する。		
第5講			
概要	これからの日本のモノづくり改善の切り口（流れの追求） 流れ生産実習（最強のモノづくり）		
事前、事後学習ポイント	事前準備は不要。実習を通じてリードタイムという改善の切り口を理解。		
詳細	流れという目に見えにくい現象をとらえて経営改革に結び付けるための議論を行い、理解を		

	深める。グループディスカッション 宿題：講義で得たことを A4 一枚にまとめる。次回発表する。
第 6 講	
概要	改善におけるすでに体系化された技術（内製化、段取り替え、見える化など）
事前、事後学習ポイント	事前準備は不要。
詳細	現場改善の具体的な事例を提示し、それをベースに自社での展開などを考えた議論を行う。 グループディスカッション 宿題：講義で得たことを A4 一枚にまとめる。次回発表する。
第 7 講	
概要	品質向上活動（QCサークル活動）日本における QCサークル活動 （外部講師）元日本製造工学会事務局長：佐藤万企夫氏
事前、事後学習ポイント	事前準備は不要。日本のモノづくりの基本の活動である QCサークルについて理解する。
詳細	日本の QCサークルの歴史。日産自動車の QCサークルの責任者であった佐藤万企夫氏に詳細を伺い QCサークルの理解を深める。 宿題：講義で得たことを A4 一枚にまとめる。次回発表する。
第 8 講	
概要	まとめ、口頭試問を兼ねた自由討論
事前、事後学習ポイント	7 回の講義の振り返りと総合まとめ。
詳細	モノづくりのマネジメントをどう一般の経営に応用するかを議論する。グループディスカッション
教科書 /Textbook	毎回のテキストは講師より前回講義時にプリント配布
指定図書 /Course Readings	「改善の急所 101 項」（日本経営合理化協会出版局）、
参考文献・参考 URL /Reference List	「ちょこっと改善が企業を変える」（経団連出版）、 「KZ 法 工場改善」（日本経営合理化協会出版局） 「トヨタ生産方式」（ダイヤモンド社）
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（30%）／講義議論参画度（30%）／毎回のレポート（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ （100～90 点）	現場改善と経営の関係を理解し、実際に改善指導ができる
評価：A（89～80 点）	現場改善と経営との関係を理解し、改善実行に参加できる
評価：B（79～70 点）	現場改善を理解し、改善アイデアを作成できる
評価：C（69～60 点）	現場改善を理解する。
評価：F（59 点～）	現場改善を理解できていない。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	先端 IT マーケティング・イノベーション		
サブタイトル/Sub Title	IT ビジネスの近未来を展望する		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Advanced Technology Marketing Innovation		
教員/Instructor	橋本大也	E-mail	daiya@datasection.co.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
人工知能、ビッグデータ、IoT、ロボティクス、ソーシャルネットワーク…。グローバル市場では新しいテクノロジーが新しいマーケットを生み出していく。本講義では、ビッグデータ分析ビジネスのベンチャー企業を2014年に東証に上場させた元経営者が、自身の経験を踏まえて、これから立ち上がってくる未来の新市場をどうやって見つけ、どのように機敏に新ビジネスを立ち上げるべきかを講義し、受講生の「最新ビジネス環境の洞察力」を鍛える。先端技術や新市場の情報収集と分析手法、IT の最新キーコンセプト解説、新時代のビジネス発想法の啓発、そして2050年までの未来予測。IT ビジネスの最前線を知り共に考えたい人、自身のビジネスに最新の技術マーケティングを適用したい人が主な対象である。			
到達目標/Course Goals			
最新技術のカatalogを受講者全員で作り上げる。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		授業内で指定する資料の熟読と積極的な議論参加	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	イントロダクション デジタルビジネス2030		
事前、事後学習ポイント	最近の IT のトレンドについて自分なりに整理しておく		
詳細	IT ビジネスとマーケティングの中長期展望を講義する		
第2講			
概要	先端 IT ビジネスの情報収集法：高感度アンテナの作り方		
事前、事後学習ポイント	自分の情報収集のコツやお気に入りのツールをメモしておく		
詳細	ハイテク動向をアップデートしていくためのツールとノウハウを解説する。		
第3講			
概要	新ビジネスの発想ワークショップ		
事前、事後学習ポイント	効果的な発想術とは何か、発想を整理するツールにはどんなものがあるか考えておく		
詳細	新たなビジネスモデルをチームで発想するための技法を WS を通して体験する		
第4講			
概要	ビッグデータと AI ビジネス		
事前、事後学習ポイント	自分の仕事において人工知能やデータ分析が果たす役割を整理しておく		
詳細	ビッグデータの分析とそれにもとづくビジネス革新について最新事例を使って解説する		
第5講			
概要	ソーシャルメディアと SNS によるビジネス革新		
事前、事後学習ポイント	自分が使っているソーシャルメディアと SNS をリストアップしておく		
詳細	シェアエコノミー、集合知、コミュニティなど「ソーシャル」の更なる可能性を考える		
第6講			
概要	ベンチャービジネスと創造性		
事前、事後学習ポイント	好きな起業家3人をリストアップしておく		
詳細	イノベーションを生み出すベンチャーとは何かを解説する		
第7講			

概要	変貌するメディアとイノベーション
事前、事後学習ポイント	よく利用するメディアのベスト10を作成しておく
詳細	新テクノロジーはメディアに大変化をもたらす。実例を交えて解説する。
第8講	
概要	イノベーションカタログ
事前、事後学習ポイント	事前の指示に従いイノベーションカタログを作成する。1人20個のイノベーションを探して、1つにつき1ページのパワーポイントスライドを作成する。
詳細	未来イノベーションのカタログを作成する。カタログを提出して最終レポートとする。レポートにはフィードバックがある。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分(合計 100%)	授業への参加(30%)、発言やグループワークへの積極参加(20%)、イノベーションカタログ(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A+ (100~90 点)	授業内容を理解し授業内での議論参加、プレゼンテーションが非常に優れている。
評価: A (89~80 点)	授業内容を理解し授業内での議論参加、プレゼンテーションが優れている。
評価: B (79~70 点)	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価: C (69~60 点)	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価: F (59 点~)	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	提出物は日本語に加えて英語も許可する

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	実践事業創造		
サブタイトル/Sub Title	不確実性時代の事業デザイン		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practice of Business Creation : Business Design in the Age of Uncertainty		
教員/Instructor	亀井 省吾	E-mail	kamei@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
不確実性の時代における事業創造とは何かを、事業デザインという枠組みの中で、実践的に理解することを目的とする。 本授業のスタイルは主として講義形式のほかケースメソッドを採用し、そのスタティック（静態的）な側面を補う形で、フィールドワーク、ゲスト講演を実施する。講義では、理解を促す概念や理論として、情報学からアーキテクチャ概念や紐帯理論のほか、経営学における「活用」と「探索」理論などを学ぶ。受講生は、教員作成の3ケース教材に取り組み、フィールドワーク等によるダイナミック（動態的）な疑似体験を基に、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、講義で学んだ理論と具象を往還する省察思考を身に付けていく。			
到達目標/Course Goals			
アーキテクチャ概念、紐帯理論、「活用」と「探索」理論など学際的知識を、ダイナミックなケース検討プロセスの中で活用する事で、ディプロマポリシーでの「絶えざる変化の中でイノベーションを想起できる」「情報収集能力と分析能力」と「知の再武装」の達成を目指す。			
授業形態 /Form of Class	講義、ケースメソッド、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	有り
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	事前配布3ケース教材の読み込みとグループワークによる課題への回答作成		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	前半：不確実性の時代と事業デザイン 後半：事業創造と工程アーキテクチャ1		
事前、事後学習ポイント	不確実性とは何か、事業デザインとは何か、アーキテクチャ概念の理解		
詳細	前半（講義）：不確実性時代と事業デザインについての問題意識を持ち、課題を学ぶ。 後半（講義）：事業創造における工程構築の記述概念として工程アーキテクチャを学ぶ。 宿題（グループワーク）：授業配布するケース教材1の読み込みと課題への回答作成。		
第2講			
概要	事業創造と工程アーキテクチャ2		
事前、事後学習ポイント	教材1事例企業の誕生経緯、プロセスイノベーションとコラボレーションの関係性		
詳細	前後半（フィールドワーク）：ケース教材1事例企業について現地調査を実施する。 宿題（グループワーク）：ケース教材1の課題につき、継続グループワークを実施する。		
第3講			
概要	前半：事業創造と工程アーキテクチャ3 後半：事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス1		
事前、事後学習ポイント	組織における「探索」と「活用」、紐帯理論、アーキテクチャ・ダイナミクスとは何か		
詳細	前半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材1につき、グループワーク、フィールドワークに基づいたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 後半（講義）：事業の持続的成長に必要な「探索」につき、紐帯理論などから考察する。 宿題（グループワーク）：授業配布するケース教材2の読み込みと課題への回答作成。		
第4講			
概要	事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス2		
事前、事後学習ポイント	ケース教材2事例企業の事業経緯、現在取り組んでいる新規事業は何か		
詳細	前半（ゲスト講演）：ケース教材2事例企業より経営幹部をゲスト招聘し、講演を実施する。 後半（ディスカッション）：ディスカッションを実施し、課題についての認識を深める。		

	宿題（グループワーク）： ケース教材2の課題につき、継続グループワークを実施する。
第5講	
概要	事業成長とアーキテクチャ・ダイナミクス3
事前、事後学習ポイント	ケース教材2につき、真の課題は何か、その解決策はどのようなものか
詳細	前後半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材2につき、グループワーク、ゲスト講演を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 宿題（グループワーク）：授業にて配布するケース教材3の読み込みと課題への回答作成。
第6講	
概要	イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト1
事前、事後学習ポイント	ソーシャル・インパクトとは何か、何故イノベーション誘因となり得るのか
詳細	前後半（講義）：ソーシャル・インパクト関連の取り組みがイノベーションに繋がるパスと成り得るのかを事例から読み解く。 宿題（グループワーク）： ケース教材3の課題につき、継続グループワークを実施する。
第7講	
概要	イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト2
事前、事後学習ポイント	ケース教材3 事例企業のこれまでの取り組みと今後の方向性
詳細	前半（ゲスト講演）：ケース教材3 事例企業よりマネージャーをゲスト招聘し講演実施する。 後半（ディスカッション）：ディスカッションを実施し、課題についての認識を深める。 宿題（グループワーク）： ケース教材3の課題につき、継続グループワークを実施する。
第8講	
概要	前半：イノベーション誘因としてのソーシャル・インパクト3 後半：不確実性時代の事業デザインとは何か
事前、事後学習ポイント	ケース教材3につき、真の課題は何か、その解決策はどのようなものか
詳細	前半（プレゼンテーションとディスカッション）：ケース教材3につき、グループワーク、ゲスト講演を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 後半（講義）：不確実性時代における事業デザインについて、授業で取り上げてきた3つの事業創造事例を「活用」と「探索」理論から考察し、総括する。
教科書/Textbook	なし。ケース教材を配布する。
指定図書 /Course Readings	亀井省吾(2016)『障害者雇用と企業の接続的成長—事業における「活用」と「探索」の考察—』学文社
参考文献・参考 URL /Reference List	亀井省吾(2013)「知的障害者活躍現場の工程アーキテクチャ」情報社会学会誌、Vol.8,No.1、pp.5-22. http://infosocio.org/vol8no1-01.pdf 亀井省吾、大橋正和(2014)「中小企業における紐帯活用とアーキテクチャ・ダイナミクス—中堅テントメーカーに見る新規事業創出事例からの考察—」情報社会学会誌、Vol.8,No.2、pp.45-62. http://infosocio.org/vol8no2-03.pdf 亀井省吾、大橋正和(2016)「組織における分化促進要因としてのソーシャル情報ハブ行動の考察—NTTドコモ復興プロジェクトの考察を通じて—」情報文化学会誌、Vol.23,No.2、pp.5-11.他
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内外での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が卓越して優れている。
評価： A（81～80 点）	講義内容を理解し、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	授業外における教員、学生相互間の双方向的なリモートディスカッションツールとして、フェイスブックを活用する。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ベンチャー企業論		
サブタイトル/Sub Title	ベンチャー企業とイノベーション・エコシステム		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Technology Venture		
教員/Instructor	濱田 隆道	E-mail	t-hamada@tocom.or.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ テクノロジー&ベンチャー	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
アベノミクスの成長戦略は必ずしも成功しているとは言えず、我が国経済は閉塞感から抜け出すことができないでいる。しかし、いつの時代でも、創造的破壊を行い、パラダイム・シフトを引き起す企業群が存在する。これらはベンチャー企業と呼ばれるが、その特性、生み出す環境、制度等を分析することで、閉塞感を打破するベンチャー企業を輩出するメカニズムを考察することを目的とする。			
到達目標/Course Goals			
21世紀における米国のパラダイム・シフトを理解し、これを生み出したイノベーション・エコシステムとしてのシリコンバレーを参考に、我が国のベンチャー企業発展のための環境整備につき考察することにより、ディプロマポリシーでの「最新ビジネス環境の洞察力」を養うことを目標とする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	イノベーションと経済成長		
事前、事後学習ポイント	産業革命以降の資本主義の発展をふり振り返りイノベーションの果たした役割を考察する。		
詳細	18世紀末に始った産業革命は蒸気機関などのイノベーションが、経済のみならず人々の暮らし、社会を大きく変えた。こうしたパラダイム・シフトを引き起すようなイノベーションはその後何度も登場し、現在は第4次産業革命と言われているが、その概要を理解する。		
第2講			
概要	米国のベンチャー企業の歴史（1）		
事前、事後学習ポイント	19世紀半ば以降の米国の経済産業の歴史を概観し、その中で活躍したベンチャー企業を分析する。		
詳細	カーネギー、ロックフェラー、エジソン、フォード等ベンチャー企業家が20世紀の産業パラダイムを形成していった過程を概観し、その今日的意義について議論を行う。		
第3講			
概要	米国のベンチャー企業の歴史（2）		
事前、事後学習ポイント	20世紀後半から今日までの米国の経済産業の歴史を概観し、その中で活躍したベンチャー企業を分析する。		
詳細	ゴードン・ムーア、スティーブ・ジョブズ、ビル・ゲイツ、ラリー・ページ等が、21世紀の産業パラダイムを形成しつつある過程を概観し、今後の展望につき議論を行う。		
第4講			
概要	我が国ベンチャー企業の歴史（1）		
事前、事後学習ポイント	ソニー、ホンダに代表される我が国ベンチャー企業の発展の歴史を概観し、今日、競争力を失ったかに見える我が国製造業の現状を分析する。		
詳細	戦後ソニーを初めベンチャー企業が輩出し、1970年代以降輸出を中心に発展を遂げた電子産業は、2000年以降急激に衰退し、国内生産はピークの半分以上、貿易収支は赤字という状態である。こうした事態になった原因につき分析し、今後の展望につき議論を行う。		
第5講			
概要	我が国ベンチャー企業の歴史（2）		
事前、事後学習ポイント	製造業に比べ、グローバルにも展開可能な競争力を有するユニクロ、セブンイレブ		

	ン等の流通サービス業の発展について、概観する。
詳細	日本の流通産業は、欧米から様々なコンセプトや技術を取り込み、それを日本風に消化、アレンジすることで発展し、今や国際展開によりアジアの流通業のリーダーとしての地を確立しつつあるが、こうした成功の要因の分析し、今後を展望する。
第6講	
概要	第四次産業革命
事前、事後学習ポイント	IoT・ビッグデータ・人工知能でもたらされる「第4次産業革命」における日本の現状を理解する。
詳細	IoT、ビッグデータ、人工知能とは一体何か？起こらんとしている「革命」の真実とは？移動、健康、住まい、教育、金融等、我々の暮らしはどう変化するのかを展望し、そこのベンチャービジネスの可能性をディスカッションする。
第7講	
概要	先端イノベーション理論と日本企業
事前、事後学習ポイント	電子産業における日本企業の失敗を最先端経営学で分析し、ビジネス課題を解き明かす。
詳細	競争戦略の誤解、先端イノベーション理論に対する認識不足、グローバルという幻想などにより、様々な失敗を繰り返した日本企業のビジネス・モデルを最先端の経営学で分析し、新たな展開に向けて、議論を深める。
第8講	
概要	我が国イノベーション・エコシステムのあるべき姿
事前、事後学習ポイント	アベノミクスの成長戦略にはどのようなものがあるかを把握するとともに、東アジア諸国で採られているそれらの施策と対比することにより我が国のイノベーション・エコシステムの現状と問題点を把握する。
詳細	我が国のベンチャー支援策は、安倍政権下で急速に充実しているが、なお、21世紀を担うベンチャー企業が輩出する状況にはない。一方で、台湾新竹、中国深圳など、米国シリコンバレーと連携して多くのユニコーン企業が生まれている状況と対比し、我が国のイノベーション・エコシステムの問題点を把握するとともに、その改善の方策について議論を深める。
教科書 /Textbook	なし。直接講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「第四次産業革命」 西村 康稔著 ワニブックス PLUS 新書 「ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学」 入山 章栄著 日経 BP 社 「GAFA」 スコット・ギャロウェイ著 東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	「サピエンス全史 上・下」 コヴァル・ノア・ハラリ著 河出書房新社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	イノベーション・エコシステムを十分に理解し、我が国におけるベンチャー企業創出に向けた環境の問題点を抽出し、その改善策を提言する等、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が特に優れている。
評価： A（89～80 点）	我が国におけるベンチャー企業創出に向けた環境の問題点を正確に理解する等、授業参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	指定された受講生については指定図書を参照し、各講の重要論点につきレポートを作成し、プレゼンテーションの形でフィードバックを行う。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	社会課題起点のルール形成戦略		
サブタイトル/Sub Title	社会課題を成長市場へと転じるルール形成とビジネスモデル		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Rule Making Strategy by utilizing social issue		
教員/Instructor	國分 俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
政府ではもはや解決できない様々な社会課題に対し、民間企業の力が求められている。しかし、日本企業は政府の補助金以外に市場化する構想力が無く、政府機能が不十分な新興国では完全に出遅れている。一方、欧米企業は社会課題解決に繋がる製品、サービスが市場から支持されるルールを自ら創造して成長を勝ち取っている。社会課題をルール形成によって市場化するアプローチを実例から研究する。			
到達目標/Course Goals			
社会課題を解決するイシューエコシステム設計とグローバル市場へのルール形成アプローチを理解し、事業成長に応じて社会課題解決力も高まるビジネスモデルが構想できるようになる。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	社会課題を市場化するルール形成戦略		
事前、事後学習ポイント	欧米企業はどのようにして社会課題を事業成長の機会に転じているのか？		
詳細	社会課題の解決を、ルール形成を梃にリードする欧米企業と、そうした企業の取り組みの一翼を担うポジションに止まる日本の大手企業の経営戦略の違いを把握する。		
第2講			
概要	思想力とイノベーションとルール経営の関係		
事前、事後学習ポイント	ルールを創り出す意識はどのようにして育まれるのか？		
詳細	ルールに囚われないイノベーションを実現するために必要なマインドセット、長期経営姿勢、ビジョンによって他者を巻き込む力の本質を理解する。		
第3講			
概要	SDGs と ESG 投資のルール形成との関係		
事前、事後学習ポイント	国連が定めた SDGs の社会課題に対して求められる取り組みは何か？ESG 投資とはどのような投資行動なのか？		
詳細	ESG 投資を行う投資家に求められる経営への関与の仕方、リターンを高めるために投資先だけでなく社会に対して行うべき活動は何かという新たな投資家像を把握し、SDGs への取り組みを梃に戦略的な資金調達の方法を学ぶ。		
第4講			
概要	イシューエコシステムと社会課題解決型経営モデル		
事前、事後学習ポイント	エコシステムとビジネスモデルの違いは何か？		
詳細	先進的と言われている日本企業のリサイクル率の高さや環境配慮型製品と欧米企業が取り組んでいるイシューエコシステム開発の違いと、ビジネスモデル構築に求められる視座および時間軸、デザインのポイントを理解する。		
第5講			
概要	ケーススタディ（1）		
事前、事後学習ポイント	3.11 後の日本のエネルギー政策の変化、サイバーセキュリティ政策の今日までの動き		
詳細	水素政策のアジェンダセッティングから政策形成および COP への展開、日本のインフラ輸出力を強化する国際ルール形成の動向、米国主導で進むサイバーセキュリティの国際ルール形成を実例とした社会課題解決型ルール形成戦略を解説し、着想から実行までのプロセスを、実例を通して理解する。		

第6講	
概要	ケーススタディ（2）
事前、事後学習ポイント	自分が関心を有する社会課題の解決と市場創造を促せるルール形成の切り口は何か？
詳細	各自が関心を有する社会課題を取り上げてルール形成戦略を構想し、自社のビジネスモデルをどのように変革すべきかという改革案を策定してプレゼンテーションを実施。それぞれの構想に対してクラス全員で討議する。
第7講	
概要	ケーススタディ（3）
事前、事後学習ポイント	自らが構想したルール形成戦略の課題は何であったのか？を深掘する
詳細	ケーススタディ2で指摘された課題や追加調査をすることが有効な視点を反映した改善案をプレゼンし、全員で討議。
第8講	
概要	政産官学それぞれに求められる改革案とアクション
事前、事後学習ポイント	アメリカおよび欧州の政策立案プロセスと日本の違いは？
詳細	世界でルール形成を実現するために重要なファンクションとステークホルダーのかかわりを理解し、日本のルール形成力を高めるために、政産官学それぞれがどのような行動改革に取り組む必要があり、自身が所属する組織や立場からはどのような働きかけができるのかを議論する。
教科書 /Textbook	「世界市場で勝つルールメイキング戦略 技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」 編著者 國分俊史、福田峰之、角南篤 朝日新聞出版
指定図書 /Course Readings	「持続可能な未来へ」ピーターセンゲ 日本経済新聞出版社、「チェンジ・ザ・ワールドの経営論」DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー March 2012 ダイアモンド社、「未来を拓く国際標準」産業技術総合研究所、「WIDE LENS ワイドレンズ」ロン・アドナー 東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業内での議論参加(40%)、出席(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	社会課題に対する理解が深くルール形成の切り口を多面的な角度から構想でき、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019		開講学期/Semester	春学期	
科目名/Course Title	経済連携協定（FTA・EPA）と経営戦略				
サブタイトル/Sub Title	グローバル通商動向とルール形成戦略 地政学インテリジェンスの理解を高めつつゲームチェンジを仕掛ける				
英文科目名/Course Title(Eng.)	Global Trade Policies and Rule Making Strategy				
教員/Instructor	羽生田 慶介		E-mail	khanyuda@tohatsu.co.jp	
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略		単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course					
保護主義 vs 自由貿易などの通商動向がビジネスに与える影響を理解し、正しい経営判断を行う手法を身に着ける。同時に、企業で可変なモノサシづくりとしてのルール形成戦略（標準化・規制）についても方法論を学ぶ。（序盤の講義では戦略思考の基礎となるロジカルシンキング等の戦略コンサルティングスキルも学ぶ）					
到達目標/Course Goals					
総論としての地政学理解にとどまらず、企業サプライチェーンへの影響や経営として採り得る打ち手を具体的に理解する。ルール形成の具体的なテーマに対し、特にビジネスインパクトを定量化して説明できるようになること（そのための経営戦略コンサルタントに準ずる思考スキルを身に着けること）					
授業形態 /Form of Class	講義・グループディスカッション		学外学習 /Off-Campus Learning	なし	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容			講義内容の整理と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可					
第1講					
概要	（序論）戦略思考の基礎／ルール形成戦略概論（1）：ロジカルシンキング				
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎（ピラミッドストラクチャー／MECE等）の理解				
詳細	ルール形成戦略は「戦略思考」（何をして／何をしないか）が極めて重要となる（「オペレーション改善」とは思考が異なる）。第1講では、戦略コンサルタントの研修方法に倣い、ロジカルシンキングの基礎トレーニングを行う				
第2講					
概要	なぜ国際通商ルールが経営課題とされるのか				
事前、事後学習ポイント	事前：「国際通商ルール（本講ではFTA・EPAの意）対応の巧拙の差」について、第1講・で学んだ手法（ピラミッドストラクチャー等）で個人検討・発表（簡易プレゼン）				
詳細	国際通商ルールが経営に与えるインパクトについて定性的・定量的に理解する。また、なぜ企業によって対応の巧拙に差が出る（結果、収益性に差が出る）のかを構造的に理解する				
第3講					
概要	グローバル通商動向インテリジェンス（1）				
事前、事後学習ポイント	事前：近年の通商動向についての基礎的理解を各自で進める。そのうえで日系企業に与える影響（各自の関心事項で可）について簡易に発表・討議 【課題図書：『稼げるFTA大全』（日経BP社）】				
詳細	近年の通商動向（WTO体制～FTA加速～英国EU離脱・トランプショック）についての理解を進めるとともに、企業がとり得る対応策について討議を行う（特に、企業が所与とすべき前提と、ルール形成によって可変な要素について深い討議を行う）				
第4講					
概要	グローバル通商動向インテリジェンス（2）				
事前、事後学習ポイント	第3講に同じ				
詳細	第3講に同じ				
第5講					
概要	ルール形成の基本戦略「Standards×Regulations 戦略」				
事前、事後学習ポイント	事前：課題図書の読了によるルール形成戦略の基礎理解				
詳細	企業戦略としてのルール形成は、「ビジネスの構造理解」と「ルール構造の理解」の双方が必要。「ルール」という総称での捉え方から脱し、「規制」「基準」「標準」「規格」「ガイドライン」等の区別を理解する				
第6講					

概要	企業によるルール形成事例／ルール形成体制
事前、事後学習ポイント	事前：自身が関心ある分野でのルール形成事例を探し、構造を整理（簡易な発表）
詳細	国内企業／海外企業のルール形成事例を学び、成功要因が成り立った背景としての企業体制や社会基盤（官民体制ほか）を討議する
第7講	
概要	ルール形成戦略「定量化」演習
事前、事後学習ポイント	事前：自身が効果を定量化（しつづステークホルダーの折衝）したいルール形成テーマとの特定および関連情報の収集
詳細	ルール形成テーマの定性ストーリー（解決する社会課題・目指すルールデザイン）を資料に記載し、その想定効果に関する仮説を策定。定量化（ロジックによる試算）を行う
第8講	
概要	ルール形成戦略「定量化」発表
事前、事後学習ポイント	第7講に同じ
詳細	第7講に同じ
教科書 /Textbook	なし。適宜講義資料を配布する
指定図書 /Course Readings	「稼げる FTA 大全」（羽生田慶介，日経 BP 社） 「考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則」（バーバラミント，ダイヤモンド社） 「世界市場で勝つルールメイキング戦略」（國分俊史、福田峰之、角南 篤 編著，朝日新聞出版社）
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業内での議論参加(40%)、出席(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。かつ、業界水準において斬新な視点での提言ができています。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	本論の通商論点のみならず、序論の戦略思考／戦略コンサルティングスキルについても鋭意学ぶことが必要。ルール形成は（オペレーション改善と異なり）極めて戦略的な思考が求められることを理解すべし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	安全保障経済政策論 I		
サブタイトル/Sub Title	経済政策による地政学リスクへの能動的関与が生み出すルールと経営戦略への応用		
英文科目名/Course Title(Eng.)	National security and economic statecraft 1		
教員/Instructor	井形 彬	E-mail	akira.igata@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
日本を巡る国際環境が日々目まぐるしく変化している。戦後日本の安全保障経済政策にとり最重要国家であった米国では、政策の方向性が極めて不透明なドナルド・トランプ政権が三年目を迎えている。また、習近平体制の中国は、一帯一路を通じて戦略的な安全保障経済政策を進めている。さらに、朝鮮半島有事の際には協力が不可欠でありながらも歴史問題の軋轢が残る韓国とは、協力関係の進展が滞っている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な事例研究を通じて「Economic Statecraft」と呼ばれる、「経済をテコに地政学的国益を追求する」方策について考える。			
到達目標/Course Goals			
世界の主要国は軍事産業以外の企業であっても、安全保障経済政策を経営戦略に活かす視座を有している。安全保障経済政策という視点から各国の戦略的意図とそれを体現している民間企業への投資誘発策を特定し、事業機会に転じているのだ。本講義では、このようなディプロマポリシーの「現状を変革しようとする意志力 (DP3)」を培う。さらに、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい安全保障経済政策を捉える情報収集能力と分析能力を培い、ルール化の切り口を研究し、経営戦略に活かしていく「知的課題解決力 (DP2)」を習得する。春学期は安全保障、国際政治、Economic Statecraft の基礎的理解と、事例研究として特定問題領域に焦点を当てる。			
授業形態 /Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義配布資料と参考文献の熟読		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	安全保障経済政策とは何か		
事前、事後学習ポイント	国際政治における「パワー」、分析レベル、ウェストファリア体制、トゥキディデスの罠		
詳細	安全保障経済政策を理解する上で必要となる主要な理論・分析枠組・論者・キーワードを解説する。また、国際政治学・国際関係論・安全保障研究といった既存の学問分野で、安全保障政策と経済政策のリンケージがどのように位置づけられてきたかを概観する。		
第 2 講			
概要	国際政治経済の進展		
事前、事後学習ポイント	重商主義、自由貿易、ブロック経済、ブレトンウッズ体制、パックス・アメリカナ		
詳細	15 世紀末から現在に至る国際政治経済の歴史を概観する。また、「パックス・アメリカナ後」の国際政治経済体制の行方がどこに行くのか、トランプ政権のアメリカ・ファースト政策やイギリスのブレグジット等は「保護主義」への回帰なのかを検討する。		
第 3 講			
概要	ユーラシア大陸を巡る地政学		
事前、事後学習ポイント	地政学、ネットワーク、一帯一路、EAEU、アクト・イースト、「ビジョン 2023」		
詳細	ユーラシア大陸における秩序発展の歴史を概観する。その上で、現在中国・ロシア・インド・オーストラリア・イラン・トルコ・EU 等各国がどのような思惑でユーラシア大陸における戦略構想を行っているかを検討する。		
第 4 講			
概要	日本の安全保障政策と米国		
事前、事後学習ポイント	湾岸戦争、「継続」か「変化」か、日米同盟、「トランプ現象」		
詳細	第二次世界大戦後、特に冷戦後日本の安全保障政策の歴史を概観する。また日本にとり最重要国家である米国の歴史と政治制度を理解することで、日米関係についての理解を深める。		

第5講	
概要	事例研究1：人道支援・災害救援活動
事前、事後学習ポイント	「非伝統的」安全保障、軍民関係、HA/DR
詳細	冷戦終結後、従来軍事団体の役割とは見做されていなかった「非伝統的」安全保障分野における活動が増加している。この一部をなす「人道支援・災害救援（HA/DR）活動」の歴史を概観し、各国のHA/DR活動の現状を把握する。また、軍と非政府組織のとりべき役割、日本のとりべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第6講	
概要	事例研究2：宇宙空間
事前、事後学習ポイント	「第二の宇宙時代」、一帯一路と人工衛星網、デュアルユース、ニュースペース
詳細	科学技術の発展により、「グローバル・コモンズ（国際公共空間）」の中で今まで問題となることが少なかった「サイバー空間」や「宇宙空間」が注目を浴びるようになってきた。本講義では、アジア太平洋諸国の宇宙政策を概観し、日本がとりべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第7講	
概要	事例研究3：サイバー・セキュリティ
事前、事後学習ポイント	サイバー・セキュリティ、セキュリティ・クリアランス
詳細	本講義では「グローバル・コモンズ」のサイバー空間についてとりあげる。アジア太平洋諸国のサイバー・セキュリティ政策を概観し、新たに浮上してきた安全保障経済政策の課題をとりあげ、日本がとりべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。
第8講	
概要	安全保障経済政策を根にした経営戦略の立案アプローチ
事前、事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは
詳細	本講義を踏まえて、企業レベルで果たすこと可能となる能動的な役割に何があるか、新たな「民間外交」の在り方はどうあるべきかについて、グループディスカッションする。
教科書 /Textbook	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
参考文献・参考URL /Reference List	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計100%）	出席（30%）、授業内での議論参加（40%）、レポート提出（30%、メールでフィードバックを行う）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A ⁺ （100～90点）	授業内での議論への貢献度が極めて高く、レポート内容が優れている。
評価：A（89～80点）	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が良い。
評価：B（79～70点）	授業内での議論に関与し、レポート内容が普通。
評価：C（69～60点）	授業内での議論への関与が不十分、レポート内容が普通。
評価：F（59点～）	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。
留意点 /Additional Information	・「安全保障経済政策」は日本で体系化された書籍化無いことから、各講義に関係すると思われる書籍やレポートを事前に能動的に読み込んで議論に参加すること。 ・本講義では毎回冒頭に時事問題を取り上げてディスカッションを行う。よって、日頃より日本のメディアに加え、海外の主要メディア（NYT, Washington Post, BBC, Guardian, Le Monde 等）に目を通しておくことを推奨する。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	安全保障経済政策論 II		
サブタイトル/Sub Title	経済政策による地政学リスクへの能動的関与が生み出すルールと経営戦略への応用		
英文科目名/Course Title(Eng.)	National security and economic statecraft 2		
教員/Instructor	井形 彬	E-mail	akira.igata@gmail.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
日本を巡る国際環境が日々目まぐるしく変化している。戦後日本の安全保障経済政策にとり最重要国家であった米国では、政策の方向性が極めて不透明なドナルド・トランプ政権が三年目を迎えている。また、習近平体制の中国は、一帯一路を通じて戦略的な安全保障経済政策を進めている。さらに、朝鮮半島有事の際には協力が不可欠でありながらも歴史問題の軋轢が残る韓国とは、協力関係の進展が滞っている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な事例研究を通じて「Economic Statecraft」と呼ばれる、「経済をテコに地政学的国益を追求する」方策について考える。			
到達目標/Course Goals			
世界の主要国は軍事産業以外の企業であっても、安全保障経済政策を経営戦略に活かす視座を有している。安全保障経済政策という視点から各国の戦略的意図とそれを体現している民間企業への投資誘発策を特定し、事業機会に転じているのだ。本講義では、このようなディプロマポリシーの「現状を変革しようとする意志力（DP3）」を培う。さらに、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい安全保障経済政策を捉える情報収集能力と分析能力を培い、ルール化の切り口を研究し、経営戦略に活かしていく「知的課題解決力（DP2）」を習得する。秋学期は地域研究として、異なる特定地域に焦点を当てる。			
授業形態 /Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義配布資料と参考文献の熟読		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	国際関係理論から見る国家間関係		
事前、事後学習ポイント	社会科学の方法論、独立・従属変数、攻撃防御理論、安全保障のジレンマ		
詳細	国家間関係を説明しようと試みる欧米の国際関係理論を概観する。また、その理解の手助けとなる、社会科学の基礎的な方法論や因果関係の捉え方を理解する。		
第 2 講			
概要	「インド太平洋」の国際関係		
事前、事後学習ポイント	軍縮・核不拡散、テロリズムと国際犯罪、PKO、地域協力と国際組織		
詳細	「インド太平洋」概念について概観した上で、当該地域において春学期の事例研究で取り上げることのできなかった重要な政策分野を概観する。（軍縮・核不拡散、テロリズムと国際犯罪、PKO、地域協力と国際組織等。）		
第 3 講			
概要	地域研究 1：アフリカ		
事前、事後学習ポイント	サブサハラ・アフリカ、テロリズム、海賊対策、難民問題、格差の拡大、援助疲れ		
詳細	アフリカの地理的特徴・民族・宗教等を概観する。また、日本がアフリカへと進出する場合にはどのような機会とリスクがあるかを総合的に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対アフリカ政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのようにアフリカに関与して行くべきかのディスカッションを行う。		
第 4 講			
概要	地域研究 2：中東		
事前、事後学習ポイント	イスラーム、オイルショック、アラブの春、イラン核合意、越境的脅威		
詳細	中東の地理的特徴・民族・宗教等を概観する。また、中東の不安定要因を伝統的なものから新たに浮上してきたものまで解説する。さらに、中東諸国のエネルギー政策を詳細に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対中東政策をとっているかを理		

	解した上で、今後日本がどのように中東に関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第5講	
概要	地域研究3：東アジア（日中韓関係）
事前、事後学習ポイント	日中韓のパワーバランス、北朝鮮問題、ロシアファクター、北極海航路
詳細	日中韓を始めとする、現代の東アジア情勢を概観する。特に、北朝鮮の核・ミサイル開発問題と、東シナ海・南シナ海を巡る動向を詳細に検討する。最後に、主要国がどのような対東アジア政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように東アジアに関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第6講	
概要	地域研究4：ロシア
事前、事後学習ポイント	ソ連崩壊、日露関係、米露関係、フェイクニュース、
詳細	ロシアの安全保障経済政策に関与する主要なアクターと国内制度、インド太平洋地域における国家・非国家主体の活動、および、日露関係の歴史を理解する。最後に、主要国がどのような対ロ政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのようにロシアに関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第7講	
概要	地域研究5：欧州
事前、事後学習ポイント	欧州統合の歴史、欧州軍事産業基盤、EU とブレグジット、日欧関係
詳細	欧州統合の歴史、特に、当初存在していた明確な「外交・安全保障問題」と「経済問題」の区別ができなくなっていく過程を検討する。また、欧州における軍事産業を詳細に検討する。最後に、米中といった主要国がどのような対欧州政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように欧州に関与して行くべきかのディスカッションを行う。
第8講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは
詳細	春学期に焦点を当てた個別問題領域の分析視覚と、秋学期に焦点を当てた特定地域を詳細に見る分析視覚の双方を踏まえて、企業レベルで果たすこと可能となる能動的な役割に何があるか、新たな「民間外交」の在り方はどうあるべきかについて、グループディスカッションする。
教科書 /Textbook	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
指定図書 /Course Readings	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
参考文献・参考 URL /Reference List	特になし。適宜講義資料を紹介・配布する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席（30%）、授業内での議論参加（40%）、レポート（30%、メールでフィードバックを行う）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	授業内での議論への貢献度が極めて高く、レポート内容が優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が良い。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論に関与し、レポート内容が普通。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論への関与が不十分、レポート内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。
留意点 /Additional Information	・春学期開講の「安全保障経済政策論1」を受講済みであることが望ましい。 ・春学期同様、適宜講義資料を紹介・配布する。引き続き、各講義に関係すると思われる書籍・レポート・ニュースを事前に能動的に読み込んで議論に参加すること。 ・<u>地域研究に関しては、当該地域における新進気鋭の若手研究者をゲストレクチャーとして招聘する。よって、外部講師とのスケジュール調整が必要となるため、第3-7講の講義内容は多少前後・変更する可能性があることをご了承ください。</u>

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論		
サブタイトル/Sub Title	政治内部の視点に基づくプロセス論と外部視点はここまで異なる		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Public Rule-Making Process Theory in Parliamentary Cabinet System		
教員/Instructor	福田 峰之	E-mail	fukuda@fukudamineyuki.com
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
議院内閣制度の下、法律が出来上がるプロセスは、国会の審議だけを見ても理解することは出来ない。政党内議論、与党間協議、与野党間協議、こうした国会での議論（本会議・委員会等）以外の過程を理解すると共に、政党がルール作成の為にいかに必要な情報を入手し、ルール改廃を望む組織と繋がっているのかを学ぶ。			
到達目標/Course Goals			
「技術で勝ってルールで負ける」今後の日本経済は国も企業もルールを作る側に回ることによって持続的な発展を遂げる。その為には、ルール形成人材が必要不可欠であり、課題は各種あれどもルール形成の手法はスタンダードなものである。講義により「DP4：周囲を巻き込みイノベーションを実現する力」を身に着け、得た知識の下で課題を見出し、ルール形成の場を作り上げ、社会変革を実現し、具体的なケースまとめ上げ、人に伝えていく力を取得する。			
授業形態 /Form of Class	講義・双方向・プレゼンテーション・ グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		各講義内容に関する概要を調べてくること	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	議論の場としての国会と政党		
事前、事後学習ポイント	国会・各法制局の概要について調べておくこと		
詳細	国会と政党の役割分担を理解した上で、国会の機能、議員提出法案と内閣提出法案の提出手法の違いを理解すると共に法案作成と内閣・衆参法制局との関係を学ぶ。		
第2講			
概要	政党内議論		
事前、事後学習ポイント	主たる政党の概要について調べておくこと		
詳細	政党本部と地方支部の関係を理解した上で、政務調査会の機能、超党派を含む議員連盟との役割分担、インナーと呼ばれる非役職者と役職者の権限についてを学ぶ。		
第3講			
概要	与党間協議・与野党間協議と閣議決定		
事前、事後学習ポイント	前回の衆議院選挙における主たる政党の公約の概要を調べておくこと		
詳細	選挙公約と具体的な政策への反映、役職レベル別政党間協議の機能と国会对策委員会の役割についてを学ぶ。		
第4講			
概要	二元代表制度における地方議会の公的ルール形成		
事前、事後学習ポイント			
詳細	政党と議会内会派との違いを理解すると共に地方議会における与野党区分や議員提出条例の事情、首長(知事・市長・町村長)と職員の関係についてを学ぶ。		
第5講			
概要	EBPM データに基づくルール形成		
事前、事後学習ポイント	民主党政権下の行政刷新会議・行政レビューシートの概要を調べておくこと		
詳細	エピソードとエビデンスの政治力、行政レビューシートを理解した上で、如何にしてデータに基づく政策・ルール形成を確立するかを学ぶ。		
第6講			
概要	事例研究1 官民データ活用推進基本法・資金決済法(仮想通貨)		
事前、事後学習ポイント	官民データ活用推進基本法・資金決済法(仮想通貨部分)の概要を調べておくこと		

詳細	個人情報保護法改正と限界、官民データ活用推進基本法制定。政党が定めるガイドラインによる価値記録の振興と資金決済法改正に至るプロセス及び国際ルール化を学ぶ。
第7講	
概要	事例研究2 マイナンバー制度
事前、事後学習ポイント	マイナンバー制度(マイナンバー・マイナンバーカード等)の概要を調べておくこと
詳細	社会課題の解決手法としてのマイナンバー制度の確立プロセスを理解し、政府と政党の役職兼務という手法、及び内閣府と省庁、国と地方自治体との関係を学ぶ。
第8講	
概要	公的ルール形成プロセス総論
事前、事後学習ポイント	課題解決の為に作りたルールを1つ決めてくること
詳細	各種ルール形成プロセスを理解した上で、ルールの階層と決定者の選択、日本企業のルール形成能力向上、及び CRS からの発信が何をもたらしてきたのかを学ぶ。
教科書 /Textbook	なし。講義資料は適宜用意する。
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	「世界市場で勝つルールメイキング戦略 (朝日新聞出版)」 福田峰之ブログ https://ameblo.jp/fukudamineyuki
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席:ディスカッション:レポート:プレゼンテーション= 20:20:35:25
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	ルール形成プロセスを理解し、課題・階層・場・手法の設定を確立できる。
評価: A (89~80 点)	ルール形成プロセスを理解し、課題・階層・場の設定が出来る。
評価: B (79~70 点)	ルール形成プロセスを理解し、改題・階層の設定出来る。
評価: C (69~60 点)	ルール形成プロセスを理解し、課題の設定が出来る。
評価: F (59 点~)	ルール形成プロセスを理解している。
留意点 /Additional Information	Google Classroom にて連絡事項の伝達、資料の配布等を行う。政治の世界における具体的なルール形成戦略(課題・階層・場・手法等)のレポートを終了時に提出してもらい内容についてフィードバックする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ルール形成戦略研究所特別講義		
サブタイトル/Sub Title	日本のルール形成力を国家レベルで高めていくための改革シナリオ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Special program by professor of Center for Rule-making Strategy		
教員/Instructor	ルール形成戦略研究所	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
政治家、官僚、研究者、民間企業が現在どのような形でルール形成に関わっており、それぞれはどのような連携関係にあるのかを理解する。ルール形成力を高めるにはこれらの関係者が全てが、より機動的かつ能動的に動いていく必要があるのだが、現在直面している障壁が一体何かを各ポジションで最前線を切り開いているルール形成戦略研究所の教授陣が実例をもとに解説する。			
到達目標/Course Goals			
ルール形成力を国家レベルで高めるために政治、官庁、学会、民間企業の立場で取り組まれている最先端の活動とより発展させていくために必要な日本の構造改革のポイントを理解する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義内容の整理と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	社会課題起点のルール形成戦略（國分教授）		
事前、事後学習ポイント			
詳細	社会課題起点のルール形成戦略		
第2講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		
事前、事後学習ポイント			
詳細	担当講師・講義内容は調整中		
第3講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		
事前、事後学習ポイント			
詳細	担当講師・講義内容は調整中		
第4講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		
事前、事後学習ポイント			
詳細	担当講師・講義内容は調整中		
第5講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		
事前、事後学習ポイント			
詳細	担当講師・講義内容は調整中		
第6講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		
事前、事後学習ポイント			
詳細	担当講師・講義内容は調整中		
第7講			
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義		

事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
第 8 講	
概要	ルール形成戦略研究所の教授陣による講義
事前、事後学習ポイント	
詳細	担当講師・講義内容は調整中
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	「世界市場で勝つルールメイキング戦略 技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」編著者 國分俊史、福田峰之、角南篤 朝日新聞出版、「水素たちよ、電気になーあれ！」福田峰之 アートデイズ、「グローバルルールと競争戦略」藤井敏彦 東洋経済新報社、「FTA ガイドブック」(JETRO)、「ベリーの対日交渉記」藤田忠 日本能率協会マネジメントセンター、「新たな規制をビジネスチャンスに変える環境経営戦略」市川芳明、中央法規出版、『「新しい安全保障」論の視座』赤根谷達雄・落合浩太郎・中西寛・栗栖薫子・中沢力 亜紀書房、「未来を拓く国際標準」産業技術総合研究所、「WIDE LENS ワイドレンズ」ロン・アドナー 東洋経済新報社
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	授業内での議論参加度と出席状況による。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A ⁺ (100~90 点)	授業内での議論参加、発言内容が特段優れている。
評価: A (89~80 点)	授業内での議論参加、発言内容が優れている。
評価: B (79~70 点)	授業内での議論参加、発言内容が良い。
評価: C (69~60 点)	授業内での議論参加、発言内容が普通。
評価: F (59 点~)	出席不良で、授業内での議論参加、発言内容が不十分。
留意点 /Additional Information	講師の講義を踏まえたディスカッションが中心になることから、各授業での討議への積極参加を重視する。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ルール形成のためのメディア戦略		
サブタイトル/Sub Title	メディアから見た国家・社会制度の形成過程と今後の課題		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Media strategy for rule-making strategy professional		
教員/Instructor	岡田宏記	E-mail	okada12031@tbz.t-com.ne.jp
科目群/Course Classification	最新ビジネス実践知/ ルール形成戦略	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
米国の大統領選出や英国の EU 離脱、或いは最近の排外主義や極右思想の台頭等では、SNS が媒介した新たな民意の登場や情報操作といった問題が顕在化、既存の政治手法とメディアの関係が変質し始めている。本講では、近代の「国民国家」という制度が創出された時代と諸メディアの誕生が重なり合うことに着目、①思想、②シンボル、③儀礼空間／パフォーマンス、④メディア、という 4 つのレイヤーを経て、メディアがいかに機能してきたかを学ぶ。そして、この視座をベースに古今の体制・制度を検証、今後の新しいメディアが関与する政治、社会、国際関係の課題を探る。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」を達成するために、具体的な事例を基に、メディアの機能の本質を理解し、新しい時代に即応したメディア・リテラシーを向上させる。同時に、「知の再武装」を図るために、情報収集能力と分析能力を高め、今後の社会課題解決に向けてメディアが為すべきことを構想できる。			
授業形態 /Form of Class	講義、プレゼンテーション、ディベート	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容	講義でのプレゼンテーションの資料作成。関連メディアの視聴、資料・図書の熟読。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	時事的な問題についてメディア視聴 プレゼンテーションのテーマ、方法等について		
詳細	本講のオリエンテーション。現下の国際情勢・国内政治とメディアの関係を包括的な観点から分析。また、新旧メディア間の興亡や記者クラブを中心とする取材ヒエラルキーの功罪等、現在のメディアが抱える課題についても検証する。 宿題；ある問題、テーマについて各メディアはどのように報じたか調べること。第 8 講までに、その調査結果と自分の意見を全員が順次発表する。		
第 2 講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ①天皇制とメディア		
事前、事後学習ポイント	幕末から明治維新にかけての日本の政治と世界情勢 今後のメディアと天皇制の行方		
詳細	天皇制という仕組みが誕生したのは、明治維新以降であることは余り知られていない。そして、日本国の「象徴」と憲法にうたわれる存在は、①思想、②シンボル、③儀礼空間／パフォーマンス、④メディア、という 4 つのレイヤーを経て、国民に浸透した。この稀有な統治形態と形成過程を検証することで、制度の成り立ちとメディアの関係の典型例を学ぶ。 第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション①		
第 3 講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ②今、ヒトラーの時代から学ぶ		
事前、事後学習ポイント	20 世紀前半の世界情勢、特に欧州の動向と今日の類似点		
詳細	世界各地で民族間の問題が過熱し、排外主義も台頭している。そして、今、この稀代の煽動政治家への言及も増している。不安定性が高まる世界情勢を読み解く意味で、ヒトラーの時代を再検証する。大衆を政治に統合するために、オリンピックのページェント化等で、新しいメディア戦略が開発され、様々な実験がなされた、その時代の相貌と残された課題を探ることで、現代への教訓を得る。第 1 講で出された宿題のプレゼンテーション②		
第 4 講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ③トランプ政権とメディア戦略		
事前、事後学習ポイント	米国を巡る内外の政治情勢 既存メディアと SNS の問題		
詳細	戦後、国際公共財を提供してきた米国のプレゼンスが低下している。その主な要因の 1 つ、トランプ大統領誕生に大きく作用した SNS。マイクロターゲティングを援用し、偽ニュースも含め、有権者にカスタマイズした情報を浸透、世論誘導するなど、問題点も次第に露わになりつつある。今後、政権維持に向けて、トランプ氏はどのような政策を採り、メディア戦		

	略を練るのか、米国政治の現況から、今後の政治とメディアの行く末を検証する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③
第5講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア ④新聞と近代制度
事前、事後学習ポイント	19世紀以降のイギリスを中心とした政治過程と新聞の役割
詳細	現在、自由と民主主義、人権、福祉といった価値観が揺らいでいる。これら近代社会を支えるルールはかつて英国で新聞が世論を形成し、権力との壮絶な闘いを経て、獲得したもの。今尚、強い影響力を有するこのメディアが歴史的に果たした功罪を学び、メディア本来の使命を再確認すると共に、ニューメディアが台頭する中、今後の課題解決についても考察する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④
第6講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑤ラジオ・テレビと国家戦略
事前、事後学習ポイント	20世紀の欧米、日本の歩みとメディアの興亡 今後の課題
詳細	SNSの浸透で、既存のメディアの退潮が指摘されるが、ラジオ・テレビは国民国家の政治過程で、国民を統合し、国家目標を完遂するために大きな役割を担った。反面、二度の大戦を経て、メディアが本来為すべき機能を果たしえなかった歴史的教訓も踏まえ、メディアの今後のあり方について洞察する。第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤
第7講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑥外交とメディア
事前、事後学習ポイント	戦後の米国を軸とした日本外交の歩み ロシアのメディア戦略
詳細	本講では、前半、戦後の同盟国である日米の外交関係をメディア史的な観点から俯瞰する。敗戦を経て、アメリカは日本をどのような位置づけ、米主導の国際関係に組み込んでいったか、節目節目の国家イベントの開催とメディアを利用した喧伝の手法を通じて、戦勝国の外交におけるメディアの機能を学ぶ。後半は、ロシアのプーチン大統領のメディア戦略を検証。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥
第8講	
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑦防衛とメディア
事前、事後学習ポイント	今日の防衛力整備のあり方 隣国・中国との向き合い方
詳細	近隣の軍事的脅威が増す中、日本の安全保障は岐路に立っている。米軍プレゼンスへの懸念、自衛隊のあり方など、数多の課題についてメディアとの関連から考察する。特に、台頭する中国を、その独自の統治モデルたる「デジタル権威主義」の観点から分析。報道の自由を認めず、国民をICTで思想統制しようという試みは世界にどんな影響を及ぼすのか、検証する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦
教科書 /Textbook	なし。適宜、講義資料を配布する。
指定図書 /Course Readings	「現代メディア史」 佐藤卓巳著 岩波書店 「政治を動かすメディア」 佐々木毅・芹川洋一著 東京大学出版会
参考文献・参考URL /Reference List	「近代ジャーナリズムの誕生」 村上直之著 岩波書店
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	プレゼンテーション（40%）、出席（30%）、授業での議論参加（30%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90点）	メディアの機能や戦略をよく理解し、プレゼン・議論内容が極めて優れている。
評価： A（89～80点）	メディアの機能や戦略をよく理解し、プレゼン・議論内容が優れている。
評価： B（79～70点）	メディアの機能や戦略を理解でき、プレゼン・議論内容が良い。
評価： C（69～60点）	メディアの機能や戦略を理解し、プレゼン・議論内容が普通。
評価： F（59点～）	出席不良で、プレゼン・議論内容が不十分。
留意点 /Additional Information	日頃から様々なメディアに多く接して、自らの問題意識を高めること。

講義年度/Year	2019		開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネス実践知探究			
サブタイトル/Sub Title	“編集工学”で実践知を磨く			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business Practical Wisdom Study through Editorial Engineering			
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
松岡正剛氏が提唱する“編集工学”の基礎を学び、多様な情報、知を自らの中で統合する実践知を修得し、モノゴトの認識力・理解力を磨き、イノベーターシップのベースとなる教養力基盤を築く				
到達目標/Course Goals				
編集工学アプローチ、技法を実践的な演習やディスカッションなどを通じ修得ると共に、更にビジネス最前線でのリーダーを招き、その実践知を学び、DP2の知的課題解決力を身に着ける				
授業形態 /Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向		学外学習 /Off-Campus Learning	編集工学研究 所本楼
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		講義内容の整理と指定図書の熟読		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	編集工学入門			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	講師；編集工学研究所 安藤昭子氏 編集とは何か？			
第2講				
概要	編集術1			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	講師：編集工学研究所 安藤昭子氏 編集工学スキルトレーニング、ワークショップ			
第3講				
概要	編集術2			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	講師：編集工学研究所 安藤昭子氏 編集工学の応用、ワークショップ			
第4講				
概要	ビジネス実践知と編集1			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	ゲストスピーカー：ビジネスリーダーA氏（未定） ビジネス最前線と編集をつなぐ			
第5講				
概要	ビジネス実践知と編集2			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	ゲストスピーカー：ビジネスリーダーB氏（未定） ビジネス最前線と編集をつなぐ			
第6講				
概要	ビジネス実践知と編集3			
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します			
詳細	講師：安藤昭子氏 編集工学を駆使したビジネス展開事例紹介			

第7講	
概要	ビジネス実践知と編集4
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します
詳細	Business real stories と編集（佐藤）
第8講	
概要	編集工学まとめ 編集工学をどう生かすか？
事前、事後学習ポイント	毎回、簡単なレポート提出を課します
詳細	編集工学的アプローチを実践で磨く
教科書 /Textbook	なし 毎回講義資料を配布します。
指定図書 /Course Readings	『知の編集工学』松岡正剛著
参考文献・参考 URL /Reference List	『学びとは何か』今井むつみ著 千夜千冊 松岡正剛編
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席 30%、クラス参画度 35%、レポート 35%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	編集工学の“こころ”まで理解し、編集術を自由に使いこなしている（合計点 90 以上）
評価： A（89～80 点）	編集工学の理解が十分で、その適用・応用も進んでいる（合計点 80 以上）
評価： B（79～70 点）	編集工学の理解が進んでいるが、その適用・応用にやや課題がある（合計点 70 以上）
評価： C（69～60 点）	編集工学の理解にまだむらがある。（合計点 60 以上）
評価： F（59 点～）	編集工学の理解が不十分（合計点 60 未満）
留意点 /Additional Information	留学生もちろん歓迎しますが、かなり高い日本語能力が必要です。 受講希望者は事前に申し出て下さい。個別面談いたします。 毎回小レポートの作成を課しますが、その内容については講義の中で ディスカッション、フィードバックを行います

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	問題解決学 I		
サブタイトル/Sub Title	問題の発見と解決の本質に迫る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practical Science for How to Solve Problems I		
教員/Instructor	下井 直毅	E-mail	shimoi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。また、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うことは、「問題を解決する」ことだと考える。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要がある。この講義では、その修得を目指す。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP1：最新ビジネス環境の洞察力」を達成するために、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えることができるようになることを目指す。また、あわせて2次的なディプロマポリシーでの「DP2：知的課題解決力」の修得を目指す。			
授業形態/Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習/Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	問題解決の「前提」について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解		
詳細	浜田正幸教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をするための体系的な理解を目指す。		
第2講			
概要	問題解決の「前提」について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解		
詳細	第1講に引き続き、浜田正幸教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。		
第3講			
概要	問題解決の「発見」の技法について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方		
詳細	松本祐一教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。		
第4講			
概要	問題解決の「発見」の技法について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方		
詳細	第3講に引き続き、松本祐一教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。		
第5講			
概要	問題解決の「分析」の技法について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方		
詳細	久保田貴文准教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。		
第6講			
概要	問題解決の「分析」の技法について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方		

詳細	第5講に引き続き、久保田貴文准教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第7講	
概要	問題解決の「解決」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	志賀敏宏教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第8講	
概要	問題解決の「解決」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	第7講に引き続き、志賀敏宏教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考URL /Reference List	各教員が随時、紹介・指定する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席:ディスカッション:グループワーク:プレゼンテーション=30:30:20:20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解した上で他の院生に対しても良い影響を及ぼしている。
評価： A（89～80 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解している。
評価： B（79～70 点）	講義に出席し、積極的に発言している。
評価： C（69～60 点）	講義に出席している。
評価： F（59 点～）	講義への欠席が多く、積極的な発言が認められない。
留意点 /Additional Information	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格を持ち、日本や海外の産・官・学の分野にて活躍されている。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページを参照（ https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/index-smis.html ）。講義時間は、第8講も含めて、12時50分から15時15分までとなる。（注：登壇教員が変更する場合もある）。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	問題解決学 II		
サブタイトル/Sub Title	問題の発見と解決の本質に迫る		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Practical Science for How to Solve Problems II		
教員/Instructor	下井 直毅	E-mail	shimoi@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。また、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うことは、「問題を解決する」ことだと考える。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要がある。この講義では、その修得を目指す。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「DP1：最新ビジネス環境の洞察力」を達成するために、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えることができるようになることを目指す。また、あわせて2次的なディプロマポリシーでの「DP2：知的課題解決力」の修得を目指す。			
授業形態/ Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	学外学習/Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	講義内容の整理		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	問題解決の「前提」について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解		
詳細	小林英夫教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をするための体系的な理解を目指す。		
第2講			
概要	問題解決の「前提」について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の体系的な理解		
詳細	第1講に引き続き、小林英夫教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。		
第3講			
概要	問題解決の「発見」の技法について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方		
詳細	中村その子教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。		
第4講			
概要	問題解決の「発見」の技法について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「発見」の仕方		
詳細	第3講に引き続き、中村その子教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。		
第5講			
概要	問題解決の「分析」の技法について		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方		
詳細	大森拓哉教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。		
第6講			
概要	問題解決の「分析」の技法について－実践編		
事前、事後学習ポイント	問題解決の「分析」の仕方		

詳細	第5講に引き続き、大森拓哉教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
第7講	
概要	問題解決の「解決」の技法について
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	中庭光彦教授（多摩大学経営情報学部）による講義及びグループワーク。問題解決をする上で、問題をいかに「発見」したら良いのかということについて、ケーススタディを中心に学んでいく。
第8講	
概要	問題解決の「解決」の技法について－実践編
事前、事後学習ポイント	問題解決の「解決」の仕方
詳細	第7講に引き続き、中庭光彦教授（多摩大学経営情報学部）による講義。また、その理解を深めるために、グループワークやグループディスカッションを行う。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考URL /Reference List	各教員が随時、紹介・指定する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席:ディスカッション:グループワーク:プレゼンテーション=30:30:20:20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解した上で他の院生に対しても良い影響を及ぼしている。
評価： A（89～80 点）	講義に出席し、積極的に発言し、内容を十分に理解している。
評価： B（79～70 点）	講義に出席し、積極的に発言している。
評価： C（69～60 点）	講義に出席している。
評価： F（59 点～）	講義への欠席が多く、積極的な発言が認められない。
留意点 /Additional Information	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格を持ち、日本や海外の産・官・学の分野にて活躍されている。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページを参照（ https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/index-smis.html ）。講義時間は、第8講も含めて、12時50分から15時15分までとなる。（注：登壇教員が変更する場合もある）。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	1 年次春と秋、2 年次春と秋
科目名/Course Title	「インターゼミ I～IV」		
サブタイトル/Sub Title	-社会工学研究会(寺島実郎学長ゼミ)-		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Inter Seminars I～IV		
教員/Instructor	金 美德	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2～8
講義目的/Aim of Course			
インターゼミ(寺島学長ゼミ)の目的は、学部生・院生・ゼミ OB/OG など約 40 名と寺島学長をはじめとする本学 2 学部と大学院の教員 15 名が、現代社会の抱える課題について、塾形式で切磋琢磨しながら多様な要素や手法を組み合わせた柔らかな発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けることである。 院生・学生自身による課題の発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。11 年目を迎えるインターゼミは、10 年間で 46 論文を完成させた。 テーマは、下記から希望する分野・グループから選ぶこと。 ①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤地域活性化。			
到達目標/Course Goals			
①産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文を作成する。 ②選択したテーマについて、文献研究とフィールドワーク、考察と執筆を行い、1 年間で論文を完成させる。 ③この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション	学外学習 /Off-Campus Learning	有
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	各テーマに関する文献や教科書・指定図書などを通読する。		
講義概要/Course Description 全 15 講は、各 90 分である。毎週土曜日 16 時 20 分～17 時 50 分(学部時間割 5 限目)に九段サテライトキャンパスで開講される。			
第 1 講～第 2 講			
概要	オリエンテーション。学長講話と自己紹介。		
事前、事後学習ポイント	インターゼミは、どのようなゼミで、どのような課題解決や研究活動をするのかを知る。		
詳細	春学期は、①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤地域活性化の各班のこれまでの論文を通読する。 秋学期は、論文を作成する。		
第 3 講～第 4 講			
概要	グループの決定と詳細テーマの検討。		
事前、事後学習ポイント	今年度のテーマを決める。		
詳細	春学期は、①多摩学、②アジアダイナミズム、③サービス・エンターテインメント、④AI、⑤地域活性化の各班のこれまでの論文を踏まえて、テーマについて各グループ毎にディスカッションする。 秋学期は、論文を作成する。		
第 5 講～第 6 講			
概要	学長講話とグループワーク。		
事前、事後学習ポイント	文献調査を行う。 寺島学長の講話内容を深く理解する。		
詳細	春学期は、各テーマに沿って文献一覧を作成すると共に文献を通読する。 秋学期は、論文を作成する。		
第 7 講～第 8 講			
概要	研究計画の発表と学長のアドバイス。		
事前、事後学習ポイント	研究計画を完成させる。		
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、研究計画を立てる。研究計画の内容は、先行研究(文献一覧)、問題意識、フィールドワークやインタビュー、年間スケジュールなど。		

	秋学期は、論文を作成する。
第 9 講～第 10 講	
概要	学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告。
事前、事後学習ポイント	学長のアドバイスに従って研究の方向性を調整する。
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、学長の論考なども参照し、研究計画を練り直す。 秋学期は、論文を作成する。
第 11 講～第 12 講	
概要	グループワークおよびフィールドワーク。
事前、事後学習ポイント	フィールドワークの具体的な計画を立てる。
詳細	春学期は、各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、現地調査、研究者や関係者のインタビュー、アンケート調査、シンポジウムやセミナーへの参加などフィールドワークの内容を決定し、実施する。 秋学期は、論文を作成する。
第 13 講～第 14 講	
概要	学長講話と学長のグループ別指導。
事前、事後学習ポイント	春学期は、院生と教員が共に文献研究とフィールドワークを積み重ねる。 秋学期は、分担して論文を作成する。
詳細	春学期は、文献研究により問題意識を高く持つほど、フィールドワークでのギャップが大きくなり、このギャップの大きさが気付きとなる。この気付きが、問題意識を研ぎ澄ませ、視点を先鋭化させる。また、論文の独創性や質を大きく左右する。 秋学期は、論文を作成する。
第 15 講	
概要	春学期は、中間発表。 秋学期は、最終発表と完成論文の提出。
事前、事後学習ポイント	春学期は、中間発表の準備をする。 秋学期は、論文の編集し、レイアウトを整える。
詳細	春学期: 8 月中旬箱根合宿(1泊2日)。 秋学期: 12 月初旬最終発表、12 月下旬論文提出、1 月初旬教員によるフィードバック、1 月下旬完成論文の提出。
教科書 /Textbook	①『ジェロントロジー宣言～「知の再武装」で 100 歳人生を生き抜く～』(NHK 出版新書、2018 年) ②『シルバー・デモクラシー-戦後世代の覚悟と責任-』(寺島実郎、岩波新書、2017 年) ③『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK 出版、2017 年) ④『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016 年)
指定図書 /Course Readings	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年) ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013 年) ④『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004 年) ⑤『脳力のレッスンⅡ-脱 9.11 への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007 年) ⑥『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010 年) ⑦『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014 年)
参考文献・参考 URL /Reference List	①『若き日本の肖像-1900 年、欧州への旅-』(寺島実郎、新潮文庫、2014 年)

	②『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007年) ③『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010年) ④『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010年) ⑤『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年) ⑥『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013年)
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価。
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+ (100～90点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、90点以上の場合。
評価：A (89～80点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、80～89点の場合。
評価：B (79～70点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、70～79点の場合。
評価：C (69～60点)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、60～69点の場合。
評価：F (59点～)	出席率と議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、59点以下の場合。
留意点 /Additional Information	講義の開始時間は、16時20分であるが、原則16時に集合すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	1 年次春と秋、2 年次春と秋
科目名/Course Title	「フィールドスタディⅠ～Ⅳ」		
サブタイトル/Sub Title	-アクティブ・ラーニング-		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Field Study I ~IV		
教員/Instructor	金 美德	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2～8
講義目的/Aim of Course			
文科省は現在、大学教育の質的転換を図るために「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学」を政策的に要請しており、これをアクティブ・ラーニング(AL)によって実現しようとしている。そのためには、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である」と中央教育審議会が提言している。 また、世界ビジネススクール・ランキングでは、フィールドワークやワークショップ(ファシリテーター)が評価を左右する重要な指標となっている。因みに世界のビジネススクール数は 1,000 大学院、世界の大学数は 18,000 大学である。 このような要請を受けて、大学のみならず、企業の研修においてもアクティブ・ラーニングが積極的に導入されている。特に大学院ビジネススクール(MBA)では、フィールドワーク、ケースメソッド(院生がケースを事前に学習し分析結果や意思決定の理由を教員の指導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身が主体的に学ぶ方法)、アジア・新興国市場開拓のイノベーションなどが注目されている。 本学では、2016 年度より「アクティブ・ラーニングセンター」を設立し、本格的にアクティブ・ラーニングを導入している。本学が目指すアクティブ・ラーニングとは、「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互の知的成長により新たな知識と知恵を創造し、問題や課題を解決すること」と考えている。また、SDGs(持続可能な開発目標)、ESD(持続可能な開発のための教育)、ESG(環境・社会・企業統治)をアクティブ・ラーニングのテーマとしている。 したがって「フィールドスタディⅠ～Ⅳ」では、フィールドワークやアクティブ・ラーニングを積極的に評価する。本来、研究活動や論文作成において「文献研究とフィールドワーク」が基本であり、車の両輪のようなものである。フィールドワークとは、現地・現物・現人の調査(インタビュー、ヒアリング、体験)や定性・定量的手法を用いた実証的検証(アンケート、データ分析、実験)などである。また、学内外のプロگرام・セミナー・地方実習・海外研修などへの参加も奨励し、評価する。 「フィールドスタディⅠ～Ⅳ」では、院生の「気付き」、「理論と経験の繋がり」、「行動力・現場力・実践力の向上」、「視野拡大」、「問題・課題の発見力と解決力の向上」などの機会を提供する。 この目的を達成することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。			
評価方法/Method of Evaluation			
1.「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプロگرام・セミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に 2 単位を認定する。これまで研究活動やフィールドワークは、「研究実習」として単位認定していたが、今年度より「フィールドスタディ」科目で単位認定する。また、本学の学部で開講する寺島学長監修リレー講座、アクティブ・ラーニングプログラム(飛騨高山プログラム、韓国研修)、地方実習、海外研修なども対象とする。 2.単位の認定は、大学設定基準により 30 時間～45 時間の学修・活動時間を確保することを条件とする。 3.エビデンス(証憑書類)は、必要に応じて添付や提出をすること。エビデンスは、プログラム・セミナー・実習・研修の案内(コピーやメール)、写真、旅程表・領収書、渡航証明など実施したことが証明できるもの。 4.「フィールドスタディ」の申請および報告方法は、以下の通り。 (1)事前申請 ①「フィールドスタディ事前申請書」と「フィールドスタディ結果報告書」の用紙は、事務局で入手する。 ②「フィールドスタディ事前申請書」には、目的と 30 時間以上の学修・活動時間を確保できるエビデンスを記入すること。関連資料を添付することも可能である。 ③作成した「フィールドスタディ事前申請書」は、事務局に提出すること。 ④提出された「フィールドスタディ事前申請書」は、担当教員(金美德教授)が、内容確認を行い、署名・捺印する。署名・捺印後に実施が可能となる。 (2)事後報告 ①「フィールドスタディ結果報告書」には、研究・活動の成果と 30 時間～45 時間の学修・活動時間を確保したエビデンスを記入すること。関連資料を添付することも可能である。 ②作成した「フィールドスタディ結果報告書」は、事務局に提出すること。 ③提出された「フィールドスタディ結果報告書」は、担当教員(金美德教授)が、内容確認を行い、可否を判定する。合格すれば 2 単位を認定する。 (3)単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2 月～7 月末までに提出した場合は春学期、8 月～1 月末までに提出した場合は秋学期の単			

位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1 年を過ぎたものは認めない。

④ 単位数は、各学期毎に 2 単位を限度とする。また、2 年間で認定される最大単位数は、8 単位とする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	留学生のための日本経済・経営基礎A		
サブタイトル/Sub Title	大学院での学びの基礎作り		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction of Japanese Economy and Management I		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/留学生支援	単位数/Credits	1
講義目的/Aim of Course			
日本・日本企業での実務経験が少ない留学生を対象として、日本経済・経営の歴史、現状に関する基礎・常識を取得することで大学院での学びを支援する			
到達目標/Course Goals			
日本の経済・経営に関する講義、書籍、新聞等参考資料などの理解のベースを作り、実践的教養力を高める 日経一面の主要経済・経営記事について理解できるレベルを目指す			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		当回及び次回のテーマに関する疑問・質問（その理由を添えて）をそれぞれ3つ以上用意すること	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	日本の国土、人口、文化、歴史、政治概略		
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること		
詳細	日本に関する全体像の把握		
第2講			
概要	日本経済史（とりわけ戦後）		
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること		
詳細	戦後の日本経済の歴史を振り返り、その特徴を把握し、現状を理解すること。 同時に自国の経済成長がどのような発展段階にあるのかの理解も深める		
第3講			
概要	産業構造、企業形態、ガバナンス		
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること		
詳細	経済成長と共に産業構造・企業形態・ガバナンスがどう変化してきたか？ 同時に自国との違いも認識する		
第4講			
概要	教育・労働・雇用		
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること		
詳細	教育制度、労働事情、雇用慣行など現状と課題について学ぶ 同時に自国との違いも認識する		
第5講			
概要	“日本的経営”		
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること		
詳細	いわゆる日本的経営とは何か？現在も機能しているのか？その歴史、背景、現状を学ぶ。同時に自国との違いも認識する。		
第6講			

概要	グローバル化と日本の経済・経営
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること
詳細	グローバル化のなかで日本の経済・経営はどのように対応してきたのか？ その歴史と現状を学ぶ。同時に自国との違いも認識する
第7講	
概要	日本と自国との比較
事前、事後学習ポイント	当回及び次回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること
詳細	6講までに学んできた日本の経済・経営と自国のそれと比較し、 自国の経営に活かす制度、慣行などについてグループディスカッション
第8講	
概要	本講義のまとめ
事前、事後学習ポイント	当回のテーマに関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること
詳細	第1講から第7講までの内容を整理し、現在取得している他の講義での 疑問点について議論し、今後の学習の一助にする
教科書 /Textbook	なし。毎回講義資料を配布します。 毎回直近の日本経済・経営に関する新聞記事コピーを配布。講義資料とします。
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	『日本経済図説』岩波新書
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席 30%、クラスでの参画度 20%、プレゼンテーション 20%、レポート 20%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	上記項目が全て非常に優れている。日本経済・経営について自分の言葉で語れる
評価： A（89～80 点）	上記項目合計が優れており、日本経済・経営について概略を理解している
評価： B（79～70 点）	上記項目合計が 70%程度であり、日本経済・経営について理解が進んでいる
評価： C（69～60 点）	上記項目合計が 60%程度であり、日本経済・経営について理解が十分ではない
評価： F（59 点～）	上記項目合計が 60%未満で、日本経済・経営についての理解が不十分
留意点 /Additional Information	新入留学生の必修科目。（秋入学生は春学期に 1 を修得のこと） 在校生の再履修も歓迎します。 レポートは提出後、個別にフィードバックする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	留学生のための日本経済・経営基礎 B		
サブタイトル/Sub Title	日本経済・経営に関する書籍を読み込む		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Introduction of Japanese Economy and Management II		
教員/Instructor	佐藤勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/留学生支援	単位数/Credits	1
講義目的/Aim of Course			
日本・日本企業での実務経験が少ない留学生を対象として、日本経済・経営に関する代表的書籍をじっくり読み込むことで、大学院で必要な理解力・読解力・要約力を養うと共に日本経済・経営に関する基礎知識を固める。同時にDP1にある「最新ビジネス環境の洞察力」も磨く			
到達目標/Course Goals			
日本経済・経営に関する基礎知識を習得し、経済・経営に関する最新の論文、新聞記事など理解できるレベルを目指す			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	課題図書の予習・復習		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	経済・経営書籍を読むということ		
事前、事後学習ポイント	『人口と日本経済』を事前に読み、質問や疑問を整理しておくこと		
詳細	経済・経営図書の読み方 書名・出版年・出版社・表紙・帯・著者・まえがき・あとがき・目次		
第 2 講			
概要	吉川 洋著『人口と日本経済』第 1 章・第 2 章		
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ 3 つ以上用意すること		
詳細	チーム（2－3 名）で 2 章ごと要約を発表・同解説		
第 3 講			
概要	吉川 洋著『人口と日本経済』第 3 章・第 4 章		
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ 3 つ以上用意すること		
詳細	チームで 2 章ごと要約を発表・同解説		
第 4 講			
概要	吉川洋著『人口と日本経済』まとめ 岩井克人著『会社はこれからどうなるのか』第 1 章、第 2 章		
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ 3 つ以上用意すること		
詳細	チームで 2 章ごと要約を発表・同解説		
第 5 講			
概要	岩井克人著『会社はこれからどうなるのか』第 3 章・第 4 章・第 5 章・第 6 章		
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ 3 つ以上用意すること		
詳細	チームで 2 章ごと要約を発表・同解説		
第 6 講			
概要	岩井克人著『会社はこれからどうなるのか』第 7 章・第 8 章・第 9 章・第 10 章		
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ 3 つ以上用意すること		
詳細	チームで 2 章ごと要約を発表・同解説		

第7講	
概要	岩井克人著『会社はこれからどうなるのか』まとめ
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること
詳細	チームで2章ごと要約を発表・同解説
第8講	
概要	『人口と日本経済』『会社はこれからどうなるのか』まとめ
事前、事後学習ポイント	前回・今回の内容に関する疑問・質問をそれぞれ3つ以上用意すること
詳細	同書のまとめ・解説、本の読み方・要約のしかたまとめ
教科書 /Textbook	吉川 洋著『人口と日本経済』 岩井 克人著『会社はこれからどうなるのか』
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	必要に応じ最新新聞記事コピーを配布します
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席 30%、クラス参画度 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 20%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	両著書について十分な理解が出来ており、独自の意見を論述できる（合計点が 80 以上）
評価： A（89～80 点）	両著書について十分な理解が出来ている（合計点が 80 以上）
評価： B（79～70 点）	両著書についてほぼ理解が出来ている（合計点が 70 以上）
評価： C（69～60 点）	両著書について理解がまばらである（合計点が 60 以上）。
評価： F（59 点～）	両著書について理解が不十分（合計点が 60 未満）
留意点 /Additional Information	本コースは“留学生の為の日本経済・経営基礎Ⅰ”を修了した後、受講ください。 レポートは提出後、個別にフィードバックする。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	ビジネスジャパニーズⅠ		
サブタイトル/Sub Title	日本語の口頭発表		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business JapaneseⅠ		
教員/Instructor	藏 彦 礼佳	E-mail	me_chen2008@yahoo.co.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	1
講義目的/Aim of Course			
日本語での口頭発表の表現とその手法を学び、聞く力、話す力を向上させ、ビジネスパーソンとしての基礎教養を身につけることを目的とします。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「知の再武装」、「情報収集能力と分析能力」、「問題解決能力」を達成するために、人前で発表することに慣れ、自分の意見を論理的に述べるができること、グループ内でのコミュニケーションを取り、最善なアウトプットにたどり着くプロセスを習得する。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	グループディスカッションに備え、データ収集を含む事前準備を行うこと		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 8 講は各 90 分			
第 1 講			
概要	オリエンテーション		
事前、事後学習ポイント	主観を述べる文法形式を復習する		
詳細	オリエンテーション及び自己紹介、主観を述べる文法形式を学ぶ		
第 2 講			
概要	スピーチについて学ぶ		
事前、事後学習ポイント	スピーチのポイント、原稿の書き方を復習する		
詳細	スピーチのポイント、準備、原稿の書き方を学ぶ		
第 3 講			
概要	スピーチを実践する		
事前、事後学習ポイント	① 事前に今回のスピーチテーマを考えておく ② 授業後スピーチの基本ポイントを復習する		
詳細	第 2 講で学んだことを踏まえて自分が興味を持つテーマを決めて、スピーチの原稿を書き、クラスで発表、それについて講師からフィードバックする		
第 4 講			
概要	ディスカッションについて学ぶⅠ		
事前、事後学習ポイント	グループ内で意見の違うメンバーにどのように自分の考えを伝えればいいのかを考えること		
詳細	① ディスカッションのポイント、ディスカッションの流れ、ディスカッションの形式 ② グループディスカッションの練習		
第 5 講			
概要	ディスカッションについて学ぶⅡ		
事前、事後学習ポイント	ブレインストーミングのルールを理解し、ディスカッションに臨むこと		
詳細	ブレインストーミングとしてのディスカッションを学ぶ		
第 6 講			
概要	ディスカッションについて学ぶⅢ		
事前、事後学習ポイント	自分の意見を他人に伝え、他のメンバーの意見をうまく引き出し、グループの意見をまとめることを心がける		
詳細	第 4 講、第 5 講の内容を踏まえてディスカッションをし、グループごと発表		
第 7 講			

概要	ディベートについて学ぶⅠ
事前、事後学習ポイント	立論・反論組み立てる
詳細	ディベートの目的、方法と技術について学ぶ
第8講	
概要	ディベートについて学ぶⅡ
事前、事後学習ポイント	ディスカッションの手法を用いてグループ内での立論、反対尋問、最終弁論をまとめることを心がける
詳細	グループAとBに分かれて、ディベートを行い、講師からフィードバック
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	出席率 30％ 講義・議論参加度 35％ 各セッションの発表 35％
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	上記評価方法配分合計の到達点、90％以上を原則とする
評価： A（89～80 点）	上記評価方法配分合計の到達点、80％以上を原則とする
評価： B（79～70 点）	上記評価方法配分合計の到達点、70％以上を原則とする
評価： C（69～60 点）	上記評価方法配分合計の到達点、60％以上を原則とする
評価： F（59 点～）	上記評価方法配分合計の到達点、60％未満を原則とする
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	ビジネスジャパニーズⅡ		
サブタイトル/Sub Title	アカデミック・プレゼンテーション		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Business JapaneseⅡ		
教員/Instructor	藏 彦 礼佳	E-mail	me_chen2008@yahoo.co.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	1
講義目的/Aim of Course			
日本語でアカデミック・プレゼンテーション・スキルを身に着けることを目的とする。			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの「知の再武装」、「情報収集能力と分析能力」、「デジタル技術」を達成するために、アカデミック・プレゼンテーションに必要な基本的語彙表現を学び、発表スライドの作成やプレゼンテーションにおいて論理的な話し方ができるようにする。			
授業形態 /Form of Class	講義、グループワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	プレゼンテーション に備え、データ収集を含む事前準備を行うこと		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 8 講は各 90 分			
第 1 講			
概要	プレゼンテーションの基礎知識		
事前、事後学習ポイント	何のために、誰に向かってプレゼンテーションするかを心がける		
詳細	① プレゼンテーションのポイント、準備 ② 伝わる資料作成の基本知識及び分かりやすい資料作成のコツ		
第 2 講			
概要	プレゼンテーション実践①「私の専門」「私がこれから学ぶ専門」		
事前、事後学習ポイント	専門用語の学習		
詳細	前回のプレゼンテーション学習を踏まえて、資料を作成し、発表する		
第 3 講			
概要	目的に応じた図形活用テクニック		
事前、事後学習ポイント	図形効果的な使い方		
詳細	図形の種類と使う目的、多角形、矢印・線、カッコ吹き出しなどの使い方及び注意すべきポイント		
第 4 講			
概要	チャートで関連性を表現		
事前、事後学習ポイント	チャートの効果的な使い方		
詳細	チャートの種類と使う目的、象限図、階層図、集合図などの使い方及び注意すべきポイント		
第 5 講			
概要	統計データをグラフ化する		
事前、事後学習ポイント	グラフの効果的な使い方		
詳細	グラフの種類と使う目的、棒グラフ、円グラフなどの使い方と注意すべきポイント		
第 6 講			
概要	プレゼンテーション実践②「私の国」「私の町」		
事前、事後学習ポイント	スライドのデザイン、構成、作り方		
詳細	図形、チャート、グラフを用いて、資料を作成し、発表する		
第 7 講			
概要	プレゼンテーション実践③最終プレゼンテーションの準備		

事前、事後学習ポイント	プレゼンテーションの事前準備
詳細	グループに分かれて、それぞれテーマを決めて、プレゼンテーションの資料を作成する。
第8講	
概要	プレゼンテーション実践③最終プレゼンテーション
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーションの事前準備
詳細	グループごとテーマに沿ってプレゼンテーションを行い、発表内容についてアドバイスや発表者からの質問について回答を行う
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率 30% 講義・議論参加度 35% 各セッションの発表 35%
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	上記評価方法配分合計の到達点、90%以上を原則とする
評価： A（89～80 点）	上記評価方法配分合計の到達点、80%以上を原則とする
評価： B（79～70 点）	上記評価方法配分合計の到達点、70%以上を原則とする
評価： C（69～60 点）	上記評価方法配分合計の到達点、60%以上を原則とする
評価： F（59 点～）	上記評価方法配分合計の到達点、60%未満を原則とする
留意点 /Additional Information	なし

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期	
科目名/Course Title	論文スタートアップⅠ・Ⅱ			
サブタイトル/Sub Title	就学生修士論文・実践知論文の前指導			
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master`s thesis for foreigner			
教員/Instructor	劉 麗娜	E-mail	ryu@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤/留学生支援	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
外国人にとって日本語で文書を書くことにハードルが存在し、論文にまとめることとなると尚更難しくなり、そこで一人一人の国や経験を踏まえ、論文作成に必要な独自の問題提起、先行文献の検索方法、仮設や検証方法など講義を通じて気付かせる。				
到達目標/Course Goals				
多摩大学大学院の教育理念である「知の再武装」とディプロマポリシーでの「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」を達成するために、論理的構造が明確な修士論文、実践知論文の作成（仮説を立て、文献調査とフィールドワーク調査をもとに検証、分析し考察）に当たり、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えることを求める。 (1) 問題意識と課題設定 (2) 先行研究 (3) 事実調査 (4) 切り口と論理展開 (5) オリジナリティ (6) 説得性				
授業形態/Form of Class	講義、受講生による発表、グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		日頃から好奇心を働かせ、製造業、サービス業、金融業などどんな業界でもいいので、自分の主となる強みを確立させ、授業時に毎回自分が興味を持つことについて紹介する。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	論文演習に関するガイダンス①を行う。			
事前、事後学習ポイント	今までの社会経験を踏まえた問題提起を羅列			
詳細	教員による個人面談を行い、問題意識や得意分野を確認し、適宜アドバイスを行う。			
第2講				
概要	論文に関するガイダンス②を行う。			
事前、事後学習ポイント	問題設定から論文作成に必要な基礎知識の共有			
詳細	教員による論文の構成、先行文献の検索方法、仮設や注意事項などについての共有			
第3講				
概要	先輩たちの論文を分析			
事前、事後学習ポイント	自分が興味を持つ分野から他者の論文を解説			
詳細	本校或いは他校の論文を読み、その構成から自身の課題をより具現化できるように手掛ける。			
第4講				
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。			
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成			
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして自身の論文に活かす。			
第5講				
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。			
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成			
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして自身の論文に活かす。			
第6講				
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。			
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成			

詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして自身の論文に活かす。
第7講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして自身の論文に活かす。
第8講	
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして自身の論文に活かす。
教科書 /Textbook	教科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。
指定図書 /Course Readings	教科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。
参考文献・参考 URL /Reference List	先輩たちの論文を少なくとも5部読んで分析する。 観光庁や経産省などの公的機関データを確認。
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率（30%）授業内での議論参加（30%）演習成果及び報告（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業内での議論参加、発表内容がとても優秀である。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、発表内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、発表内容がいい。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、発表内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、発表内容が不十分。
留意点 /Additional Information	授業内は原則日本語を共通言語とし、同じ国同士でもできる限り日本語で交流すること。自分の論文にだけでなく、ほかの方が発表しているときもきちんと確認し、枠組みや感が方を学びながらアドバイスすること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期	
科目名/Course Title	論文演習			
サブタイトル/Sub Title	テーマ選択から論文執筆まで			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar			
教員/Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
修士の学位を取得するためには、論文もしくは実践知研究を提出しなければならない。その基本は、理論と実践を「行ったり、来たり」しながら、仮説と論証を育成する作業になる。まず先行研究で、自分の抱えている問題に「重ね書き」や「見立て」ができそうな枠組みはないかを探してみる。そこで探求のための「プラットフォーム」が見つければしめたもの。場合により、未知の学問分野を習得する必要があるが、問題意識を抱えたうえでの未知分野の学習は容易である。そのうえで「思考実験」や「比較検討」を繰り返してアウトラインを改訂していく作業をするが、それが本演習科目の目的である。				
到達目標/Course Goals				
論文のアウトライン図（設計図）を作ることと実際に文章にすること間には大きなギャップがある。設計図では、平面図でも立体図でも見る人の感覚的理解に頼ることができるが、それを文章に書くことは全く違っていて、線状（一次元）に言葉を並べていく綱渡りの作業に似ている。本演習では実際のこの論文の執筆が到達目標である。				
授業形態 /Form of Class	プレゼンテーション、ディベート、グループディスカッション	学外学習 /Off-Campus Learning	無し	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		自分の論文のアウトラインを作成し、演習でプレゼンテーションとディスカッションができる準備をすることが必要である。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	論文の対象・主題・テーマ 修論のテーマは卒業後も「雪だるま」のように大きく育つ。「小さく生んで大きく育つ」の方針でのぞむのが大事。			
事前、事後学習ポイント	教科書1に沿って説明するので、事前に読んでおくこと。			
詳細	● 「土地勘」のある領域でのテーマ選び ● 「入り口は狭いが、奥行きは深そうにみえる」対象が理想。 ● 「面白そうで、不思議なところがある」テーマは好奇心を刺激。 ● タイトルは、読み手が「これを読むと何が分かるか」という視点で決める			
第2講				
概要	先行研究 探求のための「プラットフォーム」の見つけ方			
事前、事後学習ポイント	自分のテーマに沿った先行研究探索を開始する。			
詳細	● 問題に「重ね書き」や、問題の「見立て」ができそうな枠組みはないか？ ● 未知の学問分野に踏み込むことを畏れない。 ● 複眼思考による組み合わせ			
第3講				
概要	仮説のつくり方 問題を詰め込んで、疲れ果て、散歩にでたり、寝たりすると、何かの拍子に「ひらめく」ことがあります。			
事前、事後学習ポイント	自分の仮説をいろいろと考えて試行錯誤			
詳細	● 「発見的探索 (Heuristics)」 ● 「切り貼り細工 (Bricolage)」 ● 間違い・失敗 (根本的な軌道修正) ● 「ひらめき (Serendipity)」			
第4講				
概要	論証(考えを導く方法) まず結論や「ひらめき」があり、それから逆順で論証方法(テーマによりさまざまです)を考える方が楽。			
事前、事後学習ポイント	教科書1, 2などを参照しながら、自分なりの論証方法を思考実験			
詳細	● 演繹 (Deduction) : トップダウンの論証で(真か偽か)、新しい視界を開いていく力はない。結論は正しいけど、新しいことは何も言っていない。 ● 帰納 (Induction) : 観察や事例の収集による規則性(飛躍がともなう)。結論は正しくないけど新しいことを言っている。			

	● 仮説形成 (Abduction) : 名探偵の推理のように、想像力と仮説で推理する
第 5 講	
概要	仮説形成 (abduction) 「演繹」とは異なり、「観察」から「推理」する方法 (
事前、事後学習ポイント	教科書 1, 2 などを参照しながら、自分なりの論証 (とくに仮説形成法) を思考実験
詳細	● 結論は必然ではないが、手持ちの材料から判断するかぎり、もともと蓋然性の高い仮説である。
第 6 講	
概要	論文書き方の留意点 読む人に分かりやすい文
事前、事後学習ポイント	教科書 2, 3, 4 で章の書きかたの基本を確認
詳細	● 論理的で「一文一義」の文 ● パラグラフ・節・章の構成 ● 接続詞の上手な使い方
第 7 講	
概要	日本語との付き合い方 論理的な文を書くには、「外国語」のように日本語の構造をとらえる知識が必要
事前、事後学習ポイント	教科書 2, 4 で文章を書く訓練
詳細	● 主観的な論述は避ける。 ● 文体は「である」「だ」で統一し、言い切る。 ● 「は」、「が」、「の」などの助詞の使い方に気をつける。 ● 分かりやすく論理的な文の鍵は、接続詞でのつながりの付け方 ● 内容語は漢字に。機能語は平仮名。
第 8 講	
概要	全体的な留意点 論文は内容だけではなく、「形式 (枠の付け方)」も大事
事前、事後学習ポイント	教科書全部を参照して「抜け」や形式の「間違い」がないかをチェック。
詳細	● 文章の質 (文頭と文末の対応はとれているか。長すぎる文は含まれていないか。漢字・かな・カタカナの使い分けは一貫しているか。) ● 論文の形式 (注の番号に重複や脱落はないか。引用のしかたが一貫しているか。参考文献表に記載漏れや過剰記載はないか。)
教科書 /Textbook	1. 『新版論文の教室』戸田山和久、NHK 出版 2. 『日本語リテラシー』滝浦真人著、放送大学出版会 (TV 番組もお薦め) 3. 『日本語アカデミックライティング』滝浦真人著、放送大学 (ラジオ番組もお薦め) 4. 『理科系の作文技術』木下是雄、中公新書
指定図書 /Course Readings	各人のテーマに合わせて指示する。
参考文献・参考 URL /Reference List	各人のテーマに合わせて指示する。
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	論文プレゼンテーション (50%) 出席 (30%) ディスカッション (20%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価: A+ (100~90 点)	問題抽出、先行研究、課題設定、仮設提示、分析、提案、論文作成が行える。
評価: A (89~80 点)	問題抽出、先行研究、課題設定、仮設提示、分析、論文作成が行える。
評価: B (79~70 点)	問題抽出、先行研究、課題設定、分析、論文作成が行える。
評価: C (69~60 点)	問題抽出、先行研究、課題設定、仮設提示、分析、論文作成が行える。
評価: F (59 点~)	問題抽出あるいは先行研究だけで論文作成を行うことがむずかしい。
留意点 /Additional Information	書くことに慣れていない者は、できるだけ早い機会に、教科書を読み、かつ教科書 2 の TV 番組や 3 のラジオ番組を聴き、書く力を身につける努力をすること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title	論文演習		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ゼミでは、論文のテーマの設定の仕方や探索方法、論文の論理構成、仮説の構築方法、調査の進め方、実際の論文の書き方、そして論文の内容そのものについて、各自が実際の研究テーマをもとに個人発表とグループディスカッションを行う中で立体的、インタラクティブに実践を通じて理解を深める。個別相談と全体演習（サークル）との組み合わせで進行する。当大学院のディプロマポリシーとも呼応し、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えることを目標とする。（1）問題意識と課題設定、（2）先行研究、（3）事実調査、（4）切り口と論理展開、（5）オリジナリティ、（6）説得性、（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性			
到達目標/Course Goals			
DP2「知的課題解決力」と「知の再武装」を達成するために、所属する組織内での経営上の高度な課題とその解決方向に関する研究テーマ、あるいは現代の経営戦略上重要な課題に関連した研究テーマを設定し、理論と実践知に実践知を多摩大学大学院にふさわしいレベルの修士論文、実践知論文を完成させる。			
授業形態/Form of Class	グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容		自分の論文について準備発表するだけでなく、他のメンバーの発表についても理解しアドバイスできるようにすること。	
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	論文演習の概要説明とメンバーの相互理解		
事前、事後学習ポイント	論文のテーマ設定や進め方など基本と全体像を理解する。		
詳細	当論文ゼミの方針や進行を理解する。メンバー相互について、個人のバックグラウンド、研究テーマ、問題意識、ゼミを通じた抱負などを理解する。		
第2講			
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表		
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる		
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。		
第3講			
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表		
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる		
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。		
第4講			
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表		
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる		
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。		
第5講			
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション		
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる		
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。		

第 6 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 7 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
第 8 講	
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション
事前、事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。
教科書 /Textbook	指定なし
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	「論文のレトリック」澤田昭夫、講談社学術文庫
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	ゼミの出席（20%）、発表（40%）、講義内の議論に参加（40%）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	ゼミの出席回数、講義内の発表やディスカッションへの貢献が優れている。ゼミの合間で行う講義外での自身の論文作成に関連する各種の実践活動が質量ともに活発で優れている。上記 7 項目の達成度が優れていると評価できる。
評価： A（89～80 点）	上記同様のポイントについて良いと評価できる。
評価： B（79～70 点）	上記同様のポイントについて普通と評価できる。
評価： C（69～60 点）	発表や講義内でのディスカッションへ参加がやや劣る。
評価： F（59 点～）	発表や講義内でのディスカッションへ参加が少ない。
留意点 /Additional Information	クラスでの個人発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期	
科目名/Course Title	論文演習			
サブタイトル/Sub Title	実践知論文作成を通じて行うビジネス経験の棚卸し			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar			
教員/Instructor	田坂広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
多摩大学大学院の「実践知論文」について、テーマ設定、研究方法、論文作成方針、プレゼン技術の指導を行う				
到達目標/Course Goals				
自身の過去のビジネス経験から得た「暗黙知」を棚卸しし、今後のビジネスとキャリア戦略の役に立つ論文を作成する				
授業形態 /Form of Class	グループによる集中ゼミと個別指導		学外学習 /Off-Campus Learning	無し
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		集中ゼミでの発表と、相互のコメント・アドバイス 個別指導による、論文作成方針の修正		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	グループによる集中ゼミと個別指導			
事前、事後学習ポイント	研究論文の作成、集中ゼミでのプレゼン、相互コメント、個別指導による論文修正			
詳細	研究テーマに基づいた相互発表とグループ討議、個別相談と個別指導			
第2講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			
第3講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			
第4講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			
第5講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			
第6講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			
第7講				
概要	前講に同じ			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ			
詳細	前講に同じ			

第8講	
概要	前講と同じ
事前、事後学習ポイント	前講と同じ
詳細	前講と同じ
教科書 /Textbook	『知性を磨く 「スーパージェネラリスト」の時代』（田坂広志著：光文社新書）
指定図書 /Course Readings	『企画力』（田坂広志著：PHP文庫）
参考文献・参考 URL /Reference List	ダイヤモンドオンライン「7つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	論文内容（50％）グループ討議（20％）プレゼン（30％）
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A⁺（100～90 点）	論文内容良い＋グループ討議良い＋プレゼン良い
評価： A（89～80 点）	論文内容良い＋グループ討議良い＋プレゼン普通
評価： B（79～70 点）	論文内容良い＋グループ討議普通＋プレゼン普通
評価： C（69～60 点）	論文内容普通＋グループ討議普通＋プレゼン普通
評価： F（59 点～）	論文内容悪い＋グループ討議普通＋プレゼン普通
留意点 /Additional Information	春学期は「スーパー・ジェネラリスト」の受講、秋学期は「ネオ・リベラルアーツ」の受講が条件

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期	
科目名/Course Title	論文演習			
サブタイトル/Sub Title	論文演習			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar			
教員/Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力		単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course				
ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、発表と実践の演習を通して学ぶ。				
到達目標/Course Goals				
ディプロマポリシーにある「時代認識と世界認識」を磨き、「実践的教養」に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめる底力をつける。多摩大学大学院にふさわしい修士論文、実践知論文（特定課題研究論文）の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1) 問題意識と課題設定、(2) 先行研究、(3) 事実調査、(4) 切り口と論理展開、(5) オリジナリティ、(6) 説得性、(7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性				
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	あり	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。			
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解			
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する			
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題：必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。			
第2講				
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。			
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。			
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向) 第1講で出された宿題のプレゼンテーション。			
第3講				
概要	前講に同じ。			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。			
詳細	前講に同じ。			
第4講				
概要	前講に同じ。			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。			
詳細	前講に同じ。			
第5講				
概要	前講に同じ。			
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。			
詳細	前講に同じ。			
第6講				
概要	前講に同じ。			

事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第7講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第8講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
教科書 /Textbook	「知性を磨く」田坂広志、光文社新書
指定図書 /Course Readings	なし。
参考文献・参考 URL /Reference List	「論文の教室（新版）」戸田山和久、NHKブックス、「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、「調査のためのインターネット」アリアドネ著、「アイデアのちから」チップ・ハース、ダアン・ハース、日経 BP 社
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業内での議論参加(40%)、出席(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A+（100～90 点）	積極的に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの貢献も心がけること。

講義年度/Year	2019 年度	開講学期/Semester	春学期・秋学期
科目名/Course Title	論文演習Ⅰ・Ⅱ		
サブタイトル/Sub Title	留学生修士論文・実践知論文指導ゼミ		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	巴特尔（バートル）	E-mail	baatar@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
経営実学に基づいた修士論文・実践知論文が持つべき要件・内容・レベルを理解した上で、外国人留学生ならではの視点に立った切り口とオリジナリティを追及した研究論文の作成指導を行い、質の高い研究成果を目指す。			
到達目標/Course Goals			
多摩大学大学院の教育理念である「知の再武装」とディプロマポリシーでの「DP2：思考と判断（知的課題解決力）」を達成するために、論理的構造が明確な修士論文、実践知論文の作成（仮説を立て、文献調査とフィールドワーク調査をもとに検証、分析し考察）に当たり、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えることを求める。 （1）問題意識と課題設定（2）先行研究（3）事実調査（4）切り口と論理展開（5）オリジナリティ（6）説得性（7）未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性。			
授業形態 /Form of Class	講義、受講生による研究発表、グループディスカッション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	AL 発表祭 （11 月）での 発表実施
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		研究テーマに関する先行研究とビジネスの最新情報の収集・分析・調査を行うこと。また、ゼミでの発表準備だけでなく、ゼミメンバーの発表についても理解し、意見を述べる共にアドバイスができること。上記事項のための準備学習時間は1 講義につき 4 時間程度	
講義概要/Course Description 全8 講 第1 講～第7 講は各 180 分 第8 講は 90 分でも可			
第1 講			
概要	論文演習に関するガイダンスを行う。		
事前、事後学習ポイント	問題設定から論文作成に至る基本的な知識を再確認する。		
詳細	① 教員による問題意識・課題設定、先行研究、文献とフィールド調査、切り口と論理展開、オリジナリティ、未解明な事柄や学問研究等についての解説。 ② 教員による個人面談を行い、研究テーマの設定状況を確認し適宜アドバイスを行う。		
第2 講			
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。		
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第3 講			
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。		
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第4 講			
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。		
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第5 講			
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前、事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。		

詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 6 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討し PPT 形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 7 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討し PPT 形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は、それを整理し、次回の発表に活かし論文作成に役立てる。
第 8 講	
概要	総括
事前、事後学習ポイント	事前学習として、受講生は論文の進捗状況をまとめ、授業の中で報告できるように準備すると共に、事後の学習としてレポートにまとめ、提出する準備をする。更に、論文のドラフトの構成を検討し PPT 形式で資料を作成する。
詳細	受講生による研究発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスをを行う。発表者は、それを整理し、論文作成に役立てる。
教科書 /Textbook	教科書や図書は特に定めないが、随時紹介ないし適宜用意する。
指定図書 /Course Readings	無し
参考文献・参考 URL /Reference List	日本貿易振興機構 HP : http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/ 日本財務省貿易統計 HP : http://www.customs.go.jp/toukei/info/ 日本政府観光局 HP : https://www.jnto.go.jp/jpn/ 「日本経済新聞」「東洋経済」「エコノミスト」「日経 BP オンライン」、CNN、BBC、WSJ 等 新聞、雑誌メディア類
評価方法/Method of Evaluation	
配分 (合計 100%)	出席：プレゼンテーション：ディスカッション：レポート 30：30：20：20
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+ (100～90 点)	課題設定—資料・データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える。授業内での積極的な議論参画、発表内容が特段優れている。
評価：A (89～80 点)	課題設定—資料・データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える。授業内での議論参画、発表内容が優れている。
評価：B (79～70 点)	課題設定—資料・データ収集—仮説の検証が行える。授業内での議論参画、発表内容が。
評価：C (69 点～60 点)	課題設定—資料・データ収集—分析が行える。授業内での議論参画、発表内容が普通。
評価：F (59 点～)	出席率が 30%以下で、かつ課題設定・議論の参画・発表のいずれかしかできない。
留意点 /Additional Information	授業内は原則日本語を共通言語とする。研究活動と修士論文作成の支援がゼミの目的であるため、健康など特別な事情を除き欠席することなく、研究発表やディスカッションにも積極的に参画すること。提出されたレポートに関し、フィードバックを行う。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title	なし		
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	真野俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤／本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
多摩大学大学院にふさわしい修士論文を書けるように演習する			
到達目標/Course Goals			
ディプロマポリシーでの表現と技能を達成するために、以下の 7 項目について、評価できる論文作成を行えること。(1) 問題意識と課題設定, (2) 先行研究, (3) 事実調査, (4) 切り口と論理展開, (5) オリジナリティ, (6) 説得性, (7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性			
授業形態 /Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 /Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	院生による発表と討議		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第 2 講			
概要	院生による発表と討議		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第 3 講			
概要	院生による発表と討議		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第 4 講			
概要	院生による発表と討議		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第 5 講			
概要	院生による発表と討議		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第 6 講			
概要	院生による発表と討議		

事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第7講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
第8講	
概要	院生による発表と討議
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する
詳細	アクティビティ（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	授業参加(50%)、個人の発表(50%)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価：A+（100～90点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価：A（89～80点）	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価：B（79～70点）	課題設定—データ収集—分析を行える
評価：C（69～60点）	課題設定—データ収集を行える
評価：F（59点～）	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない
留意点 /Additional Information	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期
科目名/Course Title	論文演習 I		
サブタイトル/Sub Title	修士論文・実践知論文入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	今泉忠・久保田貴文	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ビジネスの現場での課題を発見し、データをもとに、解決のためのモデル（方法論）とその実施案を論文としてまとめられるようになる。			
到達目標/Course Goals			
ビジネスでの課題を扱った論文として、論理構造が明確になること。「知の再武装」と「情報収集能力と分析能力」の点に関して、特に、仮説を立て、実際のデータをもとに検証できるようになること。 以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。 (1) 問題意識と課題設定, (2) 先行研究, (3) 事実調査, (4) 切り口と論理展開, (5) オリジナリティ, (6) 説得性, (7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性 特に達成しようとするディプロマポリシーは、DP2:「知的課題解決力」であり、また、次に達成しようとするディプロマポリシーはDP3:「現状を変革しようとする意志力」である。			
授業形態/Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	授業の中での指摘を研究に反映して論文執筆をすすめる 1 講義につき 4 時間程度		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	論文テーマ		
事前、事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて、論文テーマの方向性を検討し決定する		
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する		
第 2 講			
概要	課題からの仮説構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。		
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。		
第 3 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。		
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について2～3名の院生より進捗状況を報告してもらい、研究の方向性や分析の手法などについて学修します。		
第 4 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。		
詳細	分析結果をもとにした提案についてグループでディスカッションを行う。		
第 5 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（2～3名の院生）		

事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、分析結果をもとにした提案へとすすめ、論文の Draft を作成する。
詳細	分析結果をもとにした提案について2～3名の院生より進捗状況を報告してもらい、研究の方向性や分析の手法などについて学修します。また、作成した Draft についても確認します。
第6講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析Ⅱ（2～3名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文の Draft の構成を検討する。
詳細	レポートと論文の違いを確認し、論文の構成検討を行います。
第7講	
概要	論文の構成検討
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文の Draft への記述を図る
詳細	論文の Draft を確認し、論文の構成検討を行います。
第8講	
概要	整理
事前、事後学習ポイント	これまでの指摘を論文の Draft に落とし込み、レポートを完成させる。
詳細	これまでの指摘をレポートに落とし込み、レポートを完成させます。また、論文の Draft への記述を図ります。
教科書 /Textbook	指定なし
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	指定なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率：講義議論参加：演習成果および報告＝30:30:40
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 6 項目以上について論理的に展開できる。
評価： A（89～80 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 5 項目について論理的に展開できる。
評価： B（79～70 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 4 項目について論理的に展開できる。
評価： C（69～60 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 3 項目について論理的に展開できる。
評価： F（59 点～）	達成目標であげた 7 項目のうち 2 項目以下しか論理的に展開できない。
留意点 /Additional Information	各回 1 人 40～60 分程度の時間を用いて、課題について提案、質疑する。なお、参加者の進捗に応じて内容を適宜変更する可能性がある。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	秋学期
科目名/Course Title	論文演習 II		
サブタイトル/Sub Title	修士論文・実践知論文入門		
英文科目名/Course Title(Eng.)	How to write the master thesis		
教員/Instructor	久保田貴文・今泉忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp kubota@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	本質思考力	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
ビジネスの現場での課題を発見し、データをもとに、解決のためのモデル（方法論）とその実施案を論文としてまとめられるようになる。			
到達目標/Course Goals			
ビジネスでの課題を扱った論文として、論理構造が明確になること。「知の再武装」と「情報収集能力と分析能力」の点に関して、特に、仮説を立て、実際のデータをもとに検証できるようになること。以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。 (1) 問題意識と課題設定, (2) 先行研究, (3) 事実調査, (4) 切り口と論理展開, (5) オリジナリティ, (6) 説得性, (7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性 特に達成しようとするディプロマポリシーは、DP2:「知的課題解決力」であり、また、次に達成しようとするディプロマポリシーは DP3:「現状を変革しようとする意志力」である。			
授業形態/Form of Class	講義・グループディスカッション	学外学習/Off-Campus Learning	なし
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	授業の中での指摘を研究に反映して論文執筆をすすめる 1 講義につき 4 時間程度		
講義概要/Course Description 全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分でも可			
第 1 講			
概要	論文テーマ		
事前、事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて、論文テーマの方向性を検討し決定する		
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する		
第 2 講			
概要	課題からの仮説構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。		
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。		
第 3 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。		
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について2～3名の院生より進捗状況を報告してもらい、研究の方向性や分析の手法などについて学修します。		
第 4 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築（2～3名の院生）		
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。		
詳細	分析結果をもとにした提案ついてグループでディスカッションを行う。		
第 5 講			
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（2～3名の院生）		

事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、分析結果をもとにした提案へとすすめ、論文の Draft を作成する。
詳細	分析結果をもとにした提案について2～3名の院生より進捗状況を報告してもらい、研究の方向性や分析の手法などについて学修します。また、作成した Draft についても確認します。
第6講	
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析Ⅱ（2～3名の院生）
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文の Draft の構成を検討する。
詳細	レポートと論文の違いを確認し、論文の構成検討を行います。
第7講	
概要	論文の構成検討
事前、事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文の Draft への記述を図る
詳細	論文の Draft を確認し、論文の構成検討を行います。
第8講	
概要	整理
事前、事後学習ポイント	これまでの指摘を論文に落とし込み、修士論文を完成させる。
詳細	これまでの指摘を論文に落とし込み、修士論文を完成させる。
教科書 /Textbook	指定なし
指定図書 /Course Readings	指定なし
参考文献・参考 URL /Reference List	指定なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	出席率：講義議論参加：演習成果および報告＝30:30:40
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 6 項目以上について論理的に展開できる。
評価： A（89～80 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 5 項目について論理的に展開できる。
評価： B（79～70 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 4 項目について論理的に展開できる。
評価： C（69～60 点）	達成目標であげた 7 項目のうち 3 項目について論理的に展開できる。
評価： F（59 点～）	達成目標であげた 7 項目のうち 2 項目以下しか論理的に展開できない。
留意点 /Additional Information	各回 1 人 40～60 分程度の時間を用いて、課題について提案、質疑する。なお、参加者の進捗に応じて内容を適宜変更する可能性があります。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春学期・秋学期	
科目名/Course Title	論文演習			
サブタイトル/Sub Title	論文演習			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar			
教員/Instructor	紺野登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp	
科目群/Course Classification	教養基盤/論文演習	単位数/Credits	2	
講義目的/Aim of Course				
修士論文・特定課題論文の作成にあたり、問題の設定から書き方に至るまで、実践を重視しながら取り組む。				
到達目標/Course Goals				
論文は、仮説から理論、さらに一般的な知識への可能性をもった知識である。本講では、修士論文とは何か、から始まり、個人指導の場と、相互発表・コメントの場をそれぞれ用意する。				
授業形態 /Form of Class	個別ではなくグループでの相互発表を行う 日程は土曜午後を中心に行う	学外学習 /Off-Campus Learning	なし	
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる 程度の具体的な学習内容		発表を行う場合、事前資料を準備		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可				
第1講				
概要	修士論文とはなにか（ガイダンス）			
事前、事後学習ポイント	修士論文(dissertation)とは何か			
詳細				
第2講				
概要	論文作成者との対話、テーマ設定			
事前、事後学習ポイント	テーマの討議、RQ(Research Question)			
詳細				
第3講				
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議			
事前、事後学習ポイント	基本的な論文のコンセプト、先行研究など			
詳細				
第4講				
概要	論文作成者との対話、構成			
事前、事後学習ポイント	仮説、検証へのアプローチ			
詳細				
第5講				
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議			
事前、事後学習ポイント	論文の作成への展開			
詳細				
第6講				
概要	論文作成者との対話、構成			
事前、事後学習ポイント	発表とブラッシュアップ			
詳細				
第7講				
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議			
事前、事後学習ポイント	論文の作成			

詳細	
第 8 講	
概要	論文作成者との対話、構成、形成
事前、事後学習ポイント	プレゼンテーション
詳細	
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	参考：修論説明資料 初回オリエンで配布
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100%）	
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	（下記をベースに）期間内に十分な内容の論文を作成する
評価： A（89～80 点）	（下記をベースに）独自の視点、コンセプト、理論の形成を目指す
評価： B（79～70 点）	（下記をベースに）論文を通じた知的チャレンジ
評価： C（69～60 点）	（下記をベースに）論文の意味合いの理解、本講を通じて発表と討議をおこなう
評価： F（59 点～）	（下記をベースに）本講を通じて論文執筆のペースを形成
留意点 /Additional Information	論文は単独の文章の作成ではなく、テーマの発見から仮説の形成、検証、独自のコンセプト、モデルさらには理論を生み出すことで、その過程で相互に発表する機会・場を提供するのは本講である。

講義年度/Year	2019	開講学期/Semester	春・秋学期
科目名/Course Title	論文演習		
サブタイトル/Sub Title			
英文科目名/Course Title(Eng.)	Thesis Seminar		
教員/Instructor	國分 俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群/Course Classification	教養基盤/論文演習	単位数/Credits	2
講義目的/Aim of Course			
MBA ルール形成戦略フィールドにおいてはルール形成戦略のアプローチ自体がまだまだ研究の余地があることから主に以下の2つの形態のどちらかで論文を提出することとします。 ①ルール形成戦略手法の研究 ルール形成戦略のアプローチの深堀や他国における国家レベルまたは業界レベルでのルール形成への取り組み、特定企業における事例研究などを通じたルール形成戦略の研究 ②特定テーマに対するルール形成戦略構想 自身が関心を有するテーマにおけるルール形成の動向を分析し、能動的にルール形成に関与していくためのルール案やポリシーメーカーへのアドボカシー案からなるルール形成戦略計画及びアクションプランの作成 ※①についてはルール形成戦略を日本で発展させていくために一般への公開を前提としますが、②は本人からの開示希望が無い限り極めて戦略性が高い内容となるため原則非公開扱いとします。			
到達目標/Course Goals			
多摩大学大学院にふさわしい修士論文、実践知論文（特定課題研究論文）の完成を目指す。			
授業形態/Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習/Off-Campus Learning	あり
準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学習内容	自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにすること。		
講義概要/Course Description 全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分でも可			
第1講			
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解		
事前、事後学習ポイント	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本を理解する		
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題：必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。		
第2講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前、事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。（双方向） 第1講で出された宿題のプレゼンテーション。		
第3講			
概要	前講に同じ。		
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
第4講			
概要	前講に同じ。		
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
第5講			
概要	前講に同じ。		

事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 6 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 7 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
第 8 講	
概要	前講に同じ。
事前、事後学習ポイント	前講に同じ。
詳細	前講に同じ。
教科書 /Textbook	なし
指定図書 /Course Readings	なし
参考文献・参考 URL /Reference List	なし
評価方法/Method of Evaluation	
配分（合計 100％）	授業内での議論参加(40％)、出席(30％)、プレゼンテーション内容(30％)
評価基準/Evaluation Criteria	
評価： A ⁺ （100～90 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が特段優れている。
評価： A（89～80 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れている。
評価： B（79～70 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が良い。
評価： C（69～60 点）	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が普通。
評価： F（59 点～）	出席不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。
留意点 /Additional Information	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組んでください。また、クラスメンバーへの貢献も心がけてください。